HP Client Automation

Core および Satellite

Standard Edition

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 8.10

ユーザー ガイド

ドキュメントのリリース日 : 2012 年 2 月
ソフトウェアのリリース日 : 2012 年 2 月

ご注意

保証

HP の製品およびサービスで保証されるのは、製品およびサービスに添付される明確な保証文で説明されているものだけです。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的誤り、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売業者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

著作権について

© Copyright 2003-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel® は米国内およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP および Windows VistaR は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

Oracle および Java は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。

謝辞

この製品は、Apache Software Foundation (http://www.apache.org/) で開発されたソフトウェアを含みます。

この製品は、Eric Young (eay@cryptsoft.com) 氏が作成した暗号化ソフトウェアを含みます。

この製品は、OpenSSL Toolkit で使用するため、OpenSSL プロジェクトで開発されたソフトウェアを含みます (http://www.openssl.org/)。

この製品は、Tim Hudson 氏 (tjh@cryptsoft.com) が作成したソフトウェアを含みます。

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版ドキュメントを使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを使用するには HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html（英語サイト）

または、HP Passport サインインのページの **[New users - please register]** のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細は、HP 営業担当者までご連絡ください。

サポート

HP Software のサポート Web サイトは次のとおりです。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには、HP Software の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先情報が掲載されています。

HP Software オンライン サポートでは、お客様自身が問題を解決するのに有益な情報を提供します。ビジネスを管理するために必要な対話型技術サポート ツールに素早く効率的にアクセスする方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート Web サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート領域のほとんどでは HP Passport ユーザーとして登録しサインインする必要があります。また多くの場合サポート契約も必要です。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html（英語サイト）

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1 はじめに 25
このマニュアルについて 25
HPCA のドキュメント 25
略語と変数 26
2 HPCA のインストール 27
HPCA Server のインストール前の確認事項 28
Core Server 28
HPCA Administrator 28
Satellite Server 28
プラットフォーム サポート 29
システム要件 29
Core Server 30
Satellite Server 30
Web ブラウザ 30
モニタ設定 30
HPCA データベース 31
通信ポート 31
必須ポート 31
HPCA ポート 32
アウトバンド管理ポート 32
VMware の要件 33
HPCA Agent 34
Windows AIK のインストール 34
HPCA データベースの作成 34
HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成 35
SQL Server データベースの前提条件と注意事項 35
SQL Server と HPCA の通信 36

HPCA Server のインストール 37
インストール チェックリストの情報 37
インストールの制約事項 37
Core Server のドメイン名 37
データベース セットアップ 37
デフォルト インストール ディレクトリ 38
Windows サービス 38
インストール ファイルの変更 39
HPCA Core Server のインストール 39
HPCA Satellite Server のインストール 42
HPCA のドキュメント 44
HPCA の削除 44
HPCA の修復 45
Windows 2003 での Core Server の設定 45
手動による HPCA Administrator のインストール 46
HPCA を使用した Windows オペレーティング システムの管理 48
アウトバンド管理 48
Windows サービス 49

3 概要 51

Web ベースの HPCA Console へのアクセス 51
クイック スタート タスク 52
タスク 1: デバイスのインポート 54
タスク 2: HPCA Agent の配布 54
タスク 3: スケジュールの設定 55
タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得 56
タスク 5: グループの作成 57
タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布 58
タスク 7: レポートの作成と表示 59

4 ダッシュボードの使用 61

ダッシュボードの概要 62
ダッシュボード デバイス 65
HPCA 操作ダッシュボード 66
クライアント接続 67
サービス イベント 69

ドメイン別 12 か月サービス イベント 71
パッチ管理ダッシュボード 73
ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー) 73
ブリティン別デバイス適用状況 75
Top Ten Vulnerabilities 76
HP Live Network Patch Manager アナウンスメント 78
ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー) 79
Microsoft セキュリティ ブリティン 80
最も脆弱性の高い製品 81

5 HPCA および HP Live Network 83

概要 83
ライセンスの要件 84
HP Live Network コンテンツの更新 84
HP Live Network コネクタ 84
HP Live Network コネクタのダウンロード 85
HP Live Network コンテンツの更新方法 86

6 管理 87

デバイス管理 88
ターゲット デバイスの前提条件 88
HPCA の Windows XPE 要件 89
全般 91
デバイス 92
デバイスのインポート 95
[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布 95
HPCA Agent の削除 96
ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索 96
パッチ適用状況の探索 97
アプリケーション利用状況の探索 97
リモート制御 98
リモート接続の要件 99
電源管理 102
アウトバンド管理 102
デバイスを削除 103
デバイスの詳細 104

現在のジョブ 106
過去のジョブ 106
HPCA Agent の手動インストール 106
HP シン クライアントでの HPCA Agent のインストール 107
HP Thin Client デバイスへの Agent の手動インストール 108
HP Registration and Loading Facility 110
グループ管理 114
全般 114
グループ タイプ 115
グループ 116
グループの作成 118
グループへの HPCA Agent の配布 118
HPCA Agent のグループからの削除 119
グループのソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索 119
グループのパッチ適用状況の探索 120
グループのアプリケーション利用状況データの探索 120
電源管理 121
グループの削除 121
グループの詳細 121
[グループの詳細] ウィンドウのタスク 123
スタティック グループでのデバイスの追加と削除 124
グループでのソフトウェア資格の追加と削除 124
グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 125
グループでのパッチ資格の追加と削除 126
グループへのパッチの配布 126
現在のジョブ 127
過去のジョブ 127
ソフトウェア管理 128
[全般] タブ 128
[ソフトウェア] タブ 129
ソフトウェアの配布 129
グループ資格の追加または変更 130
デフォルトのソフトウェア 130
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ) 131
[現在のジョブ] タブ 135
[過去のジョブ] タブ 135

設定管理 136
全般 136
設定プロファイル. 137
設定プロファイルの配布. 137
グループ資格の追加 138
設定プロファイルの詳細. 138
現在のジョブ. 139
過去のジョブ 139
パッチ管理. 140
Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件. 140
Microsoft 自動更新に関する重要な情報. 141
[全般] タブ 142
[パッチ] タブ 144
パッチの配布. 144
グループ資格の追加 145
[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ) 145
[現在のジョブ] タブ 147
[過去のジョブ] タブ 148
OS 管理 149
[全般] タブ 149
[オペレーティング システム] タブ. 150
オペレーティング システムの配布 151
LSB を使用した OS イメージの配布 153
PXE を使用した OS イメージの配布 154
サービス CD を使用した OS イメージの配布 155
グループ資格の追加 156
オペレーティング システムの復元. 157
[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ). 157
[現在のジョブ] タブ 160
[過去のジョブ] タブ 160
ジョブ管理. 161
全般 161
現在のジョブ 161
ジョブ コントロール. 162
Job Status 162
ジョブの詳細. 165

過去のジョブ 166

7 レポートの使用 167

レポートの概要 168
レポート間の移動 169
レポートのタイプ 171
インベントリ管理レポート 171
— 設定管理レポート 172
HPCA 管理レポート 173
パッチ管理レポート 173
利用状況管理レポート 175
詳細な情報への掘り下げ 175
レポートのフィルタ 176
ダイナミック レポート グループの作成 179

8 操作 181

インフラストラクチャ管理 182
サポート 182
ログ ファイルのダウンロード 182
Live Network 183
Live Network の自動更新のスケジュール 184
HP Live Network コンテンツを今すぐ更新する 185
更新の結果またはステータスの表示 186
データベース メンテナンス 186
ソフトウェア管理 186
ソフトウェア サービスのインポート 188
ソフトウェア サービスのエクスポート 188
ソフトウェア サービスの削除 189
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ) 189
アウトバンド管理 190
プロビジョニングと設定情報 191
DASH 設定関連ドキュメント 191
DASH 設定ユーティリティ 192
デバイス管理 192
グループ管理 193
警告の通知 194

パッチ管理 194
パッチ ライブラリの操作 194
パッチ サービスのインポート 195
パッチ サービスのエクスポート 196
パッチ サービスの削除 197
[パッチの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ) 197
取得 198
同期を実行 202
取得履歴 202
OS 管理 202
OS サービスのインポート 203
OS サービスのエクスポート 204
OS サービスの削除 204
配布メディアの作成 205
[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ) 206
利用状況管理 206
収集フィルタ 207
利用状況収集フィルタの設定 207
利用状況条件の定義 209
設定管理 210
設定テンプレート 211
新規プロファイルの作成 211
既存のプロファイルの変更 213
プロファイルの削除 213

9 設定 215
ライセンス 216
アップストリーム サーバー 216
アクセス制御 217
Core コンソールのアクセス制御 217
[Users パネル 217
ユーザーの管理 218
[ロール] パネル 219
ロールの割り当て 220
Satellite コンソールのアクセス制御 221
設定 223

データ キャッシュ 224
インフラストラクチャ管理 225
プロキシ設定 226
SSL 227
SSL サーバー 227
SSL クライアント 227
データベース設定 228
Satellite 管理 228
サーバー 230
サーバー プール 239
ロケーション 242
サブネット 246
Live Network 249
HP Live Network サーバーへの接続の設定 249
Live Network の設定のテスト 251
デバイス管理 253
警告中 253
CMI 253
S.M.A.R.T. 256
Trusted Platform Module 257
パッチ管理 258
データベース設定 258
エージェント オプション 259
アウトバンド管理 263
使用可能性 263
デバイス タイプの選択 264
DASH デバイス 264
vPro デバイス 264
両方 265
デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション 265
vPro システム保護の設定 266
OS 管理 268
Settings 268
配布 268
配布動作の基本プロパティ 269

配布動作の詳細プロパティ 270
パーティション作成方法の基本プロパティ 271
パーティション作成方法の詳細プロパティ 272
利用状況管理 274
データベース設定 274
Settings 274
ダッシュボード 275
HPCA 操作 276
パッチ管理 276

10 ウィザード 279
デバイス インポート ウィザード 280
エージェント配布ウィザード 282
エージェント削除ウィザード 283
ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード 283
パッチの適用状況探索ウィザード 284
電源管理ウィザード 285
グループ作成ウィザード 286
ソフトウェア配布ウィザード 289
設定プロファイル配布ウィザード 291
サービス インポート ウィザード 294
サービス エクスポート ウィザード 295
ソフトウェア同期ウィザード 296
パッチ配布ウィザード 296
サービス資格ウィザード 298
ソフトウェア削除ウィザード 298
OS 配布ウィザード 300
同じ OS をサイレントに再インストールする方法 307
アプリケーション利用状況収集ウィザード 307
利用状況収集フィルタ作成ウィザード 308
Satellite Server 配布ウィザード 309
Satellite Server 削除ウィザード 310
サーバー プール作成ウィザード 311
ロケーション作成ウィザード 312

サブネット作成ウィザード 313

11 メタデータを使用したパッチ管理 315

概要 315

Satellite での有効化 319

12 OS イメージの準備とキャプチャ 321

はじめに 321

プロセスの概要 322

デスクトップ OS イメージの準備とキャプチャ 323

前提条件 323

OS Image Capture ツールについて 324

参照マシンの準備 325

Windows 7 または Windows Server 2008 R2 x64 325

Windows Vista または Windows Server 2008 327

OS イメージのキャプチャ 328

イメージ オプション 329

要約 330

その他の参照情報 331

シン クライアント OS イメージの準備とキャプチャ 332

Windows XPe イメージおよび WES OS イメージ 332

Windows CE OS イメージ 336

ThinPro OS イメージ 339

OS イメージのパブリッシュおよび配布 343

Windows PE Service OS 画面について 343

13 パブリッシュ 347

Publisher を起動するには 347

ソフトウェアのパブリッシュ 349

Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ 349

[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ 351

オペレーティング システム イメージのパブリッシュ 352

.WIM イメージのパブリッシュの前提条件 355

DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件 356

Windows セットアップの応答ファイルの指定 357

OS イメージのパブリッシュ 358

OS のアドオンおよび追加の Production OS (POS) ドライバのパブリッシュ 360
前提条件 360
HP Softpaq のパブリッシュ 361
BIOS 設定のパブリッシュ 363
BIOS 設定ファイルの作成 364
パブリッシュされたサービスの表示 365
HP Client Automation Administrator Agent Explorer 365

14 Application Self-Service Manager の使用 367

Application Self-Service Manager へのアクセス 368
Application Self-Service Manager の概要 368
グローバル ツールバー 370
メニュー バー 370
カタログ リスト 371
仮想カタログ 371
サービス リスト 371
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用 372
ソフトウェアのインストール 373
カタログのリフレッシュ 373
情報の表示 374
ソフトウェアの削除 375
ソフトウェアの検証 375
ソフトウェアの修復 375
履歴の表示 376
バンド幅の調整 376
ステータスの表示 377
ユーザー インターフェイスのカスタマイズ 378
全般オプション 378
サービス リスト オプション 380
表示のカスタマイズ 381
接続オプション 383
HPCA System Tray アイコン 384
[HPCA ステータス] ウィンドウ 385

15 ユーザー設定とファイルのバックアップと復元 387

要件 387

オペレーティング システム 388
ディスク容量 388
ソフトウェア 389
USMT について 389
サポートされるファイル、アプリケーション、および設定 390
Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 の取得とインストール 390
Microsoft USMT 3.0.1 の入手 391
Microsoft USMT 4.0 の入手. 391
管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール 392
移行ファイル 392
ルールの編集. 393
Core Server への移行ルールの保存 393
ScanState コマンド ラインと LoadState コマンド ライン 393
Personality Backup and Restore の使用 394
HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用 395
パーソナリティのバックアップ 396
パーソナリティの復元 397
コマンド ライン インターフェイスの使用. 399
Personality Backup and Restore サービスの使用 401
OS の配布中にデータをキャプチャおよび復元するための代替方法. 402
romclimth.tkd のしくみ. 402
HP 終了ポイントのリターン コード 402
トラブルシューティング. 403
バックアップまたは復元が正常に完了しなかった 403
ユーザーがパスワードを忘れたためデータを復元できない 404

16 HP Client Automation の監視 407
HPCA インフラストラクチャのコンポーネント 408

17 よく寄せられる質問 413
HPCA Console にはどうやってアクセスしますか ?. 414
どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか ? 414
コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか ?. 414
自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか ?. 415
インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか ? 415
管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか ? 416

パッチ取得はどのようにして自動化できますか？. 416
パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか？. 417
管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか？. 417
特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか？. 418
ライセンス キーはどのようにして更新しますか？. 418
OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどの
ようにして作成しますか？ 418
ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか？. 419
コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、
どのようにしますか？. 419
Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか？. . . 420
setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか？. 420
全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？. 420
ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、
どのようにしますか？. 421
デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？. 421
OS イメージをキャプチャするには、どのようにしますか？. 422
OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？ 422
OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？ 422
OS イメージを配布するには、どのようにしますか？ 423
利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか？. 423

18 トラブルシューティング 425
ログ ファイル 425
エージェント配布の問題. 427
OS キャプチャの問題 428
OS 配布の問題. 429
OS のパブリッシュの問題. 429
Application Self-Service Manager の問題. 430
電源管理の問題 430
パッチ管理の問題 431
HPCA Server のトラブルシューティング 431
HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング. 431
HPCA Core の設定ファイル. 432
HPCA Core のログ ファイル 434
ブラウザの問題 435
F5 キーを使用してページをリフレッシュできない 435

Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない 435
リモート制御を使用するとブラウザでエラーが発生する 436
ダッシュボードの問題 436
ダッシュボード レイアウト設定の削除 436
ダッシュボード ペイン読み込み状態が終了しない 437
RSS クエリに失敗する 437
その他の問題 438
SQL Server データベースの設定の問題 439
英語以外の環境でのレポート チャートの表示の問題 439
レポートを開けない 440
追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される 441
仮想マシンが起動しない 441
クエリが限界に達しました 442

A HPCA Core Server と HPCA Satellite Server での SSL 設定 445
SSL の構成要素 445
HPCA 環境の SSL 446
リモート サービスへの SSL 通信のサポート 446
コンシューマへのセキュアな通信サービスの提供 446
Console の SSL 証明書フィールド 447
SSL サーバー 447
SSL クライアント 448

B 2 バイト文字のサポートについて 449
サポートされる言語 449
ロケールの変更 450
Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート 450

C レポートのパフォーマンスの強化 451
ビューの使用 451
ユーティリティ スクリプト 452
Oracle 用のその他のスクリプト 453

D Windows 応答ファイルのカスタマイズ 455
unattend.xml ファイルのカスタマイズ 456
ProductKey 457

リテール版 457
ビジネス版 457
64 ビット プラットフォーム 458
TimeZone 459
RegisteredOwner および RegisteredOrganization 460
JoinDomain 460
MetaData 462
HPCA での XML ファイルの処理 463
.subs ファイルおよび .xml ファイルについて 465
置き換えの例 466

E Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ . . 469

HPCA Image Preparation Wizard について 469
Image Preparation Wizard の終了ポイント 471
イメージのキャプチャの前提条件 472
参照マシンの準備 472
Windows AIK のインストール 474
Sysprep のインストールおよび設定 474
OS イメージのキャプチャ 477
Image Capture Wizard を使用したイメージのキャプチャ 477
無人モードでの Image Preparation Wizard を使用したイメージのキャプチャ 483
Windows Native Install Packager を使用した配布用のイメージのキャプチャ 486
タスク 1: 参照マシンの準備 486
タスク 2: unattend.txt の作成 488
タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール 489
タスク 4: HPCA Windows Native Install Packager の実行 489
OS イメージのパブリッシュおよび配布 492

F カスタム Windows PE Service OS のビルド 493

カスタム ビルド スクリプトについて 494
前提条件 495
プロセスの知識 495
Administrator マシン 495
メディア 496
ファイルとディレクトリ 496
他の言語のサポート 497
高度なオプション 498

Windows PE Service OS へのドライバの追加 499
カスタム Windows PE Service OS のビルド 499
スクリプトの取得 499
スクリプトの実行 500
追加情報 504
カスタマイズした build.config ファイルの使用 (高度なオプション) 506

索引 507

1 はじめに

HP Client Automation Standard は、PC ソフトウェア設定管理ソリューションです。OS イメージの配布、パッチの管理、リモート コントロール、HP ハードウェアのドライバや BIOS の更新、およびソフトウェアの配布と利用状況の測定などのソフトウェアおよび HP ハードウェア管理機能すべてを、Web ベースの統合コンソールから提供します。

このマニュアルについて

このガイドでは、HP Client Automation コンソール、Publisher、Application Self-Service Manager、および Image Preparation Wizard を使用するための詳細な情報を提供し、手順について説明します。

HPCA Core Server と HPCA Satellites Server のインストールおよび初期設定に関する要件と方法については、HPCA のインストールに関する章を参照してください。

HPCA のドキュメント

メディアに収録されている HP Client Automation のドキュメントは、Core インストール時にもインストールされます。これらは PDF 形式のドキュメントで、Windows の [スタート] メニューやデスクトップのショートカット リンクからアクセスするか、Core Server マシンにアクセスできる任意のデバイスからブラウザを使用してアクセスできます (URL: `http://`*`HPCA_Host`*`:3466/docs` (*`HPCA_Host`* は HPCA がインストールされているサーバー名))。

略語と変数

表 1　このガイドで使われている略語

略語	定義
HPCA	HP Client Automation
Core および Satellite	1 つの Core Server と 0 以上の Satellite Server で構成される HPCA 環境。すべての機能が Core Server または Satellite Server の一部としてインストールされます。
Portal	HPCA Portal

表 2　このガイドで使われている変数

変数	説明	デフォルト値

InstallDir	HPCA Server がインストールされる場所	Core および Satellite インストールの場合 :
		32 ビット OS の場合 :
		`C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA`
		64 ビット OS の場合 :
		`C:¥Program Files(x86)¥Hewlett-Packard¥HPCA`

SystemDrive	HPCA Server のインストール先のドライブのドライブ ラベル	`C:¥`

2 HPCA のインストール

この章では、HP Client Automation サーバー (Core および Satellite) とそのコンポーネントをインストールおよび設定する方法について説明します。次のセクションでは、HPCA Server のインストール前の確認事項と要件、およびインストール手順を説明します。また、HPCA Core Server に自動的にインストールされるようにデフォルト設定されている HPCA Administrator の手動インストール (オプション) についても述べています。

- 28 ページの「HPCA Server のインストール前の確認事項」
- 34 ページの「HPCA データベースの作成」
- 37 ページの「HPCA Server のインストール」
- 45 ページの「Windows 2003 での Core Server の設定」
- 46 ページの「手動による HPCA Administrator のインストール」
- 48 ページの「HPCA を使用した Windows オペレーティング システムの管理」
- 48 ページの「アウトバンド管理」
- 49 ページの「Windows サービス」

HPCA Server のインストール前の確認事項

ライセンスを所有している HPCA 製品をインストールする前には、必ずこのセクションに記載されているインストール前の確認事項をご確認ください。

Core Server

HPCA Core サーバーは、HP Client Automation 環境用のデータのプライマリリポジトリです。実行可能な HPCA 環境を確立するには、最低 1 台以上の Core Server が必要です。

HPCA Satellite Server を既にホストしているマシンに、Core Server をインストールすることはできません。インストールしようとした場合、エラー メッセージが表示され、インストール プログラムは中止します。

インストール後は、HPCA Administrator を使用して、企業全体に配布するソフトウェア アプリケーションを用意する必要があります。

HPCA Administrator

HPCA Administrator は Core Server のインストールの一部として自動的にインストールされます。Core Server のデータベースを参照し、HPCA 環境の設定や維持に使用できる管理ツール セットを含みます。

HPCA Administrator の手動インストールについての詳細は、46 ページの「手動による HPCA Administrator のインストール」を参照してください。

➤ Standard Edition と Starter Edition では、*HPCA Publisher* と *HPCA Agent Explorer* のみを含む HPCA Administrator の簡素化バージョンが自動的にインストールされます。

Satellite Server

HPCA Satellite Server は、すべての HPCA Agent 用の HP Client Automation インフラストラクチャへのアクセス ポイントです。HPCA Core Server に依存および従属し、Core および HPCA Agent 間の中間点として機能します。

HPCA Core Server を既にホストしているマシンに、Satellite Server をインストールすることはできません。インストールしようとした場合、エラー メッセージが表示され、インストール プログラムは中止します。

Satellite Server はデバイスに手動でインストールするか、コンソールから配布できます。Satellite の手動インストールについての詳細は、39 ページの「HPCA Core Server のインストール」を参照してください。

プラットフォーム サポート

このリリースのオペレーティング システム要件については、HP Software 製品マニュアルの Web サイトにある HPCA のサポート マトリクスを参照してください。このマニュアルの最初にある「ドキュメントの更新」セクションを参照して、URL およびこの Web サイトにアクセスする方法を確認してください。このマトリクスは、`¥Documentation` ディレクトリにあるこの製品の配布メディアにもあります。

システム要件

このセクションでは、Core Server と Satellite Server のインストールに関するシステム要件について説明します。

➤ これらの要件の一部は HPCA 環境の初期設定 (プログラム データのみ) 専用であること、そして HPCA 環境の拡大に伴い、データベースの拡大やキャッシングに対応するためにこれらの空き容量の要件も増加することに留意してください。

推奨される開始容量は最低 20 GB です。

Core Server

Core Server のシステム要件は次のとおりです。

- 2 GB RAM (最小); 4 GB RAM (推奨)
- デュアルコア プロセッサを搭載した専用サーバー
- CPU 速度 2 GHz
- 3 GB の空きディスク スペース

Satellite Server

Satellite Server のシステム要件は次のとおりです。

- 512 MB RAM (最小); 1 GB RAM (推奨)
- デュアルコア プロセッサ
- CPU 速度 1.6 GHz
- 2 GB の空きディスク スペース

Web ブラウザ

HPCA サーバーには、各種管理と設定タスクを実行できるコンソールがあります。これらのコンソールでは、次の Web ブラウザやバージョンのみをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer、バージョン 7.0 および 8.0。

  ➤ ブラウザのセキュリティ レベルを「中」よりも高く設定することはできません。

- Mozilla Firefox、バージョン 3.5 および 4.0。

モニタ設定

HP では、HPCA コンソールを適切に表示できるよう、次に示す最小限の設定をお勧めします。

- 画面の解像度 : 1024x768
- 色品質 : 中 (16 ビット)

HPCA データベース

Core Server をインストールする前に、HPCA が管理レポート オブジェクト用に使用する ODBC 準拠のデータベースを作成する必要があります。このデータベースには、Microsoft SQL Server Database を使用する必要があります。Core Server 専用のデータベース作成についての詳細は、34 ページの「HPCA データベースの作成」を参照してください。

通信ポート

HPCA Server はお互いに通信し、このセクションで説明しているポート上の管理対象デバイスと通信します。したがって、これらのポートは空けておく必要があります。インストール開始時に自動的に実行されるシステム クエリによって、これらのポートの可用性が検証されます。使用できない場合は、インストールに失敗します。

HPCA Server のホスト マシンにファイアウォールが設定されている場合、これらのポートをファイアウォールの「例外」リストに追加する必要があります。

必須ポート

SSL が有効化されていない場合、ポート **3464** と **3466** は、Core and Satellite 通信に使用されるプライマリ ポートとなります。したがって、HPCA デバイス間に必要なリモート通信を確保するために、これらのポートを有効にする必要があります。これら 2 つのポートが有効になっていない場合、HPCA 環境は機能しません。

これらのポートは HPCA Server インストール時のオプション (**これらのポートを通して通信できるように Windows ファイアウォールを変更してください**) によって自動的に有効にすることができます。インストール時にこのオプションを選択すると、その他のポート設定をする必要はありません。

一部の環境には特殊なファイアウォールが設定されているため、このオプションの選択はお勧めしません。この場合、すべてのファイアウォール フィルタリングからこれらの 2 つのプライマリ ポートを除外する必要があります。除外しないと HPCA は正常に機能せず、リモート デバイスは HPCA Server と通信できなくなります。

Satellite で SSL が有効な場合は、受信するすべての通信に SSL が使用されます。

HPCA ポート

- **TCP 3464**: HPCA Configuration Server のデフォルト ポートです。Core Server で利用できるようにする必要があります。
- **TCP 3465**: Core Server からの受信通知リクエストを受け取るために HPCA Agent が使用するポートです。
- **TCP 3466**: このサーバーが別の HPCA (Core および Satellite) Server や HPCA Agent との通信に使用するメイン HTTP ポートです。すべてのユニキャスト データ ダウンロードはこのポートで処理されます。
- **UDP 9100**: HPCA Multicast Server のデフォルト ポートです。
- **TCP 443** (SSL):「セキュア HTTP」(**HTTPS**) 通信に使用されるポートです。
- **TCP 444** (SSL): HPCA Configuration Server が有効になっている場合に「セキュア TCP」(**TCPS**) 通信に使用されるポートです。

➤ このポートは、すべての Core Server ホスト マシンで利用できるようにする必要があります。

アウトバンド管理ポート

アウトバンド管理を使用する場合、受信および送信トラフィックを許可するよう次の追加ポートを利用できるようにする必要があります。

アウトバンド管理コンソールと vPro デバイス間の通信の場合

- **162**: 警告管理用。注：ポート 162 は標準 SNMP ポートです。HPCA Core Server 上で SNMP レシーバーを実行している場合、競合が起こります。
- **9999**: SOL 表示アプレットとサーバーの Web アプリケーション間の通信用のデフォルト開始ポートです。これは、`<HPCA_Install_Dir>¥OOBM¥conf¥config.properties` ファイルを編集することで設定できます。
- **16692**: TCP 上の Web サービス トラフィック用。
- **16693**: TLS 上の Web サービス トラフィック用 (クライアント認証あり)。
- **16694**: TCP 上の SOL/IDE-R 用。
- **16695**: TLS 上の SOL/IDE-R 用 (クライアント認証あり)。

ブラウザとサーバーの通信の場合

- **9999**: SOL 用のアプレットとサーバー ソケット通信用。このポートは、同様にクライアント ブラウザ システム上でも利用できるようにする必要があります。

アウトバンド管理コンソールとローカル エージェント間の通信の場合

- **9998**: vPro デバイスのリモート設定時のアウトバンド管理コンソールとローカル エージェント間の通信用。

DASH デバイスを搭載したアウトバンド管理コンソールの場合

- **623**: DASH デバイスとの通信用。

VMware の要件

HPCA を Windows XP Professional ホスト オペレーティング システムを使用する VMware 環境にインストールする場合、インストールがハングアップする可能性があります。VMware [**詳細オプション**] の [**アクセラレーション**] を無効化することで、インストールを続行できる可能性があります。[**アクセラレーション**] は、インストール完了後に再び有効化することができます。

VMware 環境にインストールされている HPCA は、テストまたは評価目的でのみ使用してください。

HPCA を VMware 環境にインストールする場合、次の要件を満たす必要があります。

- VMware、バージョン 6.02 以上
- 2 GB のメモリの割り当て
- 8 GB HDD の領域の割り当て (移行には追加の領域が必要になる可能性があります)
- ホスト OS: Windows 2003 Server または Windows 2008 Server
- ゲスト OS: Windows 2003 Server または Windows 2008 Server
- ホスト システム: VMware が必要に応じてアフィニティを 1 に設定できるようなデュアル プロセッサ (最低 2 GHz CPU)
- 追加 HPCA Server 要件については、29 ページの「システム要件」を参照してください。

HPCA Agent

HPCA Agent は、エンドユーザー マシンにインストールされるクライアント マシンベースの HPCA コンポーネントです。このコンポーネントには、機能を強化するいくつかの下位機能があります。HPCA Agent を Core コンソールからエンドユーザー マシンに配布したり、これらのマシンに手動でインストールしたりできます。

Windows AIK のインストール

HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する予定の場合は、HPCA Core をホストするマシン上に Windows AIK をインストールする必要があります。また、これらのユーティリティのコピーが適切な場所に配置されていることを確認する必要があります。

Windows AIK は Microsoft ダウンロード センター (`http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx`) からダウンロードできます。

Windows 7 バージョンの Windows AIK がデフォルトの場所にインストールされていることを確認します。

`C:¥Program Files¥Windows AIK`

HPCA Core をインストールする前に Windows AIK をインストールすることをお勧めします。

HPCA データベースの作成

Core をインストールする前に、HPCA が使用する ODBC 準拠データベースを作成する必要があります。

ODBC 準拠データベースの作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

次に、Microsoft SQL サーバー データベース作成の前提条件と手順について説明します。

35 ページの「HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成」

また、作成する各データベース用に ODBC DSN を定義する必要があります。

ODBC DSN の作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成

このセクションの指示に従って、Core Server のレポート オブジェクト用の Microsort SQL サーバー データベースを作成してください。データベースを作成するセキュリティ権限を持たない場合は、SQL データベースの管理者に連絡してください。

SQL Server データベースの前提条件と注意事項

- Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 は、ローカルにインストールされているか、HPCA Server からリモートでアクセスできる必要があります。

  Microsoft SQL Server Express Edition は、小規模環境の HP Client Automation に対応しています。Microsoft では、このエディションをパフォーマンス (CPU およびメモリ使用量) とデータベース サイズの両面で制限しています。HPCA を使用するごく小さな環境で SQL Server Express Edition を使用することが可能ですが、パフォーマンスとデータベースのサイズは監視する必要があります。パフォーマンスが十分でない場合、またはデータベースが最大許容サイズに近づいた場合は、SQL Server の別のエディションにアップグレードする必要があります。SQL Server の各エディションの詳細については、Microsoft SQL Server の Web サイトを参照してください。

- SQL Server は、**混在モード認証**を使用するように設定し、TCP/IP サポートを有効にする必要があります。

- **Windows 64 ビット ODBC DSN には 32 ビット ドライバが必要** : Windows 64 ビット オペレーティング システムで実行中の HP Client Automation コンポーネントは、**32 ビット エミュレーション モード**で実行されます。したがって、Windows 64 ビット オペレーティング システムで ODBC ドライバを使用する場合、32 ビット ドライバを使用するデータベース用の ODBC システム DSN を作成してください。

  64 ビット オペレーティング　システムで、`C:¥Windows¥SysWOW64¥odbcad32.exe` を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、HPCA 製品に必要なシステム DSN を作成または修正します。

- このセクションに記載されている「ストレージ」のサイズは推奨値を示すことのみを目的としています。お使いの環境の管理対象デバイス数、および収集する情報の種類に基づいてこれらの値をカスタマイズしてください。

SQL Server と HPCA の通信

- HPCA Server を収容するサーバーとは別のサーバーに SQL Server がインストールされている場合、これらサーバー間の通信が可能になるようにファイアウォール規則の追加が必要なことがあります。SQL Server に必要なポートをオープンする方法についての詳細は、Microsoft サポート技術情報の記事 **841251** (**http://support.microsoft.com/?ln=ja**) を参照してください。
- SQL Server は、スタティック ポートを使用するように設定する必要があります。スタティック ポートの使用方法の詳細については、SQL Server マニュアルを参照してください。

HPCA Core 用の SQL Server データベースを作成するには

SQL Server データベースの作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

ODBC DSN の作成方法が不明な場合は、データベースの管理者に問い合わせてください。

1. Microsoft SQL Server 上で、次の推奨設定のデータベースを作成します。

[全般] タブ	名前 : 空白またはアンダースコアを含まない任意の名前 (**HPCACORE** など)
[データ ファイル] タブ	初期サイズ : 500 MB 20 % ずつの自動拡張を選択
[トランザクション ログ] タブ	初期サイズの変更 : 100 MB

2. SQL Server 認証を使用します。
3. デフォルトのデータベースを、手順 1 で使用したデータベース名に変更します。

   SQL Server 名、admin ユーザーの ID およびパスワードが、HPCA のインストール中に必要となります。

4. SQL Server データベース用に、最低限のロール メンバーシップ (db_datareader、db_datawriter、db_ddladmin) をユーザーに提供します。

5 Core Server をホストするコンピュータで、任意の名前 (**HPCAODBC** など) で ODBC システム DSN を作成し、SQL Server 上で新しい Core データベースに対して指定します。

これにより、データベースが接続され、HPCA Server のインストールを続行できるようになります。39 ページの「HPCA Core Server のインストール」に記載されています。

HPCA Server のインストール

このセクションでは、HPCA Installer を使用して HPCA Core Server と Satellite Server をインストールする方法について詳しく説明します。

インストール チェックリストの情報

このセクションでは、インストールを実施する前に確認する必要のある追加情報について説明します。

インストールの制約事項

HPCA Satellite Server を既にホストしているマシンに、Core Server をインストールすることはできません。また、HPCA Core Server を既にホストしているマシンに、Satellite Server をインストールすることはできません。

いずれかのインストールを実行しようとすると、エラー メッセージが表示され、インストール プログラムは中止します。

Core Server のドメイン名

HP は、HPCA Server 名を求められた際には、常に完全なドメイン名を指定することをお勧めします。この方法により、「下位」の Satellite および HPCA Agent をインストールした際、適切なサーバーへ確実にマッピングされるようになります。

データベース セットアップ

HPCA Server をインストールする前に、HPCA Core Server 用に Microsoft SQL Server データベースをセットアップする必要があります。データベースのセットアップ手順については、35 ページの「HPCA Core 用の SQL Server データベースの作成」を参照してください。

デフォルト インストール ディレクトリ

HPCA Core Server および Satellite Server のインストールを実行すると、デフォルトで次のディレクトリが作成されます。サーバーおよびデータ ファイルの代替ディレクトリはインストール時に指定することができます。

このセクションに記載されているディレクトリは英語版のオペレーティング システム固有のものです。英語以外の言語のオペレーティング システムでは、HPCA Server のインストール時に、適切なデフォルトの場所にこれらのディレクトリが作成されます。

- Core Server および Satellite Server のファイルは、デフォルトでは 32 ビット ¥Program Files ディレクトリの Hewlett-Packard¥HPCA にインストールされます。
- Core Server および Satellite Server のデータ ファイルは、デフォルトでは 32 ビット ¥Program Files ディレクトリの Hewlett-Packard¥HPCA¥Data にインストールされます。
- Core Server および Satellite Server のインストールでは、それぞれ 2 つのログ ファイルが生成され、どちらもインストールを実行したユーザーの Local Settings¥Temp ディレクトリ内に保存されます。
  - どちらのインストールの場合でも、常に hpca-install.log ファイルが作成されます。
  - サーバー固有のログ ファイル (HPCACore_setup.log または HPCASatellite_setup.log のいずれか) も、.msi または .exe ファイルのどちらでインストールが実行されたかに関係なく作成されます。

ログ ファイルの考慮事項

- インストールの実行に setup.exe を使用する場合、インストール前に setup.ini ([options] セクションの log.filename エントリ) でログ ファイルの保存場所を変更できます。

Windows サービス

Core Server と Satellite Server がインストールされたら、Windows サービスとして実行されます。詳細については、49 ページの「Windows サービス」を参照してください。

インストール ファイルの変更

インストール時に使用するファイルは変更することができます。例えば、ファイルの最新バージョンへの更新が利用可能な場合、次の手順でインストール時に含めることができます。

1 HPCA インストール ファイルを新しい場所へコピーします。

2 新しいサブディレクトリを作成します。

   a インストール ファイルを変更するには、`.msi` ファイルと同じディレクトリ内に `Updates` という新しい名前のディレクトリを作成します。

   b 他の標準デッキをすべて適用した後に HPCA データベースに追加のエクスポート デッキを適用するには、`Decks` という新しいディレクトリを作成します。

3 インストール時に使用したい任意のファイルを追加します。例えば、Core インストールを別の `em.war` ファイルと実行したい場合、次のディレクトリ パスを作成します。

   `<source dir>¥Updates¥tomcat¥webapps¥em.war`

4 インストールを実行します。新しいファイルが使用されます。

HPCA Core Server のインストール

お使いの環境にある専用サーバーに HPCAS をインストールします。インストールを続行する前に、37 ページの「インストール チェックリストの情報」を必ずお読みください。

HPCA Server をアップグレードしている場合、ファイルのバックアップと復元には移行スクリプトを使用してください。移行と復元の詳細については、『HP Client Automation Starter and Standard Editions Migration Guide』を参照してください。

HPCA Server 名を求められた際は、完全なドメイン名を指定することをお勧めします。これにより、「下位」の Satellite および HPCA Agent をインストールした際、適切なサーバーに確実にマッピングされるようになります。

HPCA Server のインストール

1 HPCA Core Server をインストールするシステムに、管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。

2 インストール メディアを DVD ドライブに挿入します。`Setup-Core` ディレクトリに移動して Core Server インストール ファイルにアクセスします。

3 **setup.exe** ファイルをダブルクリックします。HP Client Automation Core インストーラのウィンドウが開きます。

4 **[次へ]** をクリックします。HP Client Automation Software エンドユーザーライセンス契約のページが開きます。

5 HP Client Automation Core のライセンス条項を確認して **[ライセンス契約に同意します]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation の [インストール フォルダ] ページが開きます。

6 [インストール フォルダ] ページに、HPCA Core Server のデフォルトのインストール ディレクトリが表示されます (38 ページの「デフォルト インストール ディレクトリ」にリストされています)。

デフォルトの場所を承認するか、**[ブラウズ]** をクリックして別の場所を選択し、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation の [データ フォルダ] ページが開きます。

7 [データ フォルダ] ページに、HPCA Core Server データ ファイルのデフォルト ディレクトリが表示されます (38 ページの「デフォルト インストール ディレクトリ」にリストされています)。

デフォルトの場所を承認するか、**[ブラウズ]** をクリックして別の場所を選択し、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation の [ホスト名] ページが開きます。

8 この HPCA Server の名前を指定し、**[次へ]** をクリックします。[HP Client Automation Server ポート] ウィンドウが開きます。

9 デフォルトのポートを承認するか、Web サーバーと Configuration Server ポートを指定して、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation の [インストールの確認] ページが開きます。

> HPCA の Standard および Starter Edition ではデフォルト ポートを変更できません。

オプションとして、自動的にポート 3464 および 3466 を有効にしたい場合は、**[これらのポートを通して通信できるように Windows ファイアウォールを変更してください]** を選択します。詳細については、31 ページの「必須ポート」を参照してください。

10 **[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。インストール プロセスにより、別の設定スクリプトが開始されます。これには数分かかります。

11 **[完了]** をクリックして、HP Client Automation Core Server のインストールを完了します。

> インストールが完了すると、ログ ファイルにいくつかのエラーが記録されることがよくあります。これらのエラーは無視してもかまいません。初回セットアップ ウィザードが実行され、製品のセットアップが完了すると、これらのエラーは自動的に修正されます。

HPCA コンソールが自動的に開き、デフォルトのブラウザにログイン ウィンドウが表示されます。

12 ログイン ウィンドウで、デフォルトのユーザー名、パスワード、ディレクトリ ソースを指定します。

- デフォルトでは、ユーザー名は `admin`、パスワードは `secret` です。

> HP は、デフォルトのユーザー名とパスワードを変更することをお勧めします。変更するには、HP Client Automation コンソールの設定パネルで **[アクセス制御]** -> **[ユーザーとグループ]** の順に選択し、[ユーザーとグループ] 領域の **[新しいユーザーの作成]** アイコンをクリックします。

13 **[サインイン]** をクリックします。初回セットアップ ウィザードが表示され、HPCA 環境の初期設定を求められます。これらの設定は、HPCA コンソールのさまざまなパネルで変更できます。

14 [はじめに] ページで **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

15 [ライセンス] ページで、HP から発行された製品固有のライセンス ファイルの内容を [ライセンス データ] ボックスにコピー アンド ペーストし、**[次へ]** をクリックします。

この時点でライセンスがない場合は、一時的な Client Automation Standard エディションの評価ライセンスが生成されます。これは HP Client Automation のインストール後 90 日間有効です。このライセンスでは、コンソールの機能に制限があります。

16 [データベース ソース] ページで、**[サーバーにある既存の ODBC 接続を使用します]** をクリックし、**[次へ]** をクリックします。

17 [データベース設定] ページで、各種必須フィールドに適切な値を指定し、**[次へ]** をクリックします。

18 [サービス] ページで、この HPCA サーバーが提供する HPCA サービスを選択し、**[次へ]** をクリックします。指定した設定が保存されます。

> このウィンドウに表示されているサービスは、HPCA 環境用の推奨サービスですが、ここで必ず有効化する必要はありません。HPCA コンソールの設定パネルで後から設定できます。

19 [完了] ページで、**[完了]** をクリックして設定タスクを完了します。

HPCA コンソールでのこれらのサービスの設定方法の詳細については、「*設定*」の章を参照してください。

HPCA Satellite Server のインストール

HPCA Server のインストール

1 HPCA Satellite Server をインストールするシステムに、管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。

2 インストール メディアを挿入し、Satellite Server のインストール ファイルにアクセスするため、`Setup-Satellite` ディレクトリに移動します。

3 **setup.exe** をダブルクリックします。HP Client Automation Satellite インストーラのウィンドウが開きます。

4 **[次へ]** をクリックします。HP Client Automation Software エンドユーザーライセンス契約のページが開きます。

5 HP Client Automation Satellite のライセンス条項を確認して **[ライセンス契約に同意します]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation の [インストール フォルダ] ページが開きます。

6 [インストール フォルダ] ページに、HPCA Satellite Server のデフォルトのインストール ディレクトリが表示されます (38 ページの「デフォルト インストール ディレクトリ」にリストされています)。

   デフォルトの場所を承認するか、**[ブラウズ]** をクリックして別の場所を選択し、**[次へ]** をクリックします。[HP Client Automation データ フォルダ] ウィンドウが開きます。

7 [データ フォルダ] ページに、HPCA Satellite Server データ ファイルのデフォルト ディレクトリが表示されます (38 ページの「デフォルト インストール ディレクトリ」にリストされています)。

デフォルトの場所を承認するか、**[ブラウズ]** をクリックして別の場所を選択し、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation の [ホスト名] ページが開きます。

8 この HPCA Server の名前を指定し、**[次へ]** をクリックします。HP Client Automation Server の [ポート] ページが開きます。

9 デフォルトのポートを承認するか、Web サーバーと Configuration Server ポートを指定します。

> HPCA の Standard および Starter Edition ではデフォルト ポートを変更できません。

オプションとして、自動的にポート 3464 および 3466 を有効にしたい場合は、**[これらのポートを通して通信できるように Windows ファイアウォールを変更してください]** を選択します。詳細については、31 ページの「必須ポート」を参照してください。

10 **[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。インストール プロセスにより、別の設定スクリプトが開始されます。これには数分かかります。

11 **[完了]** をクリックして、HP Client Automation Satellite Server のインストールを完了します。

> インストールが完了すると、ログ ファイルにいくつかのエラーが記録されることがよくあります。これらのエラーは無視してもかまいません。初回セットアップ ウィザードが実行され、製品のセットアップが完了すると、これらのエラーは自動的に修正されます。

デフォルトのブラウザで Windows セキュリティのログイン ウィンドウが開きます。

12 ログイン ウィンドウで、デフォルトのユーザー名とパスワードを指定します。デフォルトでは、ユーザー名は **`admin`**、パスワードは **`secret`** です。

> HP は、デフォルトのユーザー名とパスワードを変更することをお勧めします。変更するには、HP Client Automation コンソールの設定パネルで **[アクセス制御]** -> **[ユーザーとグループ]** の順に選択し、[ユーザーとグループ] 領域の **[新しいユーザーの作成]** アイコンをクリックします。

13 **[OK]** をクリックします。初回セットアップ ウィザードが表示され、HPCA 環境の初期設定を求められます。これらの設定は、HPCA Satellite コンソールのさまざまなパネルで変更できます。

14 [はじめに] ページで **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。[アップストリーム サーバー] ページが開きます。

15 有効なアップストリーム ホストを指定して **[次へ]** をクリックします。[アップストリーム ホスト] フィールドには、テキストのホスト名と IP アドレス (標準 IP アドレス形式) を使用できます。[ライセンス] ページが開きます。このページには、Satellite のアップストリーム サーバーからのライセンス情報が事前に設定されています。

16 **[次へ]** をクリックして、[サービス] ページに進みます。

17 この HPCA Server が提供する HPCA サービスを選択し、**[次へ]** をクリックします。指定した設定が保存されます。

➤ このウィンドウに表示されているサービスは、HPCA 環境用の推奨サービスですが、ここで必ず有効化する必要はありません。HPCA Satellite コンソールの設定パネルで後から設定できます。

18 **[次へ]** をクリックします。指定した設定が保存されます。

19 [完了] ページで、**[完了]** をクリックして設定タスクを完了します。

HPCA のドキュメント

Core のインストール時には、メディアに格納されている HPCA のドキュメントもインストールされます。これらのドキュメントは PDF 形式で格納されており、Windows の **[スタート]** メニュー、デスクトップ上のショートカット、および `http://HPCA_Host:3466/docs` で Core Server マシンにアクセスし、任意のデバイスからブラウザを使用して閲覧できます。ここでの *HPCA_Host* は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

HPCA の削除

サーバーから HPCA を削除するには、HPCA インストール プログラムを使用します。

HPCA を削除するために Windows コントロール パネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用する場合、一部のファイルやフォルダ (ディレクトリ `C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA`、および最初のインストール後に追加または変更されたファイルなど) がサーバー上に残るため、手動で削除する必要があります。

HPCA を削除するには

1 HPCA メディアの **HPCACore.msi** をダブルクリックします。

2 **[このコンピュータから HP Client Automation Core を削除する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

➤ Satellite Server を削除する場合は、手順 1 と 2 の「Core」への参照を「Satellite」に置き換えてください。

3 削除の確認メッセージが表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

HPCA がサーバーから削除されます。

HPCA の修復

サーバーの HPCA を修復するには、HPCA インストール プログラムを使用します。

HPCA を修復するには

1 HPCA メディアの **HPCACore.msi** をダブルクリックします。

2 **[このコンピュータの HP Client Automation Core ファイル、レジストリ値、およびショートカットを修復する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

➤ Satellite Server を修復する場合は、手順 1 と 2 の「Core」への参照を「Satellite」に置き換えてください。

3 修復の確認メッセージが表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

HPCA がサーバー上で修復されます。

Windows 2003 での Core Server の設定

Core を Windows Server 2003 にインストールする場合は、Core Server のパフォーマンスを高めるため、`boot.ini` ファイルにいくつかのスイッチを設定する必要があります。

`boot.ini` ファイルに追加する必要のあるスイッチは次のとおりです。

- `/3GB` - 1 GB をカーネルに割り当て、3 GB をユーザー モード領域に割り当てます。
- `/userva=2900` - `/3GB` スイッチと共に使用されるスイッチで、Windows Server 2003 ファミリのユーザーおよびカーネル仮想メモリ領域をより正確に調整します。

- /PAE - 4 GB を超える RAM のシステムで使用されます。これにより、物理アドレス拡張 (PAE) モードをサポートするコンピュータの正常な起動が許可されます。

boot.ini ファイルでのスイッチの設定の詳細については、Microsoft Web サイトの **http://support.microsoft.com/kb/316739** および **http://support.microsoft.com/kb/833721** を参照してください。

手動による HPCA Administrator のインストール

Core Server をホストするマシン以外に HPCA Administrator をインストールするには、手動でインストールを実行する必要があります。以下のセクションに記載されているいずれかの方法を使用して手動インストールを実行します。

- 46 ページの「インストール プログラムを使用した HPCA Administrator のインストール」
- 47 ページの「Software 発行者サービスを使用して HPCA Administrator をインストールするには (Starter および Standard ユーザー)」

インストール プログラムを使用した HPCA Administrator のインストール

1. HPCA Administrator をインストールするデバイスで、HPCA メディアの Media¥admin¥default¥win32 ディレクトリを開き、**setup.exe** (または .msi ファイル) をダブルクリックします。

   [ようこそ] ウィンドウが表示されます。

2. インストールを開始するには、**[次へ]** をクリックします。[エンドユーザーライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
3. ライセンス契約を読んで承諾し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール ディレクトリを選択して、**[次へ]** をクリックします。
5. HPCA Core Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します。デフォルトのポート 3464 は変更しないでください。
6. **[次へ]** をクリックします。[ライセンス ダイアログ] ウィンドウが表示されます。
7. **[ブラウズ]** をクリックして、HPCA エディションのライセンス ファイルを選択します。
8. **[次へ]** をクリックします。[機能の選択] ウィンドウが表示されます。
9. インストールする機能を選択して、**[次へ]** をクリックします。

10 **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。

11 インストールが完了したら、**[完了]** をクリックします。

Software 発行者サービスを使用して HPCA Administrator をインストールするには (Starter および Standard ユーザー)

1 Management Agent を配布して、ターゲット デバイスを管理します。

2 Software 発行者サービスをデバイスに付与します。最初にグループにそのデバイスを追加してから、エンタイトルメントを割り当てます。

3 HPCA ソフトウェア ライブラリで利用可能な Software 発行者サービスを配布します。

   配布してから、Software 発行者サービスを使用して、ソフトウェアや HP Softpaq、BIOS 設定、OS イメージ サービスをパブリッシュできます。

HPCA を使用した Windows オペレーティング システムの管理

HPCA では、オペレーティング システム (OS) を管理するために Microsoft Windows Automated Installation Kit (AIK) の次の 2 つのユーティリティを使用します。

- `bootsec.exe` ユーティリティは、Windows パーティションのブート セクターを修復します。
- `imagex.exe` ユーティリティは、配布用にファイル ベースのディスク イメージをキャプチャ、変更、適用するために使用します。

HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する計画がある場合は、HPCA Core をホストする Windows AIK をインストールする必要があります。34 ページの「Windows AIK のインストール」を参照してください。

アウトバンド管理

HPCA OOBM を有効にして使用する場合は、次の注意事項を確認してください。

- HPCA Server のインストールまたはアップグレードを行う場合で、後から使用するために OOBM 設定とデータ ファイルを保持したい場合は、ファイルのバックアップと復元を行う移行スクリプトを使用する必要があります。

  移行と復元の詳細については、『HP Client Automation Starter and Standard Editions Migration Guide』を参照してください。

- vPro デバイスと HPCA OOBM を正常に連携させたい場合は、Intel™ AMT **Setup and Configuration Service** (**SCS**) をインストールおよび設定する必要があります。
  - **SCS** は Windows 2003 Server (32 ビット) オペレーティング システムでのみサポートされており、HPCA コンポーネントを収容する別のマシンにインストールすることができます。
  - HPCA コンポーネントを Windows 2008 Server プラットフォーム上にインストールした場合は、**SCS** を別のサーバーにインストールする必要があります。
  - HPCA OOBM 機能をアクティブ ディレクトリへ統合するよう選択した場合、アクティブ ディレクトリ ドメイン コントローラを Windows 2003 Server (32 ビット) オペレーティング システムにインストールする必要があります。

  詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』および最新の Intel™ SCS ドキュメントを参照してください。

Windows サービス

インストール後、HPCA Core サービスは `HPCA Core` として Windows サービスにリストされ、開始モードが「自動」に設定されます。このサービスは HPCA Core の内部のため、Core の実行中は停止しないでください。

HPCA Satellite Server がインストールされると、そのサービスである `HPCA Satellite` も自動的に Windows サービスにリストされ、開始モードが「自動」に設定されます。このサービスは HPCA Satellite の内部のため、Satellite の実行中は停止しないでください。

HPCA サービスの他に、HPCA Server と一緒にさまざまなサブサービスが自動的にインストールされます。これらには「HPCA」のラベルがついているため、Windows サービスで簡単に識別できます。これらのサブサービスの開始モードは「手動」です。

HP は、サービス間の依存性のため、これらのサブサービスの停止や開始には、コンソールのみを使用することをお勧めします。HPCA Core サービスまたは Satellite サービスを停止すると、サブサービスも自動的に停止します。

3 概要

HPCA のインストールと設定が完了し、Web ベースの HPCA Console (コンソール) を使用してお使いの環境のクライアント マシンの管理を始める準備ができました。

この章では、HPCA を使用して企業内のクライアント マシンの管理を始める前に、完了しておく必要のある重要なタスクについて説明します。

- 51 ページの「Web ベースの HPCA Console へのアクセス」
- 52 ページの「クイック スタート タスク」

Web ベースの HPCA Console へのアクセス

HPCA Server にはコンソールが付属しており、そこからさまざまな管理タスクや設定タスクを実行できます。これらのタスクの詳細については、181 ページの「操作」および 215 ページの「設定」を参照してください。

HPCA Console は、次の 3 つの方法のいずれかを使用して起動およびアクセスすることができます。

- サーバーがインストールされているマシンで、**[HP Client Automation Console]** デスクトップ アイコンをダブルクリックします。
- HPCA Server がインストールされたマシンで、Windows の **[スタート]** メニュー パスに移動します。

  [HP Client Automation] > [Client Automation コンソール]
- 環境内の任意のデバイスで Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

  `http://HPCA_host:3466/`

  ここで、*HPCA_host* は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

どの方法でも HPCA Console が起動され、ログイン認証情報の入力を求めるメッセージが表示されます。

入力を求めるメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワードを指定し、**[サインイン]** をクリックします。デフォルトのユーザー名は **admin**、デフォルトのパスワードは **secret** です。

デフォルトのユーザー名とパスワードの変更方法、コンソールへのアクセス権限リストにユーザーを追加する方法については、215 ページの「設定」を参照してください。セキュアな通信のためにコンソールで SSL を有効にする方法については、227 ページの「SSL」を参照してください。

重要

- ウィザードを実行したり警告を表示するときに、HPCA Console が別のブラウザ インスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや警告にアクセスするには、ブラウザのポップアップ ブロック設定で [許可されたサイト] に HPCA を指定します。
- セキュリティのため、HPCA では、20 分間操作を行わないと、自動的に現在のユーザーがログアウトされます。コンソールの使用を続けるには、再度ログインする必要があります。
- コンソールの **[レポート]** セクションのグラフィカル レポートを表示するには、Java Runtime または Java Virtual Machine が必要です。Java は、**http://java.com/ja/index.jsp** からインストールできます。
- **Windows 2003 Server**: Windows 2003 Server オペレーティング システム搭載のデバイスで HPCA へのローカル アクセスを許可するには、ローカル エリア ネットワーク (LAN) 設定で **[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない]** を有効にする必要があります。

クイック スタート タスク

この章では、環境を素早くセットアップし、すぐに HPCA を使用してクライアント デバイスを管理できるようにする一連のタスクについて説明します。その他にも管理、レポート、パッチ管理、配布、および操作機能を使用できますが、これらの初期クイック スタート タスクは、ユーザーが HPCA の機能を知り、インストール後、できるだけ早く使用を開始できるようにすることを目的に設計されています。

次のクイック スタート タスクがあります。これらのタスクは、説明された順序に沿って実行する必要があります。

54 ページの「タスク 1: デバイスのインポート」

クライアント デバイスを HPCA 環境にインポートして、デバイスが HPCA Server に認識されるようにします。

54 ページの「タスク 2: HPCA Agent の配布」

HPCA Agent をクライアント デバイスに配布およびインストールして、HPCA で制御できるようにします。

55 ページの「タスク 3: スケジュールの設定」

インベントリ確認やパッチ管理のスケジュールを設定します。

56 ページの「タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得」

HPCA の管理対象デバイスへの配布用にソフトウェア パッケージを準備し、パッチ取得スケジュールに従って自動的にパッチをダウンロードします。ソフトウェア パッケージとパッチは、それぞれのライブラリに格納されます。

57 ページの「タスク 5: グループの作成」

ソフトウェアとパッチを効率よく配布するために、ターゲット デバイスのグループを作成します。

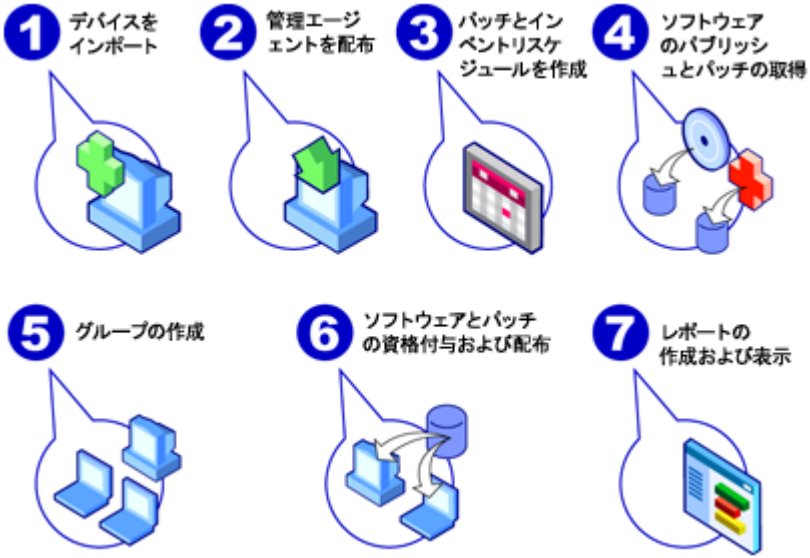
58 ページの「タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布」

ユーザーとデバイスにソフトウェア パッケージを付与することで、ユーザーがいつどのソフトウェアをダウンロードするかを選択できるようになります。通常、パッチはユーザーの介入や認識なしにダウンロードされます。

59 ページの「タスク 7: レポートの作成と表示」

印刷および配布が可能なレポートを生成および表示します。レポートは、カスタマイズ可能で、HPCA 管理対象デバイスに関するさまざまな情報に基づいています。

図 1　クイック スタート タスクの概要



タスク 1: デバイスのインポート

使用環境にある HPCA の管理対象デバイスを (HPCA に) インポートする必要があります。これにより、それらのデバイスが HPCA によって認識されるため、インベントリ情報を収集したり、ソフトウェアやパッチを配布したりできるようになります。

1 [管理] タブで、[デバイス管理]、[全般] タブの順に選択し、[**インポート**] をクリックしてデバイス インポート ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

デバイスがインポートされたら、タスク 2: HPCA Agent の配布に進んでソフトウェア、パッチ、およびインベントリの管理を行います。

タスク 2: HPCA Agent の配布

デバイスがインポートされたら、HPCA Agent を配布します。

1 [管理] タブで、[デバイス管理]、[全般] タブの順に選択し、[**配布**] をクリックしてエージェント配布ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、インポートしたデバイスに HPCA Agent を配布します。

Windows Vista に関する注意事項

ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報を、HPCA Console を通じて HPCA Agent の配布中に指定する必要があります。

デバイスがドメインの一部でない場合、ローカルの管理者にアクセスを許可するために、追加の手順を実行する必要があります (Microsoft サポート技術情報の記事、「*Error message when you try to access an administrative share on a Windows Vista-based computer*」に詳しく解説されています)。

これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。

これでデバイスの管理を開始できました。タスク 3: スケジュールの設定に進んで、インベントリの収集、パッチの適用状況スキャン、およびパッチの取得を行います。

タスク 3: スケジュールの設定

インベントリおよびパッチ取得のスケジュールを開始するには、ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードと [設定] タブを使用します。

インベントリ スケジュールを設定するには

1 [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブで、デバイスの左側にあるチェックボックスをオンにして、1 つ以上のデバイスを選択します。

2 **[インベントリの収集]** をクリックし、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択して、ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。

3 283 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、デバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。

パッチ取得のスケジューリングおよび設定を行うには

[操作] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得の設定およびスケジュールを設定します。

1 [パッチ管理] セクションを展開し、**[取得]** をクリックします。

2 [スケジュール] タブを使用して、パッチ取得のスケジュールを指定します。

3 [設定] タブで、必要な Microsoft ブリティンと HP SoftPaq 取得の設定を指定します。

> メタデータを使用したパッチ管理は、デフォルトで Microsoft パッチで有効になっています。この機能によって、パッチを取得するためにかかる時間や Core Configuration Server に対する全体的な負荷が削減されます。詳細については、第 11 章「メタデータを使用したパッチ管理」を参照してください。

パッチ適用状況探索スケジュールを設定するには

1 [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブで、デバイスの左側にあるチェックボックスをオンにして、1 つ以上のデバイスを選択します。

2 **[インベントリの収集]** をクリックし、**[パッチの適用状況の探索]** を選択して、パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、該当するデバイスとグループに対するパッチ適用状況スケジュールを作成します。

スケジュールを設定したら、タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得に進みます。

タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得

管理対象のデバイスにソフトウェアやパッチを配布する前に、ソフトウェア ライブラリおよびパッチ ライブラリにソフトウェアやパッチを格納する必要があります。

1 ソフトウェアを HPCA データベースにパブリッシュするには、Publisher を使用します。

— ソフトウェア サービスの設定およびパブリッシュを行う側のマシンで Publisher を起動します。詳細については、Publisher のオンライン ヘルプ、または 347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

> Starter ライセンスには、HP SoftPaq および BIOS 設定をパブリッシュするためのオプションが含まれます。また、シン クライアントに限り、ソフトウェアおよび OS イメージをパブリッシュするオプションが含まれます。
>
> Standard ライセンスには、ソフトウェアおよびオペレーティング システム イメージをパブリッシュするためのオプションに加え、これらのオプションが含まれます。

2 HP または Microsoft からパッチを取得して、パッチ ライブラリに格納します。

— [管理] タブの [パッチ管理] セクションにある [全般] タブで、**[取得]** をクリックします。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。パッチは、前の手順、55 ページの「タスク 3: スケジュールの設定」で設定した取得スケジュールに従って、自動的にダウンロードされます。

➤ パフォーマンスの問題を避けるため、最初は、パッチを評価用の非実運用環境にある HPCA Server に取得します。

各ライブラリでソフトウェアおよびパッチが利用可能になったら、タスク 5: グループの作成に進み、配布用のソフトウェアおよびパッチを付与します。

タスク 5: グループの作成

ソフトウェアまたはパッチを配布するには、ターゲット デバイスを含むグループを作成してから、ソフトウェアまたはパッチをそのグループに付与する必要があります。

- [グループ管理] の [全般] タブで、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。グループ作成ウィザードが起動します。ウィザードの手順に従って、静的グループを作成します。

  HPCA では、発見されたデバイス (探索グループ) または選択されたインベントリ条件 (レポート グループ) に基づいて、動的デバイス グループも必要に応じてサポートされます。これらのグループは、グループ作成ウィザードを使用しても作成できます。詳細については、114 ページの「グループ管理」を参照してください。

グループが作成されたら、タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布に進み、そのグループのデバイスに付与します。

タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布

[グループ管理] 領域の [グループ] タブで、グループの表示名をクリックして [グループの詳細] ウィンドウを開きます。ここで、ソフトウェアまたはパッチの付与および配布ができます。

➤ ソフトウェアおよびパッチを配布するには、HP Client Automation Standard が必要です。HP Client Automation Starter では、BIOS 設定および HP Softpaq の配布ができます。

ソフトウェアの付与および配布を行うには

ソフトウェアの付与と配布を行うには、[グループの詳細] の [ソフトウェア] タブを使用します。

1 **[ソフトウェア資格の追加]** をクリックして、ソフトウェア サービスを選択し、そのグループで利用できるようにします。付与されたソフトウェアは、[ソフトウェア] タブの [ソフトウェア資格] テーブルに表示され、Application Self-Service Manager のエンド ユーザーから利用できるようになりますが、自動的に配布されることはありません。これにより、管理対象ソフトウェア カタログを作成できるため、ユーザーは、どの追加のソフトウェア サービスをいつ配布するかを決定できます。

2 ソフトウェアを配布するには、配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]** ボタンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが開きます。ウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにソフトウェアを配布します。配布されたソフトウェアは、エンド ユーザーのデバイスに自動的にインストールされます。

パッチの付与および配布を行うには

[グループの詳細] の [パッチ] タブを使用して、パッチの付与と配布を行います。

1 **[パッチ資格の追加]** をクリックして、パッチを選択し、そのグループで利用できるようにします。付与したパッチが、[パッチ資格] テーブルに表示されます。

2 パッチを配布するには、配布するパッチを選択して、**[パッチの配布]** ボタンをクリックします。パッチ配布ウィザードが開きます。ウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにパッチを配布します。

➤ パッチの適用状況の強制は、パッチ配布ウィザードを使用して設定できます。

➤ 付与したパッチは、Application Self-Service Manager カタログに表示されません。

HPCA を使用して、ソフトウェアおよびパッチの配布を行いました。次に、タスク 7: レポートの作成と表示セクションの手順に従って、レポートの作成について学びます。

タスク 7: レポートの作成と表示

管理対象デバイスの情報に基づいて、レポートの生成と表示を行うには、[レポート] タブを使用します。

- 手早くレポートの例を生成するには、**[インベントリ情報]** 領域の **[管理対象デバイスを表示]** をクリックして、HPCA Agent がインストールされている全デバイスのリストを表示します。

  デバイスのリストが作成されると、左のオプションを使用して、またはデバイス カラムの詳細のいずれかをクリックして、追加のフィルタを適用できます。

- レポートが生成されたら、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]** をクリックして、そのレポートにデバイスの動的グループを作成します。グループ作成ウィザードが起動します。ウィザードの手順に従って、レポート グループを作成します。

4　ダッシュボードの使用

ダッシュボードを使用すると、お使いの環境のステータスをさまざまな方法で迅速に評価できます。ダッシュボードでは、[レポート] 領域における特定のタイプの情報が視覚的に表現されます。保有している HPCA ライセンスのタイプによって、特定のダッシュボードが使用できます。この章は、次の各トピックで構成されています。

- 62 ページの「ダッシュボードの概要」
- 66 ページの「HPCA 操作ダッシュボード」
- 73 ページの「パッチ管理ダッシュボード」

ダッシュボードの概要

HPCA Console には、企業内のステータスの概要を簡単に表示および評価できるダッシュボードが含まれます。

- 66 ページの「HPCA 操作ダッシュボード」には、HPCA インフラストラクチャで行われた作業の量が表示されます。
- 73 ページの「パッチ管理ダッシュボード」には、ネットワーク内のデバイスで検出されたパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。

各ダッシュボードにはそれぞれ 2 つのビューがあります。

表 3　ダッシュボードのビューのタイプ

タイプ	説明
エグゼクティブ ビュー	マネージャを対象とした高レベルの要約情報です。企業の履歴情報などが含まれます。
操作ビュー	日常業務に HPCA を使用する一般ユーザーを対象とした詳細情報です。特定デバイス、サブネット、脆弱性、および特定の適応状況またはセキュリティ ツールの問題に関する情報が含まれています。

各ビューには数多くの情報ペインがあります。HPCA を設定して、これらのペインをすべて表示したり一部を表示したりできます。詳細については、275 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

各ダッシュボードには、統計の要約と関連レポートへのリンクが掲載されたホーム ページが含まれます。これらのリンクのいずれかをクリックすると、別のブラウザ ウィンドウが開き、HPCA によりレポートが表示されます。

大部分のダッシュボード ペインでは、情報をグラフまたはグリッド形式で表示できます。グリッド表示では、現在のソート パラメータがカラム見出し内で ▼ アイコンで表示されます。ソート パラメータを変更するには、別のカラム見出しをクリックします。ソート順を逆にするには、カラム見出しを再度クリックします。カラムを移動するには、カラム見出しセルの背景部分をクリックして、カラムを移動先までドラッグします。

大部分のダッシュボード ペインでは、棒グラフまたは円グラフの色分けされた領域や線グラフのデータ ポイントにカーソルを置くと、詳細情報が表示されます。また、大部分のペインでは、レポートを掘り下げてより詳細な情報を得ることができます。

各ペインの左下隅のタイム スタンプは、その情報の取得元からの最新のリフレッシュ日時を示しています。

図 2　タイム スタンプ

ダッシュボード ペインでは、現地のタイム ゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらを使用するかを設定できます。

ダッシュボード ペインでは、次のアクションを実行できます。

表 4　ダッシュボード ペインのアクション

アイコン	説明
	情報をグラフ形式で表示します。
	情報をグリッド形式で表示します。
	該当グラフの凡例を表示します。
	データの取得元からデータをリフレッシュします。個々のペインのデータをリフレッシュするには、それぞれのペインのリフレッシュ アイコンをクリックします。すべてのペインをリフレッシュするには、ダッシュボードの右上隅のリフレッシュ アイコンをクリックします。HPCA Console セッションがタイムアウトした場合、ダッシュボードのペインは自動的にリフレッシュされません。データベースから最新の情報を取得するには、再度サインインしてから手動で各ペインをリフレッシュする必要があります。
	ダッシュボード内のすべてのペインの表示を出荷時の設定にリセットします。

表 4　ダッシュボード ペインのアクション

アイコン	説明
	HPCA データが含まれているペインについて、対応するレポートを表示します。外部 Web サイトまたは RSS フィードからの情報が含まれているペインの場合は、情報元の Web サイトに移動します。
	「クイック ヘルプ」ボックスまたはツール チップが開きます。このボタンを 1 回クリックすると、該当ダッシュボード ペインの簡単な説明が表示されます。再度クリックすると、クイック ヘルプ テキストが非表示になります。
	該当ペインに関する状況に応じたオンライン ヘルプ トピックが開きます。このコントロールは、クイック ヘルプ テキストが表示されている場合にのみ使用できます。
	ダッシュボード ペインを最小化します。
	ダッシュボード ペインを最大化します。
	最大化されたペインを元のサイズに戻します。

あるダッシュボード ペインを最小化すると、その他のペインはダッシュボードのウィンドウに合うようにサイズが拡大します。同様に、あるダッシュボード ペインを最大化すると、その他のペインは下に隠れます。最小化されたペインを元に戻すには、ダッシュボードの下部にあるペインの名前が表示されたグレーのボタンをクリックします。この例では、24 時間のサービス イベント ペインが最小化されています。

図 3　ダッシュボード ペインを復元するボタン

ペインをドラッグ アンド ドロップして、ダッシュボード ウィンドウ内でペインの配置を変更できます。ただし、ダッシュボードの外にはドラッグできません。

ダッシュボード内の各ペインのサイズや配置を変更して外観をカスタマイズした場合、または 1 つ以上のペインのグラフとグリッドのビューを切り替えた場合、このカスタマイズは次回 HPCA Console にサインインした場合にも適用されます。ダッシュボードのレイアウト設定は、お使いのコンピュータのローカル フ

ラッシュ共有オブジェクト (ブラウザ cookie など) として格納されます。この設定は、明示的に削除しない限り保存されます。詳細については、436 ページの「ダッシュボード レイアウト設定の削除」を参照してください。

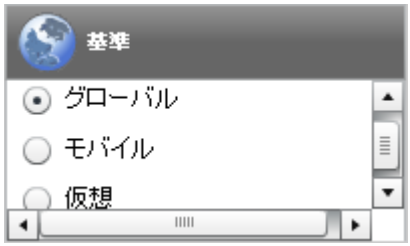
いずれかのダッシュボードの表示中に **F5** ファンクション キーを押すと、ブラウザが HPCA Console を再度読み込んだ後にそのダッシュボードのページに戻ります。

ダッシュボード デバイス

デバイスにより、特定のタイプのデバイスに対してダッシュボードの各ペインに表示される情報を制限できます。デフォルトでは次の 3 種類のデバイスが使用可能です。

- グローバル – すべてのデバイス (フィルタは適用されません)。
- モバイル – ラップトップやその他のモバイル コンピューティング デバイスです。これには、次のシャーシ タイプのすべてのデバイスが含まれます。
  - ポータブル
  - ラップトップ
  - ノートブック
  - ハンドヘルド
  - サブ ノートブック
- 仮想 – 仮想デバイスです。これには、ベンダーおよびモデルのプロパティが VMware または Xen (Citrix を含む) であるすべてのデバイスが含まれます。

デバイスを適用するには、コンソールの左上隅の [基準] ボックスでデバイスを選択します。



表示されるデータの特性により、一部のダッシュボード ペインでは、デバイスの設定が適用されません。[モバイル] または [仮想] デバイスを選択した場合、これらが*適用されない*ペインの上部に、次の強調表示のメッセージが表示されます。

フィルタまたはデバイスが適用できません

また、デバイスの設定が適用されないペインは外枠がオレンジ色になります。

デバイスを選択すると、HPCA Console 内のすべてのダッシュボード ペインに設定が適用されますが、例外として上記の「**フィルタまたは基準が適用できません**」が表示されたペインには適用されません。デバイスは個別のダッシュボード ペインには適用できません。

HPCA 操作ダッシュボード

このダッシュボードには、企業内の HPCA インフラストラクチャで行われる作業が表示されます。表示されるのは次の 3 点です。

- HPCA クライアント接続の数
- 発生したサービス イベント (インストール、アンインストール、更新、修復および検証) の数
- HPCA で実行された操作のタイプ (OS、セキュリティ、パッチまたはアプリケーション)

また、2 つの期間のクライアント接続およびサービス イベントの指標が表示されます。エグゼクティブ ビューには、最新の 12 か月が表示されます。[操作] ビューには、最新の 24 時間が表示されます。どちらのビューにも、次の情報ペインが含まれます。

67 ページの「クライアント接続」

69 ページの「サービス イベント」

エグゼクティブ ビューには、次のペインも含まれます。

71 ページの「ドメイン別 12 か月サービス イベント」

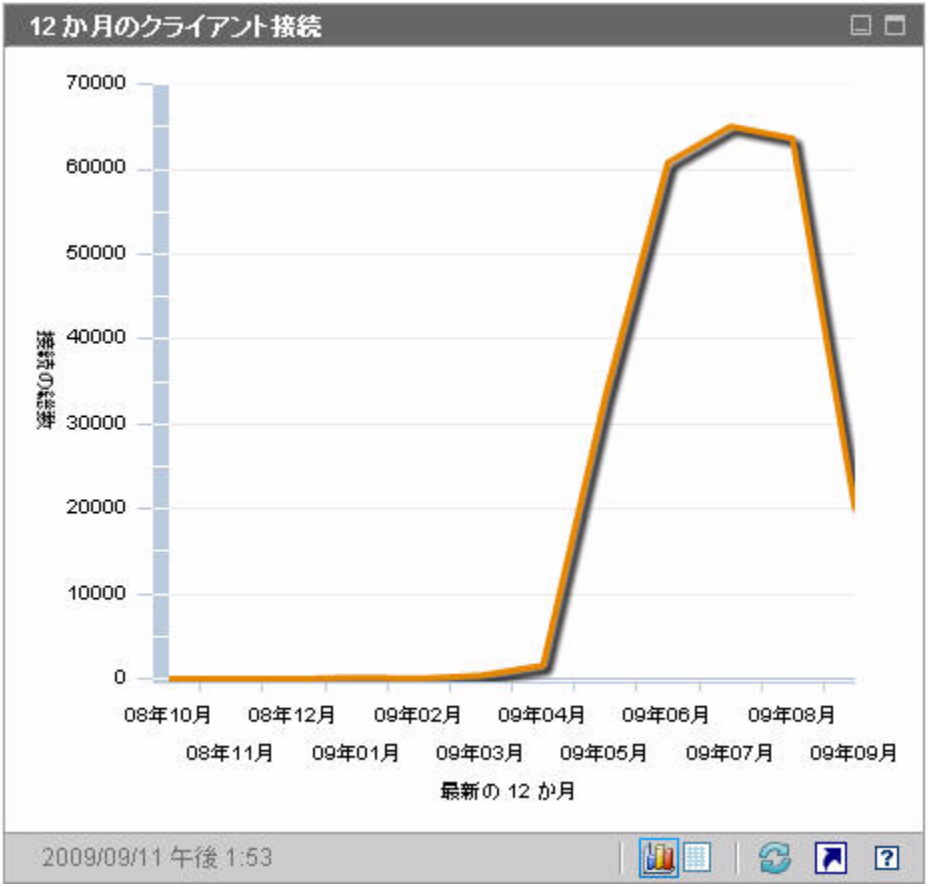
デフォルトではこれらのペインがすべて表示されます。ダッシュボードでは、これらの任意のペインの表示 / 非表示を切り替えることができます。詳細については、275 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

➤ 左側のナビゲーション ペインの [HPCA 操作] をクリックすると、[HPCA 操作] ホームページが表示されます。このページには統計と関連レポートへのリンクが掲載されています。

クライアント接続

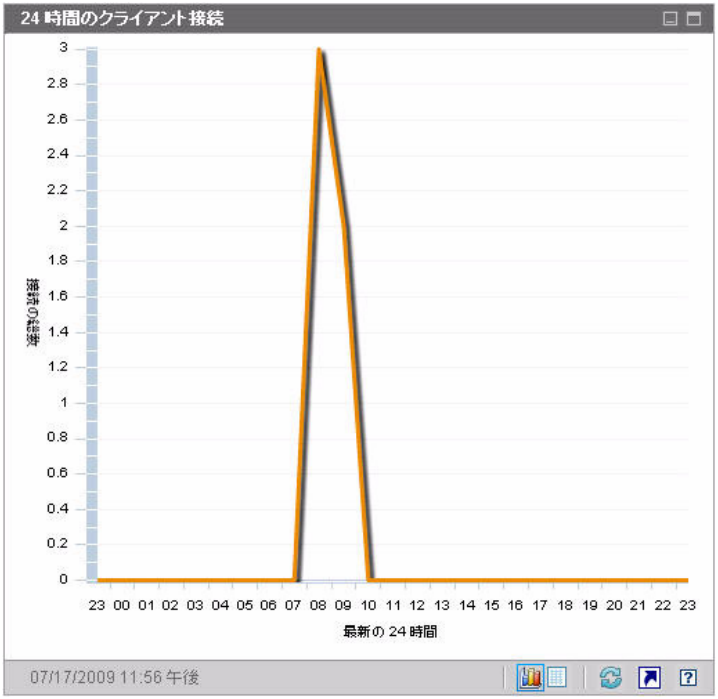
このペインのグラフ表示には、過去 12 か月 (エグゼクティブ ビュー) または 24 時間 (操作ビュー) に発生した HPCA Agent クライアント接続の数が表示されます。データ ポイントの上にカーソルを置くと、その月 (エグゼクティブ ビュー) または時間 (操作ビュー) の合計接続数が表示されます。

図 4　12 か月のクライアント接続



このペインのグリッド表示では、過去 12 か月の各月に完了したクライアント接続の合計数がリストされます。

図 5　24 時間のクライアント接続



ダッシュボード ペインでは、現地のタイム ゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらを使用するかを設定できます。

このペインのグリッド表示では、過去 24 時間の各時間帯に完了したクライアント接続の数がリストされます。

サービス イベント

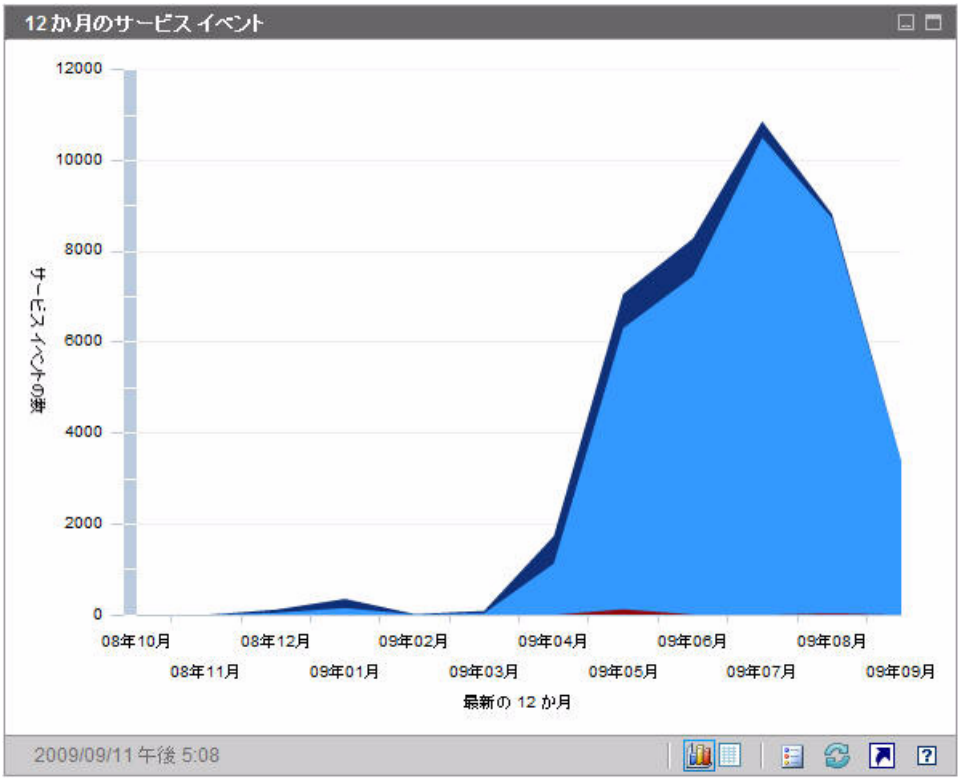
このペインのグラフ表示では、過去 12 か月 (エグゼクティブ ビュー) または 24 時間 (操作ビュー) に企業のクライアント デバイスにおいて HPCA で完了したサービス イベントの数が表示されます。これらのサービス イベントには、HPCA により次の作業が行われたアプリケーションの数が含まれます。

- インストール済み
- アンインストール済み

- 更新済み
- 修復済み
- 検証済み

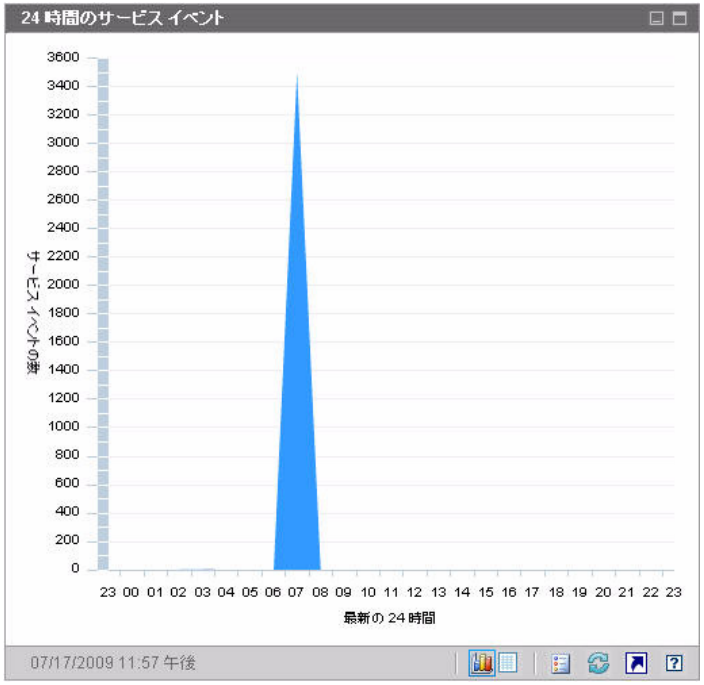
データ ポイントの上にカーソルを置くと、特定の月または時間に完了したサービス イベント数が表示されます。

図 6　12 か月のサービス イベント



このペインのグリッド表示では、過去 12 か月の各月に HPCA で完了した各種サービス イベントの数がリストされます。

図 7　24 時間のサービス イベント



ダッシュボード ペインでは、現地のタイム ゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらを使用するかを設定できます。

このペインのグリッド表示では、過去 24 時間の各時間帯に HPCA により開始された各種サービス イベントの数がリストされます。

ドメイン別 12 か月サービス イベント

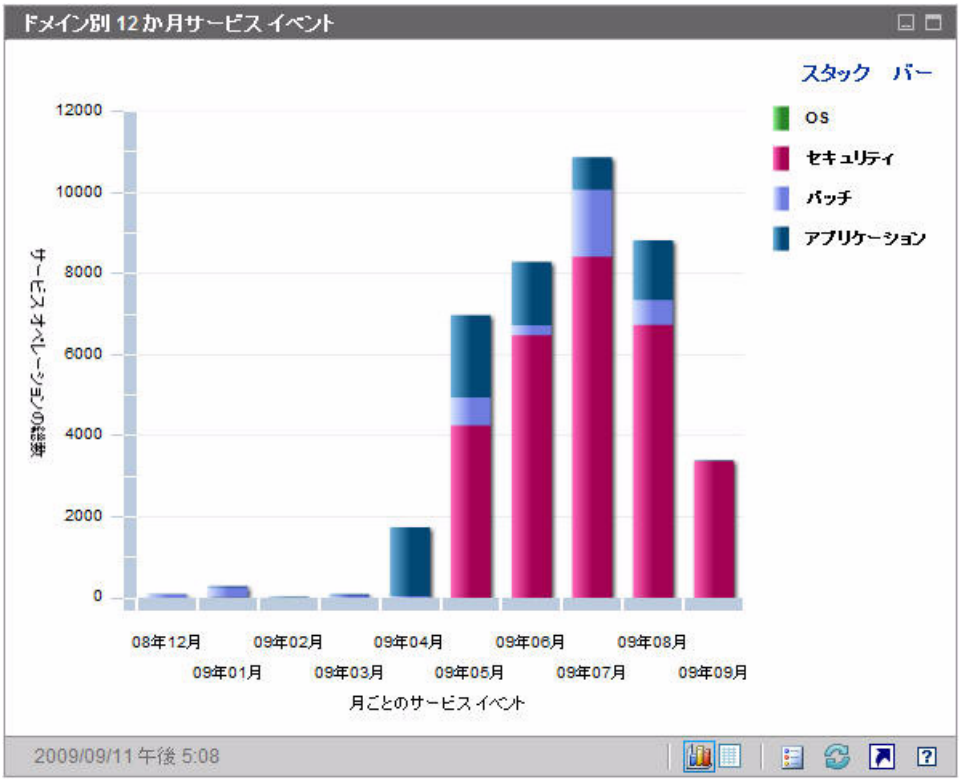
このペインのグラフ表示では、過去 12 か月の各月に HPCA により実行された次のサービスの数が表示されます。

- オペレーティング システム (OS) の操作
- セキュリティ操作
- パッチ操作

- アプリケーション操作

取得可能なデータが 12 か月以下の場合、このグラフに表示されるバーの数は少なくなります。

図 8　ドメイン別 12 か月サービス イベント



このグラフには、2 とおりのデータ表示方法があります。

- スタック – 異なるタイプのサービス イベントが、各月に対応した単一のバー内に垂直にスタックされます (図示)。
- バー – 月ごとに各タイプのサービス イベントが個別のバーで表示されます。

グリッド表示では、過去 12 か月の各月に HPCA により実行された各種サービスの数がリストされます。

パッチ管理ダッシュボード

パッチ管理ダッシュボードには、ネットワーク内の管理対象デバイスで検出された任意のパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。

パッチ管理ダッシュボードのエグゼクティブ ビューには、次の 3 つの情報ペインがあります。

- 73 ページの「ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー)」
- 75 ページの「ブリティン別デバイス適用状況」
- 76 ページの「Top Ten Vulnerabilities」

操作ビューには、次の情報ペインがあります。

- 78 ページの「HP Live Network Patch Manager アナウンスメント」
- 79 ページの「ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー)」
- 80 ページの「Microsoft セキュリティ ブリティン」
- 81 ページの「最も脆弱性の高い製品」

ダッシュボードでは、これらの任意のペインの表示 / 非表示を切り替えることができます。275 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

➤ [ホーム] タブの左側のナビゲーション ペインで [パッチ管理] をクリックすると、パッチ管理のホーム ページが表示されます。このページには統計と関連レポートへのリンクが掲載されています。

ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー)

このペインのグラフ表示には、パッチ ポリシーに現在適合しているネットワーク内のデバイスのパーセンテージが表示されます。円グラフ内の色付きの扇形は、次の状態を表します。

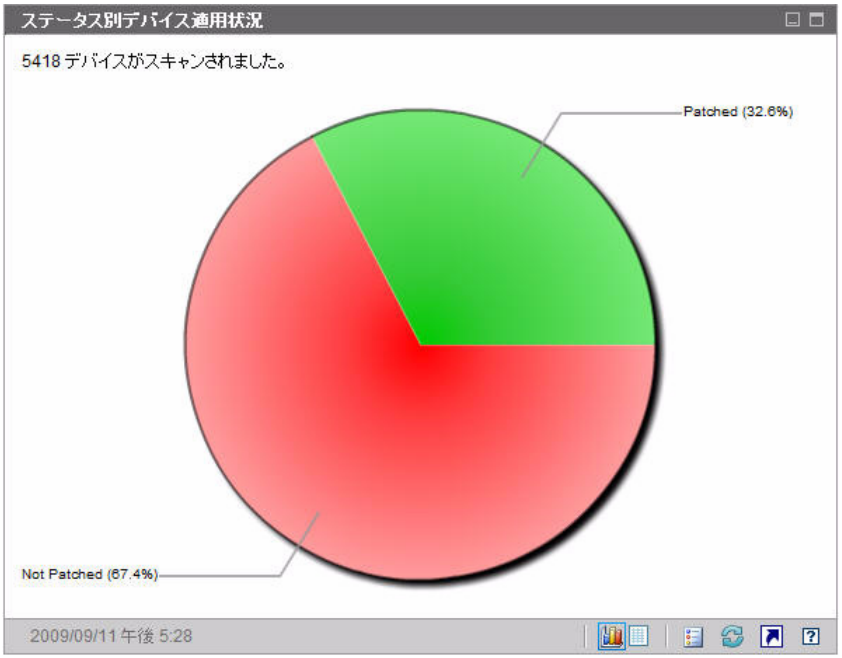
- パッチ適用済み (緑)
- パッチ未適用 (赤)

79 ページの「ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー)」に似ていますが、このビューにはさらに詳しい情報が表示されます。

表 5　ステータス別デバイス適用状況ビュー

エグゼクティブ ビュー	操作ビュー
パッチ適用済み	パッチ適用済み 警告
パッチ未適用	パッチ未適用 再起動の保留 その他

図 9　ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー)



特定のカテゴリのデバイス数を表示するには、カーソルを円グラフの色付き部に移動します。

円グラフ内の色付きの扇形をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。レポートには、クリックした扇形に対応するパッチ適用状況ステータスのすべてのデバイスが表示されます。

このペインのグリッド表示には、円グラフに表示されているそれぞれの適用状況にあるネットワーク デバイスの数が表示されます。

ブリティン別デバイス適用状況

このペインのグラフ表示には、ネットワーク内で最大数のデバイスに影響するパッチ脆弱性が 10 種類表示されます。垂直軸には、これらの脆弱性についてのパッチ ブリティン番号の一覧が表示されます。水平軸はパッチが適用されていないデバイスの数を表し、対数尺度を使用します。

特定のブリティンが 1 つのデバイスにのみ影響する場合、グラフ表示にそのブリティンのデータは表示されません。これは、対数目盛りの既知の制限です。ただし、グリッド表示ではデータが表示されます。

ブリティンの名前と影響を受けるデバイスの数を表示するには、カーソルを色付きのいずれかの棒上に合わせます。

図 10　ブリティン別デバイス適用状況

グラフの色付き棒の 1 つをクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。このレポートには、このパッチ脆弱性を持つ管理対象デバイスが表示されます。

グリッド表示には、検出された上位 10 件のパッチ脆弱性に関する次の情報が表示されます。

- ブリティン – この脆弱性の Microsoft セキュリティ ブリティン
- 説明 – ブリティンのタイトル
- パッチ未適用 – このパッチ脆弱性を持つデバイスの数

初期状態のテーブルは、[パッチ未適用] を基準にソートされています。ソートパラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

特定のブリティンについての詳細を表示するには、ブリティン番号をクリックしてください。

Top Ten Vulnerabilities

このペインのグラフ表示には、ネットワーク内のデバイスの最大数に影響する脆弱性の上位 10 件の適用状況が表示されます。グラフには、各脆弱性について、パッチが適用済みのデバイスの数と、適用されていないデバイスの数が表示されます。これらのデバイスは次のように表されます。

- パッチ適用済みデバイス (緑)
- パッチ未適用デバイス (赤)

これらのデバイスについて、過去 7 日、14 日、21 日、30 日、および 30 日を超える期間の統計を表示できます。さらに、**[Recently Released]** で脆弱性をフィルタすると、Microsoft によってリリースされ、Patch Manager によって取得されたブリティンのうち、ネットワーク内のデバイスの最大数に影響するブリティンの上位 10 件の統計情報を表示できます。

表の垂直軸にはパッチ ブリティンの上位 10 件が一覧表示されます。水平軸は、これらのブリティンの影響を受けるデバイスの数を表します。

特定のブリティンの影響を受けるデバイスの数と、そのブリティンの適用状況を表示するには、色付き棒のいずれかにカーソルを置きます。

図 11　脆弱性のトップ 10

グリッド表示には、上位 10 件の脆弱性について次の情報が表示されます。

- ブリティン – Microsoft セキュリティ ブリティンの ID
- パッチ未適用 – 特定のブリティンに準拠していないデバイスの数
- パッチ適用済み – 特定のブリティンに準拠しているデバイスの数
- デバイス – 特定のブリティンの影響を受けるデバイスの総数

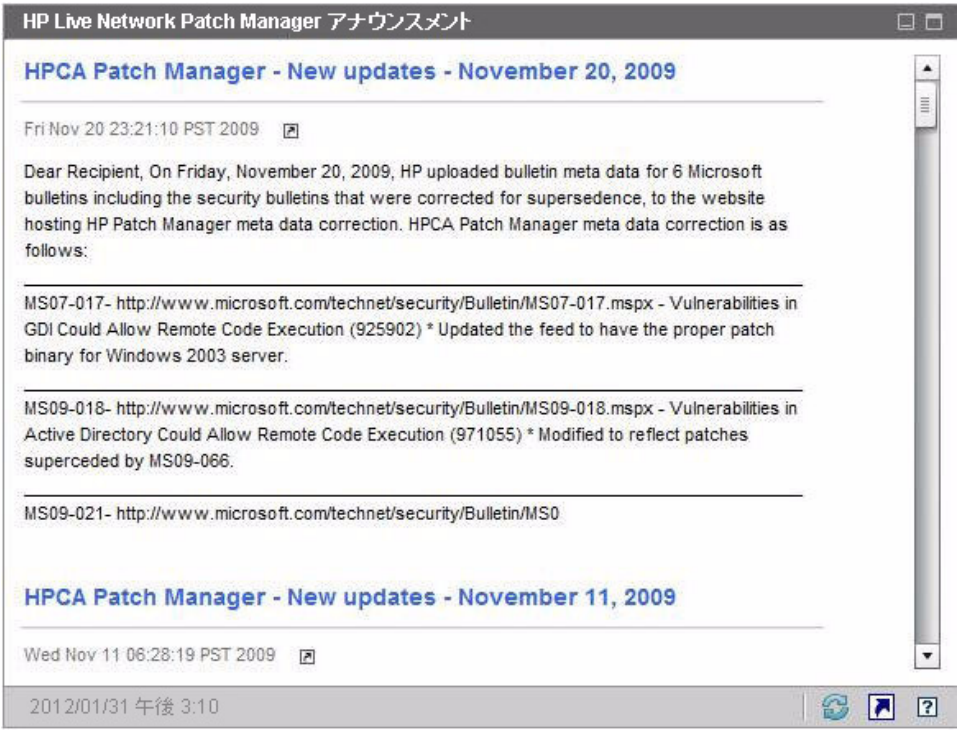
初期状態のテーブルは、**[デバイス]** を基準にソートされています。ソート パラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

特定のブリティンについての詳細を表示するには、ブリティン名をクリックしてください。

HP Live Network Patch Manager アナウンスメント

このペインには、最も新しくパブリッシュされた HP Live Network Patch Manager アナウンスメントが表示されます。この情報は、HP Live Network 登録サイトからの RSS フィードにより提供されたものです。第 5 章「HPCA および HP Live Network」を参照してください。このペインは、情報を表示するために HP Live Network の認証情報を指定する必要があるため、デフォルトでは有効ではありません。HP Live Network 認証情報の設定についての詳細は、275 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

図 12　HP Live Network Patch Manager アナウンスメント



特定のアナウンスメントの詳細な情報を入手するには、そのタイトルのすぐ下にある ⧉ アイコンをクリックします。HP Live Network の登録サポート サイトが新しいブラウザ ウィンドウで表示されます。このサイトにアクセスするには、アクティブな HP Live Network 登録が必要です。

このペインにはグラフ表示はありません。

[設定] タブでこのペインを有効にするとき、RSS フィードの URL および HP Live Network 認証サーバーの場所を変更できます (275 ページの「ダッシュボード」を参照)。また、プロキシ サーバーを有効にする必要が生じる場合もあります (249 ページの「HP Live Network サーバーへの接続の設定」および 226 ページの「プロキシ設定」を参照)。

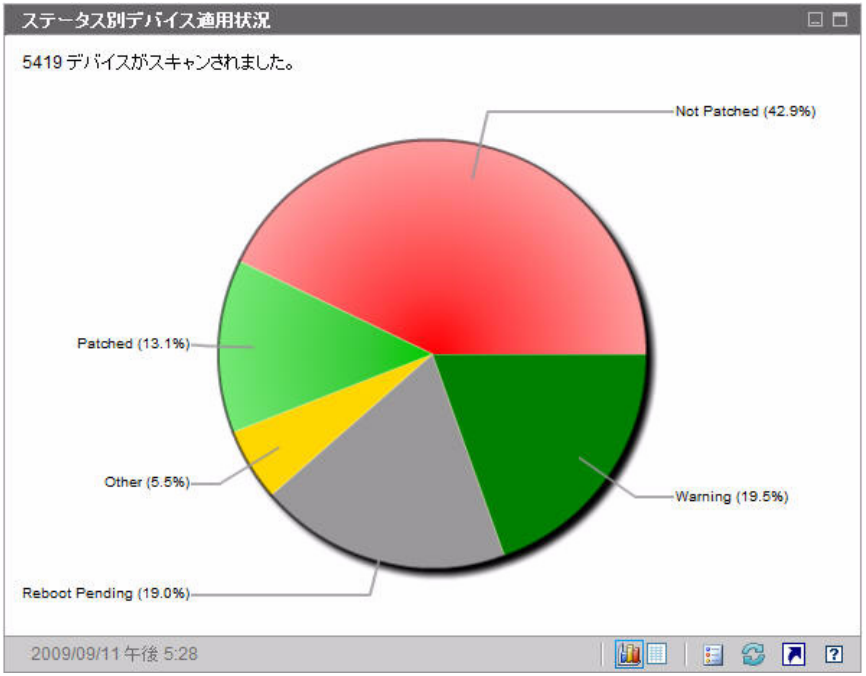
ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー)

このペインのグラフ表示には、パッチ ポリシーに現在適合しているネットワーク内のデバイスのパーセンテージが表示されます。特定のカテゴリのデバイス数を表示するには、カーソルを円グラフの色付き部に移動します。

このペインはステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー) と似ていますが、より詳細な情報が表示され、使用される色は Patch Manager の場合と同じです。

- パッチ適用済み (薄緑)
- パッチ未適用 (赤)
- 再起動の保留 (薄いグレー)
- 警告 (深緑)
- その他 (黄)
- 適用できません (濃いグレー)

図 13　ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー)



円グラフ内の色付きの扇形をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。レポートには、クリックした扇形に対応するパッチ適用状況ステータスのすべてのデバイスが表示されます。

グリッド表示には、円グラフに表示されているそれぞれの適用状況にあるネットワーク デバイスの数が表示されます。

Microsoft セキュリティ ブリティン

このペインには、最新の Microsoft セキュリティ ブリティンが表示されます。デフォルトでは、この情報は Microsoft Corporation から RSS フィードによって提供されます。フィードの URL は、[設定] タブを使用して変更できます (275 ページの「ダッシュボード」を参照してください)。

図 14　Microsoft セキュリティ ブリティン

特定のブリティンの詳細を表示するには、ブリティン名のすぐ下にある ▣ アイコンをクリックします。

このペインにはグラフ表示はありません。

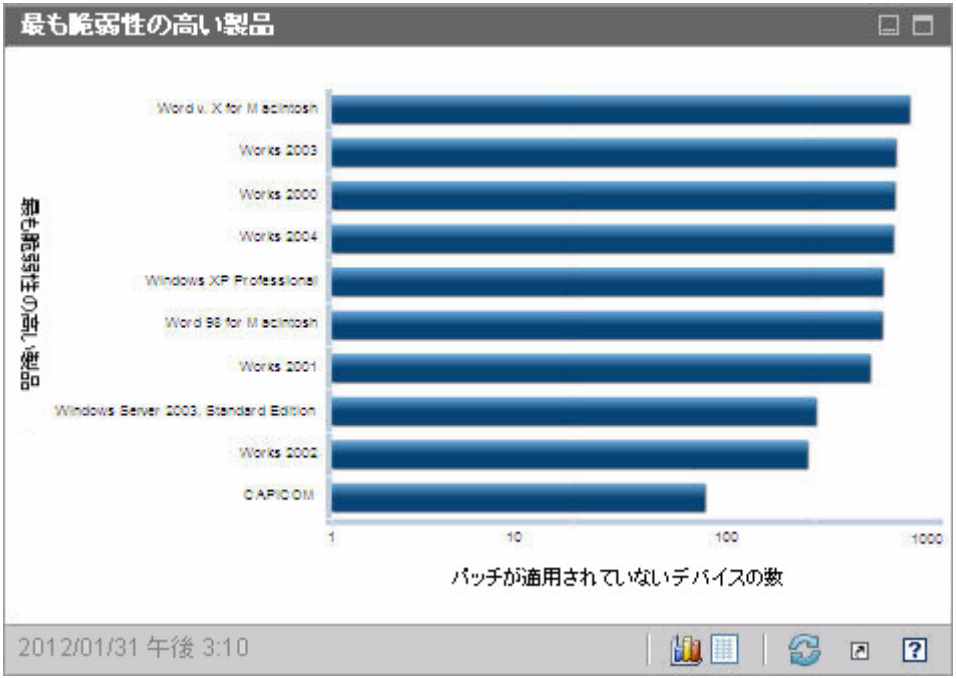
最も脆弱性の高い製品

このペインはデフォルトで無効になっています。有効化するには、275 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

このペインのグラフ表示には、ネットワーク内のソフトウェア製品のうち、パッチが適用されていないデバイスが最も多い製品が表示されます。垂直軸には、ソフトウェア製品の一覧が表示されます。水平軸は、そのソフトウェア製品について、パッチが適用されていないデバイスの総数を示します。

このグラフでは対数スケールを使用するため、特定の製品につき、パッチが適用されていないデバイスの数が 1 の場合、その製品のデータはグラフ表示に何も表示されません。これは、対数目盛りの既知の制限です。ただし、グリッド表示ではデータが表示されます。特定のソフトウェア製品にパッチが適用されていないデバイスの数を表示するには、カーソルを色付きのいずれかの棒上に合わせます。

図 15　最も脆弱性の高い製品



グリッド表示には、製品ごとに次の情報が表示されます。

- 製品 – ソフトウェア製品の名前
- パッチ未適用 – 特定の製品ついて、パッチが適用されていないデバイスの数
- 適用可能なデバイス – この製品がインストールされているデバイスの数

初期状態のテーブルは、[パッチ未適用] を基準にソートされています。ソートパラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

5 HPCA および HP Live Network

概要

HP Live Network は、HPCA の最新のコンテンツを取得できる登録契約サービスです。HPCA ライセンスに応じて、HP Live Network から使用できるコンテンツのタイプが異なります。

HPCA Standard では、設定プロファイルの最新のコンテンツを提供します。Live Network を介してレポートの強化機能も配布できます。入手できる場合、HP Live Network 更新を実行して、これらの強化機能を取得できます。Live Network サイトから最新のレポートをダウンロードしても、レポートに実行したカスタマイズは上書きされません。

更新されたコンテンツを取得するには、該当するコンテンツの有効な Live Network の登録認証情報を含むアクティブな HP Software サポートの連絡先が必要です。アクティブ化すると、ユーザー ID、パスワード、およびコンテンツサーバーの URL が通知されます。これらを使用して、[設定] タブで Live Network を設定できます。

登録契約に付随する HP Live Network コンテンツ サーバーの URL は、HPCA Console の [設定] タブの Live Network 設定ページに表示されるデフォルトの URL と異なる場合があります。登録契約に付随する URL を使用してください。詳細については、249 ページの「Live Network」を参照してください。

[HP Live Network アナウンスメント] ダッシュボード ペインを表示するには、HP Live Network アナウンスメントの HP Passport 認証情報を使用する必要があります。HP Live Network アナウンスメント用の HP Passport 認証情報を更新するには、次を実行します。

1 HP Live Network Web サイト (**https://www.www2.hp.com/**) を参照し、1 回のみの確認手順を実行してから、HP Live Network アナウンスメント ウィジェットを使用します。

2 HP Live Network アナウンスメント ウィジェットの接続エラーが引き続き表示される場合は、次を実行します。

   a 次の HP Live Network RSS フィードを参照します : **https://h20033.www2.hp.com/servlets/WebFeed?artifact=news&version=rss_2.0&cookieCheck=off**

   b 1 回のみの確認手順を、メッセージが表示されたら実行します。

ライセンスの要件

HP Live Network から最新のコンテンツを取得するには、次のアイテムが必要です。

- HPCA Standard Edition のライセンス
- Live Network 登録の認証情報を持つアクティブな HP Software サポートの連絡先

これらのアイテムがない場合、関連するダッシュボードには何も表示されません。適用可能なコンテンツはダウンロードおよび使用には使えません。

HP Live Network コンテンツの更新

HPCA で HP Live Network サイト (またはファイル システム) からコンテンツを更新する場合、HP Live Network コネクタ (LNC) と呼ばれるツールが使用されます。

Live Network のコンテンツを取得するには、HP Live Network コネクタ を使用して、HP Live Network コンテンツの更新方法を理解している必要があります。

HP Live Network コネクタ

HP Live Network コネクタは、HP Live Network コンテンツ配布サーバーへのセキュアな接続を作成したり、更新されたコンテンツをダウンロードしたりするために、HPCA によって使用されるツールです。HP Live Network のコンテンツにアクセスするには、HP Live Network コネクタは、最初にどのコンテンツが使用可能かを判断し、次に HP Live Network 登録サイトから適切なコンテンツをダウンロードします。

デフォルト バージョンの HP Live Network コネクタは、HPCA のインストール時にインストールおよび設定されます。このコネクタは自己更新されます。すべてのコネクタへの変更は、HP Live Network コンテンツを更新したときに自動的にダウンロードされます。特定の環境下では、LNC の新しいコピーをインストールすることもできます。何らかの理由で HP Live Network コネクタを再インストールする場合は、いつでも新しいコピーをダウンロードできます。詳細については、85 ページの「HP Live Network コネクタのダウンロード」を参照してください。

HP Live Network コネクタは HP Live Network への認証を実行し、コンテンツをダウンロードします。このコネクタ自体は、HPCA インフラストラクチャに何もインストールしません。HPCA は、更新された HP Live Network コンテンツの読み込みを管理します。

HPCA コンテンツを更新すると (HP Live Network からまたはファイル システムからのいずれの場合も)、通常、次のアクションが実行されます。

1 コンテンツが一時ディレクトリにコピーされます。

2 コンテンツは HPCA データベースに読み込まれます。これらのアクションにより収集されたデータがデータベースによって処理され、HPCA が関連サービスを配布し、詳細レポートを作成できます。

3 HPCA Console は関連する UI コンテンツを使用して更新されます。

HP Live Network コネクタのダウンロード

HP Live Network コネクタ (LNC) は HPCA に付属しており、Live Network の設定を初めて設定したときに自動的にインストールされます。LNC は自己更新されます。HP Live Network コンテンツを更新する場合は、必ず LNC によって使用可能な LNC 更新がすべてチェックされ、インストールされます。このようにして、Live Network の更新のたびに、最新バージョンの LNC がインストールされることが常に保証されます。

何らかの理由で LNC を再インストールする必要がある場合 (たとえば、だれかが誤ってアンインストールした場合) は、次の手順を実行します。

HP Live Network コネクタの新しいコピーをダウンロードするには

1 [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。

2 [HP Live Network コネクタ] ボックスの右側にある **[ダウンロード]** リンクをクリックします。HP Live Network の登録サポート サイトが新しいブラウザウィンドウで表示されます。このサイトから LNC の実行可能ファイルをダウンロードできます。ログインするには、HP Live Network 登録契約のユーザー名とパスワードが必要です。

3 LNC をダウンロードしてインストールするには、HP Live Network サイトの指示に従ってください。

LNC を元のインストール場所以外の場所にインストールする場合は、それに応じて Live Network 設定ページの **[HP Live Network コネクタ]** のパスを必ず更新してください。

HP Live Network コンテンツの更新方法

HP Live Network 登録 Web サイトから HP Live Network コンテンツを更新するには、次の手順を実行します。

- HP Live Network の [操作] ページにある [スケジュールの更新] タブを使用して、更新されたコンテンツを定期的にダウンロードするように HPCA Console を設定するか、または [すぐに更新] タブを使用して HP Live Network 登録サイトから即時に更新を開始します。

  詳細な手順については、183 ページの「Live Network」を参照してください。

最新のコンテンツが確実に使用されるようにするために、HPCA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後は、HP Live Network コンテンツを必ず更新してください。

新しい HP Live Network コンテンツをダウンロードするときに、単に既存サービスの更新情報を入手する場合もあれば、新しいサービスにアクセスできる場合もあります。新しいサービスを使用するには、これらのサービスにクライアントデバイスを明示的に付与してください。

HP Live Network からダウンロードしたサービスの表示名は山かっこ (< >) で囲まれており、Live Network サイトの HP がサポートするサービスとして一意に特定できます。使用環境でサービスを変更する場合は、HP Live Network コンテンツを次回更新するときに変更が失われる可能性があることに注意してください。

6 管理

[管理] タブには、環境を管理するのに使用するツールが備えられています。次のセクションでは、ユーザーがコントロールできる管理領域について説明します：

- 88 ページの「デバイス管理」
- 114 ページの「グループ管理」
- 128 ページの「ソフトウェア管理」
- 136 ページの「設定管理」
- 140 ページの「パッチ管理」
- 149 ページの「OS 管理」
- 161 ページの「ジョブ管理」

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、デバイスのインポート、HPCA Agent の配布、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、アプリケーション利用状況の収集、および全管理対象デバイスに基づいたレポートの表示ができます。

デバイス管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 91 ページの「全般」
- 92 ページの「デバイス」
- 106 ページの「現在のジョブ」
- 106 ページの「過去のジョブ」

ターゲット デバイスの要件および手動インストールの手順については、次のセクションで説明します。

- 88 ページの「ターゲット デバイスの前提条件」
- 106 ページの「HPCA Agent の手動インストール」

ターゲット デバイスの前提条件

HPCA Agent をターゲット デバイスに配布する前に、このセクションの内容を確認してください。ターゲット デバイスのサポートされるプラットフォームについては、このリリースに付属の『リリース ノート』を参照してください。

- **ファイルと印刷の共有**を有効にします。
- Active Directory に参加していない Windows XP Professional を実行するデバイスについては、**簡易ファイルの共有**を無効にする必要があります。
- TPM 対応システムでは、Infineon Driver version 2.00 以降が必要です。
- ターゲット クライアント デバイスに個人向けファイアウォールがインストールされている場合、受信トラフィックに対して次のポートを除外します。

  TCP 3463 および TCP 3465
- 次のポートを除外して、Management Agent のリモート配布を可能にします。

  TCP 139 および 445

  UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、これらのポートを除外できます。

- さらに、次のプログラム ファイルをファイアウォールから除外する必要があります。*<InstallDir>*¥Agent 内：

  RadUIShell.exe

  Radexecd.exe

  nvdkit.exe

  nvdtk.exe

- *<InstallDir>*¥ManagementAgent 内：

  nvdkit.exe

> これらのデバイスの管理には、BIOS に有効なシリアル番号とマシン UUID が含まれている必要があります (アセット タグの設定も推奨します)。これらの設定を行わないと、OS の配布が正しく実行されない場合があります。

HPCA の Windows XPE 要件

Windows XPe Thin Client デバイスは、HP 以外のハードウェアに搭載されます。HPCA の機能を許可するには、HPCA 実行可能ファイル用とポート用の 2 つのルールを作成する必要があります。

HPCA 実行可能ファイルのルールを作成するには

File-Based Write Filter を実行している場合は、手順を始める前にこの書き込みフィルタを無効にし、再起動する必要があります。この場合、次のコマンドを実行します。

```
fbwfmgr.exe /disable
```

1. **管理者**として Windows XPe へログオンします。
2. システム トレイの Symantec アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。
3. **[追加]** をクリックします。
4. [全般] タブで
   - 説明 **[Allow HPCA Agent]** を追加します。
   - **[Allow this traffic]** を選択します。

5 [アプリケーション] タブで **[ブラウズ]** をクリックして、*<InstallDir>*¥Agent から次のアプリケーションを追加します。

— Nvdkit

— Radconct

— Radpinit

— Radexecd

— Radstgrq

— Radsched

— Radgetproxy

— Radntfyc

— Radidgrp

— Ralf

— prepwiz.exe

prepwiz 実行可能ファイルは、HPCA Image Capture CD からのみ入手できます。これは、HPCA メディアの Image Capture ISO から作成されます。実行可能ファイルを追加するには、この .iso を使用できるようにする必要があります。

6 **[OK]** をクリックして、新しいルールを保存します。

7 **[OK]** をクリックして終了します。

HPCA ポートのルールを作成するには

1 システム トレイの Symantec アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。

2 **[追加]** をクリックします。

3 [全般] タブで

— 説明 **[Allow HPCA Ports]** を追加します。

— **[Allow this traffic]** を選択します。

4 [Ports and Protocols] タブの **[Protocol:]** で **[TCP]** をクリックし、[Local:] に 3463 と 3465 を追加します。

5 **[OK]** をクリックして、新しいルールを保存します。

6 **[OK]** をクリックして終了します。

両方のルールを作成したら、システム トレーの **[Enhanced Write Filter]** (**EWF**) アイコンを右クリックして、**[適用]** を選択します。再起動するようにという指示が表示されます。これで、変更がフラッシュ メモリに書き込まれます。

File-Based Write Filter を使用している場合は、この書き込みフィルタを有効にし、再起動する必要があります。この場合、次のコマンドを実行します。

```
fbwfmgr.exe /enable
```

再起動後に、Symantec Endpoint Protection ユーティリティで両方のルールが使用可能であり、かつ有効になっている (両方のルールで **[Allow this traffic]** が選択されている) ことを確認します。

全般

[全般] タブを使用して、デバイスの追加、HPCA Agent の配布、現在および過去のデバイス管理ジョブの表示ができます。

Console から HPCA Agent を配布する代わりに、管理するエンドユーザーのマシンに手動でインストールすることもできます。詳細については、106 ページの「HPCA Agent の手動インストール」を参照してください。

ワークスペースの [要約] セクションには、データベース内のデバイスの数、管理対象デバイス (HPCA Agent がインストールされているデバイス) の数、および現在のジョブの合計数が表示されます。

デバイスをインポートするには

- [共通のタスク] 領域で **[インポート]** をクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。

  280 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを HPCA に追加します。

HPCA Agent を配布するには

- [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。エージェント配布ウィザードが起動します。

  282 ページのウィザードの手順に従って、データベースにあるデバイスに HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent の注意事項

- HPCA Agent は、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、*サイレント モード*でのみ配布されます。
- リモート デバイスに HPCA Agent を配布するには、管理共有へのアクセスが必要です。Windows XP には**簡易ファイルの共有 (SFS)** というセキュリティ機能が備えられており、これらの共有へのアクセスをブロックします。ワークグループの一部である Windows XP デバイスでは、SFS はデフォルトで有効になっています。また、Active Directory ドメインに参加するデバイスでは、SFS は自動的に無効となります。

  ターゲット デバイスが Windows XP を実行しており、Active Directory ドメインに参加していない場合、SFS をオフにして、HPCA Agent のインストールを許可する必要があります。SFS 設定方法の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「*Windows XP でファイル共有を設定する方法*」を参照してください。

デバイス

[デバイス] タブには、HPCA にインポートされた全デバイスの表が表示されます。

HPCA がインストールされると、ホスト サーバーは自動的にデバイス リストに追加されます。このデバイス定義は、HPCA が必要としており、削除できません。

新しくインポートされた (7 日以内にインポートされた) デバイスは、デバイス名の右に、括弧付きの「新規作成」という単語が表示されるので識別できます。

HPCA Agent が配布されるまでは、デバイス リストではデバイス情報の一部しか利用できません。

[デバイス] ツールバーを使用して、デバイスのインポート、HPCA Agent の配布または削除、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、およびインベントリ、アプリケーション利用状況またはパッチ適用状況の探索ができます。

Console から HPCA Agent を配布する代わりに、管理するエンドユーザーのマシンに手動でインストールすることもできます。詳細については、106 ページの「HPCA Agent の手動インストール」を参照してください。

デバイス リストのカラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりできます。

お使いの環境にあるコンピュータ名に 15 文字を超える名前がある場合、HPCA を使用して HPCA Agent の配布またはグループの作成を行うと、予期しない結果になる場合があります。コンピュータ名は 15 文字以下にすることを推奨します。詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「**Microsoft NetBIOS コンピュータ名前付け規則**」を参照してください。

デバイスのリストを絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。最初の検索ボックスには、常にコンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを指定します。

クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]** が、表の一番下に表示されます。

表 6　[デバイス] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – デバイス リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	管理対象デバイスのインポート – デバイス インポート ウィザードを起動します。
	管理エージェントの配布 – エージェント配布ウィザードを起動します。
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードを起動します。

表 6　[デバイス] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	インベントリの収集： **ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索** – ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。 **パッチの適用状況の探索** – パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。 **アプリケーション利用状況の探索** – アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。
	電源管理 – 電源管理ウィザードを起動します。
	リモート制御 – [リモート制御] インターフェイス ウィンドウを起動します。
	アウトバンド デバイスの詳細を表示 – 選択したデバイスの [アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウを起動します。このオプションは、[アウトバンド管理] が有効になっている場合にのみ利用できます。有効化については、263 ページの「アウトバンド管理」を参照してください。詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。
	デバイスを削除 – デバイス リストからデバイスを削除します。デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、186 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。

次のタスクが [デバイス] タブから実行できます。

- 95 ページの「デバイスのインポート」
- 95 ページの「[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布」
- 96 ページの「HPCA Agent の削除」
- 96 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索」
- 97 ページの「パッチ適用状況の探索」
- 97 ページの「アプリケーション利用状況の探索」

- 98 ページの「リモート制御」
- 102 ページの「電源管理」
- 102 ページの「アウトバンド管理」
- 103 ページの「デバイスを削除」
- 104 ページの「デバイスの詳細」

デバイスのインポート

デバイス インポート ウィザードでは、名前または IP アドレスによるデバイスの手動インポートしたり、Active Directory または別の LDAP 準拠ディレクトリ内、あるいはネットワーク ドメイン内に含まれるデバイスを探索したりできます。

- HPCA にデバイスをインポートするには、**[管理対象デバイスのインポート]** ボタンをクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。

  280 ページの手順に従って、新しいデバイスを HPCA に追加します。

[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布

エージェント配布ウィザードを使用して、HPCA Agent をユーザー環境にあるデバイスに配布します。

Windows Vista デバイスへの HPCA Agent の配布

ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報は、HPCA Console による HPCA Agent の配布中に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順を実行し、ローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。Microsoft サポート技術情報の記事「*Windows Vista ベースのコンピューターにある管理共有に、ワークグループのメンバーである別の Windows Vista ベース コンピューターからアクセスすると、エラー メッセージ「ログオンに失敗しました : ログオンできません」が表示される*」を参照してください。

HPCA Agent を配布するには

1. 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、HPCA Agent を配布するデバイスを選択します。

— **[管理エージェントの配布]** ボタンをクリックして、エージェント配布ウィザードを起動します。

2 282 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent の削除

HPCA データベースにあるデバイスから HPCA Agent を削除するには、エージェント削除ウィザード を使用します。

HPCA Agent を削除するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、HPCA Agent を削除するデバイスを選択します。

2 **[管理エージェントの削除]** ボタンをクリックして、エージェント削除ウィザードを起動します。

3 283 ページの手順に従って、選択したデバイスから HPCA Agent を削除します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、HPCA データベースにあるデバイスに関するインベントリを探索します。

ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するデバイスを選択します。

2 **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてインベントリを探索します。

4 [レポート] タブを使用して、インベントリ レポートを表示します。

パッチ適用状況の探索

パッチの適用状況探索ウィザードを使用して、HPCA 環境にあるデバイスの適用状況ステータスを判別します。

パッチ適用状況を探索するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況をクエリするデバイスを選択します。

2 **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてパッチ適用状況を確認します。

4 [レポート] タブを使用して、パッチ適用状況レポートを表示します。

アプリケーション利用状況の探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、HPCA データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。ウィザードは、収集エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にしたフィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細については、274 ページの「利用状況管理」を参照してください。

利用状況データは、個々のデバイスに対して 1 度だけ返されます。利用状況データを反復して収集できるのは、グループに対してだけです。グループの利用状況データの収集については、120 ページの「グループのアプリケーション利用状況データの探索」を参照してください。

アプリケーション利用状況を探索するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、アプリケーション利用状況探索の対象とするデバイスを選択します。

2 **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。

4 [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関する利用状況レポートを表示します。

リモート制御

[リモート制御] インターフェイスを使用して、任意のデバイスとのリモート セッションを開始します。インターフェイスにより、次のプログラムのいずれかをインストールし、有効にしているデバイスに接続できます。

- Virtual Network Computing (VNC)
- Windows リモート デスクトップ プロトコル (RDP)
- Windows リモート アシスタンス

HPCA では、VNC、RDP またはリモート アシスタンスがリモート システムにインストールされているかどうかが、それぞれポート 5800 (VNC) および 3389 (RDP およびリモート アシスタンス) に接続することにより検出されます (102 ページの「ファイアウォールの考慮事項」を参照してください)。特定のポートに接続できると、HPCA では関連プログラムがインストールされ実行中であるとみなされ、そのオプションが使用可能なリモート接続方式として表示されます。

Windows リモート デスクトップ プロトコル は、Windows クライアント デバイスで利用可能なマルチチャンネル対応のプロトコルです。RDP を使用して、RDP が有効なデバイス (Windows XP など) にリモートで接続できます。HPCA では、リモート デバイス上のポート 3389 に接続することでこのプログラムが検出されます。99 ページの「Windows リモート デスクトップの要件」を参照してください。

VNC は、別のコンピュータをリモートで制御するのに使用されるデスクトップ共有システムです。VNC を使用して、VNC がインストールされ有効になっているクライアント デバイスにリモート接続します。100 ページの「VNC の要件」を参照してください。

Windows リモート アシスタンスは管理対象クライアント システムのユーザーに支援を提供できる特殊な接続タイプを作成します。この接続では、ユーザーは「上級者」としての役割を果たし、クライアント システムのユーザーは「初心者」としての役割を果たします。クライアント システムのデスクトップを表示したり、初心者のアクセス許可がある場合は、クライアントをコントロールして問題をリモートで解決できます。100 ページの「Windows リモート アシスタンスの要件」を参照してください。

リモート セッションを開始するには

1. リストからデバイスを選択して、**[リモート制御]** ボタンをクリックします。この操作により、[リモート制御] インターフェイス ウィンドウを起動します。
2. 使用可能なオプションから **[リモート制御方法]** を選択します。HPCA によって検出されたプログラムのみが利用可能です。
3. Windows リモート デスクトップを選択する場合、リモート セッション ウィンドウ用に **[解像度]** を選択する必要もあります。

4 **[接続]** をクリックします。リモート セッションが新しいウィンドウで開始されます。

5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

6 リモート セッションを終了したら、ウィンドウを閉じてデバイスとの接続を解除します。

リモート接続の要件

HPCA Console を使用してリモート接続するターゲット デバイスでは、次の要件が満たされている必要があります。

- リモート デバイスの電源がオンになっている。
- ファイアウォールが有効な場合は、リモート デバイス上のリモート アクセス ポートが開いている。
- リモート デバイスは、HPCA サーバーとリクエストを開始するクライアント システムの両方に接続できる。

また、各タイプのリモート アクセスには、特定の要件があります。

Windows リモート デスクトップの要件

この接続タイプを使用してリモート アクセスするすべてのターゲット デバイスで、Windows リモート デスクトップを有効にする必要があります。デフォルトでは、この機能は無効です。

Windows リモート デスクトップを使用するには、Internet Explorer (バージョン 7.0 以降) を使用して HPCA Console にアクセスする必要があります。これは、このタイプの接続がリクエストされたときに ActiveX コンポーネントを使用するラッパーをコンソールが起動するためです。

Windows リモート デスクトップを使用すると、ActiveX コントロールをインストールするように要求される場合があります。これは、Windows リモート デスクトップが適切に機能するのに必要です。また、ローカル デバイスに接続するようにも要求されます。これは必須ではありません。

Windows リモート デスクトップの詳細については、次の Microsoft サポート ドキュメントを参照してください。

http://www.microsoft.com/windowsxp/using/mobility/getstarted/remoteintro.mspx

VNC の要件

VNC 接続では、ターゲット デバイスで VNC サーバー プロセスを実行する必要があります。このプロセスでは、特定のポートをリスンする必要があります。また、URL (HTTP) ベースのリモート制御セッションのサポートが有効である必要があります。

VNC 接続を確立するには、HPCA Console でリモート URL をブラウザ内の Java アプレットとして起動します。このため、HPCA Console にアクセスしているシステム (ブラウザを実行しているシステム) に Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.5 (またはそれ以降) がインストールされている必要があります。JRE は、**www.java.com** からダウンロードできます。

リモート URL のポート番号は、リモート システム上の VNC サーバーがリスンしているポートと一致している必要があります。デフォルトでは、このポートは 5800 です。次はその例です。

`http://<RemoteSystem>:5800`

この場合、`<RemoteSystem>` への接続にポート 5800 が使われ、VNC リモート制御アプレットがブラウザで開いて、`<RemoteSystem>` のリモート制御が可能になります。

HP では、VNC サーバー プログラムを提供していません。ただし、HPCA Console では、Web ベースの統合機能を持つすべての VNC サーバーがサポートされます。この機能は、UltraVNC、RealVNC、および TightVNC で利用できます。通常、VNC サーバーはポート 5800 上で実行され、すべての Web ブラウザからアクセスできます。

Windows リモート アシスタンスの要件

Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7 システムから HPCA Console にアクセスしている場合、作成できる接続は Windows リモート アシスタンスのみです。次のオペレーティング システムを実行しているターゲット デバイスに接続できます。

- Windows XP
- Windows Server 2003
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 Release 2 (R2) x64

ターゲット デバイスへの Windows リモート アシスタンス接続が開始したら、ターゲット デバイスにログオンしているユーザーは接続を許可する必要があります。自動実行のデバイスへの Windows リモート アシスタンス接続は作成できません。

この接続タイプを使用してリモート アクセスするすべてのターゲット デバイス上で、Windows リモート アシスタンスを有効にする必要があります。詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせるか、次の Microsoft サポート ドキュメントを参照してください。

http://support.microsoft.com/kb/305608/ja

Windows リモート アシスタンス接続を有効にするには、さらに次の 3 つの要件を満たす必要があります。

- HPCA Console にアクセスしているシステムとターゲット デバイスは同じドメインに参加している必要があります。
- HPCA Console にアクセスしているシステム (Windows リモート アシスタンス操作の上級者側) には、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。
  - Java Runtime Environment (JRE) バージョン 5 (またはそれ以降)
  - オペレーティング システムが Windows 2008 Server の場合は、リモート インスタンス機能がインストールされている必要があります。詳細については、次の記事を参照してください。

    http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753881.aspx
- すべてのターゲット デバイス上で、[リモート アシスタンスを提供する] グループ ポリシーが有効である必要があります。ターゲット デバイスへのアクセスが許可される「支援者」も指定する必要があります。ユーザーまたはグループのどちらかを支援者として設定できます。支援者は次のように指定します。

  `domain_name¥user_name`

  `domain_name¥groupname`

  ターゲット デバイスへの Windows リモート アシスタンス接続を作成するには、接続するユーザー (またはユーザーが所属するグループ) がこの支援者のリストに含まれている必要があります。
- すべてのターゲット デバイスで、リモート アシスタンスを Windows ファイアウォールの例外として有効にする必要があります。

Windows リモート アシスタンスの詳細については、次の Microsoft のサポート ドキュメントを参照してください。

http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753881.aspx

ファイアウォールの考慮事項

HPCA Console をホストするサーバーとリモート デバイスの間にファイアウォールが存在する場合、適切なポートを開く必要があります。

Windows リモート デスクトップ接続では、TCP ポート 3389 を使用します。

デフォルトでは、Windows リモート アシスタンスには、Windows XP または Windows Server 2003 のターゲット デバイスへの接続時に TCP ポート 3389 が必要です。Windows Vista、Windows Server 2008、または Windows 7 のデバイスへの接続時には、ポート 135 (DCOM ポート) が必要です。

VNC の初回接続には、TCP ポート 5800 が必要です。さらに、TCP ポート 5900 (関与するシステムのタイプに応じて必要なポートがさらに増加) が必要です。例:

- Windows システムでは、TCP ポート 5900 のみが必要です。
- Linux システムで、VNC Server がホスト 1 で実行しているとします。この場合、サーバーとリモート デバイスの間のファイアウォールには TCP ポート 5901 へのアクセス許可が必要となります。

同様に、Java VNC ビューアでは TCP ポート 5800 (関与するシステムのタイプに応じて必要なポートがさらに増加) が必要です。

ファイアウォールと共に VNC を使用する方法の詳細については、次を参照してください。

http://www.realvnc.com/support/faq.html#firewall

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりするには、電源管理ウィザードを使用します。

- 管理するデバイスを選択して、**[電源管理]** ボタンをクリックし、電源管理ウィザードを起動します。

  ウィザードの手順に従って、選択したデバイスに対して電源管理ジョブを作成します。

アウトバンド管理

HPCA Console にあるアウトバンド管理 (OOBM) 機能を使用すると、システム電源またはオペレーティング システムの状態に関係なく、アウトバンド管理操作を実行できます。

インバンド管理は、コンピュータの電源がオンでオペレーティング システムが稼働しているときに実行される操作を指します。

アウトバンド管理は、コンピュータが次のいずれかの状態のときに実行される操作を指します。

- コンピュータは電源に接続されているが稼働していない (オフ、スタンバイ、休止)
- オペレーティング システムに読み込まれていない (ソフトウェア障害またはブートの失敗)
- ソフトウェア ベースの管理エージェントが使用できない

HPCA Console では、Intel の vPro デバイスおよび DASH 対応デバイスのアウトバンド管理がサポートされます。

デバイスのアウトバンドの詳細を表示するには :

1 [管理] タブの [デバイス管理] に移動して、[デバイス] タブをクリックします。

2 操作するデバイスを選択して、**[アウトバンド デバイスの詳細を表示]** ツールバー アイコンをクリックします。

   選択したデバイスの [アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが開きます。

   このオプションは、アウトバンド管理が有効な場合のみ使用できます。詳細については、263 ページの「アウトバンド管理」を参照してください。詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

デバイスを削除

HPCA データベースからデバイスを削除するには、[デバイス] ツールバーを使用します。

HPCA からデバイスを削除するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するデバイスを選択します。

2 **[デバイスを削除]** ボタンをクリックして、HPCA からデバイスを削除します。

デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されません。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、186 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。

デバイスの詳細

[デバイス] タブでデバイス名をクリックすると、[デバイスの詳細] ウィンドウが開きます。[デバイスの詳細] ウィンドウには、選択したデバイスに基づく設定モデルが表示されます。

[デバイスの詳細] ウィンドウを使用して、以下を行います。

- デバイスのプロパティの表示
- デバイス グループのメンバーシップの表示と変更
- 付与資格の表示
- レポートの要約の表示
- HPCA Agent の配布
- デバイス管理ジョブの作成

[デバイスの詳細] ウィンドウでは次の領域が利用できます。

全般ゼンパン

[全般] タブは、デバイスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティプロパティ

[プロパティ] タブには、デバイス名、オペレーティング システム、シリアル番号、IP アドレス、エージェントのステータス、前回ログオン ユーザー、および作成日と変更日などの情報が表示されます。これらの情報の中には、HPCA Agent が配布されるまで利用できないものがあります。

[前回ログオンしたユーザー] では、Console ログインを使用してデバイスに最後にログオンしたユーザー アカウントがレポートされます。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。[前回ログオン ユーザー] は、リモート デスクトップ接続のログインや、現在のユーザー間の切り替えでは更新されません。

[詳細プロパティ] セクションでは、トラブルシューティング時に役立つ可能性のあるその他のデバイス情報が利用可能です。セクションを展開してこの情報を表示するには、[詳細プロパティ] タイトル バーの右側にあるアイコンをクリックします。

グループグループ

[グループ] タブは、現在のデバイスが所属する全グループを表示します。

OS

[OS] タブには、デバイスのグループ メンバーシップに基づいて、デバイスに付与されたオペレーティング システムがすべて表示されます。付属のツールバーを使用して、OS イメージを配布します。

ソフトウェアソフトウェア

[ソフトウェア] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、付与されたソフトウェアをすべて一覧表示します。ツールバー ボタンを使用して、現在のデバイスにソフトウェアを配布したり、デバイスからソフトウェアを削除したりします。

パッチパッチ

[パッチ] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、付与されたパッチをすべて表示します。ツールバーを使用して、現在のデバイスへパッチを配布します。

パッチは、配布されたら削除できません。

レポートレポート

[レポート] タブには、表示しているデバイスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] には、アクティブなデバイス管理ジョブおよびスケジュールされたデバイス管理ジョブがすべて表示されます。デバイス管理ジョブは、個々のデバイスを対象とし、HPCA データベースのデバイスに対して、HPCA Agent の配布や削除、およびソフトウェアの管理に使用できます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよび Job Status については、161 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション) を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したデバイス管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

HPCA Agent の手動インストール

通常は、HPCA Console を使用してターゲット クライアント デバイスに HPCA Agent が配布され、これにより HPCA でデバイスの管理が可能になります。

一方、ネットワークに常時接続されているとは限らないクライアント デバイスを管理する場合、HPCA Agent は手動でインストールできます。そのために、HPCA メディアには別のインストール ファイルが収録されています。クライアント デバイスにインストールされた HPCA Agent は自動的に HPCA データベースに追加されます。

HPCA Agent を手動でインストールするには

1 ターゲット デバイスで、HPCA メディアを挿入します。

2 コマンド ラインを使用して、HPCA メディアの `Media¥client¥default¥win32` ディレクトリに移動します。

> ユーザー アクセス制御またはユーザー アカウント制御が有効になっているシステムでは、コマンド プロンプトを管理者モードで実行する必要があります。[スタート] メニューの [コマンド プロンプト] エントリを右クリックして [管理者として実行] を選択すると、管理者モードでコマンド プロンプトを起動できます。

3 「**`setup-standard.cmd`** *`host`*」と入力します。この場合の *`host`* は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。

4 **Enter** キーを押します。HPCA Agent がインストールされ、これでデバイスが HPCA で管理できるようになります。

HP シン クライアントでの HPCA Agent のインストール

HP **Registration and Loading Facility** (**RALF**) (110 ページの「HP Registration and Loading Facility」を参照) がインストール済みで、HPCA インフラストラクチャに登録されている場合は、HPCA Agent を通常の方法で Thin Client デバイスに配布できます。95 ページの「[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布」または 118 ページの「グループへの HPCA Agent の配布」を参照してください。

ただし、HPCA Agent を手動でインストールする場合は、HPCA Agent をインストールした後に、(RALF がない場合には) HPCA メディアに収録されているファイルを使用して RALF をインストールする必要があります。

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF が自動的にインストールされます。その他の Thin Client デバイスでは、Agent をインストールしてから RALF をインストールします。次のセクションで手順について詳しく説明します。

> RALF のインストールでは、「hpcaserver」または RALF インストール パラメータを使用して定義したホスト名を、DNS に含める必要があります。Agent を HPCA Console からインストールする場合は、HPCA Server のホスト名も DNS に含める必要があります。

- 108 ページの「HP Thin Client デバイスへの Agent の手動インストール」
- 110 ページの「HP Registration and Loading Facility」

HP Thin Client デバイスへの Agent の手動インストール

ThinPro クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

HPCA Agent には、/opt ファイル システム上に最低 5 MB の空き領域が必要です。

1. HP シン クライアントのターゲット デバイスに root としてログインします。xterm 用のカスタム接続の作成が必要になる場合があります (108 ページの「xterm 用のカスタム接続を作成するには」で説明されています)。
2. **/opt/hpca** という名前の新しいディレクトリを作成します。
3. HPCA メディアの該当する ThinPro クライアントのサブディレクトリから、/tmp ファイル システムの一時ディレクトリにインストール メディアをコピーします。
4. 作業中のディレクトリを新しい一時ディレクトリに変更して、次のように入力しインストールを実行します。

   ./install -i *HPCA_Server*

   この場合の ***HPCA_Server*** は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。

   HPCA Agent がインストールされます。
5. デバイスに RALF がすでにある場合は、Agent のインストールが完了したらデバイスを再起動します。

   RALF がない場合は、デバイスに RALF をインストールします。111 ページの「Linux (Debian または ThinPro) に RALF を手動でインストールするには」を参照してください。

ThinPro クライアントから HPCA Agent を削除するには

1. HP シン クライアントのターゲット デバイスに root としてログインします。
2. 現在のディレクトリを /opt/hpca/agent に変更します。
3. 「**./uninstall**」と入力し、**Enter** キーを押します。

   Agent が削除されます。

xterm 用のカスタム接続を作成するには

xterm 接続を作成するためのカスタム接続を作成することが必要になる場合があります。

1. 左下隅の HP メニューで **[シャットダウン]** を選択します。

2 **[Thin Client Action]** ドロップ ダウンで **[Switch to admin mode]** を選択し、管理者パスワード (デフォルトのパスワードは root) を指定します。注意 : Control Center の背景が青から赤に変化します。

3 **[Control Center]** で **[追加]** ドロップダウン リストをクリックし、**[カスタム]** オプションを選択します。

4 [名前] を **[xterm]** に設定します。

5 [コマンド] に次を入力して実行します。

```
sudo xterm -e bash &
```

6 **[完了]** をクリックします。

これで、xterm セッションを開くために使用できる接続ができました。

Windows XPE シン クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

Windows XPE で Agent をインストールすると、RALF が自動的にインストールされます。Agent のインストールが完了したら、別個に RALF をインストールする必要はありません。

デバイスに RALF がすでにある場合は、Agent のインストールを実行する前に RALF サービスを停止します。

1 Windows XPE Thin Client デバイスから HPCA メディアにアクセスします。

2 HPCA メディアで、`Media¥client¥default¥win32xpe` に移動します。

3 **setup.exe** をダブルクリックします。

4 インストールの手順に従います。

5 HPCA Server の IP アドレスとポート番号の入力を促すメッセージが表示されたら、それらを入力します。

HPCA Agent がインストールされます。

サイレント モードで Windows XPE に Agent をインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
Setup.exe  NVDOBJZMASTER_ZIPADDR=<server_ip>
NVDOBJZMASTER_ZDSTSOCK=<server_port>  /qn
```

次の任意指定のログ パラメータを追加できます。

```
/l*v <log file>
```

Windows XPE シン クライアントから HPCA Agent を削除するには

Windows XPE から HPCA Agent を削除するには、インストール プログラム `setup.exe` を使用します。

1 **setup.exe** をダブルクリックします。

2 **[削除]** を選択します。

3 **[OK]** をクリックします。

HPCA Agent が削除されます。

Windows CE シン クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

1 Windows CE Thin Client デバイスから HPCA メディアにアクセスします。

2 HPCA メディアで、`Media¥client¥default¥win32ce` に移動します。

3 **Standard.X86.CAB** をダブルクリックします。

4 HPCA Server のホスト名または IP アドレスを入力して、**[OK]** をクリックします。

HPCA Agent がインストールされます。

5 デバイスに RALF がすでにある場合は、Agent のインストールが完了したらデバイスを再起動します。

RALF がない場合は、Windows CE デバイスに RALF をインストールします。112 ページの「Windows CE 6.0 に RALF をインストールするには」を参照してください。

Windows CE シン クライアントから HPCA Agent を削除するには

- Windows のコントロール パネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用して、HPCA Agent を Windows CE から削除します。

HP Registration and Loading Facility

HPCA Registration and Loading Facility (RALF) は、HPCA Core インフラストラクチャで管理される Thin Client デバイスに使用できる Agent のコンポーネントです。RALF によって、HPCA インフラストラクチャへのデバイスの自動登録、およびメイン Console から開始される HPCA Agent のインストールの管理が行われます。RALF は HPCA Agent の一部ですが、HP シン クライアントの出荷時イメージにプレインストールされていることがあるため、起動時に登録が行われます。使用している出荷時イメージに含まれていない場合は、次回の OS 配布で使用されるゴールド イメージでインストールおよび設定ができます。RALF をインストールする場合は、OS 配布の前に HPCA Agent もインストールする必要があります。

RALF の設定と操作

使用されている HP シン クライアント イメージに応じて、RALF がプレインストールされる場合があります。プレインストールされている場合は、「hpcaserver」と定義されたデフォルトの HPCA Server のホスト名を使用して設定されます。この名前に合わせて HPCA Server をインストールできますが、実際の HPCA Server ホスト名の定義では、この名前を DNS エイリアスとして使用することの方が一般的です。また、以下で説明するコマンド ライン オプションを使用して RALF を再設定し、異なるホスト名を定義することもできます。

インストールすると、RALF は HPCA Server を定期的にプローブする Windows サービスまたは Linux デーモンとして動作します。このプローブは 24 時間行われ、その後に RALF はシャットダウンします。この 24 時間プローブは、再起動後にまた開始されます。Server に接続すると、RALF により HPCA インフラストラクチャにデバイスが登録され、HPCA Agent をインストールするリクエストが受け入れられるまで待機の状態になります。Agent がインストールされると、RALF により定期的に Server に接続され、デバイス登録属性の確認が行われます。

Linux (Debian または ThinPro) に RALF を手動でインストールするには

Linux デバイスに RALF をインストールするには、root 権限が必要です。

1. HPCA メディアで、`Media¥client¥default¥linuxtc¥hpcaralf` ディレクトリに移動します。
2. インストール メディアを Linux デバイスの `/tmp` にコピーします。
3. 現在のディレクトリを `/tmp` ディレクトリに変更します。
4. インストール コマンドを実行します。
   a. **Debian** デバイスの場合
      – **`dpkg -i hpcaralf.deb`** を実行します。
   b. **ThinPro** デバイス (読み取り専用のルート ファイル システムを使用) の場合
      – **`fsunlock`** を実行します (ファイル システムを書き込み可能としてマウントするため)。
      – **`/usr/share/hpkg/.hpkg_util -i hpcaralf.deb`** を実行します。
      – **`fslock`** を実行します (ファイル システムを読み取り専用として再マウントするため)。
5. インストールが完了した後、デバイスを再起動するか、**`/etc/init.d/hpcaralf`** を実行して、RALF を開始し初期化します。

   このスクリプト (`/etc/init.d/hpcaralf`) を使用して、デバイスの RALF デーモンの開始および停止ができます。

XPE および WES (Windows Embedded Standard) に RALF を手動でインストールするには

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF も同時にインストールされるため、別個に RALF をインストールする必要はありません。

1 HPCA メディアで、`media¥client¥default¥win32xpe¥HPCARALF` ディレクトリに移動します。

2 `HPCARalf.msi` ファイルを使用して、Windows XPE デバイスに RALF をインストールします。

   サイレント インストールを実行するには、次のコマンド ラインを使用します。

   `msiexec /i HPCARalf.msi RALF_HOST=<HOSTNAME> RALF_PORT=<portnumber> /qn`

Windows CE 6.0 に RALF をインストールするには

1 HPCA メディアで、`media¥client¥default¥win32ce¥HPCARALF` ディレクトリに移動します。

2 `ralf.X86.cab` ファイルを使用して、Windows CE デバイスに RALF をインストールします。

3 HPCA Server の IP アドレスとポート番号の入力を促すメッセージが表示されたら、それらを入力します (デフォルトは「**hpcaserver**」と「**3466**」)。

RALF コマンド ライン パラメータ

RALF では、次のコマンド ライン オプションがサポートされます。これらは主に内部的に使用されるため、ここには参照用として記載します。

`ralf.exe [-probe] [-host <host>] [-port <port>] [-debug] [-trace] [-version]`

`[-confinit]` (Linux)

`[-reginit]` (Windows)

[-help]

表 7　**RALF** コマンド ライン オプション

オプション	説明
probe	HPCA プローブを起動します。
host	プローブおよび登録に使用する任意指定の HPCA Server ホストを指定します。
port	プローブおよび登録に使用する任意指定の HPCA Server ポートを指定します。
reginit	(Windows) テスト環境の RALF アプリケーション レジストリ エントリを定義します。
confinit	(Linux) テスト環境の RALF アプリケーション設定ファイルを定義します。
debug	デバッグ ログ レベルを指定します。
trace	トレース ログ レベルを指定します。
version	RALF のバージョンが表示されます。
help	RALF についての情報が表示されます。

グループ管理

[グループ管理] セクションを使用して、デバイス グループの作成と管理を行います。デバイス グループの作成は、管理を容易にし、管理対象デバイスにソフトウェアおよびパッチを配布するのに必要です。

グループ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 114 ページの「全般」
- 116 ページの「グループ」
- 127 ページの「現在のジョブ」
- 127 ページの「過去のジョブ」

全般

[全般] 領域を使用して、新しいグループの作成、既存のグループの管理、現在および完了したグループ管理ジョブの表示を行います。

グループには、管理対象デバイスと管理対象外デバイスを含めることができます。

新しいスタティック グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックし、グループ作成ウィザードを起動します。

  ウィザードの手順に従って、新しいデバイス グループを作成します。

新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** をクリックし、グループ作成ウィザードを起動します。

  ウィザードの手順に従って、新しいデバイス探索グループを作成します。

新しいダイナミック レポート グループを作成するには

- HPCA Console の [レポート] タブを使用してクエリを定義し、次に **[新しいダイナミック レポート グループの作成]** ボタンをクリックして、グループ作成ウィザードを開始します。

次のセクション「グループ タイプ」では、HPCA 内で利用可能なさまざまなタイプのグループについて説明します。

グループ タイプ

HPCA では、デバイスの管理に次のグループ タイプを使用します。

内部

内部グループは HPCA によって提供されます。たとえば、全デバイス グループには、デフォルトではインポートされた全デバイスが含まれています。

スタティック

個々のデバイスを選択して、スタティック グループを作成します。スタティック グループにデバイスを追加したり、スタティック グループからデバイスを削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループ メンバーシップを手動で変更する必要があります。スケジュールまたはその他のグループ パラメータを使用してスタティック グループのメンバーシップを変更することはできません。

探索

探索グループには、グループ作成ウィザードの実行中に設定したパラメータに従って、外部ソース (LDAP、ネットワーク探索) から得た管理対象および管理対象外デバイスの動的なリストが含まれています。探索されたデバイスは、自動的に HPCA デバイス リストに追加されます。

レポート

レポート クエリで返されたデバイスのリストからレポート グループを作成します。レポート グループは、グループ管理ジョブを使用して、自動的に更新されます。

デフォルトでは、HPCA には次のレポート グループがあります。

- 全 Windows Vista デバイス
- 全 Windows XP Professional デバイス
- 全 Windows 2000 Professional デバイス
- 全 TPM 対応デバイス

これらのグループは、毎日更新され、ダイナミック グループの要件に合致した新しい管理対象デバイスが発見されると自動的に追加されます。

グループ

[グループ] タブには、作成された全グループが表示されます。7 日以内に作成されたグループは、グループ名の右に、括弧付きの「新規作成」という単語が表示されます。

- グループに特有の情報を表示するには、表示名リンクをクリックします。
- グループ リストをソートするには、カラムの見出しをクリックします。
- グループ内のデバイスについてインベントリ、パッチ、および電源管理ジョブを作成するには、ツールバー ボタンを使用します。
- デバイスのリストを絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。最初の検索ボックスには、コンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが常に表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするための検索パラメータを指定します。クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]** が、表の一番下に表示されます。

作成したグループは、デバイスのインベントリ、場所、または指定した他の条件に基づいて、どのデバイスがどのソフトウェアおよびパッチを受け取るかを判断できます。デバイスを追加する前に、必ずグループの作成を計画してください。

表 8　[グループ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – グループ リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	新しいグループの作成 – グループ作成ウィザードを起動します。
	管理エージェントの配布 – エージェント配布ウィザードを起動します。
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードを起動します。

表 8　[グループ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	インベントリの収集： **ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索** – ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。 **パッチの適用状況の探索** – パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。 **アプリケーション利用状況の探索** – アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。
	電源管理 – 電源管理ウィザードを起動します。
	デバイスを削除 – デバイス リストからデバイスを削除します。デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、186 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。

次のタスクが [グループ] タブで実行できます。

- 118 ページの「グループの作成」
- 118 ページの「グループへの HPCA Agent の配布」
- 119 ページの「HPCA Agent のグループからの削除」
- 119 ページの「グループのソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索」
- 120 ページの「グループのパッチ適用状況の探索」
- 120 ページの「グループのアプリケーション利用状況データの探索」
- 121 ページの「電源管理」
- 121 ページの「グループの削除」
- 121 ページの「グループの詳細」
- 123 ページの「[グループの詳細] ウィンドウのタスク」
- 124 ページの「スタティック グループでのデバイスの追加と削除」
- 124 ページの「グループでのソフトウェア資格の追加と削除」

- 125 ページの「グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期」
- 126 ページの「グループでのパッチ資格の追加と削除」
- 126 ページの「グループへのパッチの配布」

グループの作成

スタティック グループを作成するには

- **新しいグループの作成** ボタンをクリックして、**[新しいスタティック グループの作成]** を選択します。グループ作成ウィザードが起動します。グループは、管理対象および管理対象外デバイスについて作成できます。

  ウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいスタティック グループを作成します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- **[新しいグループの作成]** ボタンをクリックして、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** を選択します。グループ作成ウィザードが起動します。

  ウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成します。

グループへの HPCA Agent の配布

エージェント配布ウィザードを使用して、HPCA Agent をグループに配布します。

HPCA Agent の注意事項

- HPCA Agent の配布には、デバイスの認証情報 (管理者権限を持つユーザー名およびパスワード) が必要です。HPCA Agent をグループに配布するには、そのグループ内の全デバイスが、同じ認証情報を共有している必要があります。
- HPCA Agent は、ほとんど の Thin Client デバイスにはリモートで配布できません。HPCA メディアの `¥Media¥client¥default` ディレクトリにある適切なインストール プログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

デバイスのグループに HPCA Agent を配布するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、管理するグループ、または HPCA Agent を再配布するグループを選択します。

2 **[管理エージェントの配布]** ボタンをクリックして、エージェント配布ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent のグループからの削除

エージェント削除ウィザードを使用して、デバイスのグループから HPCA Agent を削除します。

デバイスのグループから HPCA Agent を削除するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、Agent を削除するグループを選択します。

2 **[管理エージェントの削除]** ボタンをクリックして、エージェント削除ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したグループ内の全デバイスから HPCA Agent を削除します。

グループのソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してインベントリを探索します。

デバイスのグループに対してソフトウェア/ハードウェア インベントリを探索するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するグループを選択します。

2 **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、各グループ内のデバイスのインベントリ ステータスを判別します。

4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するインベントリ レポートを表示します。

グループのパッチ適用状況の探索

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探索します。

デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探索するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況探索の対象とするグループを選択します。

2 **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、エージェント配布ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したグループ内のデバイスのパッチ適用状況を探索します。

4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

グループのアプリケーション利用状況データの探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、HPCA データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。ウィザードにより収集エージェントがインストールされると、作成し有効にしたフィルタで指定された利用状況のデータが収集エージェントにより返されます。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを非表示にできます。詳細については、274 ページの「利用状況管理」を参照してください。

アプリケーション利用状況を探索するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、アプリケーション利用状況探索の対象とするグループを選択します。

2 **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したグループについてアプリケーション利用状況を探索します。

4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、利用状況レポートを表示します。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりするには、電源管理ウィザードを使用します。

1 管理するグループを選択して、**[電源管理]** ボタンをクリックし、電源管理ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、選択したグループに対して電源管理ジョブを作成します。

グループの削除

[グループ] ツールバーを使用して、HPCA からグループを削除します。グループを削除しても、そのグループに属するデバイスは削除されません。

HPCA からグループを削除するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するグループを選択します。

2 **[グループの削除]** ボタンをクリックして、HPCA からグループを削除します。

グループの詳細

グループ名をクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループのプロパティの表示、デバイスのメンバーシップの表示と変更、付与資格の表示と変更、レポートの要約の表示、およびグループ管理ジョブの作成を行います。次の領域が利用可能です。

全般ゼンパン

[全般] タブには、グループに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクにアクセスするには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティプロパティ

[プロパティ] タブでは、グループ タイプ、グループ名、および説明に加えて、ダイナミック グループ用のその他のプロパティが表示されます。有効なグループタイプは次のとおりです。

— **スタティック** :[グループの詳細] の [デバイス] セクションを使用して、手動でデバイスのメンバーシップを更新します。

— **レポートおよび探索** : グループ メンバーシップを更新するには、[現在のジョブ] タブのジョブ制御を使用して、探索ジョブを実行します。

— **内部** : グループ メンバーシップは変更できません。

[保存] をクリックして、[グループ プロパティ] セクションに対する変更を適用します。

ダイナミック レポート グループを表示する場合は、**[レポートのフィルタ条件]** セクションに元々グループを作成するのに使用された条件を表示できます。この情報は、読み取り専用です。条件を変更する場合は、ダイナミック レポート グループを新しく作成する必要があります。フィルタ条件は、反復スケジュール、または未実行の後ほど実行するスケジュールを持つグループに対してのみ表示可能であることに注意してください。一度のみ実行するスケジュールを持ち、すでに実行されたグループに対しては、「フィルタ情報は利用できません」と表示されます。

ダイナミック探索グループを表示する場合は、**[探索のプロパティ]** セクションにダイナミック グループのプロパティを表示できます。

デバイスデバイス

[デバイス] タブに表示されたデバイスは、そのグループの現在のメンバーです。

- スタティック グループのデバイス メンバーシップは手動で編集する必要があります。
- [現在のジョブ] タブのジョブ コントロールを使用して、ダイナミック レポートまたは探索グループのメンバーシップ リフレッシュ スケジュールを変更します。

OS

[OS] タブに一覧表示されるオペレーティング システムのイメージは、グループに付与されています。ツールバー ボタンを使用して、グループ固有の OS の付与および配布のタスクを完了します。

ソフトウェアソフトウェア

[ソフトウェア] タブに一覧表示されるソフトウェアは、グループに付与されています。ソフトウェア資格の追加または削除は、既存のデバイス メンバーすべておよびグループに追加されるデバイスすべてに影響します。

ツールバー ボタンを使用して、付与資格の追加や削除、ソフトウェアの同期、およびグループのデバイスでのソフトウェアの配布や削除を行います。

ソフトウェア資格を削除しても、グループ内のデバイスからソフトウェアが自動的に削除されることはありません。ソフトウェアを削除するには、ターゲット デバイスを選択し、[ソフトウェアの削除] ボタンを使用します。ソフトウェアの削除後、付与資格を削除することで、そのソフトウェアを使用できないようにできます。

パッチパッチ

[パッチ] タブには、グループに付与されているすべてのパッチが表示されます。

ツールバー ボタンを使用して、グループに対するパッチ資格の追加や削除、およびグループのデバイスへのパッチの配布を行います。

パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

設定プロファイル

[設定プロファイル] タブには、グループに付与するすべての設定プロファイルが表示されます。

ツールバー ボタンを使用して、グループの設定プロファイルの付与資格の追加や削除、およびグループのデバイスへの設定プロファイルの配布を行います。

レポートレポート

[レポート] タブには、グループ別のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブゲンザイノジョブ

[現在のジョブ] タブには、そのグループについて現在アクティブなジョブ、およびスケジュールされているジョブがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、利用可能なジョブを管理します。

[グループの詳細] ウィンドウのタスク

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、次のタスクを完了します。

- 124 ページの「スタティック グループでのデバイスの追加と削除」
- 124 ページの「グループでのソフトウェア資格の追加と削除」

- 125 ページの「グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期」
- 126 ページの「グループでのパッチ資格の追加と削除」
- 126 ページの「グループへのパッチの配布」

スタティック グループでのデバイスの追加と削除

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、スタティック グループのメンバーシップを更新します。

スタティック グループにデバイスを追加するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[デバイス]** タブをクリックします。

2 **[デバイスの追加]** をクリックします。

3 開いたウィンドウで、追加するデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。

スタティック グループからデバイスを削除するには

グループからデバイスを削除すると、そのグループ メンバーシップのみが削除されます。デバイスは、デバイス リストからは削除されません。

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[デバイス]** タブをクリックします。

2 削除するデバイスを選択して、**[デバイスを削除]** をクリックします。

グループでのソフトウェア資格の追加と削除

グループのデバイスに対してソフトウェア資格を追加および削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアを付与するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。

2 **[ソフトウェア資格の追加]** をクリックします。[ソフトウェア資格] ウィンドウが開きます。

3 グループに資格を付与するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェア資格の追加]** をクリックします。

グループからソフトウェア資格を削除するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。

2 付与資格を削除するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェア資格の削除]** をクリックします。

グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期

グループのデバイスに対してソフトウェアを配布、削除、および同期するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアを配布するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。

2 配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]** をクリックします。

3 グループ内の管理対象デバイスにソフトウェアを配布するには、289 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従います。

グループからソフトウェアを削除するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。

2 グループ内の管理対象デバイスから削除するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの削除]** をクリックします。

3 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除するには、298 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従います。

ソフトウェアを同期するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。

2 **[ソフトウェアの同期]** をクリックして、ソフトウェア同期ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、そのグループのソフトウェア同期スケジュールを設定します。

これで、付与されたすべてのソフトウェアが、グループの現在のメンバーおよびグループに後で追加されるメンバーに確実にインストールされます。

グループでのパッチ資格の追加と削除

グループのデバイスに対してパッチ資格を追加および削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループに対してパッチを付与するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[パッチ]** タブをクリックします。

2 **[パッチ資格の追加]** をクリックして、[パッチ資格] ウィンドウを起動します。

付与していないパッチだけが、[パッチ資格] ウィンドウに表示されます。グループにすでに付与されたパッチは表示されません。

3 グループに資格を付与するパッチを選択して、**[パッチ資格の追加]** をクリックします。

グループからパッチ資格を削除するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[パッチ]** タブをクリックします。

2 付与資格を削除するパッチを選択して、**[パッチ資格の削除]** をクリックします。

グループへのパッチの配布

グループのデバイスにパッチを配布するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにパッチを配布するには

1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[パッチ]** タブをクリックします。

2 配布するパッチを選択し、**[パッチの配布]** をクリックして、パッチ配布ウィザードを起動します。

3 296 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスにパッチを配布します。

パッチは、配布後はデバイスから削除できません。

現在のジョブ

[現在のジョブ] には、アクティブなグループ管理ジョブおよびスケジュールされたグループ管理ジョブがすべて表示されます。グループ管理ジョブは、特定のグループを対象にし、そのグループのデバイスに配布されたソフトウェアの管理、および作成したダイナミック レポートや探索グループのデバイスのリフレッシュを行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。ジョブ コントロールおよび Job Status については、161 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション) を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したグループ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

ソフトウェア管理

ソフトウェア サービスおよびソフトウェア管理ジョブを管理するには、[ソフトウェア管理] 領域を使用します。ソフトウェア資格が管理対象デバイス (または管理対象デバイスのグループ) に設定されてから、HPCA Console を使用して管理者によって配布されるか、Application Self-Service Manager を使用してエンド ユーザーによってインストールされます。

[ソフトウェア管理] セクションには、次のタブがあります。

- 128 ページの「[全般] タブ」
- 129 ページの「[ソフトウェア] タブ」
- 135 ページの「[現在のジョブ] タブ」
- 135 ページの「[過去のジョブ] タブ」

➤ 特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更するには、131 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

[全般] タブ

[ソフトウェア管理] ページの [全般] タブでは、次の作業を実行します。

- ソフトウェアをパブリッシュする方法に関する情報を検索する
- 管理対象デバイスにソフトウェアを付与し、配布する
- 現在および過去のソフトウェア管理ジョブを表示する

[要約] セクションには、HPCA ソフトウェア ライブラリで現在使用可能なソフトウェア サービスの数および現在のソフトウェア管理ジョブの数が表示されます。

ソフトウェアをパブリッシュするには

Publisher を使用して、ソフトウェアを HPCA にパブリッシュします。パブリッシュされたソフトウェアは、ソフトウェア ライブラリに表示されます。

ソフトウェア サービスの選択および設定を行う側のマシンに Publisher をインストールします。ソフトウェアを HPCA にパブリッシュする方法については、347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

ソフトウェアの付与および配布を行うには

1 [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。

2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアの付与および配布を行います。

[ソフトウェア] タブ

[ソフトウェア] タブでは、HPCA にパブリッシュされたソフトウェア アプリケーションをすべて表示します。このタブで使用可能なツールを使用して、1 つ以上のソフトウェア サービスの付与資格を管理対象デバイスのグループに設定したり、ソフトウェアを管理対象デバイスに配布したりします。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- 129 ページの「ソフトウェアの配布」
- 130 ページの「グループ資格の追加または変更」

特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更するには、131 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

ソフトウェアの配布

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアを個別の管理対象クライアント デバイスまたはデバイスのグループに配布します。

ソフトウェアの付与および配布を行うには

1 配布するソフトウェアを選択し、**[ソフトウェアの配布]** をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアの付与および配布を行います。

Windows Vista デバイスのアクティブなセッションでアプリケーションを実行するには

Vista デバイス上でのユーザーの介入を必要とするアプリケーションの配布を許可するには、**`runasuser`** メソッド修飾子を使用します。

1 サービス ID をクリックして、サービスの [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。

2 [プロパティ] タブを開きます。

3 修飾子 **runasuser** をインストール コマンド ラインの先頭に追加します。例:

```
runasuser setup.exe
```

または、パブリッシュ時にこの修飾子を [方法] プロパティの [リソース インストール メソッド] に追加して含めることもできます。

➤ メソッド修飾子 **runasuser** は修飾子 **hide** と一緒には使用できません。これらは互いに矛盾する修飾子です。

グループ資格の追加または変更

ソフトウェア ライブラリに表示されているすべてのサービスに管理対象デバイスのグループ資格を付与できます。

グループ資格を追加するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ資格を追加する 1 つ以上のソフトウェアを選択します。

2 **[グループ資格の追加]** をクリックして、サービス資格ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、デバイスの 1 つ以上のグループにこのソフトウェアを付与します。

デフォルトのソフトウェア

HPCA には、次のデフォルトのソフトウェア サービスがあります。

➤ これらのデフォルトのサービスは、ソフトウェア ライブラリから削除できません。

- **PUBLISHER** – HP Client Automation Administrator Publisher

  Publisher の別のインストール方法。このサービスを使用して、ソフトウェアのキャプチャおよびパブリッシュ、OS イメージ、BIOS 設定、または HP SoftPaq のパブリッシュを行う元のデバイスに Publisher を配布します。

- **TPM_ENABLEMENT** – TPM Enablement

このサービスでは、互換性がある HP デバイスの **TPM** (**Trusted Platform Module**) チップの使用および所有権が初期化されます。その場合、[デバイス管理] セクションの [設定] タブの設定が使用されます。設定オプションについては、257 ページの「Trusted Platform Module」を参照してください。このサービスをインストールすると、次のタスクが実行されます。

— BIOS での TPM チップの有効化

— 指定された BIOS 管理者パスワードの設定

— TPM の所有権および所有者のパスワードのセットアップ

— 緊急復旧トークンおよびパスの初期化

— パスワード リセット トークンとパス、およびバックアップ アーカイブ パスの設定

TPM Enablement サービスが配布された後、デバイスは、ユーザー レベルの初期化を実行できます (初期化は、エンド ユーザーが HP ProtectTools Security Manager インターフェイスを使用して行います)。

➤ TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細については、ご使用のデバイスの HP ドキュメントを参照してください。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)

特定のソフトウェア サービスの [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開くには、[ソフトウェア] タブに進み、[サービス ID] をクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウから、ソフトウェア プロパティの表示、付与資格の表示や変更、ソフトウェアの配布や削除、電源管理操作の実行、リモート コントロール セッションの開始、またはレポートの要約の表示を行います。

[全般] タブ

[全般] タブには、ソフトウェアに利用可能な共通のタスクが表示されます。次のリンクをクリックすると、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウのその他のタブに移動します。

- 132 ページの「[プロパティ] タブ」
- 132 ページの「[グループ] タブ」
- 134 ページの「[デバイス] タブ」
- 135 ページの「[レポート] タブ」

[ソフトウェアの配布] リンクはソフトウェア配布ウィザードを起動します。このウィザードでは次の操作を実行できます。

1 1 つ以上のグループの管理対象デバイスに対象のソフトウェアを付与します。

2 これらのグループにソフトウェアを配布します。

詳細については、289 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」を参照してください。

また、[グループ] タブまたは [デバイス] タブを使用してもソフトウェアを配布できます。この場合、前もってグループ (デバイス) にこのソフトウェアが付与されている必要があります。

[プロパティ] タブ

ソフトウェア カテゴリやインストールまたはアンインストール コマンドなど、ソフトウェアに関する情報を表示するには、[プロパティ] タブを使用します。

この場合、この情報は読み取り専用です。[操作] タブの [ソフトウェア管理] 領域を使用すると、これらの設定を変更できます。詳細については、186 ページの「ソフトウェア管理」を参照してください。

[グループ] タブ

[グループ] タブには、ソフトウェアが付与されている管理対象クライアント デバイスのすべてのグループがリストされます。ツールバーのボタンでは、グループ資格の管理、ソフトウェアの配布または削除、データ収集操作の開始、または電源管理操作を実行できます。

表 9　[グループ] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	グループのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	グループのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	グループ資格の追加	1 つ以上のグループの管理対象クライアント デバイスに対象のソフトウェアを付与します。
	グループ資格の削除	このソフトウェアに対するグループ資格を削除します。

表 9　[グループ] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	ソフトウェアの配布	選択されているデバイス グループに、このソフトウェアを配布します。289 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」を参照してください。
	ソフトウェアの削除	選択されているグループから、このソフトウェアを削除します。298 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	選択されているグループに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。 • **ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索** 283 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。 • **パッチ適用状況の探索** 284 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。 • **アプリケーション利用状況の探索** 307 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。
	電源管理	デバイスのグループの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。285 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。

[デバイス] タブ

[デバイス] タブには、選択されているソフトウェアに対して現在付与されているデバイスがすべて表示されます。ツールバーのボタンを使用して、デバイスへのソフトウェアの配布またはデバイスからのソフトウェアの削除、データ収集操作の開始、電源管理操作の実行、またはデバイスのリモートからの制御を実行できます。

表 10　[デバイス] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	デバイスのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	デバイスのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	ソフトウェアの配布	選択されているデバイスに、このソフトウェアを配布します。289 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」を参照してください。
	ソフトウェアの削除	選択されているデバイスから、このソフトウェアを削除します。298 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	選択されているデバイスに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。 • **ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索** 283 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。 • **パッチ適用状況の探索** 284 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。 • **アプリケーション利用状況の探索** 307 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。 このレポートは [レポート] タブからアクセスできます。

表 10　[デバイス] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	電源管理	選択されているデバイスの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。285 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。
	リモート制御	選択されているデバイスに対するリモート制御セッションを起動します。98 ページの「リモート制御」を参照してください。

[レポート] タブ

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [レポート] タブには、表示しているソフトウェアに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

[現在のジョブ] タブ

[現在のジョブ] には、現在アクティブなソフトウェア管理ジョブおよびスケジュールされたソフトウェア管理ジョブがすべて表示されます。ソフトウェア管理ジョブは、HPCA データベースの管理対象デバイスでソフトウェアの付与、配布、および削除を行うために使用します。インベントリ

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

ジョブ コントロールおよび Job Status については、161 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション) を参照してください。

[過去のジョブ] タブ

[過去のジョブ] は、完了したソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

設定管理

設定プロファイルでは、HPCA がサポートする特定のソフトウェアの設定を管理および配布できます。設定プロファイルを作成または変更したら、関連するソフトウェアのインストール先であるターゲット システムにプロファイルを配布できます。設定プロファイルの作成は、HPCA Console の [操作] 領域で実行されます。HPCA Console の [操作] 領域にアクセスするには、ログイン アカウントに適切なロールが設定されている必要があります。

プロファイルの作成および変更方法については、210 ページの「設定管理」を参照してください。

[管理] 領域の [設定管理] セクションでは、設定プロファイル サービスおよび設定プロファイルの管理ジョブを管理します。管理対象デバイスのグループには、設定プロファイル サービスに付与され、それらのサービスは、管理者によって HPCA Console を使用して配布されます。このセクションでは、設定プロファイルを配布したり、設定プロファイルの詳細を表示したり、サービスにグループ資格を追加したりできます。

[設定管理] タブには、次のタブがあります。

- 136 ページの「全般」
- 137 ページの「設定プロファイル」
- 139 ページの「現在のジョブ」
- 139 ページの「過去のジョブ」

全般

[全般] タブでは、設定プロファイルを配布したり、現在および過去の設定のプロファイル管理ジョブを表示したりできます。

[要約] セクションには、HPCA データベースで現在使用可能な設定プロファイル サービスの数およびスケジュール設定されている現在の設定プロファイル管理ジョブの数が表示されます。

設定プロファイル

[設定プロファイル] タブには、HPCA 対応の特定のアプリケーションで使用できるすべての設定プロファイルが表示されます。次の表に、このタブのアイコンの要約を示します。

表 11　[設定管理プロファイル] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – 一覧表示されている設定プロファイルをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	設定プロファイルの配布 – 設定プロファイル配布ウィザードを起動します。
	グループ資格の追加 – サービス資格ウィザードを起動します。

[設定プロファイル] タブでは、次のタスクを実行できます。

- 137 ページの「設定プロファイルの配布」
- 138 ページの「グループ資格の追加」

設定プロファイルの配布

設定プロファイルの配布は、HPCA Console の [管理] タブで実行できるタスクです。プロファイルを配布するには、まずこのプロファイルの付与資格をデバイスのグループに設定します。設定プロファイルを付与するデバイスのグループを作成方法については、114 ページの「グループ管理」を参照してください。このグループに設定プロファイルの付与の対象となるデバイスを入力します。

設定プロファイル配布ウィザードでは、デバイス グループに設定プロファイルを配布したり、このグループから設定プロファイルを削除したりできます。

設定プロファイルの付与および配布を行うには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、配布または削除する設定プロファイルを選択します。次に、**[設定プロファイルの配布]** をクリックして、設定プロファイル配布ウィザードを起動します。

2 291 ページのウィザードの手順に従って、使用環境の管理対象デバイスに設定プロファイルを配布したり、このデバイスから設定プロファイルを削除したりします。

グループ資格の追加

デバイスのグループに設定プロファイルを付与できます。

グループ資格を追加するには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ資格に関する設定プロファイルを選択します。

2 **[グループ資格の追加]** をクリックして、サービス資格ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、設定プロファイルを付与します。

設定プロファイルの詳細

設定プロファイルの表示名をクリックすると、[設定プロファイルの詳細] ウィンドウが開きます。[設定プロファイルの詳細] ウィンドウを使用して、設定プロファイル サービスのプロパティの表示、付与資格の表示や変更、設定プロファイルの配布や削除、およびレポートの要約の表示を行います。

- [全般] タブでは、新しく設定されたグループ / デバイスの付与資格を反映する要約情報を確認できます。また、ショートカット リンクを使用すると、よく使用する設定プロファイル管理のタスクに簡単にアクセスできます。
- [プロパティ] タブでは、設定プロファイルのプロパティを表示できます。
- [グループ] タブでは、設定プロファイルの配布または削除、および付与資格の追加または削除を実行できます。291 ページの「設定プロファイル配布ウィザード」を参照してください。

- [デバイス] タブでは、設定プロファイルを配布または削除できます。291 ページの「設定プロファイル配布ウィザード」を参照してください。
- [レポート] タブでは、選択されている設定プロファイルに基づくコンテキスト レポートを表示できます。

現在のジョブ

[現在のジョブ] には、現在アクティブな、スケジュールされているすべての設定プロファイルの管理ジョブが表示されます。設定プロファイル管理ジョブを使用して、HPCA データベースの管理対象デバイスへの設定プロファイルの付与、配布、および管理対象デバイスからの設定プロファイルの削除を行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

ジョブ コントロールおよびジョブ ステータスの詳細は、106 ページの「現在のジョブ」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] には、完了した設定プロファイル管理ジョブがすべて表示されます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

➤ 完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

パッチ管理

Microsoft パッチ、HP SoftPaq およびパッチ管理ジョブを管理するには、[パッチ管理] 領域を使用します。

Microsoft パッチと HP SoftPaq は、HPCA 管理者によって管理対象デバイスのグループに付与され、配布されます。配布は、管理者が定義した適用状況スケジュールに基づいて自動的に実行できます。258 ページの「パッチ管理」を参照してください。

Publisher を使用して*パブリッシュされた* HP SoftPaq は、ソフトウェア ライブラリに格納されています。一方、*取得した* HP SoftPaq はパッチ ライブラリに格納されています。

[パッチ管理] セクションには、次のタブがあります。

- 142 ページの「[全般] タブ」
- 144 ページの「[パッチ] タブ」
- 147 ページの「[現在のジョブ] タブ」
- 148 ページの「[過去のジョブ] タブ」

➤ 特定のパッチの設定を表示または変更するには、145 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件

➤ このセクションに記載されているハイパーリンクはすべてこのマニュアルの出版の時点で実行可能な最新のリンクです。

HPCA パッチ管理で利用する **Microsoft Update Catalog** および **Windows Update** テクノロジに必要なオペレーティング システムとサービス パックの最低要件については、Microsoft の Web サイトを参照してください。このマニュアルを作成している時点で、サポートされる Microsoft オペレーティング システムのバージョンと言語については、Microsoft Update ホーム ページ (**http://update.microsoft.com/microsoftupdate/v6/default.aspx**) で確認できます。

より新しい Microsoft セキュリティ パッチをインストールするためには、HPCA Agent マシンに Windows インストーラ バージョン 3.1 が必要です。Windows インストーラ 3.1 の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「**Windows インストーラ 3.1 v2 (3.1.4000.2435) について**」を参照してください。

Microsoft 自動更新に関する重要な情報

自動更新は Microsoft Windows オペレーティング システムの機能で、ユーザーは必要な更新プログラムまたはパッチがないかどうかを確認するために、自分のシステムをスキャンできます。自動更新では、更新プログラムおよびパッチのダウンロードおよびインストールも行うことができます。この機能では、現在、次の設定オプションを使用できます。

- 更新を自動的にダウンロードするが、インストールは手動で実行する
- 更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない
- 自動更新を無効にする

[自動更新を無効にする] オプションを使用することをお勧めします。

これらの各オプションを使用した場合の影響や結果について理解することが重要です。システムでいずれかのオプションを選択する前に、次のセクションを参照してください。

自動更新についての考慮事項

自動更新と HPCA Patch Manager では、基本の Windows コンポーネントと **Windows Update Agent** (**WUA**) を使用してデバイスをスキャンし、更新をインストールします。このマニュアルを作成している時点で、複数のパッチ管理製品で WUA を使用している場合に生じる既知の問題があります。そのため、Patch Manager を使用して更新プログラムの配布とインストールを行う場合は、このセクションの情報に従って自動更新を設定してください。この設定を行わない場合、問題が発生する可能性があります。

自動更新を **[更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない]** に設定する場合、HPCA Agent で更新をスキャンおよびインストールしている間、ユーザーは自動更新のダウンロード プロセスを開始できません。自動更新プロセスが手動で開始されると、管理対象デバイスの*いずれか*のプロセスが更新のダウンロードおよびインストールに失敗します。

これは、Patch Manager に特有の動作ではありません。他のパッチ管理製品が WUA を使用しようとしたときに WUA がすでに使用中の場合も、同じことが起こります。Microsoft は、この問題を修正する予定です。このマニュアルを作成している時点で、関連する Microsoft サポート技術情報の記事は次のとおりです。

- Microsoft サポート技術情報の記事 910748「**SMS 2003 Inventory Tool for Microsoft Updates....**」
- Microsoft サポート技術情報の記事 931127「**You receive an error message in the WindowsUpdate.log file...**」
- 企業でウイルス スキャナをインストールし、それを有効にしている場合は、Microsoft サポート技術情報の記事 922358「**Microsoft Systems Management Server 2003 Inventory Tool for Microsoft Updates cannot run when a McAfee antivirus program is installed on the same computer**)」を参照してください。この記事では、フォルダ `%Windir%¥SoftwareDistribution` をウイルス スキャンの対象から除外する必要性について説明しています。Microsoft のこのドキュメントは特定の Microsoft パッチ管理テクノロジに言及していますが、Windows Update Agent の同じ制限事項が、Windows Update Agent テクノロジを利用する HPCAS Patch Manager を使用している企業にも該当します。
- 自動更新がサポートする製品には HPCA でサポートされないものがあるため、**[自動更新を無効にする]** を選択すると、使用可能な更新がまったく通知されないことがあります。

WUA は、Windows の自動更新サービスを使用します。これは、ターゲット デバイスで **[自動]** または **[手動]** に設定する必要があります。Windows の自動更新サービスは、必要に応じて WUA によって起動されるまで停止状態です。自動更新の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「**Windows XP での自動更新の構成方法および使用方法**」を参照してください。

[全般] タブ

[全般] タブを使用して、パッチの取得と配布、現在および過去に完了したパッチ管理ジョブの参照ができます。

[要約] セクションには、HPCA データベースで現在利用可能なパッチおよび現在のパッチ管理ジョブの数が表示されます。

Microsoft のパッチおよび HP SoftPaq は、[設定] タブの [パッチ管理] セクションで指定した情報に基づいて、それぞれのソースから取得されます。詳細については、258 ページの「パッチ管理」を参照してください。

パッチを取得するには

- [共通のタスク] 領域で **[取得]** をクリックします。

  パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。管理者が設定した取得スケジュールに従って、追加のパッチが自動的にダウンロードされます。

  パッチは、HPCA Console からのみ管理対象デバイスに配布されます。パッチは、Application Self-Service Manager のソフトウェア カタログでは利用できません。

パッチを配布するには

1. [共通のタスク] 領域で、**[配布]** をクリックして、パッチ配布ウィザードを起動します。
2. ウィザードの手順に従って、選択したグループのデバイスにパッチを配布します。

[パッチ] タブ

パッチ ライブラリには、[設定] タブの [パッチ管理] セクションの設定に基づいて取得されたパッチと HP SoftPaq が含まれています。これらのパッチおよび HP SoftPaq は、管理対象デバイスに付与および配布できます。詳細については、258 ページの「パッチ管理」を参照してください。

表 12　[パッチ ライブラリ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – パッチ ライブラリをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	パッチの配布 – パッチ配布ウィザードを起動します。
	グループ資格の追加 – サービス資格ウィザードを起動します。

[パッチ] タブから次のタスクを実行できます。

- 144 ページの「パッチの配布」
- 145 ページの「グループ資格の追加」
- 145 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」

パッチの配布

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、管理対象デバイスに配布できます。

パッチを配布するには

1. 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、配布用のパッチを選択します。
2. **[パッチの配布]** ボタンをクリックして、パッチ配布ウィザードを起動します。
3. ウィザードの手順に従って、パッチを配布します。

グループ資格の追加

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、デバイスのグループに付与できます。付与資格により、パッチ配布ウィザードで設定したスケジュールを使用して、パッチ適用状況を強制できます。

グループ資格を追加するには

1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、グループ資格用のパッチを選択します。

2 **[グループ資格の追加]** ボタンをクリックして、サービス資格ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択するデバイスのグループに、パッチを付与します。

[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)

パッチの説明をクリックして、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、パッチ サービスのプロパティの表示、付与資格の表示および変更、およびレポートの要約の表示を行います。次の領域が利用可能です。

全般ゼンパン

[全般] タブには、パッチ サービスに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティプロパティ

[プロパティ] タブには、ブリティン番号、ブリティンの説明とタイプ、公開日と改訂日、およびベンダー情報のリンクが表示されます。

このタブのこの情報は、読み取り専用です。これらの設定は変更できません。

グループグループ

[グループ] タブには、選択したパッチに付与されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスでパッチの付与資格やインストール状態を変更します。

- グループに資格を付与するには、**[グループ資格の追加]** をクリックします。
- グループから付与資格を削除するには、グループを選択し、**[グループ資格の削除]** ボタンをクリックします。
- グループにパッチを配布するには、グループを選択し、**[パッチの配布]** をクリックします。

  パッチ配布ウィザードの手順に従って、選択したパッチを配布します。
- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ボタンをクリックし、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。

  ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループのパッチ適用状況を探索するには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ボタンをクリックし、**[パッチの適用状況の探索]** を選択します。

  パッチの適用状況探索ウィザードの手順に従って、パッチ適用状況を探索します。
- デバイスのグループのアプリケーション利用状況を探索するには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** をクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。

  アプリケーション利用状況収集ウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループを選択して、**[電源管理]** ボタンをクリックします。

  電源管理ウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

デバイスデバイス

[デバイス] タブに一覧表示されるデバイスは、選択したパッチに対して付与されています。ツールバー ボタンを使用して、デバイスにパッチを配布します。

- デバイスにパッチを配布するには、デバイスを選択し、**[パッチの配布]** ボタンをクリックします。

パッチ配布ウィザードの手順に従って、パッチを配布します。

パッチは、配布されたら削除できません。

- デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]** をクリックし、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。

  ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。

- デバイスのパッチ適用状況を探索するには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]** ボタンをクリックし、**[パッチの適用状況の探索]** を選択します。

  パッチの適用状況探索ウィザードの手順に従って、パッチ適用状況を探索します。

- デバイスのアプリケーション利用状況を探索するには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]** ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。

  アプリケーション利用状況収集ウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。

- デバイスの電源をオン、オフ、および再起動するには、デバイスを選択して、**[電源管理]** ボタンをクリックします。

  電源管理ウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

レポートレポート

[レポート] タブには、表示しているパッチに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

[現在のジョブ] タブ

パッチ管理ジョブは、デバイスにセキュリティ パッチを配布するために使用されます。[現在のジョブ] には、アクティブなジョブおよびスケジュールされたジョブのリストが表示されます。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバーを使用して、現在スケジュールされているジョブとアクティブなジョブを管理します。

ジョブ コントロールおよび Job Status については、161 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション) を参照してください。

[過去のジョブ] タブ

[過去のジョブ] は、完了したパッチ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

OS 管理

[管理] タブの [OS 管理] 領域を使用して、管理対象デバイスが使用するオペレーティング システムを管理します。このセクションのこの領域では、オペレーティング システムを配布し、付与資格を管理できます。

次のセクションでは、OS 管理の各タブについて説明します。

- 149 ページの「[全般] タブ」
- 150 ページの「[オペレーティング システム] タブ」
- 160 ページの「[現在のジョブ] タブ」
- 160 ページの「[過去のジョブ] タブ」

特定のオペレーティング システムの設定を表示または変更するには、157 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

[全般] タブ

[OS 管理] ページの [全般] タブでは、次の作業を実行します。

- オペレーティング システムをパブリッシュする方法に関する情報を検索する
- 付与資格の管理
- 管理対象デバイスへのオペレーティング システムの配布
- 現在および過去の OS 管理ジョブを表示する

[要約] セクションには、HPCA OS ライブラリで現在使用可能なオペレーティング システム サービスの数および現在の OS 管理ジョブの数が表示されます。

OS イメージをキャプチャしてパブリッシュするには

HPCA では、OS イメージの準備およびキャプチャに使用できるツールを提供しています。詳細については、321 ページの「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

OS イメージを OS ライブラリで使用できるようにするには、まず OS イメージをパブリッシュする必要があります。詳細については、347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

OS イメージを配布するには

1 [共通のタスク] 領域で **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。

2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに対してオペレーティング システムの付与と配布を行います。

ターゲット デバイスの要件や配布シナリオなど、オペレーティング システムの配布の詳細については、151 ページの「オペレーティング システムの配布」を参照してください。

[オペレーティング システム] タブ

[オペレーティング システム] タブには、HPCA にパブリッシュされた使用可能なオペレーティング システムがすべてリストされます。

提供ツールでは、オペレーティング システムを管理対象デバイスに配布したり、そのオペレーティング システムをデバイスのグループに付与したりします。

新しくパブリッシュされた (7 日以内にパブリッシュされた) サービスは、説明の右に、括弧付きの新規作成という単語「*(新規作成)*」が表示され、識別ができます。

表 13　[OS ライブラリ] ツールバーのアクション

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – OS ライブラリのオペレーティング システムのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – オペレーティング システムのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり、表示したり、保存したりできます。
	オペレーティング システムの配布 – OS 配布ウィザードを起動します。
	グループ資格の追加 – サービス資格ウィザードを起動します。

[オペレーティング システム] タブでは、次のタスクを実行できます。

- 151 ページの「オペレーティング システムの配布」
- 153 ページの「LSB を使用した OS イメージの配布」

- 154 ページの「PXE を使用した OS イメージの配布」
- 155 ページの「サービス CD を使用した OS イメージの配布」
- 156 ページの「グループ資格の追加」
- 157 ページの「オペレーティング システムの復元」
- 157 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」

オペレーティング システムの配布

オペレーティング システムの付与および配布を行うには

1. 配布するオペレーティング システム サービスを選択して、**[オペレーティング システムの配布]** ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。
2. ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに対してオペレーティング システムの付与と配布を行います。

オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードの選択については、268 ページの「OS 管理」の [設定] タブを参照してください。

配布シナリオおよび OS 配布のターゲット デバイス要件は、次の情報を参照してください。

配布シナリオ

お使いの環境のデバイスにオペレーティング システムを配布する方法は、いくつかの変数によって異なります。次の表は、複数の OS イメージ配布シナリオおよびデバイスにオペレーティング システムを配布する手順を説明しています。

表 14　配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
管理対象 (Agent をインストール済み)	デバイスがすでに管理されている場合 • デバイスをグループに追加 • オペレーティング システムの付与資格をグループに設定する (付与がまだの場合) • OS 配布ウィザードを使用して OS を配布 注意 : OS 配布プロセスの間に LSB を使用する場合、PXE やサービス CD を準備する必要はありません。
非管理対象 (Agent が未インストール)	非管理対象デバイスに OS がインストールされている場合 • デバイスに HPCA Agent を配布 • 上の管理対象デバイスに関する手順を参照 非管理対象デバイスに OS がインストールされていない場合 • ベアメタル デバイスへの OS の配布については、下記の手順を参照してください。

表 14　配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
ベアメタル (OS が未インストール)	(ハード ディスクの復旧など) デバイスが以前管理されていた場合 • グループ メンバーシップおよび OS の付与資格がまだ有効です。PXE またはサービス CD を使用して OS を配布 デバイスが以前管理されたことがない場合 • PXE またはサービス CD でデバイスを起動 MAC アドレスのバリエーションをデバイス名として使用して HPCA にデバイスを追加 • 新しいデバイスを OS 付与資格を持つグループに追加 デバイスが再起動され、サービス CD または PXE が OS の配布を続けます。 注意 : OS は、全デバイス グループに接続されている場合、自動的にインストールされます。複数の OS が全デバイスに接続されている場合、インストールする OS を選択します。 注意 : ベアメタル デバイスへの OS の配布には、LSB は使用できません。

シン クライアントの出荷時イメージの配布

サポートされているシン クライアントのオペレーティング システム (Windows XP Embedded (XPE)、Windows CE、または ThinPro) の出荷時イメージをデバイスに配布する前に、そのクライアント イメージを最初にキャプチャおよびパブリッシュする必要があります。詳細については、OS イメージの準備とキャプチャを参照してください。

LSB を使用した OS イメージの配布

[ローカル サービスの起動 (LSB)] により、HPCA は、ネットワークから起動されていないデバイスの OS を管理できます。

LSB を使用するとき、既存のマシンは PXE 対応である必要はありません。また、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必要はありません。

OS 配布の前提要件については、152 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

ローカル サービスの起動を使用して OS イメージを配布するには

1 配布用のイメージを選択し、**[オペレーティング システムの配布]** ボタンをクリックして OS 配布ウィザードを起動します。

2 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[ローカル サービスの起動]** を選択します。

3 これで、LSB ソフトウェアがターゲット デバイスにインストールされ、次に、選択した OS がインストールされます。複数の OS イメージがデバイスに付与されている場合、インストールする OS を選択するように要求されます。

PXE を使用した OS イメージの配布

PXE ベースの環境により、HPCA は、ネットワークから起動されるターゲット デバイスの OS を管理できます。OS 配布の前提要件については、152 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

PXE を使用するには、次の 2 つを使用してネットワークからクライアントを起動できるように DHCP サーバーを構成します。

- ブート イメージ
- これらのファイルを提供する TFTP サーバー

DHCP サーバーおよび TFTP サーバーは、OS 配布に PXE を使用する前に、設定する必要があります。設定の指示は製品のドキュメントを参照してください。

PXE が設定されている場合、ターゲット デバイスがネットワークから起動すること、またはプライマリ ブート デバイスとして PXE が有効になっていることを確認してください。このような設定になるように、必要な設定の調節を行います (たとえば、BIOS の一部のバージョンでは、再起動プロセスの間に **ESC** キーを押して、起動順序設定を変更できます)。

これで、OS イメージを配布する準備ができました。

PXE を使用して OS イメージを配布するには

1 PXE が設定されていることを確認します。

2 配布用のイメージを選択し、[オペレーティング システムの配布] ボタン をクリックして OS 配布ウィザードを起動します。

3 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[ローカル CD または PXE サーバー]** を選択します。

ウィザードが終了したら、DHCP サーバーで指定した設定を使用して、ターゲット デバイスが再起動されます。

次に、OS イメージが配布され、ターゲット デバイス上にインストールされます。複数の OS イメージがデバイスに付与される場合、インストールする OS を選択するように要求されます。

サービス CD を使用した OS イメージの配布

サービス CD を使用して、まだオペレーティング システムがインストールされていないターゲット デバイス (ベアメタル マシン) をローカルに起動します。

`ImageDeploy.iso` を使用してサービス CD を作成します。このファイルは、HPCA メディアの `¥Media¥iso¥roms¥` ディレクトリにあります。

LSB は、まだ OS をインストールしていないデバイスには使用できないため、OS 配布のためベアメタル マシンを起動するには、サービス CD または PXE サーバーのいずれかを使用する必要があります。

サービス CD は、ターゲット デバイスでローカルに作成して利用可能にする必要があります。

OS 配布の前提要件については、152 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

サービス CD を使用して OS イメージを配布するには

1 ターゲット デバイスにサービス CD を挿入し、CD から起動します。

2 入力を要求されたら、HPCA Server の IP アドレス (またはホスト名) とポート番号を入力し、**Enter** キーを押して続行します。次はその例です。

```
HPCA.acmecorp.com:3466
```

HPCA Core および HPCA Satellite のインストールで OS イメージングと配布用に予約されている HPCA サーバー ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、この目的のためにポート 3469 が予約されています。

デバイスは、HPCA Server に接続され、MAC アドレスのバリエーションをデバイス名として使用して、デバイス リストに追加されます。サービス CD が HPCA Server に接続されると、「このマシンにローカル OS がないか、OS が無効です。」と「マシンは使用できず、管理者がポリシーを指定して Wake On LAN を実行するまでシャットダウンされます。」というメッセージが表示されます。

3 HPCA Console で、[OS 管理] セクションを使用して新しいデバイスをグループに追加します。

4 [OS 管理] セクションで、配布用のイメージを選択し、**[オペレーティング システムの配布]** ボタンをクリックして OS 配布ウィザードを起動します。

5 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[ローカル CD または PXE サーバー]** を選択します。

6 ウィザードが完了したら、再びサービス CD を使用して、ターゲット デバイスを再起動します。この再起動の間に、OS イメージが検出され配布されます。イメージのサイズおよびネットワークのバンド幅により、これには 10 ～ 15 分かかる場合があります (複数の OS イメージがデバイスに付与されている場合、どの OS をインストールするか選択するように指示されます)。

7 イメージの配布が終了したら、ターゲット デバイスを再起動し、Windows を起動します。Sysprep プロセスが、新しいイメージを起動し、初期化します。

グループ資格の追加

オペレーティング システムをターゲット デバイスのグループに配布するには、グループに付与してそのオペレーティング システムを使用できるようにする必要があります。

グループ資格を追加するには

1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、グループ資格の OS イメージを選択します。

2 **[グループ資格の追加]** ボタンをクリックして、サービス資格ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、ウィザードを使用して選択するデバイスのグループに選択したイメージを付与します。

オペレーティング システムの復元

OS Manager を使用すると、最後の手段としてオペレーティング システムを復元できます。オペレーティング システムを復元するとオペレーティング システムは動作するようになりますが、データがすべて失われるため、コンピュータ名の変更や Agent のインストールなどのカスタマイズを実行することが必要になります。

[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)

いずれかのオペレーティング システム サービス ID をクリックして、[OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウを使用して、OS のプロパティの表示、付与資格の表示や変更、オペレーティング システムの配布、およびレポートの要約の表示を行います。[OS の詳細] ウィンドウには、次の領域があります。

全般ゼンパン

[全般] タブは、その OS サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

[要約] 領域には、この OS に付与されているグループおよびデバイスの数が表示されます。

プロパティプロパティ

[プロパティ] タブを使用して、オペレーティング システムに関する情報を表示します。

この場合、この情報は読み取り専用です。[操作] タブの [OS 管理] 領域を使用すると、これらの設定を変更できます。詳細については、206 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

グループグループ

[グループ] タブには、OS に付与されている管理対象クライアント デバイスのすべてのグループが表示されます。ツールバーのボタンを使用して、付与資格の管理、OS の配布、データ収集操作の開始、または電源管理操作を実行できます。

表 15　[グループ] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	グループのリストをリフレッシュします。

表 15　[グループ] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	CSV にエクスポート	グループのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	グループ資格の追加	1 つ以上の追加グループの管理対象クライアント デバイスに、この OS を付与します。
	グループ資格の削除	この OS に対するグループ資格を削除します。
	ソフトウェアの配布	選択されているデバイス グループにこの OS を配布します。300 ページの「OS 配布ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	選択されているグループに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。 • **ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索** 283 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。 • **パッチ適用状況の探索** 284 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。 • **アプリケーション利用状況の探索** 307 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。 このレポートは [レポート] タブからアクセスできます。
	電源管理	デバイスのグループの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。285 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。

[デバイス] タブ

[デバイス] タブには、選択されている OS に対して現在付与されているデバイスがすべて表示されます。ツールバーのボタンを使用して、デバイスへの OS の配布、データ収集操作の開始、電源管理操作の実行、またはデバイスのリモートからの制御を実行できます。

表 16　[デバイス] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	デバイスのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	デバイスのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	オペレーティングシステムの配布	選択されているデバイスに、このソフトウェアを配布します。300 ページの「OS 配布ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	選択されているデバイスに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。 • **ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索** 283 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。 • **パッチ適用状況の探索** 284 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。 • **アプリケーション利用状況の探索** 307 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。 このレポートは [レポート] タブからアクセスできます。

表 16　[デバイス] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	電源管理	選択されているデバイスの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。285 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。
	リモート制御	選択されているデバイスに対するリモート制御セッションを起動します。98 ページの「リモート制御」を参照してください。

レポートレポート

[レポート] タブでは、そのオペレーティング システム サービスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

[現在のジョブ] タブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブな OS 管理ジョブまたはスケジュールされた OS 管理ジョブをすべて表示します。OS 管理ジョブは、HPCA データベースの管理対象デバイスでオペレーティング システム サービスの付与と配布を行うために使用します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよび Job Status については、161 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション) を参照してください。

[過去のジョブ] タブ

[過去のジョブ] は、完了した OS 管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

ジョブ管理

[ジョブ管理] セクションを使用して、現在のジョブおよび過去のジョブをすべて表示し、管理します。要約情報で、現在アクティブな管理ジョブおよびスケジュールされている管理ジョブの合計数が表示されます。

ジョブ管理のタブについては、次のセクションで説明しています。

- 161 ページの「全般」
- 161 ページの「現在のジョブ」
- 166 ページの「過去のジョブ」

全般

[全般] タブを使用して、現在および過去の全ジョブの表示、およびアクティブなジョブおよびスケジュールされているジョブの合計数を表示します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされた全ジョブのリストを表示します。ジョブのステータスの詳細を表示するには、ジョブの ID リンクをクリックします。

ツールバー ボタンを使用して、現在スケジュールされているジョブ、またはアクティブなジョブを管理します。次のセクションでは、使用できるジョブ コントロールと詳細ウィンドウについて説明します。

- 162 ページの「ジョブ コントロール」
- 162 ページの「Job Status」
- 165 ページの「ジョブの詳細」

ジョブ コントロール

既存のジョブを管理するには、ジョブ リストの一番上にあるジョブ コントロールを使用します。各コントロールに関する説明は、下の表を参照してください。

表 17　[ジョブ] ツールバーで実行できるアクション

アイコン	説明
	データのリフレッシュ – ジョブ リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	ジョブの開始
	無効になったり一時停止された**ジョブの再開**
	現在アクティブ、開始を待機中、および停止を待機中の**ジョブの一時停止**。ジョブのステータスは [一時停止] に設定されます。
	現在アクティブまたは一時停止の**ジョブの停止**。ジョブのステータスは停止を待機中に設定されます。
	ジョブのスケジュール再設定
	ジョブの削除

Job Status

各ジョブに関する情報は、[ステータス] カラムを参照します。次の表は、各ジョブ ステータス メッセージを説明しています。

表 18　ジョブ ステータスの説明

アイコン	ステータス	説明
	エラーで終了エラーデシュウリョウ	ジョブは完了したが、いくつかエラーが発生した。詳細を表示するには、ジョブ ID リンクをクリックします。
	成功	ジョブは、エラーもなく正常に終了した。
	アクティブ	ジョブが現在実行中。
	一時停止	ジョブは現在、一時停止。
	開始を待機中	ジョブは、スケジュールされ、実行を待機中。
	停止を待機中	ジョブは現在、停止のプロセスの途中。
	失敗	ジョブが正常に終了しなかった。
	無効	ジョブが停止または一時停止された。
	休止状態	ターゲット デバイスがオフライン。ジョブは、デバイスがオンラインに戻ると再開されます。

各ジョブの管理にジョブ コントロールを使用するとき、予想される結果を確認するには、次の表を参照してください。

表 19　ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	開始	再開	一時停止	停止	スケジュール再設定	削除
エラーで終了	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
成功	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
アクティブ	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
一時停止	なし	ステータスが一時停止ステータスの前の状態に変化	なし	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
開始を待機中	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除

表 19　ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	開始	再開	一時停止	停止	スケジュール再設定	削除
停止を待機中	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	なし	更新を適用	なし
失敗	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
無効	なし	ステータスが無効化ステータスの前の状態に変化	なし	なし	更新を適用	ジョブの削除

ジョブ コントロールは、[現在のジョブ] タブにあるジョブにしか利用できません。これには、現在アクティブなジョブおよび反復スケジュールを設定したジョブが含まれます。[過去のジョブ] タブにある完了したジョブはコントロールできないため、再び実行する必要がある場合は再作成してください。

ジョブの詳細を表示するには、ジョブ ID リンクをクリックします。新しいウィンドウが開き、それぞれのジョブの詳細が表示されます。

ジョブが一時停止されても、ジョブのアクション (配布、収集など) は、現在対象となっているデバイスについては続行されます。アクションが完了すると、ジョブは、再開されるまで他のデバイスでは実行されません。

ジョブの詳細

ジョブ ID リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、そのジョブに特有の情報が表示されます。ジョブ タイプに応じて、[ジョブの詳細] ウィンドウに下で説明するタブが表示されます。

詳細

[詳細] タブには、すべてのジョブ情報が表示されます。

ターゲット

[ターゲット] タブには、ジョブが作成された全デバイスが表示されます。

サービスサービス

[サービス] タブには、そのジョブのターゲット デバイス用のソフトウェア、パッチ、またはオペレーティング システムがすべて表示されます。

ジョブ メッセージの詳細については、第 18 章「トラブルシューティング」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] には、完了した管理ジョブがすべて表示されます。ジョブのステータスの詳細を確認するには、ジョブ ID リンクをクリックして [ジョブの詳細] ウィンドウを開きます。

完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

7　レポートの使用

[レポート] 領域には、多くの種類のレポートの要約と詳細が表示されます。保有している HPCA ライセンスのタイプによって、特定のレポートが使用できます。この章のでは、次のトピックについて説明します。

- 168 ページの「レポートの概要」
- 169 ページの「レポート間の移動」
- 171 ページの「レポートのタイプ」
- 176 ページの「レポートのフィルタ」
- 179 ページの「ダイナミック レポート グループの作成」

レポートの概要

HPCA Console の [レポート] タブには、171 ページの「レポートのタイプ」に説明されているとおり、レポートの複数の収集に対するリンクが表示されます。

それぞれの収集には、特定のタイプのデータまたは特定の視聴者に焦点を当てたレポートのグループが含まれています。これらのレポートには、ダッシュボードに値を設定するために使用されるデータも表示されます。

次のレポートは、すべてのエディションの HPCA で使用可能です。

レポート パック	レポート タイプ	説明
rpm.kit	パッチ管理	パッチ ポリシーへの準拠デバイスと非準拠デバイス
rim.kit	インベントリ	現在 HPCA で管理されているデバイス

[レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、Java Runtime Environment (JRE) または Java Virtual Machine (JVM) が必要です。詳細については、次のサイトを参照してください。

http://java.com/ja/index.jsp

レポート間の移動

[レポート] タブをクリックすると、[レポートのホーム ページ] が表示されます。ホーム ページには、インベントリ管理、パッチ管理 (インストールされて有効になっている場合)、および利用状況管理 (有効な場合) に関して、企業のスナップショットが表示されます。

[レポートのホーム ページ] では、次の 3 種類の方法で詳細な情報を見つけることができます。

- レポートのクイックリンクを使用して頻繁に要求されるレポートを開く。
- クイック検索を使用して特定のデバイスまたはサービスについてのインベントリ情報を検索する。この機能は、インベントリ レポート (たとえば、管理対象デバイス) のみに適用されます。
- 左のナビゲーション ツリーの [レポート ビュー] セクションにあるリンクを使用して、特定のレポートを開きます。

  [レポート ビュー] では、現在のデータ セットで表示するレポート ウィンドウのセットと、各ウィンドウに関連した初期設定 (最小化や最大化、各ウィンドウのアイテム数など) が定義されます。初めてレポートにアクセスするときには、デフォルト ビューが適用されます。現在のビューは、グローバル ツールバーの右に表示されます。[レポート ビュー] は、変更やカスタマイズが可能です。

レポートが表示されているとき、[レポート] ページでは次のアクションを実行できます。

表 20　レポートのアクション

アイコン	説明
	レポート ビュー内を 1 ページ戻る。
	レポートのホーム ページに戻る。
	データをリフレッシュする。リフレッシュは、フィルタを適用または削除するときにも実行されます。
	このレポートをお気に入りのリストに追加する。

表 20　レポートのアクション

アイコン	説明
	このレポートへのリンクを電子メールで送る。
	「クイック ヘルプ」ボックスまたはツール チップが開きます。これは、フィルタにのみ適用されます。
	このレポートを印刷する。
	レポート ビューのデータ部分を折りたたむ。
	レポート ビューのデータ部分を展開する。
	このレポートのグラフィカル ビューを表示する。
	このレポートのグリッド (詳細) ビューを表示する。
	レポートの内容をカンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートする。このファイルのデータは、実際にはカンマではなくタブで区切られます。ただし、ファイル拡張子は CSV です。
	レポートの内容を Web クエリ (IQY) ファイルにエクスポートする。

レポートに青色テキストで表示されるアイテムには、さまざまな機能があります。

- 詳細を表示 – このアイテムに関してより詳細な情報まで掘り下げる
- このレポート ビューを起動 – このアイテムに基づいて新しいレポートを開く
- 検索条件に追加 – このアイテムに基づいて、現在のレポートに追加フィルタを適用する
- ベンダーのサイトに移動 – このブリティンをポストしたベンダーの Web サイトに移動する

マウス カーソルを青色テキストのアイテム上に置くと、そのアイテムをクリックするとどのようなアクションが行われるかがツール チップに表示されます。

デフォルトでは、レポートでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。個々のレポート パックは、GMT またはローカル時刻のいずれかを使用するように設定できます。

レポートのタイプ

HPCA Console では、次のタイプのレポートを使用できます。

- 171 ページの「インベントリ管理レポート」
- 172 ページの「— 設定管理レポート」
- 173 ページの「HPCA 管理レポート」
- 173 ページの「パッチ管理レポート」
- 175 ページの「利用状況管理レポート」

ここでは、それぞれのレポートについて簡単に説明します。

インベントリ管理レポート

インベントリ管理レポートには、HPCA の全デバイスに関するハードウェアとソフトウェアの情報が表示されます。これには、HP 固有のハードウェア、デバイス コンポーネント、ブレード サーバー、TPM チップセット情報と SMBIOS 情報、および S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology) 警告用のレポートが含まれます。

レポート オプションを表示するには、インベントリ管理レポートのレポートビューを展開します。これらのレポートに含めるには、デバイスが AUDIT.ZSERVICE.DISCOVER.INVENTORY に付与されている必要があります。特定のデータを使用するには、HPCA を完全に設定する必要があります。設定の詳細については、253 ページの「デバイス管理」を参照してください。

一般的な管理対象デバイス レポートには、次のテーブル見出しがあります。

- **詳細** – このデバイスの [デバイスの要約] ページを開く。
- **前回の接続** – デバイスが最後に接続された日時。
- **HPCA Agent ID** – デバイス名。
- **HPCA Agent のバージョン** – 現在インストールされている Management Agent のバージョン。
- **デバイス** – デバイス名。
- **前回ログオン ユーザー** – デバイスへのログオンで使用された最後のユーザーアカウント。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。現在ログオンしているユーザーを切り替えても、これには影響しません。

- **IP アドレス** – デバイスの IP アドレス。
- **MAC アドレス** – デバイスの MAC アドレス。
- **オペレーティング システム** – デバイスにインストールされているオペレーティング システム。
- **OS レベル** – 現在のオペレーティング システム レベル (Service Pack 2 など)。

インベントリ管理レポートは次のレポート オプションで構成されています。

- 概要
- 操作レポート
- ハードウェア レポート
- ソフトウェア レポート
- 準備状態レポート
- 電源の利用状況

これらのレポートの詳細については、『HP Client Automation Inventory Manager Reference Guide』を参照してください。

— 設定管理レポート

設定管理レポートには、設定プロファイルが配布されているデバイスの設定プロファイル情報が表示されます。設定プロファイルは、使用環境の管理対象デバイスにインストールされている特定のソフトウェアの設定で構成されています。設定プロファイルを作成して配布すると、ソフトウェアの概要レポートを表示できるようになるため、管理者はこのソフトウェアのランタイム データを視覚的に確認できます。

この設定管理レポートでは、提供されるレポートの個々のカラムをクリックして、デバイス、プロファイル サービス ID、およびカテゴリごとに設定プロファイル情報を掘り下げて詳細を表示できます。

レポート オプションを表示するには、[設定管理] レポート ビューを展開します。[設定管理] には、次のレポートがあります。

- **プロファイル ステータス (デバイス別)** – ソフトウェアがインストールされている各デバイスのプロファイルの詳細情報がデバイス順に表示されます。このレポートには、各デバイスのプロファイルの配布ステータスとスケジュールされた配布ジョブの情報が表示されます。

- **プロファイル ステータス (サービス別)** – プロファイルの詳細情報が設定プロファイルのプロファイル サービス ID 順に表示されます。このレポートには、サービスの説明、サービスが配布されているデバイスの数、プロファイルの配布ステータス、スケジュールされた配布ジョブの情報が表示されます。
- **プロファイル ステータス (カテゴリ別)** – プロファイルの詳細情報がソフトウェアのタイプ順に表示されます。このレポートでは、カテゴリのリスト、およびプロファイルの配布ステータスとカテゴリごとのスケジュールされているジョブ配布情報を表示できます。カテゴリとは、ソフトウェア機能の概要です。

  たとえば、[HP 電源管理]、[ワイヤレス設定]、および [セキュリティ設定] などがこれに該当します。各カテゴリには、カテゴリの設定の特定の設定であるプロファイルが含まれている場合があります。たとえば、[HP 電源管理] カテゴリには、[低]、[中]、または [高] の電源プロファイル設定があります。
- **取得の詳細** – HP Live Network からのコンテンツの更新のステータスが表示されます。

HPCA 管理レポート

HPCA 管理レポートには、さまざまな HPCA 機能の管理情報が表示されます。次のレポート オプションを表示するには、そのビューを展開します。

- **Live Network** – このオプションの下には、取得履歴レポートを表示できます。ここには、取得イベントのリスト、各取得の日付、取得の詳細 (別のレポートに表示可能)、取得ソース、および取得ステータスが表示されます。
- **監査** – このオプションの下には、リモート制御レポートを表示できます。ここには、HPCA Console から管理対象クライアント デバイスに対して試みられたリモート制御セッションごとのエントリが含まれています。

パッチ管理レポート

パッチ管理レポートには、管理対象デバイスのパッチ適用状況情報や、パッチおよび Softpaq の取得情報が表示されます。

- **概要** – 概要レポートには、お使いの環境で管理されているデバイスとブリティンのパッチ適用状況のスナップショットを視覚的に示す円グラフまたは棒グラフが表示されます。このレポートでは、すべてのデバイス、パッチ適用状態別のデバイス、ブリティン、およびベンダー別のブリティンの適用状況が要約されます。この要約レポートから、より詳細な適用状況レポートまで掘り下げ、フィルタを追加できます。
- **パッチの適用状況の詳細** – HPCA Agent は、製品とパッチの情報を HPCA に送ります。この情報は利用可能なパッチと比較され、管理対象デバイスの脆弱性を削除するためパッチを必要とするかどうかが調査されます。適用状況レポートには、お使いの環境で検出されたデバイスに該当する情報しか表示されません。
- **取得レポート** – 取得ベースのレポートには、ベンダーの Web サイトからのパッチ取得プロセスの成功および失敗が表示されます。これには次のレポートが含まれます。
  - **取得の概要**レポートは、各取得セッションのブリティン、パッチ、およびエラーの数を示します。また、レポートには、すべてのブリテンおよびパッチの取得レポートに対するリンクがあります。パブリッシュ セッションの日時も一覧表示されます。
  - **取得 (ブリティン別)** レポートは、ブリティンの取得の概要を示します。このレポートの適用可能なパッチの番号をクリックして、ブリティンに関連付けられたファイルを参照します。1 つのブリティンには、プラットフォームに応じて複数のパッチが関連付けられている場合があります。
  - **取得 (パッチ別)** レポートは、各パッチの取得の概要を示します。特定のブリティンの [製品 / リリース] 列の項目をクリックして、パッチの完全な詳細に掘り下げます。[重大度] 列のアイコンは、Windows パッチの重大度を示します。
- **リサーチ レポート** – リサーチ ベースのレポートには、ソフトウェア ベンダーの Web サイトから取得したパッチに関する情報が表示されます。リサーチ ベースのレポートでは、フィルタ バーが利用できます。

パッチ管理レポートの使用方法の詳細については、140 ページの「パッチ管理」を参照してください。

利用状況管理レポート

利用状況管理レポートには、利用状況収集エージェントがインストールされているデバイスの利用状況の情報が表示されます。アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、収集エージェントをインストールし、利用状況データの収集を開始します。

- **使用した製品レポート トップ 10** – ユーザー アカウントおよびコンピューター アカウントによる使用頻度が高い製品のうち上位 10 個の利用状況が表示されます。
- **概要** – 収集されたデバイスと利用状況がベンダーおよび製品ごとに視覚的に表示されます。
- **デバイス レポート** – アプリケーションを使用しているデバイスおよびユーザーの詳細などの利用状況固有の情報が表示されます。
- **月次利用状況レポート** – ベンダー、製品、およびアプリケーション別に、月単位の利用状況の情報が表示されます。
- **インベントリ レポート** – ベンダー、製品、およびアプリケーション別に、インベントリ情報が表示されます。
- **操作レポート** – データが収集されたデバイスの数または過去 30 日間に収集されていないデバイスの数が表示されます。

➤ 利用状況収集エージェントが配布された後、利用時間の収集がただちに開始されます。集中時の収集は、ユーザーが次回ログインしてから開始されます。

➤ ほとんどの論理フォルダ (Program Files など) は、マシンに関連付けられており、個々のユーザーとは関連付けられていません。このため、利用状況管理レポート、デバイス レポート、ユーザー別利用状況レポートでは、[ユーザー名] カラムに [未定義] と表示される場合があります。

[設定] タブの [レポート] セクションで指定した [利用状況の設定] によっては、利用状況データの一部または全部が難読化される場合があります。

詳細な情報への掘り下げ

多くのレポートでは、特定のデバイス、脆弱性、適用状況ベンチマーク、またはセキュリティ製品について、極めて詳細な情報まで掘り下げることができます。

データ グリッドに [詳細] ( ) アイコンが表示されている場合にはいつでも、クリックして詳細情報を表示できます。

また、一部のレポートでは、特定のカラムのデバイスの数をクリックすることにより、より詳細な情報まで掘り下げられます。

レポートのフィルタ

レポートの多くでは、含まれるデータが膨大な量になります。レポートに 1 つ以上のフィルタを適用することにより、表示されるデータ量を減らすことができます。一度適用されたフィルタは、明示的に削除されるまで有効な状態が維持されます。

フィルタには、次の基本的な 3 つのタイプがあります。

- ディレクトリ / グループ フィルタを適用すると、特定のデバイスまたはデバイス グループのデータを表示できます。
- インベントリ管理フィルタを適用すると、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティング システム、または HPCA 操作ステータスなどの共通の特性とともに、デバイス グループのデータを表示できます。
- レポート固有のフィルタは、特定のレポート ビュー内で利用可能なデータにのみ適用されます。たとえば、パッチ管理フィルタはパッチ管理レポートに対してのみ適用されます。

フィルタは、フィルタ対象のデータ タイプがレポートに含まれる場合にのみ機能します。

現在のレポートのデータに関係しないフィルタの適用を試みても、そのフィルタによる影響は生じません。逆に、レポート内のデータが正しくないように見える場合は、誤ったフィルタが適用されていないことを確認してください。

概要レポートのほとんどは、元々含まれるデータ量が少ないため、フィルタを適用できません。

AUM Admin は、HPCA Standard Edition ではサポートされません。このため、利用状況の規則フィルタは作成できません。

レポートにフィルタを適用するには

1 左のナビゲーション ツリーの [データ フィルタ] セクションで、使用するフィルタ グループを展開します。

2 *オプション*: 適用する特定のフィルタについて、(表示 / 非表示) ボタンをクリックしてフィルタのコントロールを表示します。

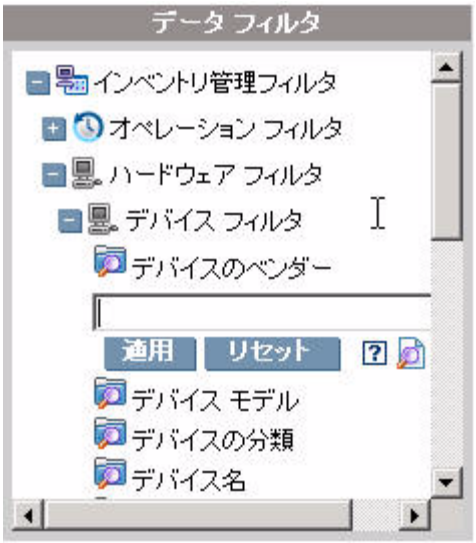
3 テキスト ボックスでフィルタ条件を指定するか、(条件) ボタンをクリックしてリストから条件を選択します (表示された場合。すべてのフィルタでリストが表示されるとは限りません)。

フィルタの作成時には、ワイルドカード文字を使用できます。次の表に、検索文字列の入力時に使用可能な文字の説明を示します。

表 21　特殊文字とワイルドカード

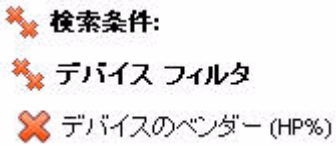
文字	機能	デバイスのベンダーフィルタの例	一致するレコード
* または %	特定のテキスト文字列を含むすべてのレコードに一致する	HP*	「HP」で始まるすべてのレコード
		%HP%	「HP」を含むすべてのレコード
? または _	任意の 1 文字に一致にする	Not?book	「Not」で始まり「book」で終わるすべてのレコード
		Note_ook	「Note」で始まり「ook」で終わるすべてのレコード
!	フィルタを否定する	!HP*	「HP」で始まらないすべてのレコード

たとえば、フィルタに関連付けるデバイスのテキスト ボックスに「HP%」と指定すると、フィルタはベンダー名に HP を含むすべてのデバイスに一致します。



4 **[適用]** ボタンをクリックします。レポートがリフレッシュされます。フィルタを削除するには、**[リセット]** ボタンをクリックします。

フィルタをレポートに適用すると、レポート ヘッダーに次のようにフィルタが表示されます。



一度適用されたフィルタは、明示的に削除されるまで有効な状態が維持されます。フィルタ名の左側にある ([削除] ボタン) をクリックして、現在のレポートからフィルタを削除できます。

また、現在表示されているレポートのデータ フィールドをクリックすることにより、「インライン」フィルタを作成することもできます。

ダイナミック レポート グループの作成

ダイナミック レポート グループには、レポート クエリの結果として返されたデバイスが含まれています。ダイナミック レポート グループは、最初にレポート クエリにデバイスのリストを生成し、次にグループ作成ウィザードを使用することによって作成できます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

1 レポート クエリを使用してデバイスのリストを生成します。

   たとえば、**[インベントリ管理レポート]** で **[操作レポート]** を展開し、**[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。

2 デバイス リストをフィルタして、グループに含めるデバイスだけにします。詳細な手順については、176 ページの「レポートのフィルタ」を参照してください。

3 グループに追加するデバイスのリストがある場合は、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]** ボタンをクリックして、グループ作成ウィザードを開始します。

4 ウィザードの手順に従って、デバイスのダイナミック グループを作成します。

ダイナミック レポート グループについて

- ダイナミック レポート グループのメンバーシップは、元のリストを作成するため使用したクエリで定義された条件に合うデバイスに依存します。メンバーシップは、グループ作成ウィザードで指定するスケジュールに基づいて更新されます。または、[グループの詳細] ウィンドウを使用して変更できます。
- 既存のレポート グループの条件は変更できません。既存のレポート グループと名前は同じだけれども異なる条件を持つグループを作成する場合は、まず既存のグループを削除し、新しいデバイス クエリを作成し、グループ作成ウィザードを使用して新しい条件を持つ新しいグループを作成します。

8 操作

[操作] タブでは、インフラストラクチャ タスクを管理したり、コンポーネントサービスのステータスを表示したり、一部のパッチ管理タスクを実行したりすることができます。詳細については、次のセクションで説明します。

- 182 ページの「インフラストラクチャ管理」
- 186 ページの「ソフトウェア管理」
- 190 ページの「アウトバンド管理」
- 194 ページの「パッチ管理」
- 202 ページの「OS 管理」
- 206 ページの「利用状況管理」
- 210 ページの「設定管理」

インフラストラクチャ管理

[インフラストラクチャ管理] 操作は、次のセクションで説明します。

- 182 ページの「サポート」
- 186 ページの「データベース メンテナンス」
- 183 ページの「Live Network」

サポート

[サポート] 領域には、現在インストールされているライセンス情報が表示されます。また、設定ファイル、ログ ファイル、およびオペレーティング システム情報を含む圧縮ファイル (zip) を生成したりダウンロードしたりすることもできます。

詳細については、182 ページの「ログ ファイルのダウンロード」を参照してください。

これらのファイルは、HP サポートでトラブルシューティングに必要になった場合に使用可能になります。

ログ ファイルのダウンロード

弊社サポート センターに連絡すると、ログ ファイルの提供を求められる場合があります。用意されているリンクを使用して、現在のサーバー ログ ファイルの圧縮ファイルをダウンロードし保存します。

ログ ファイルをダウンロードするには

1. [トラブルシューティング] 領域で、**[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード]** リンクをクリックします。新しいウィンドウが開きます。
2. ログ ファイルが準備できたら、**[logfiles.zip をダウンロードします]** をクリックします。
3. 表示メッセージに応じて **[保存]** をクリックし、圧縮ファイルをコンピュータに保存します。
4. ファイルを保存する場所を指定して、**[OK]** をクリックします。

5 ログ ファイルがコンピュータにダウンロードされ、1 つの ZIP 形式ファイルで保存されます。

➤ Internet Explorer のセキュリティ設定により、これらのファイルをダウンロードできない場合があります。信頼できるサイトに HPCA Console の URL を追加するか、またはファイルのダウンロード時にダイアログを表示しないように Internet Explorer の設定を変更することをお勧めします。

Live Network

Live Network の設定を使用して、HP Live Network のコンテンツを更新する方法と時期を指定します。自動更新のスケジュールを設定するか、すぐに更新を開始できます。最新のコンテンツが確実に使用されるようにするために、HPCA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後は、必ず更新を実行してください。

第 5 章「HPCA および HP Live Network」を参照してください。

自動更新のスケジュールを選択するか、またはすぐに更新を開始するかどうかにかかわらず、更新のコンテンツの送信元を指定する必要があります。次の中から選択できます。

- **HP Live Network から**

  Live Network のコンテンツ ソースは HP Live Network のコンテンツ サーバーから取得され、HPCA インフラストラクチャにパブリッシュされます。デフォルトでは、このパスは次のとおりです。

  `<InstallDir>¥LiveNetwork¥lnc¥bin¥live-network-connector.bat`

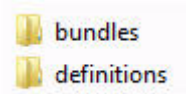
  このパスは、HPCA によって自動的に設定されます。HP Live Network コネクタの新しいコピーをダウンロードして、別の場所にインストールしていない限り、このパスを指定する必要はありません。

  このオプションを使用するには、アクティブな HP Live Network 登録契約が必要です。これは、HPCA ソフトウェアには含まれていません。詳細については、当社の担当にお問い合わせください。

- **ファイル システムから**

  Live Network コンテンツのコピーは、HPCA Core がインストールされているシステムのファイル システム内の場所からパブリッシュされます。コンテンツが格納されているフォルダのパス名を指定し、更新を開始する前に、HP Live Network コンテンツ サーバーからこれらのアイテムを手動でダウンロードする必要があります。

指定されたファイル システム内の場所のフォルダ構造が、次に示すように、HP Live Network コネクタがコンテンツをダウンロードするときに作成されたフォルダ構造に正確に一致している必要があります。



また、これらの各フォルダの下にあるサブディレクトリも正確に一致している必要があります。

場合によっては、HP Live Network によってコンテンツのサブセットのみが更新されることがあります。この場合は、Live Network の更新中に、これらのディレクトリの一部が提供されない可能性があります。

Live Network の自動更新のスケジュール

選択したコンテンツの送信元からの HP Live Network の自動更新のスケジュールを確立するには、次の手順を使用します。

HP Live Network のコンテンツの自動更新をスケジュールするには

1. [操作] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。
2. **[スケジュールの更新]** タブをクリックします。
3. [更新] セクションで、コンテンツの送信元を選択します。
4. 自動更新のスケジュールを指定します。
   a. **スケジュール** [一度]、[時間単位]、[日単位]、[週単位]、または [なし] を選択します。

      [なし] は、たとえば以前にスケジュールされた [一度] のタスクが既に完了している場合など、現在実行対象のスケジュールがないときに HPCA Console に表示されます。新しい更新スケジュールがない場合や既存のスケジュールを停止する場合に、[なし] を指定できます。反復スケジュールがある場合は、最後に保存されたスケジュールが表示されます (たとえば、[時間単位]、[日単位]、[週単位] など)。

   b. **開始時刻**更新を開始する時刻。

   c. **開始日**自動更新を開始する日付。 (カレンダー) ボタンをクリックし、日付を選択します。

[スケジュールの更新] タブが表示されたとき、時刻と日付のフィールドには、最後に保存されたスケジュールの時刻と日付が表示されます。たとえば、以前にスケジュールされた [一度] の更新が既に完了している場合、スケジュールは [なし] に設定され、[開始時刻] と [開始日] のフィールドには最後の更新の時刻と日付が表示されます。

d **[スケジュール]** として [時間単位]、[日単位] または [週単位] を選択した場合は、**[間隔]** ボックスに更新の間隔を指定します。

たとえば、[日単位] を選択し、**[間隔]** に 2 を指定すると、2 日ごとに更新が実行されます。

5 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

- このタブから離れると、**[保存]** をクリックする前に入力した情報はすべて失われます。情報を保存する場合は、必ず **[保存]** をクリックしてください。
- [リセット] ボタンを使用して、最後に保存された設定を復元できます。

HP Live Network コンテンツを今すぐ更新する

HP Live Network のコンテンツを今すぐ更新するには、次の手順を使用します。これは、自動更新用に設定したスケジュールには影響しません。

HP Live Network のコンテンツを直ちに更新するには

1 **[操作]** タブで、[**インフラストラクチャ管理**] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。

2 **[すぐに更新]** タブをクリックします。

3 この更新のためのコンテンツの送信元を選択します。これは、現在スケジュールされている自動更新には影響しません。

4 **[すぐに更新]** ボタンをクリックします。指定したコンテンツの送信元からコンテンツを更新するためのリクエストが発行されます。

更新は、完了するまでにある程度の時間が必要な非同期のプロセスです。取得レポートを使用すると、更新の結果を表示したり、そのステータスをチェックしたりできます。

更新の結果またはステータスの表示

HPCA レポートを使用すると、HP Live Network コンテンツの更新ステータスをチェックできます。この情報を表示するレポートには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- **[操作]** > **[インフラストラクチャ管理]** > **[Live Network]** から **[レポート]** タブをクリックします。これは、この場所からコンテンツ更新のステータスを確認する最も便利な方法です。
- HPCA Console の **[レポート]** タブをクリックします。**[HPCA 管理]** > **[Live Network]** > **[取得履歴]** へ進みます。

データベース メンテナンス

[データベース メンテナンス] 領域には、HPCA にレポート データが格納されているすべてのデバイスが表示されます。[メンテナンス] ツールバーを使用して、データベースに既に存在しない可能性のあるデバイスのレポート データをクリーンアップします。

デバイスのレポート データを削除するには

1. [メンテナンス] 領域で、レポート データを削除するデバイスを選択します。
2. [レポート データの削除] ボタンをクリックします。
3. レポート データがデータベースから削除されます。

   デバイスのレポート データが削除されると、そのデータはレポートの生成に利用できなくなります。

➤ アクティブに管理されているデバイスのレポート データを削除する場合、レポート データの矛盾を避けるため、削除してから、そのデバイスに Management Agent を再配布します。

ソフトウェア管理

[操作] タブのソフトウェア管理ツールを使用して、管理対象クライアント デバイスに配布できるソフトウェア サービス (アプリケーション) のカタログを管理します。ソフトウェア サービスが HPCA ソフトウェア ライブラリに追加されると、クライアント デバイスのエンドユーザーはApplication Self-Service Manager の使用によって付与されているソフトウェアのインストール、更新、または削除を実行できます。

[ソフトウェア ライブラリ] ページには、HPCA にパブリッシュされたソフトウェア サービスがリストされます。このページのツールを使用して、ソフトウェア サービスをインポート、エクスポート、または削除できます。このインポートおよびエクスポートのツールは、たとえばサービスをテスト環境からプロダクション環境に移動するなど、ソフトウェア サービスを 1 つの HPCA サーバーから別の HPCA サーバーに移動する場合に便利です。

特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更するには、189 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

表 22　ソフトウェア ライブラリ ツール

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – [ソフトウェア ライブラリ] テーブルのデータをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのソフトウェア サービスのリストを作成します。
	サービスのインポート – ソフトウェア サービスを HPCA にインポートします。188 ページの「ソフトウェア サービスのインポート」を参照してください。 ソフトウェア サービスをインポートしたら、グループまたは特定の管理対象クライアント デバイスをそのサービスに付与できます。次にサービスをこうしたデバイスに配布できます。
	サービスのエクスポート – パブリッシュされたソフトウェア サービスを**サービス デッキ**と呼ばれるバイナリ ファイル形式でエクスポートします。188 ページの「ソフトウェア サービスのエクスポート」を参照してください。 ソフトウェア サービスをエクスポートしたら、そのサービス デッキを別の HPCA サーバーにコピーしてから、そのサービスをインポートできます。
	ソフトウェアの削除 – 選択したサービス (複数も可) を HPCA ソフトウェア ライブラリから削除します。189 ページの「ソフトウェア サービスの削除」を参照してください。

ソフトウェア サービスのインポート

HPCA ではソフトウェア サービスをソフトウェア ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリに格納されている必要があります。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

これは、テスト環境を構築してある場合に便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにそのサービスをエクスポートします (「ソフトウェア サービスのエクスポート」を参照してください)。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境のソフトウェア ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

1 **[サービスのインポート]** をクリックしてサービス インポート ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、サービスをソフトウェア ライブラリにインポートします。

ServiceDecks フォルダにある、名前に SOFTWARE という単語が含まれるサービスのみをインポートできます。例 :

PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA

ソフトウェア サービスのエクスポート

パブリッシュされたソフトウェア サービスは、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

エクスポートされたサービスは、別の HPCA Server にコピーして、そのサーバーのソフトウェア ライブラリにインポートできます (「ソフトウェア サービスのインポート」を参照してください)。

サービスをエクスポートするには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするソフトウェアを選択します。

2 **[サービスのエクスポート]** をクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを HPCA Server マシンの `ServiceDecks` ディレクトリにエクスポートします。

ソフトウェア サービスの削除

HPCA ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには、[ソフトウェア] ツールバーを使用します。このツールバーを使用してソフトウェア サービスを削除し、そのサービスに設定されているすべての付与資格を削除します。

ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには

1 削除するソフトウェア サービス (複数も可) を選択します。

2 **[ソフトウェアの削除]** ボタンをクリックします。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)

ソフトウェア ライブラリで任意のソフトウェア サービスのサービス ID をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更します。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウでは、次の設定を使用できます。

- **表示名**
  ソフトウェア サービスの名前です。これは HPCA Console で使用される「簡略」名です。これは必須のフィールドです。
- **ソフトウェア カテゴリ**
  ソフトウェアのタイプを定義するためのカテゴリを指定します。ソフトウェア カテゴリは、ソフトウェア ライブラリに表示され、ソート オプションとして利用できます。
- **カタログの表示**
  管理対象クライアント デバイスのカタログにこのソフトウェアを表示するかどうかを指定します。カタログにソフトウェアを表示すると、エンド ユーザーは、そのソフトウェアをインストール、更新、または削除できます。
- **再起動の設定**
  ソフトウェアがインストールされた後、管理対象クライアント デバイスの再起動が必要かどうか、およびエンドユーザーに再起動を要求するかどうかを指定します。

- **作成者**
  ソフトウェアの作成者 (たとえば、Hewlett-Packard など)。
- **ベンダー**
  ソフトウェアのベンダー (たとえば、Hewlett-Packard など)。
- **Web サイト**
  ソフトウェアについての情報を参照できる URL。
- **事前アンインストール コマンド ライン**
  ソフトウェアがデバイスから削除される前に実行するコマンド。たとえば、ソフトウェア削除のコマンドを実行する前に、いくつかのレジストリ キーを削除する必要がある場合があります。
- **インストール コマンド ライン**
  ソフトウェアをインストールするために実行するコマンド。
- **アンインストール コマンド ライン**
  ソフトウェアがデバイスから削除された後に実行するコマンド。

➤ ソフトウェアの設定に変更を加えた後は、必ず **[保存]** をクリックしてください。

➤ [管理] タブから [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開く場合、これらの設定は読み取り専用の形式で表示されます。サービスの設定を変更する場合は、必ず [操作] タブから [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開いてください。

ただし、[管理] タブから [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開いた場合、その他の機能は使用可能です。131 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

アウトバンド管理

アウトバンド (OOB) 管理は、[設定] タブを使用して有効にします。OOB 管理の設定については、215 ページの「設定」を参照してください。

OOB 管理の使用方法の詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

次のセクションでは、コンソールで実行できる OOB 管理タスクについて説明します。

- 191 ページの「プロビジョニングと設定情報」
- 192 ページの「デバイス管理」

- 193 ページの「グループ管理」
- 194 ページの「警告の通知」

プロビジョニングと設定情報

vPro デバイスや DASH デバイスを検出したり管理したりできるようにするには、事前にそれらのデバイスをプロビジョニングする必要があります。vPro デバイスが、最初にネットワークに接続されたときに自動的にプロビジョニングされなかった場合は、HPCA Console からこれらのデバイスをプロビジョニングできます。

HPCA Console からの vPro デバイスのプロビジョニングは、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「Setting Up vPro and DASH Devices」の章で説明されています。DASH デバイスのみを管理することを選択した場合、このオプションはこのタイプのデバイスに関連しないため、[アウトバンド管理] の下にある [操作] タブには表示されません。

詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「Setting Up vPro and DASH Devices」の章を参照してください。

DASH 設定関連ドキュメント

デバイスに付属のドキュメントに従って、DASH 対応デバイスをプロビジョニングしてください。Hewlett-Packard の DASH 対応デバイスの場合、DASH 設定の情報は、「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC」のホワイト ペーパーに記載されています。

このドキュメントにアクセスするには

1. **http://www8.hp.com/jp/ja/home.html** に移動します。
2. **[サポート & ドライバー]** > **[製品サポート保守情報]** を選択します。
3. この NIC をサポートする製品 (たとえば、dc7900) を入力します。
4. dc7900 モデルの 1 つを選択します。
5. **[マニュアル]** を選択します。
6. ホワイト ペーパーのセクションにスクロールし、「**Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC**」ホワイト ペーパーを選択します。

DASH 設定ユーティリティ

DASH 設定ユーティリティ (BMCC アプリケーション) は、この NIC をサポートする各製品のドライバ セクションにある Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ドライバ Softpaq の一部です。

このユーティリティにアクセスするには

1 **http://www8.hp.com/jp/ja/home.html** に移動します。

2 [**サポート & ドライバー**] > [**ドライバー & ソフトウェア**] を選択します。

3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、dc7900) を入力します。

4 dc7900 モデルの 1 つを選択します。

5 オペレーティング システムを選択します。

6 [ドライバー ネットワーク] セクションにスクロールし、**Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ドライバ**を選択してダウンロードします。

デバイス管理

[デバイス管理] 領域では、複数の OOB デバイスを管理できます。

[操作] タブの [アウトバンド管理] の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。デバイス テーブルのツールバーにあるアイコンを使用して、複数のデバイスに対して次のタスクを実行できます。

- データのリフレッシュ
- デバイス情報のリロード
- デバイスの探索
- デバイスの電源オン / オフおよび再起動
- vPro 警告のサブスクライブ
- vPro デバイスに関する共通ユーティリティの管理
- 選択された vPro デバイスへのシステム防御ポリシーの配布
- 選択された vPro デバイスへのヒューリスティック ワーム封じ込め情報の配布
- 選択された vPro デバイスへのエージェント ウォッチドッグの配布
- 選択された vPro デバイスへのエージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布

個々の OOB デバイスを管理するには、デバイス テーブル内のホスト名のリンクをクリックします。管理ウィンドウが開き、左側のナビゲーション ペインにいくつかのオプションが表示されます。使用可能なオプションは、選択した管理対象デバイスのタイプによって異なります。

詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』のデバイス管理の章を参照してください。

グループ管理

[グループ管理] オプションでは、Client Automation ソフトウェアで定義された vPro デバイスのグループを管理できます。vPro デバイスを含む Client Automation グループに対して OOB 操作を実行できます。vPro デバイスのグループを管理することにより、さまざまな検出、自己回復、および保護タスクを実行できます。これには、電源管理、警告の登録契約のほか、システム防御ポリシー、エージェント ウォッチドッグ、ローカルのエージェント ソフトウェア リスト、およびヒューリスティックの配布が含まれます。

[操作] タブの [アウトバンド管理] の下で、**[グループ管理]** をクリックします。[グループ管理] ウィンドウが表示されます。グループ テーブルのツールバーにあるアイコンから、複数のグループに対して次のタスクを実行できます。

- データのリフレッシュ
- グループ情報のリロード
- グループの電源オン / オフおよび再起動
- vPro 警告のサブスクライブ
- 選択された vPro グループへのエージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布
- vPro デバイス グループのプロビジョニング
- 選択された vPro デバイスへのシステム防御ポリシーの配布および回収
- 選択された vPro グループへのエージェント ウォッチドッグの配布および回収
- 選択された vPro グループへのヒューリスティック ワーム封じ込め情報の配布および回収

掘り下げてグループ内の個々のデバイスを管理するには、テーブルの [説明] 列の下にあるグループ名のリンクをクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが開き、選択されたグループに属するデバイスの一覧が表示されます。グループ内の複数のデバイスまたは個々のデバイスを管理できます。「デバイスの管理」を参照してください。

詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』のグループ管理の章を参照してください。

警告の通知

vPro デバイスの場合、デバイスに警告のサブスクリプションを割り当てていれば、プロビジョニング済みの vPro デバイスによって生成された警告を表示できます。警告の通知を監視すると、ネットワーク上のデバイスの状態についての適切な情報が得られます。

詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』の警告の通知の章を参照してください。

パッチ管理

[操作] タブのパッチ管理ツールを使用して、管理対象デバイスに配布できるパッチ ブリティンのカタログを管理します。

パッチ ライブラリの操作

[パッチ ライブラリ] ページには、HPCA にパブリッシュされたブリティンがリストされます。このページのツールを使用して、ブリティンをインポート、エクスポート、または削除できます。このインポートおよびエクスポートのツールは、たとえばパッチをテスト環境からプロダクション環境に移動するなど、パッチを 1 つの HPCA サーバーから別の HPCA サーバーに移動する場合に便利です。

特定のパッチの設定を表示または変更するには、197 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

表 23　パッチ ライブラリのツール

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – [パッチ ライブラリ] テーブルのデータをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのパッチのリストを作成します。
	サービスのインポート – パッチを HPCA にインポートします。195 ページの「パッチ サービスのインポート」を参照してください。 パッチをインポートしたら、グループまたは特定の管理対象クライアント デバイスをそのサービスに付与できます。次に、パッチをこうしたデバイスに配布できます。
	サービスのエクスポート – パブリッシュされたパッチを**サービス デッキ**と呼ばれるバイナリ ファイル形式でエクスポートします。196 ページの「パッチ サービスのエクスポート」を参照してください。 パッチをエクスポートしたら、そのサービス デッキを別の HPCA サーバーにコピーしてから、そのパッチをインポートできます。
	パッチの削除 – 選択したパッチ (複数も可) を HPCA パッチ ライブラリから削除します。197 ページの「パッチ サービスの削除」を参照してください。

パッチ サービスのインポート

HPCA では、パッチをパッチ ライブラリにインポートできます。パッチをインポートするには、デッキ (つまり xpi ファイルと xpc ファイルと xpr ファイル) および zip ファイルを HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリに配置する必要があります。また、PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.* ファイルもコピーします。これらには、カタログと Agent 情報が格納されています。これらのファイルがコピーされないか、古いファイルがあると、「インポートが失敗しました - ブリティンが最近エクスポートされ、最新の PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.* ファイルがコピーされていることを確認してください。」というメッセージが表示されてブリティンのインポートは失敗します。

デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

これは、テスト環境を構築してある場合に便利です。テスト環境で特定のパッチを承認したら、プロダクション環境の HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにそのブリティンをエクスポートします (「パッチ サービスのエクスポート」

を参照してください)。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのパッチをプロダクション環境のパッチ ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

パッチをインポートするには

1 **[サービスのインポート]** をクリックしてサービス インポート ウィザードを起動します。これで、ServiceDecks ディレクトリにある xpi ファイルのリストが表示されます。

2 ウィザードの手順に従って、サービスをパッチ ライブラリにインポートします。

PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpi を明示的に選択する必要はありません。インポートするブリティンを選択すると、黙示的に選択されます。Agent ファイルまたはカタログ ファイルのみをインポート先サーバーに移動する必要がある場合、PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpi を選択できます。

パッチ サービスのエクスポート

パブリッシュされたブリティンは、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<*InstallDir*>¥Data¥ServiceDecks

パッチをエクスポートするには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするブリティンを選択します。グリッド オプションを使用して、タイプ、名前などに基づいてブリティンを検索します。

2 **[サービスのエクスポート]** をクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、そのブリティンを HPCA Server マシンの ServiceDecks ディレクトリにエクスポートします。

これで、エクスポートされた各ブリティンについて、サーバーの ServiceDecks ディレクトリに次のファイルが作成されます。

- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.*[BULLETIN NAME]*.xpi
- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.*[BULLETIN NAME]*.xpr
- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.*[BULLETIN NAME]*.xpc
- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.*[BULLETIN NAME]*.zip
- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpi

- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpr
- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpc
- PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.zip

メタデータ ベースのパッチ配布モデルでは、この zip ファイルにはゲートウェイ キャッシュにあるバイナリと一部のメタデータ情報が格納されます。これらのバイナリは、エクスポートやインポートの操作中にインポート先サーバーに移動することもできます。Agent とカタログの情報は PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.* ファイルにあります。これらのファイルも明示的にインポート先マシンに移動する必要があります。サービスをエクスポートすると、最新の Agent、カタログなど、探索プロセスに必要な関連ファイルが自動的にエクスポートされます。

インポートの場合、PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.*[BULLETIN NAME]* という語幹を持つすべてのファイルを PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.* とともに別の HPCA Server にコピーして、そのサーバーのパッチ ライブラリにインポートする必要があります。195 ページの「パッチ サービスのインポート」を参照してください。

パッチ サービスの削除

HPCA パッチ ライブラリからパッチを削除するには、[パッチ ライブラリ] ツールバーを使用します。このツールバーを使用してパッチを削除し、そのパッチに設定されているすべての付与資格を削除します。これにより、ゲートウェイ キャッシュの関連バイナリもすべて消去できます。

パッチ ライブラリからパッチを削除するには

1 削除するパッチ (複数も可) を選択します。

2 **[パッチの削除]** ボタンをクリックします。

[パッチの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)

パッチ ライブラリで任意のパッチのブリティン名をクリックして [パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、特定のパッチの次のプロパティを表示します。

- **ブリティン タイプ**
  パッチのタイプ (セキュリティ更新など)。
- **ベンダー**
  ソフトウェア ベンダー (Microsoft など)。

- **ブリティン**
  ベンダーによって割り当てられたブリティン名。一般的にはシーケンス コードです。
- **説明**
  ベンダーがそのブリティンに含めた説明テキスト。
- **ベンダーの公開日**
  このブリティンがベンダーによって最初に公開された日付。
- **ベンダーの改訂日**
  このブリティンがベンダーによって改訂された最新の日付。
- **ブリティン情報**
  ベンダーの Web サイトにあるこのブリティンに関する情報の URL。
- **その他の情報**
  ベンダーの Web サイトにある関連情報の URL。

このウィンドウに表示される情報は読み取り専用であり、変更できません。

[管理] タブから [パッチの詳細] ウィンドウを開いた場合、その他の機能は使用可能です。145 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

取得

[スケジュール] タブを使用して、パッチの取得またはパッチ取得スケジュールの設定を行います。

最新のパッチを効率的に取得するため、パッチ取得スケジュールを 1 日に 1 度だけオフピーク時に実行するよう設定することを推奨します。

[現在のスケジュール] は、現在設定されているパッチ取得スケジュールを示します。

パッチを取得するには

- **[パッチを今すぐ取得]** をクリックして、現在のパッチ取得設定に基づき、パッチを取得します。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに保管されます。
- [パッチ管理] の [[パッチ] タブ] タブで取得したパッチを確認します。

パッチ取得スケジュールを設定するには

1 付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。

— **実行** : 時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを選択します。

— **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。

— **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探索する日を選択します。

— **[現在のサーバー時刻]** は、HPCA Server の現在の時刻を表示します。

2 終了したら、**[保存]** をクリックして、変更を適用します。

[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。

[設定] タブを使用して、取得する Windows パッチおよび HP Softpaq の取得設定を設定します。パッチは、HP および Microsoft から取得します。Softpaq は、HP インスタント サポート技術を活用して取得します。

必須のフィールドにはアスタリスク (*) が付いています。

パッチ取得設定を行うには

1 **[Microsoft ブリティン]** 領域に入力します。

— **[有効]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択して Microsoft ブリティンを取得します。

➤ メタデータを使用したパッチ管理は、デフォルトで Microsoft パッチで有効になっています。この機能によって、パッチを取得するためにかかる時間や Core Configuration Server に対する全体的な負荷が削減されます。詳細については、第 11 章「メタデータを使用したパッチ管理」を参照してください。

— **[取得するブリティン]** テキスト ボックスに、各探索期間にダウンロードするブリティンを入力します。ブリティンの範囲を指定するには、ワイルドカード文字を使用します (MS05* など)。複数のブリティン検索を同時に行うには、カンマで区切ります (MS05*, MS06* など)。

— **[取得する言語]** テキスト ボックスに、ダウンロードするパッチに利用可能な各言語バージョンの言語コードを入力します。次の表を使用して、適切な言語コードを確認します。複数の言語コードはスペースを入れずにカンマで区切ります (en,fr,ja など)。コードは大文字と小文字を区別します。

表 24　言語コード

言語 = コード	言語 = コード	言語 = コード
アラビア語 = ar	フランス語 = fr	ノルウェー語 (ブークモール)= no
中国語 (香港特別行政区)= zh-hk	ドイツ語 = de	ポーランド語 = pl
中国語 (簡体字)= zh-cn	ギリシャ語 = el	ポルトガル語 (ブラジル)= pt-br
中国語 (繁体字)= zh-tw	ヘブライ語 = he	ポルトガル語 (ポルトガル)= pt-pt
チェコ語 = cs	ハンガリー語 = hu	ロシア語 = ru
デンマーク語 = da	イタリア語 = it	スペイン語 = es
オランダ語 = nl	日本語 = ja	スウェーデン語 = sv
英語 = en	日本語 (NEC)= ja-nec	トルコ語 = tr
フィンランド語 = fi	韓国語 = ko	

— **[強制]** ドロップダウン リストで次の場合に **[はい]** を選択します。

  — 前回はある言語をフィルタして取得を実行し、今回は別の言語のブリティンを取得する必要がある場合。

  — 以前に 1 つの製品を指定して取得を実行しており、今回は別の製品に関して同じブリティンを取得する必要がある場合。たとえば、ネットワークに最初は Windows 2000 のコンピュータしかなく、そのオペレーティング システムに関するブリティンを取得したものの、今回は Windows XP のコンピュータもあるため、この新しいオペレーティング システムに関しても同じブリティンを取得するには、**[強制]** を **[はい]** に設定して、製品 {Windows XP*,Windows 2000*} に関して再び取得を実行する必要があります。このオプションのデフォルト値は **[いいえ]** である点に注意してください。

— **[置換]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、bulletins パラメータで指定した古いブリティンを削除してから、それらを再度取得します。このオプションは、**[強制]** オプションで指定した値より優先されます。つまり、**[置換]** を **[はい]** に設定すると、**[強制]** が **[はい]** または **[いいえ]** のいずれかに設定されていても、その取得について指定したブリティンが削除されて再取得されます。

— **[アーキテクチャ]** ドロップダウン リストで、Microsoft パッチの取得のアーキテクチャを選択します。サポートされるアーキテクチャは次のとおりです。

– x86 は 32 ビット Intel アーキテクチャ用です

– x64 は AMD64 または Intel EM64T 用です

– x86 および x64 は、32 ビット Intel アーキテクチャおよび AMD64 または Intel EM64T 用です

2 **[HP Softpaq]** 領域に入力します。

— **[有効]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択して HP Softpaq を取得します。

— **[HP システム ID]** テキスト ボックスで、どのデバイス関連 HP SoftPaq を取得するか決定します。これには、テキスト ボックスに HP システム ID のリストを入力するか、またはテキスト ボックスの右にある **[データの取得]** ボタン をクリックして、HPCA のデバイスに基づいたシステム ID のリストを自動的に作成します。

3 必要な場合は、**[接続の設定]** 領域に入力します。

— ブリティンの取得元の **[Proxy Server のアドレス]** を入力します (`http://proxyserver:8080 /` など)。

— パッチを取得するときに使用する **[プロキシのユーザー ID]** および **[プロキシのパスワード]** を入力します。

➤ パッチ取得は、基本認証で設定されたプロキシ サーバーからしか行えません。

4 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

➤ 最初のパッチ取得は、長時間かかる場合があります。

現在と過去の取得ジョブのステータスを表示するには、**[操作]** タブの **[パッチ管理]** 領域にある **[取得ジョブの表示]** ページに移動します。

同期を実行

この操作によって、パッチ ライブラリに格納されているパッチ情報が SQL データベース内のパッチ情報と同期されます。

この同期は、パッチ取得後、および通常の HPCA 操作で自動的に実行されます。

ただし、カスタマー サポートから手動で同期を実行するように指示される場合があります。

HPCA Core Console を使用して、手動でデータベースを同期できます。

データベースを同期するには

1 [操作] タブから、**[パッチ管理]** タスクを展開し、**[同期を実行]** をクリックします。

2 **[サブミット]** をクリックします。

取得履歴

以前の取得の詳細を表示するには、パッチ取得ステータス ページを選択します。

OS 管理

[操作] タブの OS 管理ツールを使用して、管理対象デバイスに配布できるオペレーティング システムのカタログを管理します。

[OS ライブラリ] ページには、HPCA にパブリッシュされたオペレーティング システムがリストされます。このページのツールを使用して、オペレーティング システムをインポート、エクスポート、または削除できます。ライブラリでは、任意のオペレーティング システムについて配布可能な CD (または DVD) を作成することもできます。

このインポートおよびエクスポートのツールは、たとえば OS をテスト環境からプロダクション環境に移動するなど、オペレーティング システムを 1 つの HPCA サーバーから別の HPCA サーバーに移動する場合に便利です。

特定のオペレーティング システムの設定を表示または変更するには、206 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

表 25　OS ライブラリのツール

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – [OS ライブラリ] テーブルのデータをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのオペレーティング システムのリストを作成します。
	サービスのインポート – オペレーティング システムを HPCA にインポートします。203 ページの「OS サービスのインポート」を参照してください。 オペレーティング システムをインポートしたら、グループまたは特定の管理対象クライアント デバイスをその OS に付与できます。次に、OS をこうしたデバイスに配布できます。
	サービスのエクスポート – パブリッシュされたオペレーティング システムを**サービス デッキ**と呼ばれるバイナリ ファイル形式でエクスポートします。204 ページの「OS サービスのエクスポート」を参照してください。 オペレーティング システムをエクスポートしたら、そのサービス デッキを別の HPCA サーバーにコピーしてから、その OS をインポートできます。
	CD 配布メディアの作成 – OS イメージをダウンロードして、オペレーティング システム配布用の DVD に保存できます。205 ページの「配布メディアの作成」を参照してください。
	OS の削除 – 選択したオペレーティング システムを HPCA OS ライブラリから削除します。204 ページの「OS サービスの削除」を参照してください。

OS サービスのインポート

HPCA では、オペレーティング システムを OS ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリに格納されている必要があります。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

これは、テスト環境を構築してある場合に便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにそのサービスをエクスポートします (OS サービスのエクスポートを参照してください)。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境の OS ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

1 **[サービスのインポート]** をクリックしてサービス インポート ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、サービスを OS ライブラリにインポートします。

ServiceDecks フォルダにある、名前に OS という単語が含まれるサービスのみをインポートできます。例 :

PRIMARY.OS.ZSERVICE.WIN732

OS サービスのエクスポート

パブリッシュされたオペレーティング システムは、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

エクスポートされたサービスは、別の HPCA Server にコピーして、そのサーバーの OS ライブラリにインポートできます (「OS サービスのエクスポート」を参照してください)。

サービスをエクスポートするには

1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートする OS を選択します。

2 **[サービスのエクスポート]** をクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを HPCA Server マシンの ServiceDecks ディレクトリにエクスポートします。

OS サービスの削除

[OS] ツールバーを使用して、HPCA OS ライブラリから OS を削除します。このツールバーを使用してオペレーティング システムを削除し、そのサービスに設定されているすべての付与資格を削除します。

OS ライブラリから OS を削除するには

1 削除するオペレーティング システム (複数も可) を選択します。

2 **[OS の削除]** ボタンをクリックします。

配布メディアの作成

CD 配布メディアの作成ツールを使用すると、イメージをダウンロードしてオペレーティング システムの配布用の DVD に保存できます。

OS ライブラリには、HPCA にパブリッシュされたすべてのオペレーティング システムがリストされます。

DVD 配布のためにオペレーティング システム イメージをダウンロードするには

1 [操作] タブで、**[OS 管理]** > **[CD ライブラリ]** に移動します。

2 OS ライブラリからオペレーティング システムを選択します。

3 **[CD 配布メディアの作成]** ボタンをクリックして CD 配布ウィザードを起動します。

4 要約情報を確認し、**[ダウンロード]** をクリックします。OS イメージのダウンロードがバックグラウンドで開始されます。

5 **[閉じる]** をクリックします。

ダウンロードの進行状況が [OS ライブラリ] に表示されます。現在のステータスを [CD 作成ステータス] カラムに表示するには、**[リフレッシュ]** ボタンをクリックします。

ダウンロードが完了すると、OS イメージはデフォルトで次のディレクトリに格納されます。

`<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks¥CDDeployment`

このディレクトリが空の場合は、リストにあるオペレーティング システムの [CD 作成ステータス] カラムが空白です。

この機能は、通常は複数のイメージを格納するために、DVD で使用するためのものです。複数の CD-ROM または DVD-ROM を同時に使用して、リソースをスパンしないでください。

DVD-ROM は Joliet 形式である必要があります。

[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)

OS ライブラリで任意のオペレーティング システムのサービス ID をクリックして、[OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウを使用して、特定のオペレーティング システムの設定を表示または変更します。

[OS の詳細] ウィンドウでは、次の設定を使用できます。

- **表示名**
  [OS ライブラリ] ページに表示される OS の名前。これは必須のフィールドです。
- **作成者**
  OS の作成者。
- **ベンダー**
  OS のベンダー。
- **Web サイト**
  OS についての情報を参照できる URL。

➤ OS の設定に変更を加えた後は、必ず **[保存]** をクリックしてください。

➤ [管理] タブから [OS の詳細] ウィンドウを開く場合、これらの設定は読み取り専用の形式で表示されます。サービスの設定を変更する場合は、必ず [操作] タブから [OS の詳細] ウィンドウを開いてください。

ただし、[管理] タブから [OS の詳細] ウィンドウを開いた場合、その他の機能は使用可能です。157 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

利用状況管理

[利用状況管理] セクションを使用して、利用状況収集フィルタを設定します。

収集フィルタ

[利用状況の収集] ページを使用して、利用状況収集フィルタの作成および管理を行います。

アプリケーション利用状況データを収集するには、HP Client Automation Standard または HP Client Automation Enterprise が必要です。

利用状況収集フィルタは、利用状況収集エージェントがどの利用状況データをレポートに利用できるようにするかを決定します。利用状況収集エージェントがデバイスに配布されると、全アプリケーションの全利用状況データが収集されローカルに保存されます。作成して有効にした利用状況フィルタによって、HPCA に送信するローカルの利用状況データが決定します。

利用状況収集エージェントがすでに配布された後にフィルタを有効にすると、フィルタで指定され、収集されてローカルに保存されていた利用状況データがすべて HPCA にレポート用に送信されます。

たとえば、利用状況収集エージェントが 5 月に配布され、フィルタが Microsoft Word に対して有効になると、Microsoft Word の利用状況データのすべてが、指定したスケジュールに基づいて HPCA に送信されます。さらに 6 月に、Microsoft Excel に対して新しいフィルタを作成し、有効にすると決めました。次回利用状況データが HPCA に送信されるとき、5 月に初めて利用状況収集エージェントがインストールされた日から 6 月の現在の日付までの、収集されローカルに保存されていた Excel 利用状況データもすべて送信されます。その後、両方のアプリケーションについて、利用状況の送信が続きます。

利用状況データは、12 か月の間、管理対象デバイスでローカルに保存されます。

利用状況収集フィルタの設定手順は、次を参照してください。

- 207 ページの「利用状況収集フィルタの設定」
- 209 ページの「利用状況条件の定義」

利用状況収集エージェントを配布し、収集スケジュールを指定する方法については、アプリケーション利用状況収集ウィザードを参照してください。

利用状況収集フィルタの設定

HPCA にはデフォルトで、あらかじめ設定された収集フィルタが備えられています。これらの収集フィルタは、新しいフィルタを作成する場合にモデルとして使用したり、ニーズに合うように変更したりできます。

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。既存のフィルタを変更するには、[フィルタの詳細] ウィンドウを使用してください。

ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。HP では、利用状況情報が必要なアプリケーションについてのみ、データを収集するフィルタを作成することを強くお勧めします。すべてのアプリケーションの利用状況データを収集するのは避けてください。

収集フィルタを作成するには

1 [収集フィルタ] ページで **[新しいフィルタの作成]** ツールバー ボタンをクリックします。利用状況収集フィルタ作成ウィザードが起動します。

2 ウィザードの手順に従って、新しい収集フィルタを作成し有効にします。

収集フィルタを有効にするには

1 フィルタ リストで、フィルタの説明の左にあるボックスをクリックし、有効にするフィルタを選択します。

2 **[選択したアイテムの有効化]** ツールバー ボタンをクリックします。

3 **[OK]** をクリックして、選択したフィルタを有効にします。ステータス ダイアログに結果が表示されます。

4 **[閉じる]** をクリックして、ステータス ダイアログを閉じます。

既存のフィルタを変更するには

1 フィルタ リストで、フィルタの説明リンクをクリックして、[フィルタの詳細] ウィンドウを開きます。

2 [フィルタ条件] 領域に、利用状況データを収集するときに使用する具体的なフィルタ条件を入力します。選択する条件を決定するには、209 ページの「利用状況条件の定義」を参照してください。

3 **[保存]** をクリックします。

利用状況条件の定義

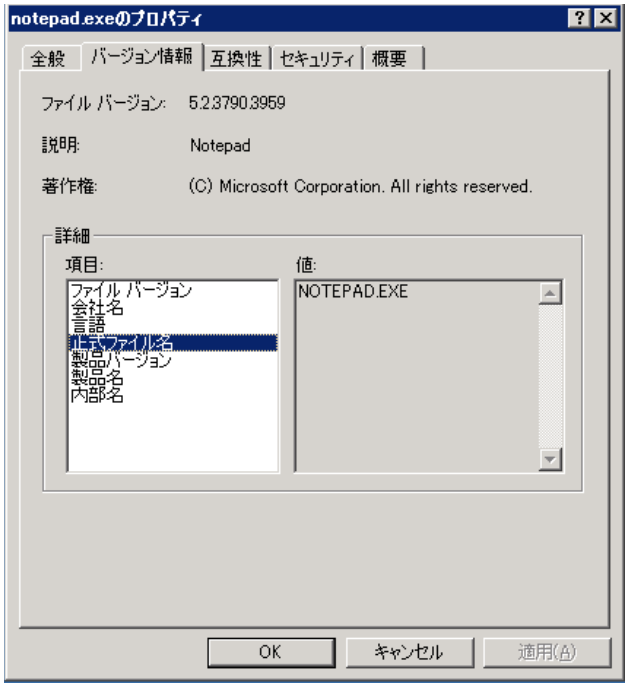
利用状況収集エージェントは、ローカルの各実行可能ファイルのファイル ヘッダー情報を使用して、そのアプリケーションが定義されたフィルタ条件に適合するか判断します。フィルタを定義するときに、ファイル ヘッダー情報を使用して、どの条件を使用するか決定できます。

ファイル ヘッダー情報を決定するには

1 システムの実行可能ファイルを右クリックします。

2 ショートカット メニューから **[プロパティ]** を選択します。

3 [プロパティ] ウィンドウで **[バージョン]** タブをクリックします。



[項目] および **[値]** ボックスに含まれる情報は、利用状況収集エージェントが、利用可能な利用状況データをフィルタするために使用します ([言語] および [内部名] の各項目は、現在サポートされていないため除外されます)。

すべての実行可能ファイルで、ファイル ヘッダーに格納された値のサポートや、正しい取得が行われるわけではありません。

次の例は、特定のアプリケーションについて検索するフィルタの作成方法を説明しています。

notepad.exe の利用状況データにフィルタを設定するには

1 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを起動して、新しい利用状況フィルタを作成します。

2 [プロパティ] の手順で、次のフィルタ条件を定義します。

— **説明** : `Notepad`

— **有効** : はい

— **ファイル / アプリケーション名** : `notepad.exe`

3 利用状況収集エージェントを 1 つ以上の管理対象デバイスに配布します。詳細については、307 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。

利用状況データが毎週 HPCA に送信されます。これには利用状況収集エージェントがインストールされている全デバイスに対するメモ帳の利用状況データのすべてが含まれます。

設定管理

[設定管理] セクションを使用して、設定プロファイルを作成、変更、削除します。設定プロファイルを使用して、使用環境で管理対象デバイスにインストールされているソフトウェアの設定のグループを作成できます。設定プロファイルは、デバイスのカスタマイズした設定で構成されています。これには、アプリケーション、オペレーティング システム、およびハードウェアに関連する設定が含まれています。設定プロファイルを作成または変更することで、目的の製品の設定の制御データを分析およびパラメータ化できます。

設定プロファイルを作成または変更すると、関連するソフトウェアがインストールされている管理対象システムに配布できます。

設定プロファイルを作成して配布すると、ソフトウェアの概要レポートを表示できるようになるため、管理者はこのソフトウェアのランタイム データを視覚的に確認できます。172 ページの「— 設定管理レポート」を参照してください。

このセクションは、次のトピックで構成されています。

- 211 ページの「設定テンプレート」
- 211 ページの「新規プロファイルの作成」
- 213 ページの「既存のプロファイルの変更」
- 213 ページの「プロファイルの削除」

設定テンプレート

設定テンプレートを使用して、設定プロファイルのインスタンスを作成します。設定テンプレートの最新コンテンツは、HP Live Network サイトからダウンロードできます。HPCA および HP Live Network を参照してください。

提供されている任意の設定テンプレートを選択して、追加のプロファイルを作成したり、既存のプロファイルを変更したりできます。HPCA Console の [操作] タブには [設定管理] の下に **[設定テンプレート]** 領域があり、システムで設定可能なプロファイルを持つソフトウェアを確認できます。

新規プロファイルの作成

システムには、設定可能なプロファイルが含まれるソフトウェアの追加プロファイルを作成できます。設定テンプレートは、この目的で提供されています。テンプレートを使用して、関連するソフトウェアの設定プロファイルのインスタンスを作成できます。空白のプロファイルで開始することも、作成するプロファイルと似ているものがあれば既存のプロファイルを複製することもできるため、実行手順は簡単です。

新しい設定プロファイルを作成するには

1 [操作] タブで左側のナビゲーション ペインの [設定管理] を展開し、**[設定テンプレート]** リンクをクリックします。プロファイル設定が可能なソフトウェアは、右側のコンテンツ エリアに表示されます。

2 **[表示名]** カラムで、新しいプロファイルを作成するソフトウェアの名前をクリックします。ウィンドウが開き、次のタブが表示されます。

— プロファイル: 選択したソフトウェアの既存のプロファイルを表示します。このタブで、設定プロファイルを作成、表示、変更、および削除できます。山かっこ (< >) で囲まれて表示されるプロファイル名は、HP が提供するプロファイルです。

➤ これらのプロファイルを変更した場合、次回 HP Live Network サイトから設定コンテンツを更新すると、変更内容が失われることにご注意ください。

— 詳細 : テンプレートの目的と使用方法に関する情報が表示されます。

3 [プロファイル] タブで、[設定プロファイル] テーブルにあるツールバーの **[新しいプロファイルの作成]** をクリックします。設定プロファイル作成ウィザードが開きます。

別の方法として、コピーする既存のプロファイルの隣にあるチェック ボックスをオンにして **[選択したプロファイルをコピー]** をクリックします。この場合、設定プロファイルのコピーおよび変更ウィザードが開きます。このウィザードでは、選択した既存のプロファイルを複製できます。既存のプロファイルをコピーするように選択すると、プロファイルの [表示名] を除き、すべてのフィールドには選択した既存のプロファイルの値が入力されます。

4 どちらのウィザードでも、次の情報を指定します。

— **表示名** : プロファイルの名前を入力します

— **説明** : プロファイルの説明を入力します

5 **[次へ]** をクリックします。ウィザードの次のページが開くと、特定のソフトウェアに固有のプロパティを入力できます。コピーの場合、これらのフィールドは最初から入力されています。必要に応じて、これらのフィールドを変更します。

ソフトウェアのマニュアルを参照して、関連するプロパティ設定の詳細を確認してください。

6 ウィザードに従って、**[作成]** または **[コピー]** をクリックします。新規作成されたプロファイルは、[プロファイル] タブの [設定プロファイル] テーブルにリストされます。[操作] 領域のプロファイルの数も、最新の追加を反映して更新されます。

既存のプロファイルの変更

設定可能なプロファイルがあるソフトウェアのプロパティ設定は、表示して変更できます。

設定プロファイルを変更するには

1 [操作] タブで左側のナビゲーション ペインの [設定管理] を展開し、**[設定テンプレート]** リンクをクリックします。プロファイル設定が可能なソフトウェアは、右側のコンテンツ エリアに表示されます。

2 **[表示名]** カラムで、プロファイルを変更するソフトウェアの名前をクリックします。ウィンドウが開き、[プロファイル] タブで選択したソフトウェアの既存のプロファイルが表示されます。

3 **[表示名]** カラムの [プロファイル] タブで、変更するプロファイルの名前をクリックします。[要約] タブと [プロパティ] タブがあるウィンドウが開き、選択したプロファイルのすべてのプロパティが表示されます。

4 必要に応じて、両方のタブでプロパティの値を変更します。

5 **[保存]** をクリックして、変更を保存します。

プロファイルの削除

必要なくなったソフトウェアの設定プロファイルは削除できます。

設定プロファイルを削除するには

1 [操作] タブで左側のナビゲーション ペインの [設定管理] を展開し、**[設定テンプレート]** リンクをクリックします。プロファイル設定が可能なソフトウェアは、右側のコンテンツ エリアに表示されます。

2 **[表示名]** カラムで、プロファイルを削除するソフトウェアの名前をクリックします。ウィンドウが開き、[プロファイル] タブで選択したソフトウェアの既存のプロファイルが表示されます。

3 [プロファイル] タブで、削除するプロファイル名の隣にあるチェック ボックスをオンにします。

4 ツールバーで **[選択したプロファイルの削除]** をクリックします。ポップアップの確認ウィンドウが開きます。

5 続行する場合は、**[はい]** をクリックします。ウィンドウが開き、操作のステータスが表示されます。

6 **[閉じる]** をクリックして、ステータス ウィンドウを閉じます。削除されたプロファイルは、そのアプリケーションの [設定プロファイル] テーブルにリストされません。[操作] 領域のプロファイルの数は、最新の削除を反映して更新されます。

9 設定

[設定] 領域では、コンソールへのユーザー アクセスの管理、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定、パッチ取得のスケジュールと設定の管理、ハードウェアの管理、および ODBC の設定を行うことができます。

➤ [設定] タブは、管理者ロール グループに属している ユーザーのみ使用できます。

[設定] タブの左側にあるナビゲーション領域のリンクを使用して、さまざまな設定オプションにアクセスします。これらのオプションについては、次のセクションで説明します。

Core の設定オプション

- 216 ページの「ライセンス」
- 217 ページの「Core コンソールのアクセス制御」
- 225 ページの「インフラストラクチャ管理」
- 253 ページの「デバイス管理」
- 258 ページの「パッチ管理」
- 263 ページの「アウトバンド管理」
- 268 ページの「OS 管理」
- 275 ページの「ダッシュボード」
- 274 ページの「利用状況管理」

Satellite の設定オプション

- 216 ページの「ライセンス」
- 216 ページの「アップストリーム サーバー」
- 227 ページの「SSL」
- 221 ページの「Satellite コンソールのアクセス制御」

- 223 ページの「設定」
- 224 ページの「データ キャッシュ」
- 268 ページの「OS 管理」

ライセンス

機能的な HPCA 環境を実現するには、HP によって発行された有効なライセンスが必要です。コンソールのこの領域でライセンス ファイルが保存され、インストールされているライセンスのエディション (Starter、Standard、または Enterprise) が表示されます。このセクションを使用して HPCA ライセンスを確認および更新することもできます。

新しいライセンスを適用するには

1 新しい `license.nvd` ファイルからライセンス情報をコピーして、**[ライセンス データ]** テキスト ボックスに貼り付けます。

> ライセンス ファイルからライセンス情報をコピーする場合、[MGR_LICENSE] という行より前のテキストは含めないでください。含めた場合、ライセンス情報がコンソールから読み取れなくなります。

2 **[保存]** をクリックします。更新されたライセンス情報が、**[現在のライセンス]** の後に表示されます。

アップストリーム サーバー

アップストリーム ホスト サーバーの情報を編集するには、Satellite コンソールの [設定] タブにある **[アップストリーム サーバー]** 領域を使用します。アップストリーム サーバーは、この Satellite が同期を取り、サービスが無効またはリソースが使用不可の場合にリクエストの情報をフェッチするサーバーです。このサーバー間通信には SSL を使用できますが、使用するには、アップストリーム サーバーが SSL リクエストを受信できる必要があります。

アクセス制御

このパネルの管理制御は、Core コンソールと Satellite コンソールで異なります。

- HPCA 管理者は、Core コンソールのアクセス制御を使用してコンソールへのユーザー アクセスを設定および管理できます。詳細については、217 ページの「Core コンソールのアクセス制御」を参照してください。
- HPCA 管理者は、Satellite コンソールのアクセス制御を使用して認証メソッドを選択および設定できます。詳細については、221 ページの「Satellite コンソールのアクセス制御」を参照してください。

Core コンソールのアクセス制御

[アクセス制御] セクションを使用して、一意のカスタム ID とパスワードを持つ内部**ユーザー**のインスタンスを作成します。次に、**ロール** (219 ページの「[ロール] パネル」を参照) をユーザーに割り当てて、ユーザーがアクセスできるコンソールの領域と、許可されている管理タスクを管理できるようにします。

[Users パネル

[Users] パネルで、ユーザー インスタンスを作成してロールを各インスタンスに割り当てます。ロールによって、各ユーザーがアクセスできるコンソールの領域が決まります。

管理ジョブには、ジョブを作成するため使用されたユーザー ID を表示する、**[作成者]** フィールドがあります。表示されるユーザー ID は、この領域で作成されたユーザー ID です。

- インストール時のデフォルト ユーザーとして、**`admin`** がデフォルトのパスワード **`secret`** で用意されています。この「フェイルセーフ」ユーザー アカウントにはコンソールへの完全なアクセス権があり、削除できません。
- コンソールの HPCA ユーザーは、次で説明するように**内部**または**外部**のいずれかになります。
  - **内部**
    [Users] パネルで作成するユーザーは、すべて「内部」ユーザーです。Core コンソールのユーザーを削除および更新できます。

— 外部
Enterprise Edition の場合、HPCA 管理者は外部ディレクトリ (LDAP や Active Directory など) を使用してユーザーを追加したり、アクセス許可や認証情報を設定したりできます。これらの「外部」ユーザーは、Core コンソールでは作成、削除、または更新できません。これを行うには、管理者は LDAP/AD ツールを使用する必要があります。ただし、HPCA 管理者は認証用のディレクトリ ソースを設定できます。このソースは **[Users** パネルに表示されます。**[ソース]** カラムでは、ユーザーの取得元のディレクトリが参照されます。

[Users] パネルを使用すると、次の管理タスクを実行できます。内部ユーザーに対するすべての管理タスクは、Core コンソールで実行できます。外部ユーザーの場合、Core コンソールでは、ロールのみを割り当てできます。

- 218 ページの「ユーザーの管理」
- 220 ページの「ロールの割り当て」

ユーザーの管理

次のタスクを実行し、ユーザーを管理できます。

- 内部ユーザーを作成する (218 ページの「内部ユーザーを作成するには」を参照)。
- 内部ユーザーのプロパティを表示および変更する (219 ページの「ユーザーのプロパティを表示および変更するには」を参照)。
- 内部ユーザーを削除する (219 ページの「内部ユーザーを削除するには」を参照)。
- ユーザーにロールを割り当てる (このセクションの 219 ページの「[ロール] パネル」を参照)。ユーザーには複数のロールを割り当てることができます。
- ユーザーからロールを削除する (このセクションの 219 ページの「[ロール] パネル」を参照)。

内部ユーザーを作成するには

1 **[新しいユーザーの作成]** をクリックして、ユーザー作成ウィザードを起動します。

2 次のフィールドに値を指定します。

— ID: 内部ユーザーの一意の ID を指定します。英数字 (A-Z、a-z、および 0-9) を使用します。アンダースコア (_) も使用できます。

— 表示名 : ユーザーの表示名を指定します。

— 説明 : ユーザーの説明を指定します。これはオプションのフィールドです。

— パスワード : ユーザーのパスワードを指定します。パスワードの作成時は、ASCII 文字のみを使用してください。

➤ *現在のユーザー*のパスワードを変更する場合、自動的にログアウトされます。そのユーザーとして新しいパスワードでログインします。

— パスワードの確認 : パスワードを再度入力します。

3 **[作成]** をクリックします。

ユーザーのプロパティを表示および変更するには

1 内部ユーザーの ID をクリックして、そのプロパティを表示します。

2 [ユーザー プロパティ] ウィンドウで表示名や説明などのユーザーのプロパティを変更して、[パスワードの変更] ウィンドウにアクセスします。

3 **[保存]** をクリックし、変更を確定して保存します。

内部ユーザーを削除するには

リストから内部ユーザーの ID を選択し、**[選択したユーザー]** をクリックします。

➤ *現在のユーザー* は削除できません。

この ID を削除するには、ログアウトして、別の管理者としてログインし直してから削除を実行する必要があります。

[ロール] パネル

さまざまなレベルの管理者権限 (**ロール**) をユーザーに割り当てることができます。ユーザーに付与するアクセスおよび管理のアクセス許可に基づいて、ロールをユーザーに割り当てます。コンソール内のユーザー ロールは次のとおりです。

- **管理者** : このユーザーには Core コンソールへの無制限のアクセス権限があり、すべての管理機能を実行できます。これは、「スーパーセット」ロールで、オペレータ ロールとレポータ ロールのすべての機能と権限が含まれています。

- **オペレータ**：このユーザーは、Core コンソールで管理タスク、操作タスク、およびレポート関連タスクを実行できます。このユーザーは [設定] タブにはアクセスできません。このロールには、レポータ ロールの機能と権限が含まれています。
- **レポータ**：このユーザーは、Core コンソールでレポート データを表示、コンパイル、および印刷できます。このユーザーは、[レポート] タブと [ダッシュボード] タブにのみアクセスできます。

➤ ユーザーには複数のロールを割り当てることができます。

[ロール] パネルを使用すると、次のタスクを実行できます。

- 220 ページの「ロールの割り当て」

ロールの割り当て

ロールをユーザーに割り当てるには

コンソールでは、次の 2 つのいずれかの方法で、ユーザーにロールを割り当てることができます。

- [ロール] パネルで、次の手順を実行します。
  - a テーブルのロールをクリックして [ロール プロパティ] ウィンドウを呼び出します。
  - b **[Users]** タブをクリックすると、このロールに割り当てられているユーザーのリストがタブに表示されます。
  - c ユーザーをロールに割り当てるには、**[このロールにユーザーを追加]** をクリックします。[ユーザーの選択] ウィンドウが開きます。
  - d ユーザーを選択し、**[割り当て]** をクリックします。更新された [ID] カラムに、ロールに割り当てられる残りのユーザーが表示されます。
  - e **[閉じる]** をクリックして、[ロール プロパティ] ウィンドウに戻ります。**[Users** タブに、このロールに割り当てられているユーザーの更新されたリストが表示されます。
- [Users] パネルの使用
  - a テーブルの ID をクリックして [ユーザー プロパティ] ウィンドウを呼び出します。
  - b **[ロール]** タブを選択します。このタブに、ユーザーに現在割り当てられているすべてのロールが表示されます。
  - c **[このユーザーにロールを追加]** をクリックし、[ロールの選択] ウィンドウを起動します。

d ユーザーに割り当てるロールを選択し、**[割り当て]** をクリックします。更新された [ロール] カラムに、ユーザーに割り当てられる残りのロールが表示されます。

e **[閉じる]** をクリックして、[ユーザー プロパティ] ウィンドウに戻ります。[ロール] タブに、ユーザーに現在割り当てられているすべてのロールが表示されます。

ロールをユーザーから削除するには

コンソールでは、次の 2 つのいずれかの方法で、ユーザーからロールを削除できます。

- [ロール] パネルで、次の手順を実行します。

  a テーブルのロールをクリックして [ロ ール プロパティ] ウィンドウを呼び出します。

  b **[Users]** タブを選択すると、このロールに割り当てられているユーザーのリストがこのタブに表示されます。

  c ユーザーをロールから削除するには、ユーザーを選択し、**[このロールから選択したユーザーを削除]** をクリックします。更新された [ID] カラムに、このロールに割り当てられている残りのユーザーが表示されます。

- [Users] パネルの使用

  a テーブルの ID をクリックして [ユーザー プロパティ] ウィンドウを呼び出します。

  b **[ロール]** タブを選択します。このタブに、ユーザーに現在割り当てられているすべてのロールが表示されます。

  c ロールをユーザーから削除するには、ロールを選択し、**[このユーザーから選択したロールを削除]** をクリックします。更新された [ロール] カラムに、ユーザーに現在割り当てられているロールが表示されます。

Satellite コンソールのアクセス制御

HPCA 管理者は、Satellite コンソールの [アクセス制御] セクションで、コンソールのアクセス認証メソッド (**ローカル アカウント**または**ディレクトリ サービス アカウント**) を選択してその設定を行うことができます。

[アクセス制御] セクションの [要約] 領域には、現在有効になっている認証メソッドが表示されます。デフォルト (ローカル アカウント) が表示されます。

認証メソッドを選択および設定するには

1 **[認証の設定]** をクリックします。認証ウィザードが開きます。

2 [サーバー認証メソッドの設定] 領域で、[認証メソッド] ドロップダウンを使用して次のいずれかを選択します。

— **ローカル アカウント** – このメソッドでは、管理者は Satellite コンソールの*管理者*および*オペレータ*ログオン認証情報を設定できます。これらの認証情報によって、コンソールのさまざまな部分へのアクセスが制限されます。これがデフォルトとなります。設定情報については、222 ページの「ローカル アカウントを使用するには」セクションを参照してください。

— **ディレクトリ サービス アカウント** – このメソッドでは、環境内のディレクトリ サービス アカウント (Active Directory など) を使用して管理者認証ができます。設定情報については、222 ページの「ディレクトリ サービス アカウントを使用するには」を参照してください。

3 **[次へ]** をクリックして [設定] 領域に進み、選択したアクセス メソッドの設定を指定します。

ローカル アカウントを使用するには

ローカル アカウントを使用して Satellite コンソールへのアクセスの安全性を確保する場合、Satellite Server をインストールしたらすぐにパスワードを変更します。

1 適切な領域で管理者またはオペレータのコンソールへのアクセスを設定します。

— **管理者**のアクセス許可では、ユーザーはコンソールのすべての領域にアクセスできます。

— **オペレータ**のアクセス許可では、ユーザーのアクセスはコンソールの [操作] 領域に制限されます。

2 **[次へ]** をクリックします。

3 設定が完了したら、**[閉じる]** をクリックします。

次にローカル アカウントを使用して Satellite コンソールにログインするときには、新しいパスワードを使用します。

ディレクトリ サービス アカウントを使用するには

外部ディレクトリ サービス アカウントを使用して、Satellite コンソールへのユーザー アクセスを認証できます。

1 [ディレクトリ サービスの設定] 領域で、次の設定パラメータを指定します。

— **ディレクトリ ホスト** : 認証に使用する外部ディレクトリ サーバーのホスト名または IP アドレスです。

— **ディレクトリ ポート** : 外部ディレクトリ サーバーにアクセスするために使用するポートです。デフォルトは 389 です。

— **ベース DN**: ユーザーのクエリ時に検索を開始するディレクトリのベースオブジェクトです。

たとえば、`dc=europe,dc=acme,dc=com` のようになります。

— **アクセス グループ DN**: 管理者権限で Core コンソールにアクセスできるすべてのメンバーを含むグループ DN です。

— **ディレクトリ ユーザー ID**: ディレクトリ サーバーにアクセスできる有効なユーザー ID です。Core にログオンするユーザーが上記のグループ DN のメンバーであることを検証するために使用されます。デフォルトは administrator です。

— **ディレクトリ パスワード** : 上記のユーザー ID に関連付けられているパスワードです。

2 [LDAP グループ ユーザーのテスト] 領域で、テスト ユーザーの認証情報を入力します。

— **ユーザー名** : 既存のアクセス グループ DN ユーザーのユーザー名です。

— **パスワード** : 上記のユーザー名に関連付けられているパスワードです。

3 **[次へ]** をクリックします。

4 設定が完了したら、**[閉じる]** をクリックします。

これで管理者は、ディレクトリ サービス アカウントの認証情報を使用して Satellite コンソールにサインインできます。

設定

[設定] タブの左側のナビゲーション ペインの [設定] オプションは、Satellite コンソールでのみ使用できます。

設定サービスは、それぞれの付与資格に基づいて HPCA Agent に「モデル」とサービス情報を提供します。エージェントはサーバーに接続して、この情報を取得し、変更内容を反映させます。このサービスが Satellite Server で無効になっている場合、HPCA Agent は別のサーバーを使用して、リクエストした情報を取得する必要があります。この「フォールバック サーバー」の指定は、Configuration Server Database の CLIENT.SAP インスタンスに設定されているユーザーのインフラストラクチャ モデルに組み込む必要があります。

設定サービスを有効にするには、**[有効]** チェック ボックスをオンにして **[保存]** をクリックします。

データ キャッシュ

[データ キャッシュ] 領域は Satellite コンソールでのみ使用できます。

Apache Server キャッシュおよび Proxy Server サービスは、基盤となる HPCA キャッシュ管理サービスを制御します。HPCA キャッシュ管理サービスは、Satellite が同期されているアップストリーム ホストからデータ (ソフトウェア、パッチ、オペレーティング システム、セキュリティ、および監査など) をダウンロードするために使用されます。このページでは、次のことができます。

- この Satellite の Apache Server キャッシュ サービスを有効または無効にする。
- Proxy Server 事前読み込み (スタティック キャッシュ) および Proxy Server ダイナミック キャッシュを有効または無効にする。
- Apache Server キャッシュの制限をメガバイト単位で設定する。

データ キャッシュを設定するには

1. [設定] タブで、**[データ キャッシュ]** をクリックします。
2. 次のオプションを設定します。
   - **[Apache Server キャッシュを有効化]** チェック ボックスをオンにすると、Satellite のデータ サービスが有効になります。これがデフォルトの設定であり、これにより、この Satellite に接続されている HPCA Agent が Satellite データ キャッシュから Patch Manager ゲートウェイ バイナリを受信できるようになります。
   - **[Apache Server キャッシュを有効化]** チェック ボックスをオフにすると、Satellite のデータ サービスが無効になります。
     - アップストリーム ホストと同期しても、Patch Manager ゲートウェイ バイナリはこの Satellite にダウンロードされません。
     - この Satellite に接続されている HPCA Agent からの Patch Manager ゲートウェイ バイナリに対するリクエストは、アップストリーム ホストに渡されます。
   - **[プロキシ サーバーの事前読み込みを有効化 (スタティック キャッシュ)]** チェック ボックスをオンにすると、Satellite のデータ サービスが事前に読み込まれます。これがデフォルトの設定であり、これにより、この Satellite に接続されている HPCA Agent が Proxy Server スタティック キャッシュからリソースを受信できるようになります。

— **[プロキシ サーバーの事前読み込みを有効化 (スタティック キャッシュ)]** チェック ボックスをオフにすると、Satellite のデータ サービスの事前読み込みが無効になります。

  – アップストリーム ホストと同期しても、リソースはこの Satellite にダウンロードされません。

  – Satellite に接続されている HPCA Agent からのリソース リクエストは、**[プロキシ サーバーのダイナミック キャッシュを有効化]** オプションも*同様に* 無効の場合はエラーになります。

— **[プロキシ サーバーのダイナミック キャッシュを有効化]** チェック ボックスをオンにすると、Satellite の Proxy Server ダイナミック キャッシュからのデータ サービスが有効になります。このオプションにより、この Satellite に接続されている HPCA Agent が Proxy Server ダイナミック キャッシュからリソースを受信できるようになります。

— **[プロキシ サーバーのダイナミック キャッシュを有効化]** チェック ボックスをオフにすると、Satellite の Proxy Server ダイナミック キャッシュからのデータ サービスが無効になります。

  Satellite に接続されている HPCA Agent からのリソース リクエストは、**[プロキシ サーバーの事前読み込みを有効化 (スタティック キャッシュ)]** オプションも*同様に*無効の場合はエラーになります。

— **[Apache Server キャッシュの制限 (MB)]** をリソース キャッシュの最大サイズ (メガバイト) に設定します。デフォルトは 40000 MB です。

3 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

[操作] タブがリフレッシュされると、このサービスのステータスが [要約] の下に表示されます。

不要になったファイルの Satellite Server キャッシュをクリーンアップするため、1 日に 1 回 HTCACHECLEAN Windows サービスが自動的に実行されます。この実行間隔は、システムの大部分のパフォーマンスに適しています。

インフラストラクチャ管理

[インフラストラクチャ管理] セクションでは、HPCA インフラストラクチャのさまざまな設定を行うことができます。詳細については、次のセクションを参照してください。

- 226 ページの「プロキシ設定」
- 227 ページの「SSL」
- 228 ページの「データベース設定」

- 228 ページの「Satellite 管理」
- 249 ページの「Live Network」

プロキシ設定

HPCA Core Server と外部のデータ ソースまたは受信者間の、インターネット ベースの通信に使用するプロキシ サーバーの設定を指定するには、[プロキシ設定] 設定ページを使用します。

HTTP 通信と FTP 通信で別々のプロキシ設定を確立できます。HTTP プロキシ サーバーは、Patch Manager の取得、HP Live Network のコンテンツの更新、および特定のダッシュボード ペインで使用される Real Simple Syndication (RSS) フィードに使用されます。これらの HTTP プロキシ設定がないと、たとえば Patch Manager の取得が失敗した場合に、ブリティン、パッチ、および Windows Update Agent (WUA) ファイルなどの関連項目をダウンロードできなくなります。

FTP プロキシ サーバーは、HP Softpaq 取得を実行するために Patch Manager によって使用されます。

プロキシを設定するには

1. **[設定]** タブで、**[インフラストラクチャ管理]** 領域を展開し、**[プロキシ設定]** をクリックします。
2. 設定するプロキシ サーバーのタブを選択します。**[HTTP プロキシ]** または **[FTP プロキシ]** があります。
3. **[有効]** ボックスをオンにします。
4. プロキシ サーバーに関する次の情報を入力します。
   - **ホスト** : プロキシ サーバーのネットワーク アドレスの名前
   - **ポート** : プロキシ サーバーがリスンするポート
   - **ユーザー ID**: プロキシ サーバーで認証が必要な場合のユーザー ID
   - **パスワード** : プロキシ サーバーで認証が必要な場合のプロキシ ユーザーのパスワード
5. **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

SSL

SSL を有効にすると、Core コンソールへのアクセスが保護されます。SSL を有効にすると、コンソールに接続している間に作成されるトランザクションが暗号化されます。

SSL を有効にしてサーバーとクライアントの証明書を定義するには、[SSL] セクションを使用します。

- 227 ページの「SSL サーバー」
- 227 ページの「SSL クライアント」

SSL サーバー

SSL サーバーの証明書は、HPCA Server のホスト名に基づいています。これにより、サーバーで SSL 接続が許可されます。これは、VeriSign など既知の認証局によって署名される必要があります。

HPCA Server の SSL の有効化および設定を行うには

1. HPCA Console の **[設定]** タブをクリックします。
2. 左側のペインで、**[インフラストラクチャ管理]** > **[SSL]** をクリックします。
3. [SSL サーバー] 領域で、**[SSL を有効化]** チェック ボックスをオンにします。
4. **[既存の証明書を使用]** または **[新しい証明書のアップロード]** のいずれかを選択します。

   [新しい証明書のアップロード] を選択した場合、**[ブラウズ]** をクリックして移動し、プライベート キー ファイルとサーバー証明書ファイルを選択します。
5. **[保存]** をクリックします。

SSL クライアント

認証局のファイルには、信頼された認証局の署名入り証明書が含まれています。これにより、HPCA Server は他の SSL 対応サーバーに接続するときに SSL クライアントとして機能できます。サーバーのインストールには、信頼された認証機関のデフォルトのセットが含まれています。これはほとんどの組織において十分な権限を持ちます。

CA 証明書ファイルを定義するには

1. HPCA Console の **[設定]** タブをクリックします。
2. 左側のペインで、**[インフラストラクチャ管理]** > **[SSL]** をクリックします。

3 [SSL クライアント] 領域で、**[ブラウズ]** をクリックして移動し、CA 証明書ファイルを選択します。

4 この証明書ファイルを既存の証明書に追加するのか、または既存の証明書をこの新しいファイルで置き換えるのかを選択します。

5 **[保存]** をクリックします。

データベース設定

Core Server オブジェクトの SQL データベースへの ODBC 接続を設定するには、[データベース設定] を使用します。

前提条件

Core データベースを作成し、そのデータベースの ODBC 接続を定義する必要があります。詳細については、製品マニュアルのインストール手順を参照してください。

メッセージングを設定するには

1 [設定] タブで、**[インフラストラクチャ管理]**、**[データベース設定]** の順にクリックします。

2 次のオプションを設定します。

— **DSN**: Core データベースの DSN を選択します。

— **ユーザー ID**: DSN のユーザー ID を指定します。

— **パスワード** : ODBC ユーザー ID に関連付けられているパスワードを指定します。

— **サーバーのホスト** : データベースをホストするサーバーの名前を指定します。

— **サーバーのポート** : サーバーのポート (デフォルトは 1433) を指定します。

3 **[保存]** をクリックします。

Satellite 管理

[設定] タブにある [インフラストラクチャ管理] の [Satellite 管理] 領域では、HPCA Console から Satellite Server を配布および管理できます。Satellite Server を使用すると、管理対象デバイスにデータ キャッシングなどのリモートサービスを提供することにより、バンド幅を最適化し、ネットワーク パフォーマンスを向上させることができます。

HPCA Standard Editition および Starter Editition の場合、ストリームライン (標準) 配布モードのみを使用できます。このモードでは、Satellite からデータ キャッシング サービスのみが Client Automation Agent に提供されます。

Satellite Server を定義して設定するには、次のタスクを完了します。

1 HPCA デバイス リポジトリにデバイスをインポートします。詳細については、95 ページの「デバイスのインポート」を参照してください。

2 デバイスを Server グループに追加します。

   231 ページの「Satellite Server の追加」を参照してください。

3 Satellite Server コンポーネントをこれらのデバイスに配布します。これにより、データ キャッシングなどのリモート サービスがこれらのデバイスで有効になります。

   233 ページの「Satellite Server コンポーネントのインストール」を参照してください。

4 オプションで、サーバー プールを作成し、サーバーをそれらのプールに割り当てます。

   239 ページの「サーバー プール」を参照してください。

5 ロケーションを作成し、サーバーまたはサーバー プールをそれらのロケーションに割り当てます。

   242 ページの「ロケーション」を参照してください。

6 サブネットを作成し、それらをロケーションに割り当てます。

   246 ページの「サブネット」を参照してください。

管理対象デバイスは、サーバーまたはサーバー プール ロケーションに割り当てられたサブネットに基づいて Satellite Server に接続します。たとえば、あるデバイスがサブネット 208.77.1.0 にあり、そのサブネットを特定のロケーションに割り当てた場合、そのデバイスは、このロケーションに関し、ロケーション内に定義された優先順位に基づいて、割り当てられたサーバーまたはサーバー プールに接続します。

Satellite Server の Proxy Server ダイナミック キャッシュが有効な場合、Agent のデータ リクエストは、Satellite Server 上で自動的にキャッシュされます。Satellite Server は、同期機能を使用して HPCA Core Server 上のすべてのデータを事前入力して生成することもできます。詳細については、236 ページの「Satellite Server のサービス キャッシュの同期」を参照してください。

Satellite Server は、HPCA Core Server からのみ定義および設定できます。別の Satellite Server から行うことはできません。

[Satellite 管理] 領域には、次のタブがあります。

- 230 ページの「サーバー」
- 239 ページの「サーバー プール」

- 242 ページの「ロケーション」
- 246 ページの「サブネット」

サーバー

[Satellite 管理] の **[サーバー]** タブに、Server グループに現在属するすべての Core Server および Satellite Server が表示されます。このタブで、次の 3 種類のビューのいずれかを選択できます。

- Core Server: Core Server のみが表示されます。
- サテライト サーバー : Satellite Server のみが表示されます。
- すべてのサーバー : Core Server および Satellite Server の両方と、手動で Server グループに追加したデバイスおよび以前の製品バージョンからのレガシー プロキシ サーバーが表示されます。

各サーバーのサーバー プロパティ ページを開き、サーバーのプロパティを表示または編集する、割り当てられたロケーションを表示する、サーバー プールの割り当てを表示または編集することができます。

[サーバー] タブのツールバー ボタンを使用すると、Server グループにデバイスを追加して Satellite Server コンポーネントをそれらのデバイスにインストールすることで、追加の Satellite Server を定義できます。Satellite Server は、Server グループに追加されたデバイスであり、Satellite Server コンポーネントがインストールされたサーバーです。

表 26　[サーバー] ツールバー ボタン

ボタン	説明
	[データのリフレッシュ] – サーバーのリストをリフレッシュします。
	[フィルタ入力の表示 / 非表示] – [フィルタ入力の表示 / 非表示] 入力領域は、ユーザーが指定した条件に一致するサーバーのみにサーバーの表示を制限します。
	[サーバーグループにデバイスを追加] – HPCA Satellite Server グループにデバイスを追加します。
	[サーバーグループからデバイスを削除] – HPCA Satellite Server グループからデバイスを削除します。
	[Satellite Server のインストール] – Satellite Server 配布ウィザードを起動し、選択したデバイスに Satellite Server をインストールします。

表 26　[サーバー] ツールバー ボタン

ボタン	説明
	[Satellite Server のアンインストール] – Satellite Server 削除ウィザードを起動し、選択したデバイスから Satellite Server をアンインストールします。
	[選択された Satellite Server のサービス キャッシュの同期] – 選択した Satellite Server のサービス キャッシュを HPCA Core Server と同期させます。
	[選択したデバイスの削除] – HPCA デバイス リポジトリからデバイスを削除します。

サーバーの追加後、オプションでそれらをサーバー プールに割り当てることができます。クライアント デバイスがそれらのサーバーに接続できるようにするには、サーバーまたはサーバー プールをロケーションに割り当てる必要があります。

次のセクションに、サーバーのプロパティ シートと [サーバー] タブのツールバーボタンを使用して実行できる操作の詳細を説明します。

- 231 ページの「Satellite Server の追加」
- 232 ページの「Satellite Server の削除」
- 233 ページの「Satellite Server コンポーネントのインストール」
- 234 ページの「Satellite Server コンポーネントのアンインストール」
- 235 ページの「[サーバーの詳細] ウィンドウ」
- 236 ページの「Satellite Server のサービス キャッシュの同期」
- 238 ページの「サーバーの削除」

Satellite Server の追加

Satellite Server コンポーネントをインストールするには、まずデバイスをサーバー グループに追加する必要があります。Satellite Server として追加するデバイスを選択する場合、次の事項を考慮してください。

- デバイスには、パブリッシュされたサービスを保管するのに十分な領域が必要です。
- デバイスには、高性能の高速ネットワーク カード (データ転送速度 100 MB または 1 GB) が必要です。

- デバイスは、そのネットワークへのダウンロード トラフィックをローカライズするサブネット上に存在する必要があります。

使用する Satellite Server のいずれかでファイアウォールが有効になっている場合は、次のポートを除外する必要があります。

- TCP 139、445、3463、3464、3465、および 3466

注：デフォルトの HPCA ポートは 3466 です。HPCA のインストール時にこのポートをカスタマイズしている場合、使用しているポートが開いていることも確認します。

- UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、TCP ポート 139 と 445、および UDP ポート 137 と 138 を除外できます。

インフラストラクチャ サーバーを Server グループに追加するには

1 [サーバー] ツールバーの **[すべてのサーバー]** ビューで、**[サーバーグループにデバイスを追加]** ツールバー ボタンをクリックします。

[デバイスの選択] ウィンドウが開き、HPCA にインポートされたデバイスのうち、Server グループに属していないすべてのデバイスのリストが表示されます。

2 リストから 1 つ以上のデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。

3 **[閉じる]** をクリックして、[デバイスの選択] ウィンドウを閉じます。

追加されたデバイスは、**[サーバー]** タブの **[すべてのサーバー]** ビューにある **[サーバー]** リストに表示されます。

Satellite Server の削除

デバイスを Satellite Server として管理しない場合、そのサーバーを Server グループから削除できます。

Server グループからデバイスを削除する*前*に、Satellite Server コンポーネントをデバイスから明示的にアンインストールする必要があります。HPCA Satellite Server コンポーネントをアンインストールせずにデバイスを削除した場合、そのデバイスはまだアクティブな Satellite Server であるため、一定時間後自動的に再表示され、Server グループにもメンバーとして属し続けます。234 ページの「Satellite Server コンポーネントのアンインストール」を参照してください。

Server グループからサーバーを削除するには

1 [サーバー] タブで、Server グループから削除するデバイスを選択します。

2 **[サーバーグループからデバイスを削除]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。

3 **[はい]** をクリックして確定します。

選択したデバイスがグループから削除されます。

Satellite Server コンポーネントのインストール

HPCA Satellite Server グループにデバイスを追加したら、そのデバイスに Satellite Server コンポーネントを配布できます。これを行うには、データ キャッシングなどのリモート サービスをそのサーバーで有効にする必要があります。

HPCA Console から Satellite Server コンポーネントをデバイスに配布する場合、Core が次のバックグラウンド プロセスを完了します。

- HPCA Core Server によって、入力した認証情報を使用してデバイスとの接続が確立されます。これらの認証情報で、リモート システムの `IPC$` 共有への管理者アクセスを提供する必要があります。このアクセス レベルが使用環境で使用できない場合、HPCA Console で配布する代わりに、Satellite Server コンポーネントを手動でインストールします。
- HPCA Management Agent がデバイスにまだインストールされていない場合は、Core によってデバイスにインストールされます。
- Management Agent によって Satellite Server コンポーネントが Core Server からダウンロードされ、デバイスにインストールされます。Satellite Server の配布プロセスでは、アップグレードおよび移行のシナリオも処理されます。デバイスに Satellite Server コンポーネントの以前のバージョンがすでにインストールされている場合、そのコンポーネントは自動的に検出され、現在のリリースにアップグレードされ、キャッシュは移行されます。さらに、デバイスに Integration Server ベースの Proxy Server コンポーネントがインストールされている場合、その Proxy Server は停止し、Integration Server ベースの Proxy Server は削除され、Satellite Server コンポーネントがインストールされ、キャッシュは移行されます。
- Management Agent によって、初回セットアップ ウィザードがデバイスで自動的に実行され、[ホスト デバイス] フィールドに Core Server の名前が設定されます。

Satellite Server コンポーネントをインストールするには

1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、Satellite Server リストから 1 つ以上のデバイスを選択します。

2 **[Satellite Server のインストール]** ツールバー ボタンをクリックして、Satellite Server 配布ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスに Satellite Server コンポーネントを配布します。Satellite Server が次の場所にインストールされます。

   SystemDrive:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA

サービスは、同期機能を使用して Satellite Server に事前に読み込めます。詳細については、236 ページの「Satellite Server のサービス キャッシュの同期」を参照してください。

Satellite Server の作成が終了したら、ロケーションを定義し、その後、Satellite Server をこれらのロケーションに割り当てる必要があります。詳細については、242 ページの「ロケーション」を参照してください。

Satellite Server コンポーネントのアンインストール

デバイスを HPCA Satellite Server として機能させない場合、Satellite Server コンポーネントをそのデバイスから削除する必要があります。

Satellite Server コンポーネントをアンインストールするには

1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、Satellite Server リストからデバイスを選択します。

2 **[Satellite Server のアンインストール]** ツールバー ボタンをクリックして、Satellite Server 削除ウィザードを起動します。

3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスから Satellite Server コンポーネントを削除します。

[管理] タブの [ジョブ管理] 領域で、Satellite Server の削除ジョブの進捗状況を確認できます。このジョブが完了したら、このデバイスに Satellite Server コンポーネントがインストールされていないことが Satellite Server リストに示されます。

[サーバーの詳細] ウィンドウ

[サーバーの詳細] ウィンドウにアクセスするには、[サーバー] タブのサーバーリストから任意のサーバー名のリンクをクリックします。

[サーバーの詳細] ウィンドウからは、Satellite Server の詳細情報を表示したり、さまざまなサーバー管理タスクを実行したりできます。[サーバーの詳細] ウィンドウでは、次のタブを使用できます。

- **要約** : [要約] タブには、ベンダー、IP アドレス、オペレーティング システム、HPCA のビルド ID、サービスパックなどのサーバーの詳細が表示されます。
- **プロパティ** : [プロパティ] タブには、サーバーのステータスなどのサーバーのプロパティが表示されます。デフォルトではサーバーは有効化され、クライアント デバイスは解決のためにこのサーバーに接続できます。デバイスがこのサーバーに接続しないようにするには、管理フェーズ中に Satellite Server を無効にできます。
- **キャッシュ** : [キャッシュ] タブの [設定] 領域には、Satellite Server に対するキャッシュの事前読み込みオプションが表示されます。ソフトウェア、パッチ、オペレーティング システムのサービス キャッシュのために Satellite Server を事前に読み込むことができます。**[事前読み込みが有効]** オプションを選択すると、アップストリーム サーバー キャッシュで使用できるファイルが、Satellite Server に事前に読み込まれることが保証されます。Proxy Server ダイナミック キャッシュが有効な場合、Agent にリクエストされたときにファイルは Satellite Server にキャッシュされます。

  [同期] 領域には、サーバーのサービス キャッシュがアップストリーム サーバーと前回いつ同期されたかが表示されます。**[同期]** をクリックすると、Satellite Server コンテンツがアップストリーム ホストと同期します。詳細については、236 ページの「Satellite Server のサービス キャッシュの同期」を参照してください。
- **サーバー プール** : [サーバー プール] タブには、サーバーに対するサーバープールの割り当てが表示されます。このタブのツールバー ボタンを使用し、使用できるサーバー プールに対してサーバーを追加または削除できます。詳細については、239 ページの「サーバー プール」を参照してください。
- **ロケーション** : [ロケーション] タブには、サーバーに割り当てられたロケーションが表示されます。ロケーションの追加および割り当ての詳細については、242 ページの「ロケーション」を参照してください。
- **レポート** : [レポート] タブには、Satellite Server から事前読み込みまたは削除されるサービスに関する事前読み込みの要約が表示されます。事前に読み込まれたサービスのみが表示されます。

- **操作** : [操作] タブには、設定可能な Satellite サービスのステータスと状態が表示されます (215 ページの「Satellite の設定オプション」を参照)。また、アップストリーム ホストなど、サーバーの基本プロパティも表示されます。このタブから、Satellite を同期したり、そのキャッシュをフラッシュしたりできます。このタブにアクセスするには、該当の Satellite Server の有効な HPCA Console ログイン認証情報を入力する必要があります。
- **設定** : [設定] タブでは、215 ページの Satellite の設定オプションのサブセットを設定できます。このタブにアクセスするには、該当の Satellite Server の有効な HPCA Console ログイン認証情報を入力する必要があります。

サーバーのサーバー プールへの追加

選択したサーバーを既存のサーバー プールに割り当てることができます。サーバーをサーバー プールに追加するには、次の手順を完了します。

1. **[Add Server to existing Server Pool]** ツールバー ボタンをクリックします。[Server Pool Selection] ウィンドウが開き、使用可能なサーバー プールが表示されます。
2. サーバーを追加する 1 つまたは複数のサーバー プールを選択します。
3. **[Add Server to Server Pools]** をクリックします。
4. **[閉じる]** をクリックします。

サーバーのサーバー プールからの削除

選択したサーバーを既存のサーバー プールから削除できます。サーバーをサーバー プールから削除するには、次の手順を完了します。

1. サーバーを削除するサーバー プール (複数も可) を選択します。
2. **[Remove Server from the selected Server Pool(s)]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。
3. **[はい]** をクリックして、サーバーを削除します。

Satellite Server のサービス キャッシュの同期

Satellite Server のローカル キャッシュにないリソースをデバイスがリクエストするたびに、データは HPCA Core Server から取得されます。Satellite Server の Proxy Server ダイナミック キャッシュが有効な場合、リクエストされたデータは Satellite Server のキャッシュに格納され、クライアント デバイスに提供されます。

Satellite Server のサービス キャッシュには、管理対象デバイスによって要求されるデータを事前に読み込めます。Satellite Server は、クライアント デバイスから要求されると、データを自動的にキャッシュします。同期機能を使用することで、アップストリーム サーバー上の使用可能なすべてのデータを Satellite Server のキャッシュに事前に読み込めます。

(Satellite Server が配布された後に) [サーバーの詳細] ウィンドウの [キャッシュ] タブを使用して、どのデータを事前に読み込むかを選択できます。

事前読み込みには、大規模なバイナリ ファイルのダウンロードが含まれるため、ネットワークの全体的なパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。可能な限り、最適なネットワーク パフォーマンスが優先事項とならない空き時間に同期を実行するようにしてください。

各サーバーの現在の同期ステータスを表示するには、Satellite Server のリストにある **[前回の同期]** カラムを確認するか、[サーバーの詳細] ウィンドウの [キャッシュ] タブの [同期] セクションを参照してください。**[前回の同期]** 領域では、同期機能がサーバー上で最後にいつ*開始* されたかが記録されます。

Satellite Server の最初の同期が行われると、HPCA Agent ID である RPS_<DEVICENAME> を使用して、管理対象デバイス レポートに新しいエントリが追加されます。このエントリは、特に Satellite Server のサービスの事前読み込みのステータスを表示するために存在し、関連デバイスの詳細なハードウェア情報は含まれていません。

どのデータを事前に読み込むかを選択するには

1. Satellite Server の配布後に、Satellite Server のリストの中からサーバーのリンクをクリックし、**[サーバーの詳細]** ウィンドウを開きます。
2. **[キャッシュ]** タブをクリックします。
3. ドロップダウン リストを使用して、アップストリーム サーバーから事前に読み込めるようにするサービスの有効と無効を切り替えます。デフォルトでは、事前読み込みはすべてのサービスに対して無効になっています。
4. **[保存]** をクリックして、変更を適用します。
5. **[同期]** をクリックし、使用可能なデータを使用して Satellite Server を事前読み込みします。

Satellite Server を同期するには

1. [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] の [Satellite 管理] 領域に移動します。
2. [サーバー] タブで、同期するサーバーを選択します。

3 **[選択された Satellite Server のサービス キャッシュの同期]** ツールバー ボタンをクリックし、HPCA Server の最新データを使用して、選択したすべてのサーバーを更新します。各サーバーに事前に読み込まれている特定のサービスは、各サーバーの [サーバーの詳細] ウィンドウの **[キャッシュ]** タブの設定内容に依存します。

[サーバーの詳細] ウィンドウから Satellite Server を同期することもできます。

Satellite Server のキャッシュ内の事前に読み込まれたサービスの要約を表示するには

[サーバーの詳細] ウィンドウを開き、**[レポート]** タブをクリックします。

[レポート] タブにキャッシュ内で利用できる事前に読み込まれたサービスおよびそれぞれのステータスが表示されます。

[イベント] カラムでは、次のような現在のステータスが説明されます。

- **更新 (事前読み込み)** – サービスは、前回のキャッシュ同期で更新されました。
- **インストール (事前読み込み)** – サービスが正常に事前読み込みされました (初期事前読み込み)。
- **アンインストール (事前読み込み)** – サービスが事前読み込みキャッシュから削除されました。
- **修復 (事前読み込み)** – サービス用のキャッシュは、ファイルが不明であるか無効なファイルを含んでおり、前回の同期で修復されました。

レポートには、事前に読み込まれたサービスのみが表示されます。デフォルトのメソッド (管理対象デバイスによって要求された際に自動的にキャッシュされる) によって Satellite Server に格納されているサービスは、表示されません。

サーバーの削除

デバイスを HPCA デバイス リポジトリに格納するのをやめる場合、そのデバイスを削除できます。対象のデバイスがすでに環境に属していない場合、この操作が必要になることがあります。サーバーが削除されると、サーバーがロケーションまたはサーバー プールに割り当てられていた場合、それらから自動的に削除されます。

デバイスを削除することで、デバイスのインポートが取り消されます。詳細については、95 ページの「デバイスのインポート」を参照してください。

HPCA デバイス リポジトリからデバイスを削除する*前*に、Satellite Server コンポーネントをデバイスから明示的にアンインストールする必要があります。HPCA Satellite Server コンポーネントをアンインストールせずにデバイスを削除した場合、そのデバイスはまだアクティブな Satellite Server であるため、一定時間後自動的に再表示され、Server グループにメンバーとして属し続けます。234 ページの「Satellite Server コンポーネントのアンインストール」を参照してください。

サーバーを削除するには

1 [サーバー] タブで、HPCA リポジトリから削除するデバイスを選択します。

2 **[選択したデバイスの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。

3 **[はい]** をクリックして確定します。

選択したデバイスが HPCA リポジトリから削除されます。

サーバー プール

[Satellite 管理] の [サーバー プール] タブに、環境内で作成されたすべての HPCA サーバー プールが表示されます。サーバー プールはサーバー (Core Server または Satellite Server) をグループにまとめたもので、デバイスはポリシー解決とデータの取得のためにこれらに接続します。サーバーはサーバー プールに割り当てることができ (最大 30 台)、サーバーとサーバー プールは、クライアント デバイスがそれらのサーバーに接続できるようにするにはロケーションに割り当てる必要があります。

サーバー プールは、クライアント接続のソフトウェア負荷分散を実行するために使用されます。クライアント接続を処理するためのサーバー群の優先順位が等しい場合、これらのサーバーは 1 つのサーバー プールにグループ化し、ロケーションに割り当てることができます。クライアントはサーバー プール内のサーバーにランダムに接続するため、プール内のサーバー間で負荷が分散されます。たとえば、米国の環境内に 3 台の Satellite Server があり、それらは特定のロケーション内にあるクライアント デバイスから同じ優先順位で接続される必要がある場合、これらのサーバーは US サーバー プールにグループ化し、そのロケーションに割り当てることができます。

デフォルトでは、HPCA Core Server を含む HPCA Core Server Server Pool がシステムにインストールされます。このサーバー プールを削除することはできません。

サーバー プールのプロパティ シートを使用し、サーバー プールのプロパティを表示または編集できます。

[サーバー プール] タブのツールバー ボタンを使用し、サーバー プールを追加または削除できます。

表 27　[サーバー プール] のツールバー ボタン

ボタン	説明
	[データのリフレッシュ] – サーバー プールのリストをリフレッシュします。
	[フィルタ入力の表示 / 非表示] – [フィルタ入力の表示 / 非表示] 入力領域は、ユーザーが指定した条件に一致するサーバー プールのみにサーバー プールの表示を制限します。
	[新しいサーバーツールの作成] – サーバー プール作成ウィザードを起動します。
	[選択したサーバーツールの削除] – 選択したサーバー プールを削除します。

次のセクションに、サーバー プールのプロパティ シートと [サーバー プール] タブのツールバー ボタンを使用して実行できる操作の詳細を説明します。

- 240 ページの「新しいサーバーツールの作成」
- 241 ページの「サーバー プールの削除」
- 241 ページの「[サーバープールの詳細] ウィンドウ」

新しいサーバーツールの作成

サーバー プールを作成し、Core Server または Satellite Server をそれらに追加し、データとポリシー解決のために Agent が接続できるサーバーのグループを作成できます。

新しいサーバー プールを作成するには

1. **[新しいサーバーツールの作成]** ツールバー ボタンをクリックして、サーバープール作成ウィザードを起動します。
2. ウィザードの手順に従って、新しいサーバー プールを作成します。

   [サーバー プール] タブのサーバー プールリストにサーバー プールが追加されます。

サーバー プールの削除

サーバー プールが必要なくなったら削除できます。

サーバー プールを削除するには

1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、サーバー プールリストから削除するサーバー プールを選択します。

2 **[選択したサーバーツールの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。

3 **[はい]** をクリックして確定します。

選択したサーバー プールが [サーバー プール] タブのサーバー プールリストから削除されます。

[サーバープールの詳細] ウィンドウ

[サーバープールの詳細] ウィンドウにアクセスするには、[サーバー プール] タブのサーバー プールリストから任意のサーバー プール名のリンクをクリックします。

[サーバープールの詳細] ウィンドウの任意のタブから、サーバー プールの詳細情報を表示したり、さまざまなサーバー管理タスクを実行したりできます。[サーバープールの詳細] ウィンドウでは、次のタブを使用できます。

- **プロパティ** : [プロパティ] タブには、そのサーバー プールを作成したときにサーバー プール作成ウィザードで指定したプロパティ情報が表示されます。このタブでプロパティを編集できます。
- **サーバー** : [サーバー] タブには、そのサーバー プールに現在割り当てられているサーバーが表示されます。このタブのツールバー ボタンを使用し、このサーバー プールでサーバーを追加または削除できます。

サーバーのサーバー プールへの追加

サーバーをサーバー プールに追加するには、次の手順を完了します。

1 **[Add Servers to Server Pool]** ツールバー ボタンをクリックします。[Server Selection] ウィンドウが開き、使用可能なサーバーが表示されます。

2 このサーバー プールに追加する 1 台または複数のサーバーを選択します。最大 30 台までのサーバーをサーバー プールに割り当てることができます。

3 **[サーバーの追加]** をクリックします。

4 **[閉じる]** をクリックします。

[サーバー] タブに表示されるように、選択したサーバーがサーバー プールに割り当てられます。

サーバーのサーバー プールからの削除

サーバーをサーバー プールから削除するには、次の手順を完了します。

1 このサーバー プールから削除するサーバー (複数も可) を選択します。

2 **[Remove the Selected Server(s) from this Server Pool]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。

3 **[はい]** をクリックして、サーバーを削除します。

[サーバー] タブに表示されるように、選択した Server がサーバー プールから削除されます。

ロケーション

[ロケーション] タブを使用して、HPCA インフラストラクチャの既存のロケーションを表示したり、新しいロケーションを追加したりします。新しいロケーションを追加する場合、このロケーションを構成するサブネットを定義し、サーバーまたはサーバー プールの順序付けられたセットにロケーションを割り当てます。ポリシーの解決とデータ リソースの取得のため、管理対象デバイスは、ロケーションへのサブネット割り当てと、サーバーまたはサーバー プールの優先順位に基づいて Satellite Server に接続します。

[ロケーション] タブのツールバー ボタンを使用し、ロケーションを追加または削除できます。

表 28　[ロケーション] ツールバー ボタン

ボタン	説明
	[データのリフレッシュ] – ロケーションのリストをリフレッシュします。
	[フィルタ入力の表示 / 非表示] – [フィルタ入力の表示 / 非表示] 入力領域は、ユーザーが指定した条件に一致するロケーションのみにロケーションの表示を制限します。
	[新しいロケーションの作成] – ロケーション作成ウィザードを起動します。
	[選択したロケーションの削除] – 選択したロケーションを削除します。

ロケーション リストには、説明や地理的な情報など、HPCA インフラストラクチャ内の各ロケーションに関する情報が含まれます。

次のセクションに、ロケーション プロパティ シートと [ロケーション] タブのツールバー ボタンを使用して実行できるタスクの詳細を説明します。

- 243 ページの「新しいロケーションの作成」
- 243 ページの「ロケーションの削除」
- 244 ページの「[ロケーションの詳細] ウィンドウ」

新しいロケーションの作成

新しいロケーションを作成するには、サブネットと、各ロケーションに対するサーバーまたはサーバー プールの順序付けられたセットを定義します。

新しいロケーションを作成するには

1. **[新しいロケーションの作成]** ツールバー ボタンをクリックして、ロケーション作成ウィザードを起動します。
2. ウィザードの手順に従って、新しいロケーションを作成します。

   [ロケーション] タブのロケーション リストにロケーションが追加されます。

ロケーションの削除

ロケーションが必要なくなったら、HPCA インフラストラクチャから削除できます。

ロケーションを削除するには

1. 左のカラムのチェック ボックスを使用して、ロケーション リストから削除するロケーションを選択します。デフォルトのロケーションを削除することはできません。さらに、ロケーションを削除する場合、そのロケーションに割り当てられている任意のサブネットは、デフォルトのロケーションに再割り当てされます。
2. **[選択したロケーションの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。
3. **[はい]** をクリックして確定します。

   選択したロケーションが [ロケーション] タブのロケーション リストから削除されます。

[ロケーションの詳細] ウィンドウ

[ロケーションの詳細] ウィンドウにアクセスするには、[ロケーション] タブのロケーション リストから任意のロケーション名のリンクをクリックします。

[ロケーションの詳細] ウィンドウの任意のタブから、ロケーションの詳細情報を表示したり、さまざまなサーバー管理タスクを実行したりできます。

- **プロパティ** : [プロパティ] タブには、そのロケーションを作成したときにロケーション作成ウィザードで指定したプロパティ情報が表示されます。このタブでプロパティを編集できます。
- **接続**: [接続] タブには、ロケーションに対する現在のサーバーまたはサーバー プールの接続が表示されます。ここで接続を追加、インポート、および削除できます。このロケーションに割り当てられたサブネットに属するデバイスは、ポリシー解決およびリソースの取得のため、指定された優先順位でサーバーまたはサーバー プールに接続します。[順序] カラムに、サーバーまたはサーバー プールが接続される優先順位が示されます。[再順序] カラムの矢印を使用すると、接続の順序を変更できます。
- **サブネット**: [サブネット] タブには、そのロケーションに現在割り当てられているサブネットが表示されます。このタブのツールバー ボタンを使用し、ロケーションに追加のサブネットを割り当てる、またはサブネットを別のロケーションに再割り当てすることでサブネットをロケーションから削除できます。
- **デバイス**: [デバイス] タブには、そのロケーションにあるデバイスが表示されます。このタブは表示専用です。

ロケーションへの接続の追加

新しい接続をロケーションに追加できます。Agent 接続は、接続先として定義したサーバーまたはサーバー プールからのリソースを使用します。接続をロケーションに追加するには、次の手順を完了します。

1. **[接続の追加]** リンクをクリックします。[ロケーション接続の選択] ウィンドウが開きます。
2. このロケーションに割り当てるリソースを使用可能なタイプから選択します。
3. **[接続の追加]** をクリックします。
4. **[保存]** をクリックします。

   [接続] タブに表示されるとおり、ロケーション リストに新しい接続が追加されます。

ロケーションへの接続のインポート

既存のロケーションから接続をインポートできます。ロケーションに対して定義された既存の接続は、接続のインポート時に削除されます。接続をロケーションにインポートするには、次の手順を完了します。

1 [接続] タブをクリックします。

2 **[接続のインポート]** をクリックします。[ロケーションの選択] ウィンドウが開きます。

3 インポートする接続があるロケーションを選択します。

4 **[接続のインポート]** をクリックします。

5 **[保存]** をクリックします。

[接続] タブに表示されるとおり、インポートされた接続がロケーションに追加されます。

ロケーションへの追加のサブネットの割り当て

追加のサブネットをロケーションに割り当てるには、次の手順を完了します。

1 [サブネット] タブをクリックします。

2 **[このロケーションに追加のサブネットを割り当て]** ツールバー ボタンをクリックします。[サブネットの選択] ウィンドウが開き、そのロケーションにまだ割り当てられていないサブネットが表示されます。

3 このロケーションに割り当てる 1 つまたは複数のサブネットを選択します。

4 **[ロケーションにサブネットを割り当て]** をクリックします。

5 **[閉じる]** をクリックします。

[サブネット] タブに表示されるように、選択したサブネットが現在のロケーションに割り当てられます。

異なるロケーションへのサブネットの再割り当て

選択したロケーションのサブネットを異なるロケーションに再割り当てできます。異なるロケーションにサブネットを再割り当てするには、次の手順を完了します。

1 [サブネット] タブをクリックします。

2 異なるロケーションに割り当てるサブネット (複数も可) を選択します。

3 **[選択したサブネットを別のロケーションに割り当て]** ツールバー ボタンをクリックします。[ロケーションの選択] ウィンドウが開き、環境内の他の既存のロケーションが表示されます。

4 選択したサブネットを再割り当てするロケーションを選択します。

5 **[ロケーションにサブネットを割り当て]** をクリックします。

選択したサブネットが、選択したロケーションに再割り当てされました。

サブネット

HPCA に認識されているサブネットは、[サブネット] タブに表示されます。HPCA Agent はクライアント接続中にその Agent のサブネット設定を使用します。これにより、環境内のサブネットが自動的に検出されて [サブネット] タブに表示されます。サブネットは、247 ページの「新しいサブネットの作成」に記載されているように、手動で作成することもできます。

サブネットは IP ネットワーク空間の下位の区分であり、ネットワーク アドレス (192.168.1.0 など) とサブネット マスク (255.255.255.0 など) から構成されます。HPCA では、サブネットは Classless Inter-Domain Routing (CIDR) 表記で表されることがよくあります。CIDR 表記では、前述の例は 192.168.1.0/24 と表記されます。すべての HPCA サブネットは、単一のロケーションに割り当てられます。通常、1 つのロケーションは複数のサブネットを扱います。たとえば、多数の Colorado サブネットを 1 つの Colorado ロケーションにグループ化できます。特定のサブネットに属するデバイスは、ポリシー解決とデータ取得のために、そのサブネットの割り当てロケーションと関連付けられたサーバーとサーバープールに接続します。

[サブネット] タブを使用して、サブネット プロパティの表示と編集、サブネットの作成と削除、サブネットのロケーションへの割り当てが実行できます。

[サブネット] タブのツールバー ボタンを使用し、サブネットの追加および削除を行えます。

表 29　[サブネット] ツールバー ボタン

ボタン	説明
	[データのリフレッシュ] – サブネットのリストをリフレッシュします。
	[フィルタ入力の表示 / 非表示] – [フィルタ入力の表示 / 非表示] 入力領域は、ユーザーが指定した条件に一致するサブネットのみにサブネットの表示を制限します。
	[新しいサブネットの作成] – サブネット作成ウィザードを起動します。
	[選択したサブネットの削除] – 選択したサブネットを削除します。

次のセクションに、サブネット プロパティ シートと [サブネット] タブのツールバー ボタンを使用して実行できるタスクの詳細を説明します。

- 247 ページの「新しいサブネットの作成」
- 248 ページの「サブネットの削除」
- 248 ページの「[サブネットの詳細] ウィンドウ」

新しいサブネットの作成

サブネットはデバイス接続に基づいて自動的に検出されますが、手動で作成することもできます。手動でサブネットを作成し、そのサブネットを HPCA での管理のために準備しておくことができます。サブネットを手動で作成することにより、Agent がそのサブネットにインストールされる前に、サブネットを特定のロケーションに割り当てることができます。後で Agent がサブネットにインストールされたときに、それらは該当するロケーションと関連付けられた状態になります。

サブネットの作成処理の一環として、サブネットを地域のロケーションに割り当てます。サブネット割り当てによって特定のサブネットに属するデバイスは、ポリシー解決とデータ取得のために、そのロケーションと関連付けられたサーバーとサーバー プールに接続します。

次に、サブネットの手動での作成方法の手順を示します。

新しいサブネットを作成するには

1 **[新しいサブネットの作成]** ツールバー ボタンをクリックして、サブネット作成ウィザードを起動します。

2 ウィザードの手順に従って、新しいサブネットを作成します。

[サブネット] タブのサブネット リストにサブネットが追加されます。

サブネットの削除

環境内のネットワーク設定の変更に伴い、サブネットが必要なくなったときは削除できます。

デバイス接続に基づき、サブネットは即時に再検出されるため、アクティブなデバイスを含むサブネットを削除することはできません。そうしたサブネットを削除しようとすると、そのサブネットはリストにまだ表示されますが、デフォルトのロケーションに再割り当てされます。

サブネットを削除するには

1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、サブネット リストから削除するサブネットを選択します。

2 **[選択したサブネットの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。確認のためのポップアップ ウィンドウが開きます。

3 **[はい]** をクリックして確定します。

選択したサブネットが [サブネット] タブのサブネット リストから削除されます。

[サブネットの詳細] ウィンドウ

[サブネットの詳細] ウィンドウにアクセスするには、サブネット リストの [サブネット] カラムのサブネット リンクをクリックします。

[サブネットの詳細] ウィンドウの任意のタブから、サブネットの詳細情報を表示できます。

- **プロパティ**: [プロパティ] タブには、そのサブネットを作成したときにサブネット作成ウィザードで指定した、または Agent 接続に基づいて自動的に特定されたプロパティ情報が表示されます。このタブでプロパティを編集できます。

- **デバイス** : [デバイス] タブには、選択されているサブネットにあるデバイスがすべて表示されます。このタブは表示専用です。

Live Network

HP Live Network コンテンツ サーバーとの通信に必要な Live Network 設定は、[設定] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域で設定します。249 ページの「HP Live Network サーバーへの接続の設定」を参照してください。

Live Network の更新は、[操作] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域で設定します。183 ページの「Live Network」を参照してください。

HP Live Network サーバーへの接続の設定

HP Live Network から最新のコンテンツを自動的にダウンロードし、HP Live Network Patch Manager アナウンスメント のダッシュボード ペインの RSS フィードを確立するために使用する接続を設定するには、Live Network 設定を使用します。これには、次の項目が含まれています。

- 最新のスキャナおよびデータをダウンロードするために使用する HP Live Network コンテンツ サーバーの URL
- HP Passport ログイン認証情報です。

HP Live Network コンテンツ サーバーでは、HP Passport 認証を使用してセキュリティと利便性が確保されます。HP Passport は、1 つのユーザー ID とパスワードを使用して HP Passport に対応するすべての Web サイトに登録できるシングル サインイン サービスです。HP Passport プロファイルをセットアップするには、次のサイトに移動します。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html（英語サイト）

HP Passport プロファイルに、HPCA サポート契約に関連付けられている 12 桁の Service Agreement Identifier (SAID) が含まれていることを確認してください。HP Live Network コンテンツ サーバーにアクセスできるように、この SAID には HP BSA Essentials に対する付与資格が含まれている必要があります。サポートについては、HP Software の営業担当者にお問い合わせください。

このページで入力したパスワードは暗号化されます。

保存する前に設定情報をテストできます。テストをリクエストすると、HPCA Console は HP Live Network コンテンツ サーバーへの接続を試行します。接続に成功すれば、設定情報は有効です。詳細については、251 ページの「Live Network の設定のテスト」を参照してください。

HP Live Network の接続設定を指定するには

1 [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。

2 次の情報を指定します。アスタリスク (*) の付いているパラメータはすべて必須です。

— **HP Live Network ユーザー ID** — HP Passport のユーザー ID です。

— **HP Live Network パスワード** — HP Passport のパスワードです。

— **HP Live Network コンテンツの URL** — 脆弱性定義とスキャナの HP Live Network コンテンツ サーバーの場所です (URL はデフォルトで設定されています)。

— **HP Live Network コネクタ** — HPCA Core をホストするシステムの Live Network コネクタ実行可能ファイルへのパスです (パスはデフォルトで設定されています)。

詳細については、85 ページの「HP Live Network コネクタのダウンロード」を参照してください。

3 指定した設定をテストするには、**[テスト]** をクリックします。詳細については、251 ページの「Live Network の設定のテスト」を参照してください。

4 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

- テストが成功しても、その設定は HPCA Console では自動的に保存されません。設定を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックする必要があります。
- このページから離れると、**[保存]** をクリックする前にテキスト ボックスに入力した情報はすべて失われます。情報を保存する場合は、必ず **[保存]** をクリックしてください。
- **[リセット]** ボタンを使用して、最後に保存した設定に戻すことができます。

Live Network の設定のテスト

Live Network を設定する場合、保存する前に、設定が機能するかどうかをテストできます。

テストを実行するには、ページの右下隅にある **[テスト]** ボタンをクリックします。HPCA Console では、まず必要なすべての設定が指定されていることと、すべての設定の形式が正しいことが確認されます。その後で、次のアクションを実行します。

HPCA Console から HP Live Network コンテンツ サーバーへの接続を試行して、指定されているユーザー名とパスワードを使用してログインします。[インフラストラクチャ管理] 設定領域の [プロキシ設定] ページに表示されるプロキシ情報が使用されます。

ネットワーク トラフィックやその他のパラメータによって異なりますが、このテストは最大で 3 分かかります。テストを続行するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。続行する場合、**[はい]** をクリックします。

テストが完了すると、[テスト結果] ダイアログ ボックスにテストの結果が表示されます。次の表に、表示される結果と各結果の意味を示します。

表 30　Live Network の設定のテスト結果

アイコン	結果	説明と推奨アクション
	テストは成功しました。	すべての設定が有効です。設定を保存してください。
	テストに失敗しました。	テストが失敗する一般的な理由を次にいくつか挙げます。 • 必要な設定が見つからない。 • 無効な形式で設定が指定されている (無効な URL またはパス名など)。 • 設定のスペルに誤りがある。 • HP Live Network コンテンツ サーバーのログイン認証情報が無効 (登録の期限切れなど)。

表 30　Live Network の設定のテスト結果

アイコン	結果	説明と推奨アクション
	不明	この結果は、必ずしも設定情報が無効であることを意味しているわけではありません。これは、テストを完了できなかったということだけを表しています。 たとえば、HPCA Console が HP Live Network コンテンツ サーバーに 3 分以内に接続できず、テストがタイムアウトした場合などが該当します。これは、次のような理由で発生します。 • サーバーが使用できない。 • ネットワークトラフィックによって接続が妨げられる。 • ファイアウォールによって接続がブロックされる。 また、接続がプロキシ サーバー経由の場合に指定したプロキシ情報が正しくなかったり、プロキシ サーバーによって接続がブロックされていたりすると、この結果となることがあります。

失敗または不明瞭なテスト結果のトラブルシューティングを行うには、タブですべての設定のスペルおよび形式を確認します。エラーがないかどうか `vms-server.log` ファイルも確認します。

テストが成功していても、設定を保存するには **[保存]** ボタンをクリックする必要があります。設定は HPCA Console によって自動的に保存されません。

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、警告オプションおよび Trusted Platform Module (TPM) を設定します。

次のセクションでは、利用可能なデバイス管理オプションについて説明します。

- 253 ページの「警告中」
- 257 ページの「Trusted Platform Module」

警告中

[警告中] セクションを使用して、CMI と S.M.A.R.T. の警告およびレポート オプションを設定します。

- 253 ページの「CMI」
- 256 ページの「S.M.A.R.T.」

CMI

CMI Softpaq は、HPCA Agent 配布の一部として、各 HP ターゲット デバイスにインストールされます。HP Client Management Interface(CMI) は、企業管理者や IT プロフェッショナルに、HP ビジネスクラス デスクトップ、ノートブックおよびワークステーションに対する高レベルの管理システムを提供します。

CMI のハードウェア固有の情報がキャプチャされ、レポートに利用できます。[レポート] タブの [表示オプション] セクションで **[HP 固有のレポート]** レポート ビューを使用して、CMI ハードウェア関連レポートを作成します。(CMI 関連のレポート オプションを表示するには、**[インベントリ管理レポート]**、**[ハードウェア レポート]**、**[HP 固有のレポート]** の順で選択します)。

次のハードウェア関係の警告が、HP CMI および S.M.A.R.T. ドライブ警告監視を使用してレポートされます :

表 31　HP CMI および S.M.A.R.T. Runtime 警告

Runtime 警告	デスクトップ	ワークステーション	ノートブック
BIOS 設定の変更	x	x	x
BIOS 設定のセキュリティ	x	x	x
シャーシに対する異物進入	x	x	
ファンの不調	x	x	
ファン正常 *	x	x	
温度の警告	x	x	
温度の重要	x	x	
温度正常 *	x	x	

* ファンの不調または温度の警告 / 重要警告がない間、管理コンソールによって間接的に検出できます。

表 32　HP CMI および S.M.A.R.T. エラー後警告

エラー後警告	デスクトップ	ワークステーション	ノートブック
101 オプション ROM チェックサム エラー	x	x	
163 時刻および日付が設定されていない	x	x	
164 メモリ サイズ エラー	x	x	
214 DIMM 設定の警告	x	x	
511 CPU ファンが検出されない	x	x	

表 32　HP CMI および S.M.A.R.T. エラー後警告

エラー後警告	デスクトップ	ワークステーション	ノートブック
512 リア シャーシ ファンが検出されない	x	x	
513 フロント シャーシ ファンが検出されない	x	x	
515 電源ファンが検出されない	x	x	
912 コンピュータ カバーが取り除かれている	x	x	
917 フロント オーディオが接続されていない	x	x	
918 フロント USB が接続されていない	x	x	
1720 S.M.A.R.T. ハード ドライブが差し迫ったエラーを検出	x	x	
1801 マイクロコード更新エラー	x	x	

CMI に関する詳細は、次を参照してください。

http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/cache/284014-0-0-225-121.html

[CMI] タブを使用して、HP CMI 設定を変更します。変更した設定は、管理対象のクライアントが次に HPCA インフラストラクチャに接続したときに、有効になります。

CMI は、特定の HP デバイス モデルでしか互換性がありません。互換性に関する情報は、デバイスの説明を参照してください。

CMI を設定するには

1. HPCA Console で、**[設定]** タブをクリックし、**[デバイス管理]** を選択します。
2. **[CMI]** タブをクリックします。

3 管理対象 HP デバイスからキャプチャしたクライアント警告についてレポートするには、**[クライアント警告のレポート]** ドロップダウン リストから **[有効]** を選択します。警告レポートはデフォルトでは無効になっています。[有効] を選択すると、[レポートする最低の重大度] ドロップダウン リストが使用できるようになります。

4 レポートする最低の警告重大度を選択します。

5 管理対象 HP デバイスのクライアント警告を有効にするには、**[クライアント警告の表示]** ドロップダウン リストから **[有効化]** を選択します。警告はデフォルトでは無効です。[有効化] を選択すると、[表示する最低の重大度] ダイアログと [警告ウィンドウのタイムアウト(秒)] ダイアログが使用できるようになります。

6 クライアント デバイスに表示する最低の警告重大度を選択します。

7 警告をクライアント デバイスに表示する秒数を入力します。デフォルトでは、警告は 5 秒間表示されます。

8 **[保存]** をクリックします。

S.M.A.R.T.

Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) とは、コンピュータのハードディスクの監視システムで、信頼性のさまざまなインジケータについて検出およびレポートを行い、ドライブの問題に対する早期警告システムとして働きます。これらのイベントの検出は、Client Automation Management Agent の一部として、表示とレポートの両方の目的で有効化することができます。[設定] タブの [ハードウェア管理] 領域を使用して、S.M.A.R.T. 監視設定を設定します。S.M.A.R.T. 監視は、デフォルトでは無効です。

S.M.A.R.T. 監視の有効化および設定を行うには

1 HPCA Console で、**[設定]** タブをクリックし、**[ハードウェア管理]** を選択します。

2 **[S.M.A.R.T.]** タブをクリックします。

3 **[S.M.A.R.T 監視の有効化]** ドロップダウン リストを使用し、**[有効] を選択します。**S.M.A.R.T. 監視は、デフォルトでは無効です。

4 **[クライアント警告の表示]** ドロップダウン リストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント警告の有効 / 無効を切り替えます。警告はデフォルトでは無効です。クライアント警告を有効化すると、管理対象デバイスでドライブに関する問題が検出されると、そのデバイス上に警告ウィンドウが表示されます。

5 **[クライアント警告のレポート]** ドロップダウン リストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント警告レポートの有効 / 無効を切り替えます。有効化されると、クライアント警告がキャプチャされ、レポートの目的で利用できるようになります。レポートはデフォルトでは無効になっています。

6 **[保存]** をクリックします。

[S.M.A.R.T. 監視の有効化] および **[クライアント警告のレポート]** を有効にした後は、HPCA Console の [レポート] 領域を使用して、S.M.A.R.T. 警告レポートを作成します。警告レポートは、インベントリ管理レポートのレポート ビューに含まれています。**S.M.A.R.T. 警告**レポートを表示するには、**[インベントリ管理レポート]**、**[ハードウェア レポート]**、**[詳細レポート]** の順に選択します。

Trusted Platform Module

[TPM] タブを使用して、互換性がある HP デバイスに Trusted Platform Module チップを設定します。CCM_TPM_ENABLEMENT サービスを配布して、TPM の所有権を初期化し、これらの設定を適用します。ソフトウェア配布に関する情報については、129 ページの「ソフトウェアの配布」を参照してください。

TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。

TPM は、HP ビジネス PC のマザーボードに取り付けられたハードウェア セキュリティ チップです。これは、HP ProtectTools Embedded Security の一部です。

詳細は、次を参照してください。

http://h20331.www2.hp.com/hpsub/cache/292199-0-0-225-121.html

TPM を設定するには

1 HPCA Console で、**[設定]** タブをクリックし、**[デバイス管理]** を選択します。

2 **[Trusted Platform Module]** オプションを選択します。[Trusted Platform Module] ウィンドウが表示されます。

3 BIOS Admin パスワードおよび TPM Owner パスワードを入力します。

4 緊急復旧トークンおよびパスワード リセット トークンを入力します。

5 [再起動の設定] を選択します。TPM チップが有効になった後で、デバイスが再起動されます。この設定は、エンド ユーザーが行う対話のレベルを決定します。

— **許可のみ** — 再起動の後、ユーザーは有効化を許可する必要があります。

— **許可または拒否** — 再起動の後、ユーザーは有効化を許可または拒否できます。

— **サイレント** — ユーザーは、再起動の後に有効化の確認を求められません。

6 バックアップ アーカイブ、緊急復旧アーカイブ、および TPM パスワード リセット アーカイブのファイル パスを入力します。

7 **[保存]** をクリックします。

パッチ管理

パッチ管理を有効にして、パッチ データベースの ODBC パラメータを定義するには、[パッチ管理] リンクを使用します。

Starter および Standard ユーザーは、このセクションを使用して、Microsoft パッチおよび HP Softpaq の取得、パッチ取得スケジュールの設定、およびパッチ取得設定の定義を行うこともできます。

ユーザー環境でパッチの配布および付与を行う方法の詳細については、296 ページの「パッチ配布ウィザード」を参照してください。

パッチ管理のオプションについては、次のセクションで説明します。

- 258 ページの「データベース設定」
- 259 ページの「エージェント オプション」

データベース設定

コンソールの [パッチ管理] 領域とパッチ取得機能を使用するには、パッチを有効にする必要があります。

パッチ管理サービス (HPCA Patch Manager) を開始して、パッチ ライブラリに保存された情報と SQL データベースの情報を同期する機能を有効にするには、[データベース設定] 領域を使用します。

前提条件

パッチ データベースを作成し、そのデータベースの ODBC 接続を定義する必要があります。詳細については、*「HPCA のインストール」*の章を参照してください。

パッチの設定を行うには

1 パッチの [ODBC 設定] 領域で、次のオプションを設定します。

— **ODBC DSN**: Patch SQL データベースの DSN を選択します。

— **ODBC のユーザー ID**: DSN のユーザー ID を指定します。

— **ODBC のパスワード**: ODBC ユーザー ID に関連付けられているパスワードを指定します。

2 **[保存]** をクリックします。

3 パッチの ODBC 設定を変更した場合、確認メッセージに従って Patch Manager サービスを再開します。

エージェント オプション

これらのエージェント オプションは、Microsoft デバイスのパッチにのみ適用されます。

Microsoft デバイスにパッチを適用するための Patch Manager Agent のオプションを有効化および設定するには、**[設定]** タブ > **[パッチ管理]** 領域からアクセスできる **[エージェント オプション]** を使用します。

Patch Agent が次に HPCA Server に接続するときに、これらのパネルで指定した設定の変更が受信されます。

- 260 ページの「Download Manager オプション」
- 262 ページの「エージェント オプション」

Download Manager オプション

- **Download Manager を有効化** : このチェック ボックスは、バックグラウンドの非同期プロセスを使用して Agent マシンに必要なパッチ ファイルをダウンロードする場合にオンにします。Download Manager は、通常の HPCA Agent Connect プロセスの外部で動作します。Patch Agent 接続の間、次のプロセスがバックグラウンドで実行されます。

  a パッチを適用でき、デバイスに付与されているかどうかが Patch Agent 接続で検証されます。

  b パッチが適用可能でデバイスに付与されている場合、Patch Agent 接続で Download Manager が起動し、Download Manager に対するダウンロード要求がキューに追加されます。

  c Download Manager が独立して実行され、バイナリがダウンロードされます。ダウンロード中にユーザーがマシンをオフにした、またはマシンがネットワークから切断された場合、Download Manager が停止時点からバイナリのダウンロードを再開することが、タイマーによって保障されます。**[ダウンロード完了後にパッチを適用]** を [はい] に設定すると、Download Manager によって新しい Patch Agent 接続が自動的に起動されます。

  d バイナリが Download Manager からダウンロードされると、次回の Patch Agent 接続でインストールされます。

  メタデータによるパッチ配布を使用するには、Download Manager を有効にする必要があります。

  オンにすると、Download Manager のオプションがいくつか表示されます。

  次の表を参考にして、Download Manager オプションを設定します。

表 33　Patch Agent の Download Manager オプション

オプションと有効な値	説明
ネットワーク利用 値 = 0 ～ 100 % デフォルトは 0	デバイスがアクティブな場合にパッチ ファイルのダウンロードに使用できるネットワークの最大バンド幅の割合を指定します。 値が 0 の場合、使用可能なネットワークのバンド幅でダウンロードが行われます。 例 : 25 を指定すると、使用可能なバンド幅の 25% 以下でパッチのダウンロード プロセスが行われます。
スクリーンセーバー モードでのネットワーク利用 値 = 0 ～ 100 % デフォルトは 0	スクリーン セーバーのネットワーク利用のオプションです。[スクリーンセーバー モードでのネットワーク利用] では、スクリーン セーバーがオンの場合にパッチ ファイルのダウンロードに使用できるネットワークの最大バンド幅の割合を指定します。通常、このオプションの値はスクリーン セーバーがオフの場合よりも大きな割合になります。 値が 0 の場合、スクリーン セーバーがオンのときに使用可能なネットワークのバンド幅でダウンロードが行われます。 例 : 80 を指定すると、スクリーン セーバーがオンのときにパッチ ファイルをダウンロードするために使用するバンド幅が 80% に増加します。
初期化の遅延 値 = 0 ～ 999 秒 デフォルトは 0	初期化してからパッチのダウンロードを開始または再開するまでの遅延時間 (秒) を指定します。これにより、他のプロセスを起動してからパッチのダウンロードを再開できます。 例 : 15 に設定すると初期化が 15 秒遅延します。 値が 0 の場合は遅延はありません。
ダウンロード完了後にパッチを適用 値 = [はい] (デフォルト) または [いいえ]	[はい] に設定すると、ダウンロードの完了後に Patch Agent 接続を起動してパッチを適用します。[はい] に設定することをお勧めします。 [いいえ] に設定すると、Patch Agent 接続が次に起動されたときにパッチが適用されます。

[保存] をクリックして、設定オプションを設定します。Patch Agent が次に HPCA Server に接続するときに、新しい設定が受信されます。

エージェント オプション

次のエージェント オプションを使用して Microsoft デバイスにパッチを適用できます。

- **自動更新を無効化**: ドロップダウン ボックスから [はい] または [いいえ] を選択します。自動更新が有効になっていることが原因で Patch Agent のスキャンまたは配布が中断される問題に対応するには、このオプションを使用します。
  - **はい** Patch Agent によって各スキャンまたは配布の前に Microsoft 自動更新が無効化されます。パッチのスキャンと配布が実行されたら、自動更新は元の状態に戻ります。
  - **いいえ** (デフォルト) Patch Agent によって各スキャンまたは配布の前に自動更新が無効化されません。
- **ソフトウェア配布フォルダの削除**: ドロップダウン ボックスから [はい]、[バックアップ]、または [いいえ] を選択します。このオプションは、次の問題の対応に使用できます。
  - ソフトウェア配布フォルダのサイズの大幅な増加
  - ソフトウェア配布フォルダの破損
  - パッチ接続時に Configuration Server にかかる負荷の増加

  [ソフトウェア配布フォルダの削除] を [はい] または [バックアップ] に設定すると、Microsoft 自動更新とバックグラウンド インテリジェント転送サービス (BITS) のサービスが自動的に再起動されます。サービスの再起動によって環境に問題が発生する場合、特に共存するパッチ ソリューションとして HPCA パッチ管理と自動更新の両方を使用しているとき、このオプションの設定には注意が必要です。

  このオプションを [はい] または [バックアップ] に設定すると、フォルダ サイズ、破損、またはインフラストラクチャの負荷に問題がある場合に Patch Manager のパフォーマンスが向上します。

  - **はい** Patch Agent によって、各パッチのスキャンの前にソフトウェア配布フォルダの内容が削除されます。サービスの再起動に関する警告 (上記) を参照してください。
  - **バックアップ** Patch Agent によって、各パッチのスキャンの前にソフトウェア配布フォルダの内容がバックアップされてから削除されます。サービスの再起動に関する警告 (上記) を参照してください。
  - **いいえ (デフォルト)** ソフトウェア配布フォルダに対して何も行われません。

- **インストールされたブリティンの管理 (-mib)** ドロップダウン ボックスから [なし]、[いいえ]、または [はい] を選択します。このオプションは、ターゲット デバイスにインストール済みのブリティンの処理方法を制御します。

  -mib オプションを指定しない場合、Patch Agent は **-mib [はい]** オプションが選択されたのと同様に動作します。このオプションはリソースを大きく消費します。

  — **なし (推奨)** リスクが検出されなかったブリティンを除き、インストール済みのすべてのブリティンを管理します。これは推奨される動作です。脆弱性または再パッチに関してクライアント エージェントは何も影響を受けず、高いパフォーマンスを得られるためです。

  — **いいえ** Patch Manager によってインストールされたブリティンのみを管理します。外部ソースによってインストールされたブリティンは管理しません。

  — **はい** Patch Manager または外部ソースのどちらでインストールされたかに関係なく、すべてのインストール済みブリティンを管理します。このオプションはリソースを大きく消費します。

[保存] をクリックして、設定オプションを設定します。Patch Agent が次に HPCA Server に接続するときに、新しい設定が受信されます。

アウトバンド管理

[設定] タブの [アウトバンド (OOB) 管理] 領域を使用して、OOB 管理を設定します。アウトバンド管理の使用方法の詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。次に示す各セクションで利用可能な設定オプションを説明します。

- 263 ページの「使用可能性」
- 264 ページの「デバイス タイプの選択」
- 266 ページの「vPro システム保護の設定」

使用可能性

vPro または DASH デバイスでサポートされるアウトバンド管理機能を有効または無効にするには、[アウトバンド管理の有効化] 領域を使用します。

アウトバンド管理機能を有効にするには、**[有効化]** チェックボックスをオンにします。

アウトバンド管理を有効にすると、通常の HPCA Console の Wake on LAN 機能に加えて、vPro または DASH デバイスに OOB 管理リモート操作機能を使用して接続できるようになります。

アウトバンド管理の使用方法の詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

デバイス タイプの選択

アウトバンド管理を有効にしたら、[デバイス タイプの選択] 領域を使用して、管理する OOB デバイスのタイプを選択します。

デバイス タイプごとに 3 つの選択肢からいずれかを選択できます。これらの選択肢について、次に示す各セクションで説明します。

- 264 ページの「DASH デバイス」
- 264 ページの「vPro デバイス」
- 265 ページの「両方」

選択したデバイス タイプに応じて、HPCA コンソールには、選択内容に関連するインターフェイスが表示されます (265 ページの「デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション」を参照)。

[操作] タブに移動し、「アウトバンド管理」セクションを参照して OOB 管理オプションを表示します。

アウトバンド管理の使用方法の詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

DASH デバイス

DASH を選択した場合、DASH 管理者がすべてのデバイスに同じユーザー名とパスワードを設定していれば、DASH デバイスに共通の認証情報を入力することができます。

認証情報の入力を間違えたり、内容に変更があったりした場合は、次回このウィンドウにアクセスしたときに認証情報を変更できます。

vPro デバイス

vPro デバイスを選択した場合、vPro デバイスにアクセスするための SCS ログイン認証情報、および SCS サービスとリモート設定の URL を入力する必要があります。

認証情報の入力を間違えたり、内容に変更があったりした場合は、次回このウィンドウにアクセスしたときに認証情報を変更できます。

両方

両方のタイプのデバイスを選択した場合、DASH デバイスの共通認証情報を入力できます。また、vPro デバイスにアクセスするために必要な SCS ログイン認証情報、および SCS サービスとリモート設定の URL を入力する必要があります。

詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』の管理タスクでのデバイス タイプの選択に関する章を参照してください。

デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション

デバイス タイプを選択したら、[設定] タブと [操作] タブに選択内容を反映したオプションが表示されます。次の表に、オプションの要約を示します。

表 34　設定と操作のオプション

	DASH	**vPro**
設定	追加オプションなし	vPro システム保護の設定
オペレーション	デバイス管理	vPro デバイスのプロビジョニング グループ管理 警告の通知

デバイス タイプを選択したり、選択内容を変更したりしたときに、[設定] タブと [操作] タブのナビゲーション パネルにデバイス タイプ関連のオプションを表示するには、HPCA Console からログアウトし、再度ログインする必要があります。

vPro システム保護の設定

vPro デバイスおよびデバイス グループのシステム防御機能を管理するには、[vPro システム保護の設定] を定義する必要があります。

> この設定オプションは、vPro デバイス タイプを選択した場合にのみ表示されます。システム防御設定は、DASH デバイスには適用されません。

- システム防御フィルタの管理
  vPro デバイスでは、システム防御フィルタを作成、変更、および削除できます。システム防御フィルタにより、ネットワーク上のパケットの流れが監視され、フィルタ条件が一致するとパケットのドロップやパケット レートの制限が可能になります。フィルタは、システム防御ポリシーに割り当てられ、ポリシーを有効化してネットワークを保護することができます。
- システム防御ポリシーの管理
  vPro デバイスでは、システム防御ポリシーを作成、変更、および削除して、そのポリシーをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。システム防御ポリシーによって、ネットワークを選択的に分離し、vPro デバイスを悪意のあるソフトウェアの攻撃から保護することができます。
- システム防御ヒューリスティック情報の管理
  vPro デバイスでは、ヒューリスティック仕様を作成、変更、および削除して、そのヒューリスティックをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。これらのヒューリスティックにより、ワームの侵入を示す状況が検出され、他のデバイスが感染しないようにそのデバイスが制御されることで、ネットワーク上のデバイスが保護されます。
- システム防御ウォッチドッグの管理
  vPro デバイスでは、エージェント ウォッチドッグを作成、変更、および削除して、そのウォッチドッグをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。エージェント ウォッチドッグは、vPro デバイス上のローカル エージェントが存在しているかどうかを監視します。ローカル エージェントの状態に変更があった場合にエージェント ウォッチドッグが取るアクションを指定できます。

  詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』の管理タスクでの vPro システム防御の設定に関する章を参照してください。

HPCA Console で vPro デバイスのシステム防御機能を管理できるようにするために [設定] タブで実行する管理タスクはこれで終わりです。オペレータまたは管理者ロールのユーザーは、[操作] タブに移動して、ネットワークの OOB デバイスの管理を始めることができます (「操作」の章を参照)。

OS 管理

オペレーティング システムの配布に関連するオプションを設定するには、[オペレーティング システム] 領域を使用します。

- 268 ページの「Settings」
- 268 ページの「配布」

Settings

オペレーティング システム サービスを使用すると、エージェントが HPCA Server に接続し、OS の付与資格およびプロビジョニング情報を取得できます。HPCA の Starter および Standard edition では、オペレーティング システム サービス設定は常に有効になります。OS 配布中、ネットワーク内のデバイスのブートを計画している場合は、最初に Core と一緒にインストールされた Boot Server (PXE/TFTP) を有効にする必要があります。これにより、Core Server で次の 2 つの Windows サービスが開始されます。Boot Server (PXE) および Boot Server (TFTP)。

- Boot Server (PXE/TFTP) を有効にするには、**[Boot Server の有効化]** ボックスをオンにして **[保存]** をクリックします。

HPCA Boot Server (PXE) と DHCP サーバーの両方を同じマシン上でホストできます。

配布

[配布] ページを使用して、すべてのオペレーティング システム配布操作のグローバル デフォルト設定を行います。OS 配布ウィザードを使用して特定の配布をスケジュールするときに、これらの設定を上書きできます。

このページで行った変更は、すべての新規およびスケジュール済み OS 配布ジョブに影響を与えます。

OS 配布のデフォルト設定を設定するには

1. [設定] タブで、[OS 管理] セクションを展開し、**[配布]** ページを選択します。
2. [配布動作] タブで次の操作を実行します。
   a. 配布動作の基本プロパティを指定します。

b　配布動作の詳細プロパティを指定します。

3　[パーティション作成方法] タブで次の操作を実行します。

a　パーティション作成方法の基本プロパティを指定します。

b　パーティション作成方法の詳細プロパティを指定します。

オペレーティング システムの配布の詳細については、149 ページの「OS 管理」を参照してください。

配布動作の基本プロパティ

[配布動作] タブの [基本プロパティ] 領域では、デフォルトの OS 配布モードと言語設定を指定できます。注：これらの言語設定は配布プロセス中にのみ適用され、オペレーティング システムがターゲット デバイスにインストールされた後は適用されません。

OS 配布動作の基本プロパティを指定するには

1　**[OS の再インストール時]** ドロップダウン メニューを使用して、配布モードを指定します。

— **ユーザーに確認する (有人)** — 配布プロセスを続行するには、オペレーティング システムの配布中にユーザーがターゲット デバイスがある場所にいる必要があります。

— **ユーザーに確認しない (無人)** — オペレーティング システムの配布中に、ターゲット デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。

オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。**[ユーザーに確認しない (無人)]** を選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存のデータを必ずバックアップしてください。

2　**[Service OS メッセージの表示言語]** メニューを使用して、Service OS のインストール時にターゲット デバイスに表示されるメッセージの言語を選択します。

3　**[Service OS のキーボード レイアウト]** メニューを使用して、OS のインストール時にターゲット デバイスで入力が必要な場合に使用するキーボード レイアウトを選択します。

4　**[保存]** をクリックして、変更を適用します。

次の手順 : 配布動作の詳細プロパティを指定します。

配布動作の詳細プロパティ

[配布動作] タブの [詳細プロパティ] 領域では、OS イメージの最大ダウンロード速度を制御したり、配布中のさまざまな特殊ケースをどのように処理するかを決定したりできます。

OS 配布動作の詳細プロパティを指定するには

1 **[OS イメージの最大ダウンロード速度]** を指定します。これは、ネットワーク トラフィックを管理する場合に便利です。ターゲット デバイスへの OS イメージのダウンロード中に、業務上重要なアプリケーションのための十分なネットワーク バンド幅を確保しておくことができます。値を指定しない場合、HPCA によってネットワークの最大速度でイメージがダウンロードされます。

   最大ダウンロード速度を指定する場合、**[単位]** も指定してください。

2 **[インストールする OS の選択をユーザーに許可する]** メニューを使用して、複数の OS がターゲット デバイスに割り当てられている場合にターゲット デバイスのユーザーがインストールする OS を選択できるようにするかどうかを指定します。

   HPCA OS Manager によってすでに管理されているデバイスに同じ OS サービスを再インストールする場合、**[いいえ]** を選択すると、OS インストールの管理フェーズでそれ以上の確認メッセージが無効になります。

3 **[管理対象デバイスのハード ディスクに障害が発生した場合]** メニューを使用して、完全に管理されているデバイスのハード ディスクに障害が発生した場合の HPCA の応答方法を指定します。

   — 管理者がアクションを実行する必要がある (ターゲット デバイスの管理者が OS の再インストールを許可しない限り何もしない)

   — OS を自動的に再インストールする

4 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

次の手順 : パーティション作成方法の基本プロパティを指定します。

パーティション作成方法の基本プロパティ

[配布] ページの [パーティション作成方法] タブにある [基本プロパティ] では、OS イメージをターゲット デバイスにインストールするときに HPCA でどのようにハード ディスクのパーティションを作成するかを指定できます。サポートされるパーティション作成方法はオペレーティング システムによって異なります。

オペレーティング システムを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。無人配布モードを使用している場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、ターゲット デバイスの既存のデータを必ずバックアップしてください。

OS 配布のパーティション作成方法の基本プロパティを指定するには

1 [パーティション作成方法] ボックスで、使用する方法を選択します。

方法	説明
既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールする	ターゲット デバイスのデータを保持する必要がない場合にこのオプションを使用します。 HPCA によってターゲット デバイスの既存のパーティションが削除され、システム予約パーティション (サポートされている場合) と OS パーティションが作成されます。 重要 : ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。
既存のデータ パーティションを保持して 1 つの OS パーティションを作成する	既存のデータを保持しておく必要のあるマシン上の OS を置換 (更新) する場合にこのオプションを使用します。 HPCA によって既存の OS パーティションが削除され (存在する場合は「システム予約」パーティションも削除される)、システム予約パーティション (サポートされている場合) と OS パーティションが作成されます。既存のデータ パーティションは対象外になります。 • インストールするパーティションが既に定義されているパーティションより大きい場合、インストールは失敗します。 • ターゲット ドライブに既存のパーティション (ベア メタルなど) がない場合は、1 つの OS パーティションのオプションと同じ結果になります。 注意 : このオプションは移行用に使用します。

方法	説明
既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールし、OS をローカルにキャッシュする	ターゲット ドライブの最後に、隠しバックアップ パーティションを作成する場合にこのオプションを使用します。 パーティションのサイズは、OS のインストール イメージのサイズによって、動的に決められます。OS を再インストールするために必要なすべてのファイルが、(圧縮状態で) このパーティションに保存されます。 重要 : ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。
既存のデータ パーティションと OS パーティションのデータ復元ディレクトリを保持して OS をインストールする	新しいオペレーティング システムのインストール中にターゲット デバイス内のファイルとフォルダを保持し、OS のインストール後に復元する場合にこのオプションを使用します。このオプションを使用すると、HPCA によるディスクのパーティション再分割は行われません。 注意 ：これには、OS の配布方法に ImageX を使用する必要があります。その他の配布方法を使用すると、エラーが発生します。 注意 : ターゲット デバイスに OS パーティションとは別に「システム予約済み」パーティションがある場合、このオプションは使用できません。

2 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

3 パーティション作成方法の詳細プロパティを指定します。

パーティション作成方法の詳細プロパティ

[配布] ページの [パーティション作成方法] タブにある [詳細プロパティ] では、オペレーティング システムをインストールする前に、ターゲット デバイスのハード ディスクのシステム パーティションと未パーティション領域のサイズを指定できます。

これらの設定は、Windows 7 と Windows Server 2008 R2 の配布にのみ関連しています。

OS 配布のパーティション作成方法の詳細プロパティを指定するには

1 **[Windows 7/2008 R2 のシステム パーティションのサイズ]** ボックスで、システム予約パーティションのサイズ (MB) を指定します。

5 桁の非負数を指定できます。指定する値が大きすぎる場合、赤色で警告が表示されます。0 (ゼロ) の値を指定すると、システム予約パーティションは作成されません。

2 **[ディスク先頭の未パーティション領域のサイズ]** ボックスで、残しておくディスク先頭の未パーティション領域の容量 (MB) を指定します。この領域は、後で復旧パーティションの作成などに使用できます。

   0 (ゼロ) の値を指定すると、システム予約パーティションは作成されません。

3 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

OS 配布操作を実行する方法については、149 ページの「OS 管理」を参照してください。

利用状況管理

利用状況データベース接続設定と利用状況データ収集設定を設定するには、[利用状況管理] セクションを使用します。

- 274 ページの「データベース設定」
- 274 ページの「Settings」

データベース設定

利用状況データベース接続設定は、[データベース設定] ページを使用して設定できます。

利用状況データベース接続設定を設定するには

1. [設定] タブで、**[利用状況管理]**、**[データベース設定]** の順にクリックします。
2. 次の Open Database Connection (ODBC) の情報を指定します。
   - **DSN** (データ ソース名)
   - **ユーザー ID**
   - **パスワード**

   これらの設定は Client Automation サーバーのシステム ODBC DSN の設定と一致する必要があります。指定したデータベースがまだ初期化されていない場合、これらの設定を保存するときに初期化されます。
3. **[保存]** をクリックします。

Settings

利用状況データは、利用状況収集エージェントが配布されたときに収集されます。利用状況の設定は、収集スケジュールの間に既存のクライアント デバイスに適用されます。必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。

難読化は、利用状況収集エージェントを配布する前に有効にしておく必要があります。このエージェントを配布してから有効にすると、レポート データの一部が、難読化された形式や難読化されていない形式で表示されます。

利用状況データを難読化するには

1 ドロップダウン リストを使用して、次のどの利用状況データ情報を非表示にするかを選択します。

— **コンピュータ** – コンピュータ関連の情報を非表示にします。コンピュータ名はランダムな英数字列としてレポートされます。

— **ユーザー** – ユーザー固有の情報を非表示にします。ユーザー名は [AnyUser] としてレポートされます。

— **ドメイン** – ドメイン情報を非表示にします。ドメイン名はランダムな英数字列としてレポートされます。

— **利用状況** – 利用回数および利用時間を非表示にします。実行ファイルの利用時間および起動回数はすべてゼロ値とレポートされます。

利用状況レポート内で難読化する利用状況情報の隣にある **[有効]** を選択します。

2 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

利用状況収集エージェントを配布し、収集スケジュールを定義する方法については、アプリケーション利用状況収集ウィザードを参照してください。

ダッシュボード

ダッシュボードを設定するには、次に示す [設定] タブの [ダッシュボード] 領域を使用します。

HPCA 操作ダッシュボードでは、一定期間に発生したクライアント接続数とサービス イベント数に関する情報が提供されます。

パッチ管理ダッシュボードでは、企業内のクライアント デバイスのパッチ ポリシー適用状況に関するデータが提供されます。

デフォルトでは、有効になるのはダッシュボード ペインの一部です。管理者権限のあるユーザーは、すべてのペインを有効または無効にできます。

HPCA 操作

HPCA 操作ダッシュボードには、企業内で HPCA が実行中の作業が表示されます。また、2 つの期間のクライアント接続およびサービス イベントの指標が表示されます。エグゼクティブ ビューには、最新の 12 か月が表示されます。[操作] ビューには、最新の 24 時間が表示されます。どちらのビューにも、次の情報ペインが含まれます。

67 ページの「クライアント接続」

69 ページの「サービス イベント」

エグゼクティブ ビューには、次のペインも含まれます。

71 ページの「ドメイン別 12 か月サービス イベント」

デフォルトではこれらのペインがすべて表示されます。設定を使用して、ダッシュボードに表示するペインを指定できます。これらのペインの詳細については、66 ページの「HPCA 操作ダッシュボード」を参照してください。

HPCA 操作ダッシュボードを設定するには次の手順を実行します。

1. [設定] タブで、**[ダッシュボード]** をクリックします。
2. [ダッシュボード] の下で、**[HPCA 操作]** をクリックします。

   デフォルトではこのダッシュボードが有効になっています。無効にするには、**[HPCA 操作ダッシュボードの有効化]** ボックスをオフにし、**[保存]** をクリックします。
3. [HPCA 操作] の下で、**[エグゼクティブ ビュー]** または **[操作ビュー]** をクリックします。
4. ダッシュボードに表示するペインのボックスを選択します。ペインごとに必要な関連 HPCA 設定に関する情報を表示するには、? アイコンを使用します。
5. **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

パッチ管理

パッチ管理ダッシュボードには、ネットワーク内の管理対象デバイスで検出された任意のパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。デフォルトでは、パッチ管理ダッシュボードは無効になっています。

パッチ管理ダッシュボードのエグゼクティブ ビューには、次の 2 つの情報ペインがあります。

- 73 ページの「ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー)」
- 75 ページの「ブリティン別デバイス適用状況」

操作ビューには、次の情報ペインがあります。

- 79 ページの「ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー)」
- 80 ページの「Microsoft セキュリティ ブリティン」
- 81 ページの「最も脆弱性の高い製品」

設定を使用して、ダッシュボードに表示するペインを指定できます。これらのペインの詳細については、73 ページの「パッチ管理ダッシュボード」を参照してください。

パッチ管理ダッシュボードを設定するには

1 [設定] タブで、**[ダッシュボード]** をクリックします。

2 [ダッシュボード] の下で、**[パッチ管理]** をクリックします。

   デフォルトでは、このダッシュボードは無効になっています。このダッシュボードを有効にするには、**[パッチ管理ダッシュボードの有効化]** ボックスをオンにして、**[保存]** をクリックします。

3 [パッチ管理] の下で、**[エグゼクティブ ビュー]** または **[操作ビュー]** のいずれかをクリックします。

4 ダッシュボードに表示するペインのボックスを選択します。ペインごとに必要な関連 HPCA 設定に関する情報を表示するには、? アイコンを使用します。

   次のペインには追加情報が必要です。

   — **[Microsoft セキュリティ ブリティン] (操作ビュー)**

   a Microsoft セキュリティ ブリティン RSS フィードの URL を指定します。

      通常、有効なデフォルト URL が指定されています。また、**[コンソール設定]** ページでプロキシ サーバーを有効にする必要がある場合もあります。

5 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

10 ウィザード

HPCA Console の使用中は、多くのウィザードを使用してさまざまな管理機能を実行します。このセクションでは、各ウィザードの個別の手順について説明します。

ウィザードには、コントロール パネルの複数の領域から起動できるものがあります。

- 280 ページの「デバイス インポート ウィザード」
- 282 ページの「エージェント配布ウィザード」
- 283 ページの「エージェント削除ウィザード」
- 283 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」
- 284 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」
- 285 ページの「電源管理ウィザード」
- 286 ページの「グループ作成ウィザード」
- 289 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」
- 291 ページの「設定プロファイル配布ウィザード」
- 294 ページの「サービス インポート ウィザード」
- 295 ページの「サービス エクスポート ウィザード」
- 296 ページの「ソフトウェア同期ウィザード」
- 296 ページの「パッチ配布ウィザード」
- 298 ページの「サービス資格ウィザード」
- 298 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」
- 300 ページの「OS 配布ウィザード」
- 307 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」
- 308 ページの「利用状況収集フィルタ作成ウィザード」

- 309 ページの「Satellite Server 配布ウィザード」
- 310 ページの「Satellite Server 削除ウィザード」
- 311 ページの「サーバー プール作成ウィザード」
- 312 ページの「ロケーション作成ウィザード」
- 313 ページの「サブネット作成ウィザード」

ウィザードを実行したり警告を表示したりするときに、HPCA Console が別のブラウザ インスタンスを開くことがあります。これらのウィザードや警告にアクセスするには、ブラウザのポップアップ ブロック設定で [許可されたサイト] にこのコンソールを含める必要があります。

デバイス インポート ウィザード

デバイス インポート ウィザードを使用して、HPCAS データベースでのデバイスの探索および追加を行います。デバイスは、インポートされると、282 ページの「エージェント配布ウィザード」を使用して管理の対象とすることができます。

デバイス インポート ウィザードを使用してデバイスをインポートするには

1 ウィザードを起動するには、[デバイス管理] セクションの [全般] タブにある **[インポート]** をクリックするか、[デバイス] タブの **[管理対象デバイスのインポート]** ツールバー ボタンをクリックします。

2 ドロップダウン リストから [デバイス ソース] を選択します。

— **手動入力** — 表示されたボックスに、デバイスのホスト名または IP アドレスのリストを入力するか貼り付けます。IP アドレスの範囲をハイフンで区切って入力することもできます。たとえば、*xx.yy.zz.12* から *xx.yy.zz.19* までの範囲のデバイスをインポートするには、「*xx.yy.zz.12-xx.yy.zz.19*」と入力します。

➤ このオプションを使用して手動でデバイスをインポートし、後でドメインのスキャンを実行すると (下の **[ドメイン]** オプションを使用)、重複するデバイス エントリが作成される場合があります。これは、後でドメイン スキャンが行われる際、手動で追加されたデバイスに、このデバイスを一意に識別するのに十分な属性 (MAC アドレス、dnshostname など) がない場合があるために起こります。この結果、新たに見つかったデバイスは、手動で追加したデバイスと同一であっても一致したと見なされず、重複エントリが作成されることがあります。この動作を回避するには、**[手動入力]** オプションではなく **[ドメイン]** オプションを使用してデバイス探索を実行します。

— **LDAP/Active Directory** — Active Directory や他の LDAP 互換ディレクトリ サービスからデバイスを自動的にインポートするには、LDAP ホスト、ポート、ユーザー ID、パスワード (必要な場合)、およびクエリする DN を入力します。
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。

— **ドメイン** — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名 (たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン ¥ デバイス」という構文を使用します。たとえば、`Sales¥WS*` は、`Sales` ドメインの `WS` で始まるデバイスのみを返します。
ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用します。たとえば、`Sales,!Sales¥WS*` は、`WS` で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。

3 **[インポート]** をクリックします。

4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

インポートされたデバイスは、[デバイス] タブに表示されます。

エージェント配布ウィザード

エージェント配布ウィザードを使用して、HPCAS データベースのデバイスに Management Agent を配布します。

➤ Management Agent をデバイスに配布する前に、ページのファイアウォール設定の規則を参照して、必要なファイアウォールの規則が使用されていることを確認してください。

エージェント配布ウィザードを使用して Management Agent を配布するには

1 ウィザードを起動するには

— [デバイス管理] にある [全般] タブの **[配布]** をクリックします。

— [デバイス管理] にある [デバイス] タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。

— [グループ管理] にある [グループ] タブの **[Management Agent の配布]** ツールバー ボタンをクリックします。

2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

3 利用可能なデバイスがすべて表示されます。Management Agent を配布する各デバイスを選択して、**[次へ]** をクリックします。デバイスのリストの範囲を絞り込むには、[検索] 機能を使用します。

4 選択したデバイスに関する必要な情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。

5 **[実行 : 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後に Agent を配布するか、**[実行 : 後で]** を選択して Agent を配布する日付と時刻を入力します。

6 **[その他のパラメータ]** セクションで、**[はい]**(デフォルト) を選択してエージェントをサイレントでインストールするか、**[いいえ]** を選択し、インストール プロセスでターゲット デバイス上にインストール UI を表示します。

➤ Management Agent は、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、[その他のパラメータ] が選択されているかどうかにかかわらず、サイレント モードでのみ配布されます。

7 **[次へ]** をクリックします。

8 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。

9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

エージェント削除ウィザード

HPCAS データベースにあるデバイスから Management Agent を削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。

Management Agent を削除すると、ソフトウェアやパッチを配布したり、そのデバイスの最新のインベントリ情報を収集したりすることができなくなります。管理対象でないデバイスは、グループまたは HPCAS から削除されるまで、それぞれのグループに存在し、配布済みのすべてのソフトウェアを保持します。

エージェント削除ウィザードを使用して Management Agent を削除するには

1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

2 Management Agent を削除するデバイスまたはグループを選択して、**[Management Agent の削除]** ツールバー ボタンをクリックします。

3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

4 **[実行 : 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後に Agent を削除するか、**[実行 : 後で]** を選択して Agent を削除する日付と時刻を入力します。

5 **[次へ]** をクリックします。

6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。

7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

エージェント削除ウィザードを使用して、手動でインストールされたエージェント (`setup.standard.cmd` コマンドを使ってインストールされたエージェント) を削除すると、ジョブの終了時にエラーが返されます。ただし、生成されたエラーの状態とは関係なく、エージェントは正常に削除されています。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、選択したデバイスについてソフトウェアとハードウェア インベントリを探索する、インベントリ監査ジョブを作成します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用してインベントリを探索するには

1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

— **[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。

2 **[実行 : 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後にインベントリを探索するか、**[実行 : 後で]** を選択してインベントリを探索する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

3 デバイスの電源をオンにする場合に選択します。ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、HPCAS は、必要な場合、デバイスの電源をオンにしてインベントリを探索します。

4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ] タブを使用します。

パッチの適用状況探索ウィザード

パッチの適用状況探索ウィザードを使用して、選択したデバイスおよびグループに対するパッチ適用状況スケジュールを設定します。

パッチ適用状況を探索するには

1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

— **[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチの適用状況の探索]** を選択します。

2 **[実行 : 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後にジョブを実行するスケジュールを設定するか、**[実行 : 後で]** を選択してジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

➤ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

3 デバイスの電源をオンにするかどうかを選択します。ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、HPCAS は、必要に応じてデバイスの電源をオンにします。

4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

終了したら、[レポート] タブを使用して、選択したデバイスまたはグループに関する適用状況レポートを表示します。

電源管理ウィザード

選択したデバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

➤ リモートからデバイスの電源をオンにするには、コンピュータに Wake-On-LAN 機能が内蔵されている必要があります。Wake-On-LAN は、HPCA Server がネットワークにパケットを送信して、管理対象デバイスの電源をリモートからオンにできる管理ツールです。デバイスに、リモートの起動機能を有効にするよう BIOS を設定する必要があります。詳細は、ハードウェアのドキュメントを参照してください。HP デバイスの BIOS 設定は、HPCA を使用して変更および配布できます。

➤ アウトバンド管理が有効になっている場合は、HPCA Console の通常の Wake on LAN 機能に加えて、OOB 管理のリモート操作機能を使用して vPro または DASH デバイスに接続できます。

➤ Windows XPe デバイスで電源オフ機能を選択すると、電源がオフになる前に、1 度デバイスが再起動します。これは、XPe デバイスの内部キャッシュをクリアするために必要な、通常の動作です。

リモートからデバイスの電源オン、オフ、および再起動を行うには

1 **[電源管理]** ツールバー ボタンをクリックして、[デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

2 ドロップダウン リストから電源管理機能を選択します。選択したデバイスの電源オン、オフ、または再起動が行えます。

— **起動** — 選択したデバイスの電源をオンにします

— **停止** — 選択したデバイスの電源をオフにします

— **再起動** — 選択したデバイスを再起動します

3 このジョブの実行スケジュールを設定します。**[実行 : 今すぐ]** を選択してすぐにジョブを実行するスケジュールを設定するか、**[実行 : 後で]** を選択してジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

➤ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ] タブを使用します。

グループ作成ウィザード

データベースにある管理対象デバイスのグループに、ソフトウェアまたはパッチを配布する必要があります。グループ作成ウィザードを使用して、指定したデバイス、探索したデバイス、またはレポート クエリの一部として返されたデバイスに基づき、デバイス グループを定義します。

グループ作成ウィザードの手順は、作成するグループのタイプにより異なります。

スタティック グループを作成するには

1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。

— [グループ管理] の [全般] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。

— [グループ] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** ツールバー ボタン をクリックします。

2 **[次へ]** をクリックして、グループの作成を開始します。

3 グループの名前および説明を入力します。

4 **[次へ]** をクリックします。

5 グループに含めたいデバイスを選択するには、該当する各デバイスの最初のカラムのボックスをチェックします。必要な場合、デバイスのリストの範囲を絞り込むには、[検索] 機能を使用できます。

6 **[次へ]** をクリックします。

7 要約情報を確認します。選択したデバイスの数が、**[デバイス数]** 要約と一致することを確認します。グループを変更する必要がある場合、**[前へ]** をクリックします。

8 **[作成]** をクリックします。グループが正常に作成されました。

9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

探索グループ メンバーシップは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスをベースにしています。

1 ウィザードを起動するには

— [グループ管理] の [全般] タブから、**[新しいディスカバリ グループの作成]** をクリックします。

— [グループ] タブから、**[新しいグループの作成]** ツールバー ボタンをクリックし、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** を選択します。

2 **[次へ]** をクリックして、グループの作成を開始します。

3 グループの名前および説明を入力します。

4 **[次へ]** をクリックします。

5 探索ソースを選択します。

— **LDAP/Active Directory** — LDAP ホストおよびポート番号、ユーザー ID、パスワード (必要な場合)、およびクエリする DN を入力します。

また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。

— **ドメイン** – インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名 (たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン ¥ デバイス」という構文を使用します。たとえば、`Sales¥WS*` は、`Sales` ドメインの `WS` で始まるデバイスのみを返します。
ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用します。たとえば、`Sales,!Sales¥WS*` は、`WS` で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。

6 **[次へ]** をクリックします。

7 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。

— **実行** : 時間、日、週など、一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを選択します。

— **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。

— **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。

— **[現在のサーバー時刻]** は、HPCAS Server の現在の時刻を表示します。

8 **[次へ]** をクリックします。

9 要約情報を確認し、**[作成]** をクリックします。

10 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

探索グループは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスを含むように作成されます。発見されたデバイスがすでに HPCAS の一部でなかった場合、自動的にデバイス リストに追加されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

レポート グループは、レポート クエリで返されたデバイスを使用して、作成されます。

1 [レポート] 領域のアクション バーからウィザードを起動するには、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]** をクリックします。

2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

3 グループの名前および説明を入力します。

4 **[次へ]** をクリックします。

5 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。

— **実行** : 時間、日、週など、一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを選択します。

— **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。

— **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。

— **[現在のサーバー時刻]** は、HPCAS Server の現在の時刻を表示します。

6 **[次へ]** をクリックします。

7 要約情報を確認し、**[作成]** をクリックします。

8 レポート クエリの現在のデバイスを含む、レポート グループが作成されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア配布ウィザード

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにソフトウェアの付与と配布を行います。

ソフトウェア配布ウィザードを使用してソフトウェアの付与と配布を行うには

1 ウィザードを起動する方法には、次の 3 つがあります。

— [ソフトウェア管理] の [全般] タブから、**[配布]** をクリックします。

— [ソフトウェア管理] の [[ソフトウェア] タブ] タブで配布するソフトウェアを選択して **[ソフトウェアの配布]** ボタンをクリックします。

— [ソフトウェアの詳細] ウィンドウ (または [グループの詳細] ウィンドウ) で、[全般] タブの **[ソフトウェアの配布]** リンクをクリックします。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウは、[管理] タブの [ソフトウェア管理] ページの [ソフトウェア] タブまたは [操作] タブの [ソフトウェア ライブラリ] ページから開くことができます。リストされている任意のソフトウェア サービスのサービス ID をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。

2 **[次へ]** をクリックしてウィザードを起動します。

3 [ソフトウェア管理] の [全般] タブからウィザードを起動した場合は、次の手順を実行します。

   a 付与と配布を行うソフトウェアを選択するには、最初のカラムのチェック ボックスを 1 つ以上オンにします。

   b **[次へ]** をクリックします。

4 付与して配布の対象とするグループを選択するには、最初のカラムのチェック ボックスを 1 つ以上オンにします。

5 **[次へ]** をクリックします。

6 ソフトウェア配布ジョブの実行スケジュールを設定します。

   — **[実行 : 今すぐ]** を選択すると、ソフトウェアがすぐに配布されます。

   — **[実行 : 後で]** を選択すると、ソフトウェア配布の日付と時刻をスケジュール設定できます。

   — 反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

   ➤ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成する場合にのみ使用できます。

7 リストされているその他のパラメータを指定します。特定のパラメータについての詳細を確認するには、ツールチップ ? アイコンにマウス カーソルを移動してください。

8 **[次へ]** をクリックします。

9 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。

10 現在のソフトウェア配布ジョブを表示するには、[現在のジョブ] タブをクリックします。

11 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

設定プロファイル配布ウィザード

設定プロファイル配布ウィザードを使用して、付与された設定プロファイルを使用環境の管理対象デバイスに配布したり、管理対象デバイスから付与されていない設定プロファイルを削除したりします。

設定プロファイル配布ウィザードを使用して設定プロファイルを配布または削除するには

1 [管理] タブで **[設定管理]** をクリックします。[設定管理] ウィンドウが表示されます。

[設定プロファイル] タブには、HPCA で配布または削除できる設定プロファイルが表示されます。付与されたグループの数と、各プロファイルに関連してインストールされているデバイスの数が表示されます。

2 配布するプロファイルの表示名の隣にあるボックスをオンにします。選択したプロファイルは、「手順 4」で説明した手順に従って選択した配布方法に関係なく、(まだ付与されていなければ) 自動的に付与されます。

3 ツールバーの **[設定プロファイルの配布]** をクリックします。設定プロファイル配布ウィザードが開きます。このウィザードでは、デバイス グループにプロファイルを配布したり、デバイス グループからプロファイルを削除したりできます。

4 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。[配布方法] ウィンドウが開きます。2 つの配布方法を使用できます。

— **プロファイルの強制** - このオプションでは、付与するプロファイルを決定し、付与資格に基づいてプロファイルを自動的に管理 (配布または削除) します。新しいプロファイルが付与されると、この配布ジョブが次回実行されるときに、新しく付与されたプロファイルがターゲット デバイスに配布されます。これは、推奨される配布方法です。

➤ 設定プロファイルを削除する唯一の方法は、まずプロファイルの付与資格を解除し、次に [プロファイルの強制] の配布方法を選択する方法です。

— **手動選択** - このオプションは、選択したプロファイルをターゲット デバイスに 1 回だけ配布します。手動選択オプションは、一度に 1 つのプロファイルをすぐに削除するための便宜的な方法です。

➤ ターゲット デバイスでプロファイルを自動的に管理 (配布または削除) するには、[プロファイルの強制] オプションを使用してください。ターゲット デバイスで使用中のプロファイル設定を管理するには、反復ジョブをスケジュール設定する方法が最良です。

5 **[次へ]** をクリックします。[グループ] ウィンドウが開き、使用可能なグループが表示されます。

6 設定プロファイルを付与して配布するグループ名の隣にあるボックスをオンにします。これは、特にこの付与資格用に作成したグループ (複数も可) になります。

7 **[次へ]** をクリックして続行します。[スケジュール] ウィンドウが開きます。

8 設定プロファイルの配布についてジョブ スケジュール情報を指定します。

9 **[次へ]** をクリックして続行します。[要約] ウィンドウが表示されます。

10 要約ウィンドウ内の情報を確認します。

11 内容が正しければ **[サブミット]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開き、進捗に関する情報が表示されます。

12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

13 [現在のジョブ] タブを選択して、スケジュール設定した配布ジョブのステータスを確認します。最終的には、正常なステータスがレポートされ、配布ジョブが正常にスケジュール設定されたことを確認できます。

14 [設定プロファイル] タブを選択して、付与されたグループの数と、新しく配布された設定プロファイルに関連してインストールされているデバイスの数を確認します。これらの数は、配布の選択を反映して適宜更新されます。

15 新しく配布された設定プロファイルの **[表示名]** をクリックします。[設定プロファイルの詳細] ウィンドウが開きます。

— [全般] タブでは、新しく設定されたグループ / デバイスの付与資格を反映する要約情報を確認できます。

— [プロパティ] タブでは、設定プロファイルのプロパティを表示できます。

— [グループ] タブでは、設定プロファイルの配布または削除、および付与資格の追加または削除を実行できます。

— [デバイス] タブでは、設定プロファイルを配布または削除できます。

— [レポート] タブでは、選択されている設定プロファイルに基づくコンテキスト レポートを表示できます。

➤ プロファイルを配布し、後からそのプロファイルの設定を変更した場合、再配布する必要があります。再配布を容易にするため、反復プロファイル配布ジョブを使用して、定期的に設定を再適用できます。反復プロファイル配布ジョブをスケジュール設定するには、[プロファイルの強制] の配布方法を選択する必要があります。

➤ デバイスからプロファイルを削除する場合、次の手順に従います。

- そのデバイスのプロファイルの付与資格を解除します
- そのデバイスを対象とした配布ジョブを ([プロファイルの強制] の方法を指定して) スケジュール設定します

そのジョブが実行されると、付与資格を解除されたプロファイルはターゲット デバイスから削除されます。

サービス インポート ウィザード

サービス インポート ウィザードを使用して、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリからソフトウェア、パッチ、OS ライブラリにサービスをインポートします。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

サービス インポート ウィザードを使用してサービスをインポートするには

1 **[操作]** タブで、次のいずれかのページから **[サービスのインポート]** ツールバー ボタンをクリックします。

— **[ソフトウェア管理] > [ソフトウェア ライブラリ]**

— **[パッチ管理] > [パッチ ライブラリ]**

— **[OS 管理] > [OS ライブラリ]**

これにより、ウィザードが起動します。

2 インポートするサービスを選択します。HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにあり、次の単語が含まれるすべてのサービス デッキが、使用可能なサービスのリストに表示されます。

ライブラリ	サービス デッキ名に含まれる単語	**HPCA** ドメイン
ソフトウェア	SOFTWARE	SOFTWARE
パッチ	PATCH	PATCHMGR
OS	OS	OS

デフォルトでは、ServiceDecks ディレクトリは次の場所にあります。

<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks

各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア サービス、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキは次のような名前になります。

PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA

3 要約情報を確認し、**[インポート]** をクリックします。サービスがインポートされ、該当する (ソフトウェア、パッチ、OS) HPCA ライブラリで使用可能になります。

4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス エクスポート ウィザード

サービス エクスポート ウィザードを使用して、HPCA ソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリから、HPCA Server マシンの `ServiceDecks` ディレクトリにサービスをエクスポートします。

サービス エクスポート ウィザードを使用してサービスをエクスポートするには

1 **[操作]** タブで、次のいずれかのページから **[サービスのエクスポート]** ツールバー ボタンをクリックします。

— **[ソフトウェア管理] > [ソフトウェア ライブラリ]**

— **[パッチ管理] > [パッチ ライブラリ]**

— **[OS 管理] > [OS ライブラリ]**

これにより、ウィザードが起動します。

2 エクスポートするサービスを選択します。

3 要約情報を確認し、**[エクスポート]** をクリックします。サービスが HPCA Server の `ServiceDecks` ディレクトリにエクスポートされます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`<InstallDir>¥Data¥ServiceDecks`

サービス デッキには複数のファイルが含まれていて、そのすべてに同じファイル名のプレフィックスが付いています。たとえば、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキ名は次のようになります。

PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA

サービス デッキの各ファイル名の 4 番目の部分に、エクスポートされたソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。

4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア同期ウィザード

ソフトウェア同期ウィザードを使用して、ソフトウェア同期ジョブを作成します。このジョブは、ソフトウェアをインストールしていないグループ メンバーに、付与されたソフトウェアをすべて自動的に配布します。また、ソフトウェア同期ジョブは、新しいグループ メンバーが全員、付与されたソフトウェアをすべて受信するようにします。

ソフトウェア同期ジョブを作成するには

1 [グループの詳細] ウィンドウの [ソフトウェア] タブで、[ソフトウェアの同期] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。

2 ソフトウェア同期ジョブの実行スケジュールを設定してください。**[実行: 今すぐ]** を選択してすぐにジョブの実行をスケジュール設定するか、**[実行: 後で]** を選択してジョブの日付と時刻をスケジュール設定します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

   反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

3 [起動] ドロップダウン リストを使用して、グループのデバイスに対して Wake-on-LAN を有効にします。これにより、HPCA は、必要なジョブ アクションを実行するためにデバイスの電源をオンにできます。

4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

パッチ配布ウィザード

パッチ配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにパッチの付与と配布を行います。

パッチ配布ウィザードを使用してパッチの付与と配布を行うには

1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。

   — [全般] タブ の [パッチ管理] で **[配布]** をクリックします

— [パッチの詳細] ウィンドウ、または [グループの詳細] ウィンドウの [パッチ ライブラリ] 領域から、**[パッチの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。

2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

3 配布方法を選択します。

適用状況の強制 — どのパッチがターゲット デバイスに適用可能か判断するには、この方法を選択します。適用可能なパッチのみがインストールされます。新しいパッチがデバイスに付与されると、このジョブが次回実行されるときに、そのパッチがインストールされます。継続的にパッチ適用状況を強制するには、反復スケジュールを作成する必要があります。

手動選択 — ターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を選択します。パッチがデバイスに適用できない場合、ジョブはエラーにより終了することがあります。反復適用状況スケジュールを作成せずに、1 度だけターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を使用します。

4 付与と配布を行うパッチを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。

5 **[次へ]** をクリックします。

6 付与され配布の対象となるグループを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。

7 **[次へ]** をクリックします。

8 このジョブの実行スケジュールを設定します。**[実行 : 今すぐ]** を選択してすぐにジョブの実行をスケジュール設定するか、**[実行 : 後で]** を選択してジョブの日付と時刻をスケジュール設定します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

➤ **[適用状況の強制]** 配布方法を選択した場合だけ、反復スケジュールが利用できます。

9 **[次へ]** をクリックします。

10 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。

11 現在のパッチ配布ジョブを表示するには、[現在のジョブ] タブをクリックします。

12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

➤ パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

サービス資格ウィザード

サービス資格ウィザードは、デバイスのグループにソフトウェア、オペレーティング システム イメージ、およびパッチ サービスを付与します。

サービス資格ウィザードを使用してグループ資格を追加するには

1 [管理] タブで、次のいずれかのページから **[グループ資格の追加]** ツールバー ボタンをクリックします。

— ソフトウェア管理 > [ソフトウェア] タブ

— パッチ管理 > [パッチ] タブ

— OS 管理 > [オペレーティング システム] タブ

これにより、ウィザードが起動します。

2 サービス (複数も可) への付与資格を受けるグループを選択するには、左のカラムのチェック ボックスをオンにします。

3 **[次へ]** をクリックします。

4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。ステータスと進捗を確認するには、[現在のジョブ] タブをクリックします。

5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア削除ウィザード

ソフトウェア削除ウィザードは、選択したデバイスまたはグループからソフトウェアをアンインストールします。

ソフトウェア削除ウィザードを使用してソフトウェアを削除するには

1 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウまたは [グループの詳細] ウィンドウから、削除するソフトウェアを選択します。

2 **[ソフトウェアの削除]** ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。

3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

4 ソフトウェア削除ジョブの実行スケジュールを設定します。**[実行 : 今すぐ]** を選択してソフトウェアをすぐに削除するか、**[実行 : 後で]** を選択してソフトウェアを削除する日付と時刻をスケジュール設定します。

5 **[次へ]** をクリックします。

6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。

7 現在のソフトウェア削除ジョブを表示するには、[現在のジョブ] タブをクリックします。

8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

OS 配布ウィザード

OS 配布ウィザードでは、オペレーティング システムを管理対象デバイスに配布できます。オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードの詳細については、268 ページの「OS 管理」を参照してください。

例については、307 ページの「同じ OS をサイレントに再インストールする方法」を参照してください。

OS 配布ウィザードを使用してオペレーティング システムを配布するには

1 [OS 管理] セクション の [管理] タブから、**[全般]** タブをクリックします。

2 [共通のタスク] の下で **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。OS 配布ウィザードが開始されます。

3 ウィザードの手順に従って、OS 配布ジョブをセットアップします。

手順 1 – イントロダクション

Windows XPe、Windows CE、または Embedded Linux を配布する場合は、**[シン クライアントの配布]** を選択します。それ以外の場合は、このボックスをオンにしないでください。

[次へ] をクリックして続行します。

手順 2 – オペレーティング システム

OS 選択リストから配布するオペレーティング システムを選択して **[次へ]** をクリックします。

このリストには、HPCA データベースにパブリッシュされたすべてのオペレーティング システムが含まれます。詳細については、352 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

手順 3 – グループ

リストからターゲット デバイスのグループを 1 つ以上選択して **[次へ]** をクリックします。

[設定] タブの [グループ] ページを使用してスタティック グループを作成することも (114 ページの「グループ管理」を参照)、[レポート] タブでダイナミック グループを作成することも (179 ページの「ダイナミック レポート グループの作成」を参照) できます。

OS 配布用に作成するグループは、同様の互換性のあるハードウェアで構成されている必要があります。

手順 4 – 配布動作

このページでは、OS 配布を実行する方法を決定する設定を指定します。これらの設定は、[設定] タブの [OS 管理] 領域で指定されたグローバル デフォルト設定よりも優先されます。

OS 配布方法の設定

— **配布メソッド**

OS を配布するために LSB をインストールする場合、**[ローカル サービスの起動 (LSB)]** を選択します。ローカル サービスの起動には、既存のマシンは PXE 対応である必要がなく、各ターゲット デバイスについて、ブートの順序を BIOS でローカルに設定する必要がないという利点があります。

単一パーティションの Windows 7 ローカル サービスの起動 (LSB) による配布では、Service OS (SOS) ファイルは、システム予約パーティションとローカル ディスク パーティションの両方にインストールされます。これらのファイルは、どちらのパーティションからも削除しないでください。

デバイスにオペレーティング システムをインストールするために PXE サーバーまたはサービス CD を使用する場合は、**[ローカル CD または PXE サーバー]** を選択します。

— **ユーザー データと設定の移行**

手順 1 で **[Thin Client 配布]** を選択した場合、このオプションは使用できません。

OS 配布の前にユーザー データと設定をバックアップし、後でそれらを復元するには、**[はい]** を選択します。オペレーティング システムの配布中に、HPCA Personality Backup サービスがサイレントに実行され、ユーザー データがバックアップされます。

新しいオペレーティング システムがインストールされた後に、ユーザー データを復元する方法は 3 つあります。

– 管理対象デバイスのユーザーは、HPCA Personality Backup and Restore Utility を実行できます。この場合、**[オペレーティング システムの移行からの復元]** オプションをオンにする必要があります。

– 管理対象デバイスで `pbr.exe` コマンドを実行できます。

– HPCA Personality Restore サービスをソフトウェア ライブラリから管理対象デバイスに配布できます。このサービスは、ユーザー データの復元を 1 回実行します。

Personality Backup は、Windows XP、Vista、または Windows 7 を実行する移行元コンピュータでのみサポートされています。

Personality Restore は、Windows XP、Vista、または Windows 7 を実行する移行先コンピュータでのみサポートされています。

さらに、現在のオペレーティング システムと配布されるオペレーティング システム イメージには、USMT 3.0.1 または USMT 4.0 のインストールが含まれている必要があります (387 ページの「ユーザー設定とファイルのバックアップと復元」を参照)。

— **OS を再インストールする場合**

[ユーザーに確認する (有人)] を選択した場合、配布プロセスを続行するには、オペレーティング システムの配布中にユーザーが管理対象デバイスがある場所にいる必要があります。

[ユーザーに確認しない (無人)] を選択すると、オペレーティング システムの配布中に、管理対象デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。

オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。**[ユーザーに確認しない (無人)]** を選択した場合は、新しいオペレーティング システムを配布する前に、ターゲット デバイス上の既存データを必ずバックアップしてください。

その他の OS 設定

— **OS イメージの最大ダウンロード速度**

これは、ネットワーク トラフィックを管理する場合に便利です。ターゲット デバイスへの OS イメージのダウンロード中に、業務上重要なアプリケーションのための十分なネットワーク バンド幅を確保しておくことができます。値を指定しない場合、HPCA によってネットワークの最大速度でイメージがダウンロードされます。

— **単位**

ダウンロードの最高速度を指定する場合、正しい単位も指定してください。

— **Service OS メッセージの表示言語**

OS 配布中にメッセージを表示するために使用する言語を選択します。

— **Service OS キーボード レイアウト**

OS 配布中に入力が必要な場合に使用されるキーボード レイアウトを選択します。

手順 5 – パーティション作成

このページでは、OS 配布よりも前にターゲット デバイスのハード ディスクがどのようにパーティション作成されるかを指定します。

手順 1 で **[Thin Client 配布]** を選択した場合、パーティション作成の設定は変更できません。手順 6 に進んでください。

基本プロパティ

— **パーティション作成方法**

方法	説明
既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールする	ターゲット デバイスのデータを保持する必要がない場合にこのオプションを使用します。 HPCA はターゲット デバイスの既存のパーティションを削除し、システム予約済み (サポートされる場合) パーティションと OS パーティションを作成します。 重要 : ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。

方法	説明
既存のデータ パーティションを保持して 1 つの OS パーティションを作成する	既存のデータを保持しておく必要のあるマシン上の OS を置換 (更新) する場合にこのオプションを使用します。 HPCA によって既存の OS パーティションが削除され (存在する場合は「システム予約」パーティションも削除される)、システム予約パーティション (サポートされている場合) と OS パーティションが作成されます。既存のデータ パーティションは対象外になります。 • インストールするパーティションが既に定義されているパーティションより大きい場合、インストールは失敗します。 • ターゲット ドライブに既存のパーティション (ベア メタルなど) がない場合は、1 つの OS パーティションのオプションと同じ結果になります。 注意 : このオプションは移行用に使用します。
既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールし、OS をローカルにキャッシュする	ターゲット ドライブの最後に、隠しバックアップ パーティションを作成する場合にこのオプションを使用します。 パーティションのサイズは、OS のインストール イメージのサイズによって、動的に決められます。OS を再インストールするために必要なすべてのファイルが、(圧縮状態で) このパーティションに保存されます。 重要 : ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。

方法	説明
既存のデータ パーティションと OS パーティションのデータ復元ディレクトリを保持して OS をインストールする	新しいオペレーティング システムのインストール中にターゲット デバイス内のファイルとフォルダを保持し、OS のインストール後に復元する場合にこのオプションを使用します。このオプションを使用すると、HPCA によるディスクのパーティション再分割は行われません。 注意 : これには、OS の配布方法に ImageX を使用する必要があります。その他の配布方法を使用すると、エラーが発生します。 注意: ターゲット デバイスに OS パーティションとは別に「システム予約済み」パーティションがある場合、このオプションは使用できません。 注意 : このオプションを選択した場合、[詳細プロパティ] の下の 2 つの設定は変更できません。手順 6 に進んでください。

詳細プロパティ

— **Windows 7/2008 R2 のシステム パーティションのサイズ**

システム予約パーティションのサイズ (MB) を指定します。

5 桁の非負数を指定できます。指定する値が大きすぎる場合、赤色で警告が表示されます。0 (ゼロ) の値を指定すると、システム予約済みパーティションは作成されません。

— **ディスク先頭の未パーティション領域のサイズ**

残しておくディスク先頭の未パーティション領域の容量 (MB) を指定します。この領域は、後で復旧パーティションの作成などに使用できます。

0 (ゼロ) の値を指定すると、未パーティション領域は予約されません。

手順 6 – スケジュール

このページでは、この OS 配布を実行する HPCA ジョブをいつ開始するかを指定します。配布は 1 回だけ実行することも定期的に実行することもできます。

— **ジョブ スケジュール**

[実行 : 今すぐ] を選択して OS をすぐに配布するか、**[実行 : 後で]** を選択して OS 配布の日付と時刻をスケジュール設定します。

反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

反復ジョブ スケジュール オプションは、グループに関連したジョブを作成する場合にのみ使用できます。

— **その他のパラメータ**

HPCA でアウトバンド管理機能 (有効な場合) を使用してターゲット デバイスの電源をオンにする場合、[電源オン] メニューで **[はい]** を選択します。**[いいえ]** を選択すると Wake-On-LAN が使用されます。

手順 7 – 要約

この OS 配布の設定を確認します。設定を変更するには、該当するウィザード ページが表示されるまで **[前へ]** ボタンをクリックします。続行する準備ができたら、**[サブミット]** をクリックします。

手順 8 – 完了

このページには、OS 配布ジョブが正常に HPCA にサブミットされたかどうかが示されます。

[現在のジョブ] タブでジョブのステータスを確認できます。ジョブがすぐに表示されない場合、[リフレッシュ] ボタンをクリックしてください。

同じ OS をサイレントに再インストールする方法

次の各条件を満たしている場合、既存のオペレーティング システムをサイレントに再インストールできます。

- ターゲット デバイスがすでに HPCA によって管理されている場合。
- 既存の OS が HPCA によってインストールされた場合。
- 前にインストールされたものとまったく同じ OS サービスをインストールする場合。

これらの条件を満たし、次の手順に従って配布オプションを設定すれば、HPCA Console からの OS の再インストールを制御でき、ターゲット デバイスでユーザーが操作する必要はありません。

同じ OS イメージをサイレントに再インストールするには

1. [設定] タブで、**[OS 管理] > [配布]** ページに移動します。
2. [配布動作] タブで次の各項目を指定します。
   - [OS の再インストール時] で **[ユーザーに確認しない (無人)]** を選択します。
   - [インストールする OS の選択をユーザーに許可する] で、**[いいえ]** を選択します。
3. **[保存]** をクリックします。
4. OS 配布ウィザードを起動します (300 ページの「OS 配布ウィザード」を参照)。
5. 配布動作の手順で、[OS の再インストール時] が **[ユーザーに確認しない (無人)]** に設定されていることを確認します。
6. OS 配布ウィザードの残りの手順を完了します。

アプリケーション利用状況収集ウィザード

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、ターゲット デバイスまたはグループのアプリケーション利用状況データを収集します。アプリケーション利用状況収集ウィザードは、ターゲット デバイスに利用状況収集エージェントをインストールして、ユーザーが作成し有効にしたフィルタに基づいて利用状況データを返します (308 ページの「利用状況収集フィルタ作成ウィザード」を参照)。

アプリケーション利用状況データを探索するには

1 [管理] タブで **[デバイス]** または **[グループ]** をクリックします。

2 **[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。ウィザードが開きます。

3 次のいずれかのオプションを選択します。

— **[実行 : 今すぐ]** を選択して、ウィザードが完了した直後のジョブ実行をスケジュール設定します。

— **[実行 : 後で]** を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。

反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。

反復ジョブ スケジュール オプション (**['x' 日ごと]** など) は、グループ関連のジョブを作成する場合にのみ使用できます。

週ごとのアプリケーション利用状況データの収集を推奨します。

4 デバイスの**電源をオン**にする場合、ドロップダウン リストから **[はい]** を選択してください。これにより、必要に応じて HPCA はデバイスの電源をオンにできます。

5 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

これで、ターゲット デバイスに利用状況収集エージェントをインストールするジョブを作成して、ターゲット デバイスから利用状況情報を収集できます。保留中のすべてのジョブは、[ジョブ] 領域の **[現在のジョブ]** をクリックして確認できます。

6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

利用状況収集フィルタ作成ウィザード

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。

新しい収集フィルタを作成するには

1 [操作] タブで **[利用状況管理]** をクリックし、次に **[収集フィルタ]** をクリックします。

2 **[新しいフィルタの作成]** ツールバー ボタンをクリックします。ウィザードが開きます。

3 フィルタ パラメータを設定するには、各テキスト ボックスにフィルタ条件を入力します。

利用状況データのフィルタを適用するフィールドにのみ値を入力します。空のテキスト ボックスは無視され、フィルタ条件として使用されません。

入力した値が、ソフトウェアの実行可能ファイルのファイル ヘッダーと比較され、収集された利用状況データがフィルタ条件に合致するか判断されます。

特定のソフトウェアにフィルタを適用する方法を決めるには、275 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

> 50 を超えるアプリケーションについてデータを収集し、報告するようにフィルタを設定すると、大量のデータが収集され、結果的にレポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。

4 **[作成]** をクリックします。

5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

新しいフィルタが、収集フィルタ リストに追加されます。

Satellite Server 配布ウィザード

Satellite Server 配布ウィザードを使用して Satellite Server をインストールし、データ キャッシングなどのリモート サービスを有効にできます。

Satellite Server を配布するには

1 **[設定]** タブで、**[インフラストラクチャ管理]** > **[サテライト管理]** 領域に移動します。

2 **[サーバー]** タブをクリックします。

3 Satellite Server のリストでデバイスを 1 つ以上選択します。

既存の HPCA Satellite Server またはレガシー プロキシ サーバーが選択されている場合、これらのサーバーは最新バージョンの HPCA Satellite Server に自動的にアップグレードされます。

4 **[Satellite Server のインストール]** ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。

5 ターゲット デバイスで管理者レベルのアクセス権がある**ユーザー ID** と**パスワード**を入力します。

6 **[次へ]** をクリックします。[プロパティ] ウィンドウが表示されます。

7 **インストール ドライブ**と**データ ドライブ**を選択します。

Satellite をデフォルト以外の場所にインストールするには、インストール前に次の手順を実行する必要があります。

a Satellite 用のすべての HPCA インストール ファイルを HPCA メディアからターゲット マシンにコピーします。

b `setup.ini` ファイルの `INSTALLDIR` パラメータと `DATADIR` パラメータを編集します。

c `setup.exe` を実行します。

8 HPCA Standard Editition および Starter Editition の場合、ストリームライン (標準) 配布モードのみを使用できます。**[次へ]** をクリックします。[スケジュール] ウィンドウが開きます。

9 配布ジョブの実行スケジュールを指定します。**[実行 : 今すぐ]** を選択して Satellite Server をすぐに配布するか、**[実行 : 後で]** を選択して配布の日付と時刻をスケジュール設定します。

10 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。

11 要約情報を確認します。

12 **[サブミット]** をクリックします。

Satellite Server 配布ジョブが作成されます。

Satellite Server ダウンロード ファイルは、サイズが大きいファイルです。ネットワーク トラフィック量が多い場合、配布に時間がかかる場合があります。ジョブのステータスは [管理] タブの [ジョブ管理] 領域で確認できます。

13 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

Satellite Server 削除ウィザード

Satellite Server 削除ウィザードを使用して、HPCA Satellite Server グループから 1 つ以上の Satellite Server をアンインストールします。

Satellite Server をアンインストールするには

1 [設定] タブで [Satellite 管理] 領域の [インフラストラクチャ管理] に進みます。

2 **[サーバー]** タブをクリックします。

3 Satellite Server のリストでデバイスを 1 つ以上選択します。

4 **[Satellite Server のアンインストール]** ツールバー ボタンをクリックします。[資格] ウィンドウが表示されます。

5 Satellite Server で管理者レベルのアクセス権があるユーザー ID とパスワードを入力します。

6 **[次へ]** をクリックします。[スケジュール] ウィンドウが開きます。

7 **[実行 : 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後に Satellite Server をアンインストールするか、**[実行 : 後で]** を選択してアンインストールする日付と時刻を入力します。

8 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。

9 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

   Satellite Server 削除ジョブが作成されます。ジョブのステータスは [管理] タブの [ジョブ管理] 領域で確認できます。

10 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

サーバー プール作成ウィザード

サーバー プール作成ウィザードを使用して、Core Server と Satellite Server 用の新しいサーバー プールを作成します。サーバー プールを使用すると、ソフトウェアによるクライアント接続の負荷分散が可能になります。

新しいサーバー プールを追加するには

1 [設定] タブで [Satellite 管理] 領域の [インフラストラクチャ管理] に進みます。

2 **[サーバー プール]** タブをクリックします。

3 **[新しいサーバーツールの作成]** ツールバー ボタンをクリックして、サーバー プール作成ウィザードを起動します。サーバー プール作成ウィザードの [プロパティ] ページが表示されます。

4 [プロパティ] 領域で、次を指定します。

— **名前 :** 新しいサーバー プールの名前を入力します。

— **説明 :** わかりやすい説明を入力します。これは省略可能です。

— **有効 :** このサーバー プールを有効にする必要があるかどうかを示します。クライアント デバイスからサーバー プールおよびそのサーバーへの接続を実現するには、サーバー プールを有効にする必要があります。メンテナンス中のサーバー プールへの接続を阻止するため、サーバー プールを無効にすることができます。

5 **[次へ]** をクリックします。[Server Selection] ウィンドウが開きます。

6 このサーバー プールのメンバーとなるサーバーを選択します。リソースが必要になると、このサーバー プールのメンバーは、各エージェントによってランダムに選択されます。サーバー プールには、最大 30 台のサーバーを含めることができます。

7 **[作成]** をクリックして、ウィザードを終了します。

新しいサーバー プールが [サーバー プール] タブに表示され、このプールのメンバーであるサーバーの数が示されます。

ロケーション作成ウィザード

ロケーション作成ウィザードを使用して新しいロケーションを追加できます。これらのロケーションにサブネットとリソースを割り当てることができるほか、優先順位を設定することもできます。優先順位を設定すると、サブネット内のデバイスが、指定した順序でリソースに接続するようにできます。

新しいロケーションを作成するには

1 [設定] タブで [Satellite 管理] 領域の [インフラストラクチャ管理] に進みます。

2 **[Locations]** タブをクリックします。

3 **[新しいロケーションの作成]** ツールバー ボタンをクリックします。ロケーション作成ウィザードが開きます。

4 [プロパティ] 領域で、このロケーションのプロパティを指定します。[名前] は唯一の必須フィールドで、一意の名前を指定する必要があります。

5 **[次へ]** をクリックします。[サブネットの選択] ウィンドウが開きます。

6 このロケーションに割り当てるサブネットを選択します。

7 **[次へ]** をクリックします。[接続] ウィンドウが表示されます。新しい接続を追加するか、既存の接続をインポートできます。

接続を追加するには

a **[接続の追加]** リンクをクリックして、このロケーションに対する接続の割り当てを定義します。[ロケーション接続の選択] ウィンドウが開きます。

b このロケーションに割り当てるリソースを使用可能なタイプから選択します。Agent 接続では、選択したサーバーまたはサーバー プールからのリソースの使用が試みられます。

c **[接続の追加]** をクリックします。

接続をインポートするには

a **[接続のインポート]** をクリックします。[ロケーションの選択] ウィンドウが開きます。

b 接続をインポートするロケーションを選択します。

➤ 別のロケーションの接続をインポートすると、既存の接続は失われます。

c **[接続のインポート]** をクリックします。

8 必要に応じて接続順序を変更します。[最順序] カラムで上向き矢印または下向き矢印を使用して順序を指定します。デバイスは、この新しい順序でサーバーまたはサーバー プールに接続を試みます。

9 **[作成]** をクリックします。

新しいロケーションが [Location] タブに表示されます。

サブネット作成ウィザード

サブネット作成ウィザードを使用して、管理対象デバイスの割り当てが可能な新しいサブネット アドレスを追加します。管理対象デバイスは、ロケーションへのサブネットの割り当てに基づいて Satellite Server に接続します。

新しいサブネット ロケーションを追加するには

1 [設定] タブで [Satellite 管理] 領域の [インフラストラクチャ管理] に進みます。

2 **[サブネット]** タブをクリックします。

3 **[新しいサブネットの作成]** ツールバー ボタンをクリックします。サブネット作成ウィザードが開きます。

4 [プロパティ] 領域で、次を指定します。

— **IP アドレス** : 有効な IP アドレスを入力します。

— **サブネット マスク** : 有効なサブネット マスクを入力します。

— **サブネット** : 有効な IP アドレスとサブネット マスクを入力すると、このフィールドにより CIDR (Classless Inter-Domain Routing) アドレスが自動的に生成されます。

— **名前** : 新しいサブネットの名前を入力します。

— **説明** : わかりやすい説明を入力します (省略可能)。

— **Assigned Location**: プルダウン メニューからロケーションを選択します。使用可能なロケーションは、デフォルトのロケーションと、ロケーション作成ウィザードを使用して追加したロケーションです。

5 **[作成]** をクリックします。

新しいサブネット IP アドレスが [サブネット] タブに表示されます。

11 メタデータを使用したパッチ管理

HPCA では、パッチの更新を取得して Agent デバイスに配信するための軽量モデルが採用されています。このモデルではメタデータのみを使用してエージェントのパッチ スキャンを行うため、メタデータを使用したパッチ管理と呼ばれています。

この章では、メタデータを使用したパッチ管理を活用するために必要な概念、設定、および実装の詳細について説明します。

メタデータを使用したパッチ管理は、次の環境でのみ実行できます。

- Microsoft Update Catalog データ フィードを使用する Microsoft オペレーティング システム
- HPCA Core および Satellite の Enterprise レベルと Standard レベルの環境

概要

現在、メタデータを使用したパッチ管理の軽量モデルは、Microsoft デバイスのパッチ適用に使用でき、それには Microsoft Update Catalog フィードを使用する必要があります。

このモデルには、317 ページの図 16 で示すように次のような利点があります。

メタデータ パッチ管理モデルは、次の点で従来の HPCA パッチ適用モデルと異なります。

1. Core Server の HPCA Database には、実際のパッチ バイナリではなく、ブリティンのメタデータ情報のみが格納されます。

   このモデルではパッチ取得の実行速度が向上し、またエージェントのパッチ探索および HPCA Server の同期では、インフラストラクチャ トラフィックの負荷も軽減されます。

2 実際のパッチ バイナリは、Core Server と Satellite Server の両方のコンポーネントであるパッチ ゲートウェイにダウンロードおよびキャッシュされます。ゲートウェイでは、エージェント マシンから最初のリクエストを受信するとパッチ バイナリがダウンロードされ、他のエージェント マシンが使用できるようにキャッシュされます。また、必要に応じて、パッチ ゲートウェイでは、ユーザーが取得を実行するときにパッチ バイナリを事前に読み込めます。

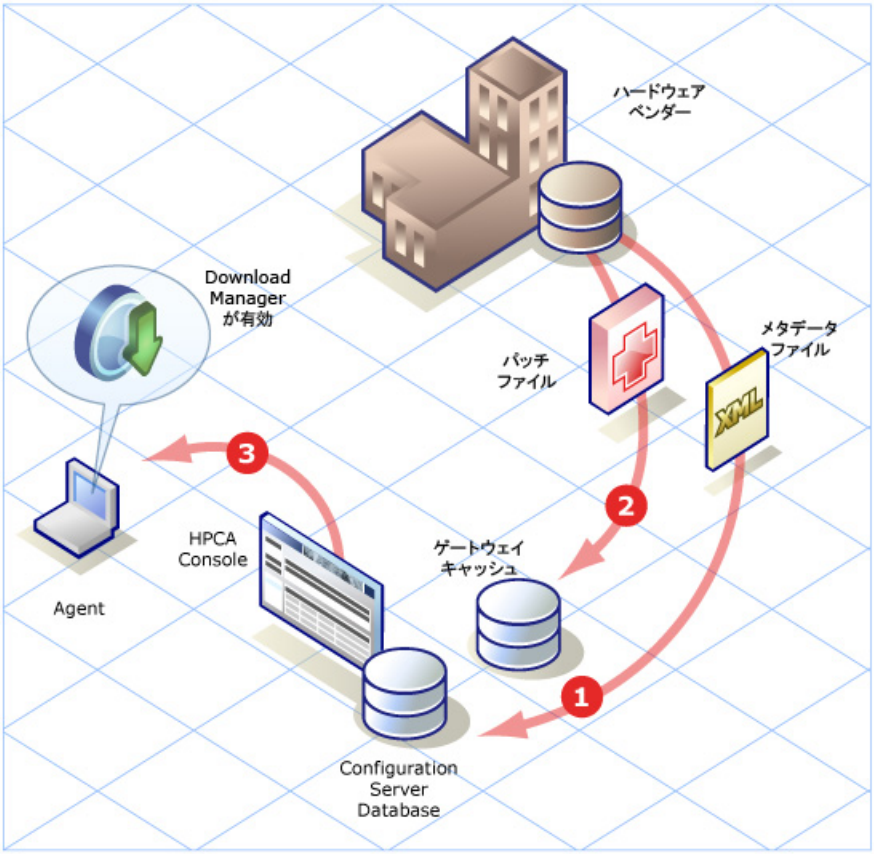
3 メタデータ モデルを使用する場合、スキャン フェーズの最後に、適用可能なパッチ バイナリのリクエストによってパッチ ゲートウェイに接続できるようにするためには、エージェントの Download Manager が有効になっている必要があります。

   Download Manager では、エージェントへのパッチ ファイルの受動転送が処理されます。ファイルの転送が完了すると、パッチをインストールするためにエージェント接続が起動されます。

317 ページの図 16 に、メタデータを使用したパッチ管理モデルを示します。

比較のために、318 ページの図 17 には従来のパッチ管理モデルを示します。

図 16　メタデータを使用したパッチ管理モデル



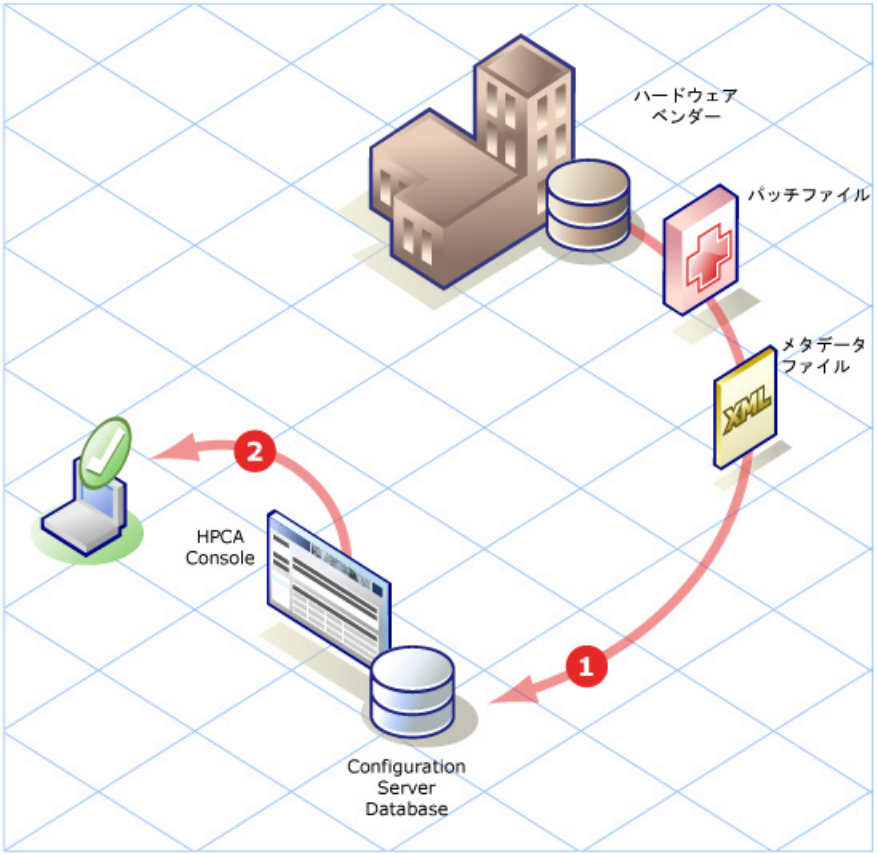
凡例 :

1　パッチ取得により、パッチのメタデータ ファイルのみがベンダーからダウンロードされます。パッチ メタデータは Core HPCA データベースにパブリッシュされ、管理対象エージェントからリクエストされるパッチ ファイルの正確なリストを検出するために使用されます。

2　エージェントからの (または任意で選択できる事前読み込みでの) リクエスト、パッチ ゲートウェイがベンダーからパッチ ファイルをダウンロードし、他のエージェントが使用できるようにキャッシュします。パッチ ファイルを HPCA データベースにパブリッシュする必要はありません。

3 Patch Agent では Download Manager を有効にする必要があります。Download Manager では、エージェントへの必要なパッチ ファイルの受動ダウンロードがバックグラウンド プロセスで処理されます。

図 17 パッチ管理モデル - 従来



凡例 :

1 従来のパッチ取得では、ブリティンのメタデータとすべての関連パッチ ファイルがベンダーからダウンロードされます。これらのファイルは、企業内のエージェントに必要かどうかは関係なく、すべて Core HPCA データベースにパブリッシュされます。

2 Patch Agent では、Download Manager オプションを使用しても使用しなくてもパッチを適用できます。使用しない場合は、エージェント接続によって、必要なパッチ ファイルのダウンロードがフォアグラウンド プロセスで処理されます。一方、Download Manager では、エージェントへの必要なパッチ ファイルの受動ダウンロードがバックグラウンド プロセスで処理されます。

Satellite での有効化

Satellite Server でパッチ ゲートウェイを有効にするには

1 Satellite コンソールで、[設定] タブを選択して **[パッチ管理]** をクリックします。このオプションにより、パッチ ゲートウェイを有効または無効にできます。

   パッチ ゲートウェイを無効にすると、Satellite Server によってパッチ バイナリのリクエストがアップストリーム サーバーに転送されます。これは、このオプションのデフォルトの設定です。

   パッチ ゲートウェイを有効にすると、Satellite Server によってパッチ バイナリがインターネットから直接取得されます。バイナリを取得する場合、この方法をお勧めします。

2 パッチ ゲートウェイを有効にする場合は、追加オプションを設定する必要があります。

3 **[保存]** をクリックして設定を保存します。

12 OS イメージの準備とキャプチャ

はじめに

この章では、使用環境で、次のオペレーティング システムのイメージを準備またはキャプチャし、管理対象の クライアント デバイスに配布する方法について説明します。

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2 (x64)
- Windows Vista
- Windows Server 2008

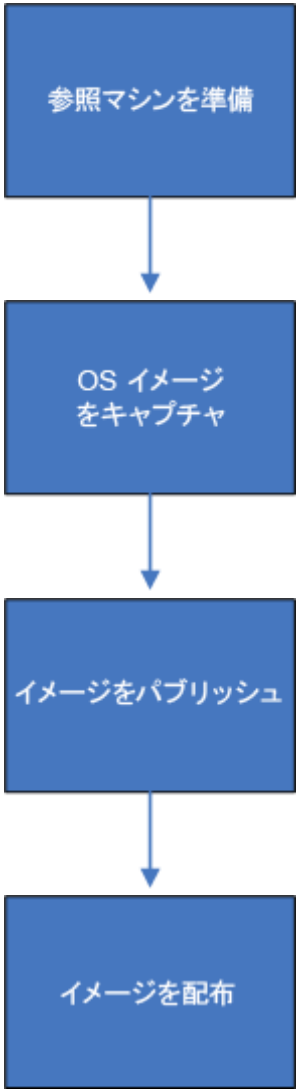
古いオペレーティング システムのイメージをキャプチャするには、469 ページの「Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ」を参照してください。

OS Manager Server の IP アドレスとポート番号を入力するための画面が表示された場合、必ず HPCA サーバー ポート番号 (デフォルトでは 3466) を指定する必要があります。

既存の OS WIM イメージ (これには、Microsoft Windows OS インストール メディアにある OS `.WIM` ファイルが含まれる) を使用しているか、または Microsoft Windows Automated Installation Kit (AIK) で OS WIM イメージを作成する場合は、イメージを準備またはキャプチャする必要はないため、次の章に進んでください。

プロセスの概要

HPCA では、オペレーティング システムの管理プロセスに次の 4 つの手順があります。



参照マシンは、使用環境の管理対象デバイスに配布できる「ゴールド」OS イメージの作成に使用するシステムです。

325 ページの「参照マシンの準備」を参照してください。

HPCA では、対話型の OS の Image Capture ツールを用意しています。このツールでは、参照マシン上の OS イメージを簡単にキャプチャできます。

328 ページの「OS イメージのキャプチャ」を参照してください。

OS イメージをキャプチャしたら、HPCA データベースにそのイメージをパブリッシュする必要があります。HPCA では、イメージのパブリッシュに役立つ対話型の Publisher ツールを用意しています。

352 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

次に、HPCA Console を使用して、使用環境にある管理対象のクライアント デバイスのグループにオペレーティング システムのイメージを配布できます。

149 ページの「OS 管理」を参照してください。

この章では、OS イメージの準備およびキャプチャに焦点を当てています。パブリッシュおよび配布については、この概要で示した章で説明します。

デスクトップ OS イメージの準備とキャプチャ

このセクションの情報は、デスクトップ、ラップトップ、ノートブック、ネットブック、およびワークステーションのクライアント デバイスに関するものです。Thin Client デバイスについては、332 ページの「シン クライアント OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

前提条件

- HPCA OS Image Capture ツールで OS イメージのキャプチャを試行する前に、Microsoft Windows Automated Installation Kit (AIK) が HPCA Core Server にインストールされていることを確認します。

  詳細については、「*HPCA のインストール*」の章を参照してください。

- Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) が参照マシンにインストールされていることを確認します。.NET Framework は、次の Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

  http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx

  どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

  `%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework`

- HPCA では、OS イメージをキャプチャし、アップロードするための十分な空きディスク領域が Core Server にあるかどうかは確認されません。十分な空きディスク領域がない場合、アップロードは失敗します。

  Core Server に十分な空きディスク領域があり、OS イメージのアップロードを正常に完了できる状態であることを確認してください。

- 別個のブート パーティションを持つ Microsoft Windows Vista 以上の OS を正常にキャプチャするには、ブート パーティションのサイズを 300 MB 以上にする必要があります。300 MB より少ない場合は、300 MB 以上になるようにサイズを増やしてください。推奨されるブート パーティション サイズは 1 GB です。

  `winpe.wim` イメージ ファイルをカスタマイズしてある場合は、ブート パーティションのサイズを winpe.wim ファイルの 2 倍に設定します。たとえば、`winpe.wim` ファイルのサイズが 200 MB の場合、ブート パーティションのサイズを 400 MB 以上に設定します。

OS Image Capture ツールについて

HPCA OS Image Capture ツールは、次のタスクを実行します。

1 参照マシンに関する情報 (ハードウェア機能と OS 機能についての情報) を収集して格納します。

2 必要に応じて、使用可能な終了ポイントを実行します。Image Preparation Wizard で、イメージを封印する SysPrep が起動される前に `PRE.CMD` が実行されます。Sysprep によってイメージが封印された後、`POST.CMD` が実行されます。詳細については、471 ページの「Image Preparation Wizard の終了ポイント」を参照してください。

Image Capture の終了ポイントは、ImageX および Windows セットアップのキャプチャ タイプの場合にのみサポートされます。

3 Microsoft Sysprep を実行します。

4 参照マシンを (適切なメディアから起動された) Service OS で再起動します。実行した Service OS でイメージと関連ファイルが収集されます。

5 ファイルを作成し、HPCA Server [HPCA Server] の次のディレクトリにコピーします。

`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

アップロードされるファイルは、次のとおりです。

— `ImageName.WIM`
このファイルには参照マシンの一連のファイルとファイル システム情報が含まれています。

— `ImageName.EDM`
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

OS Image Capture ツールでは、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) が必要になります。これは、次の Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx

どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

`%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework`

参照マシンの準備

参照マシンの準備プロセスは、キャプチャするオペレーティング システムによって若干異なります。詳細な手順については、次のトピックを参照してください。

- 325 ページの「Windows 7 または Windows Server 2008 R2 x64」
- 327 ページの「Windows Vista または Windows Server 2008」

Windows 7 または Windows Server 2008 R2 x64

単一パーティションまたはデュアル パーティションいずれかの OS セットアップからキャプチャできます。デュアル パーティションの OS セットアップの場合、システム予約パーティションにはブート マネージャと HPCA Service OS (SOS) のファイルが格納されます。OS パーティションには Boot Loader および OS 自体が格納されます。

1. オリジナル製品メディアから、オペレーティング システムをインストールします。参照マシンは、インストール対象のオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが DHCP を使用していることを確認します。
   - インストールの種類の指定を求められたら、**[カスタム (高度)]** オプションを選択します。
   - Windows 7 をインストールする場所の指定を求められたら、**[ドライブ オプション (高度)]** を選択します。
2. **[新規作成]** をクリックして、Windows 7 を格納する新しいパーティションを作成します。
3. **[サイズ]** ボックスで、最大値を選択します。
4. **[適用]** をクリックします。ダイアログ ボックスが開き、Windows が追加パーティションを作成する場合があることを警告します。**[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じ、操作を続行します。
5. **単一パーティション** インストールを作成するには、次の手順を実行します。
   a. 小さいシステム予約パーティションを選択し、**[削除]** をクリックします。ダイアログ ボックスが開き、このパーティションに格納されているすべてのデータが失われることを警告します。
   b. **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じて、操作を続行します。
   c. 残りのパーティションを選択して、**[次へ]** をクリックします。その後、Windows 7 のインストールを続行します。

   デュアル パーティション インストールを作成するには、次の手順を実行します。

a 手順 4 で作成されたパーティションを選択し、**[削除]** をクリックします。ダイアログ ボックスが開き、このパーティションを削除すると、パーティションに格納されているすべてのデータが失われることを警告します。

b **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じて、操作を続行します。

c システム予約パーティションを選択し、**[拡張]** をクリックします。

d **[サイズ]** ボックスで、1024 MB を指定します。

e **[適用]** をクリックします。再度、ダイアログ ボックスが開き、パーティションの拡張は元に戻せない操作であることを警告します。

f **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じ、操作を続行します。

g 手順 4 で作成されたパーティションを再び選択し、**[新規作成]** をクリックします。

h **[サイズ]** ボックスで、最大値を選択します。

i **[適用]** をクリックします。再度、ダイアログ ボックスが開き、Windows が追加パーティションを作成する場合があることを警告します。

j **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じ、操作を続行します。

k **[次へ]** をクリックします。その後、Windows 7 のインストールを続行します。

6 コンピュータの場所の選択を求められた場合は、**[作業ネットワーク]** を選択します。

7 必要に応じて OS をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。OS とアプリケーションの最新のサービス パック、およびイメージの配布先となるデバイスに必要なドライバが含まれることを確認してください。

参照マシンへの HPCA Agent のインストールは推奨されません。HPCA Agent は、OS が配布されるときにインストール (インストール済みである場合はアップグレード) されます。

8 HPCA Server へのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、デバイスの電源が切れないように、BIOS の電源管理を設定してください。

9 [コントロール パネル] で、ユーザー アクセス制御のレベルを **[通知しない]** に設定します。

10 .WIM ファイルのサイズを抑えるために、ファイル システムのサイズをできるだけ小さくします。

Windows セットアップ配布メソッドを使用してイメージを正常にキャプチャするには、参照マシンの OS パーティションに十分な空きディスク領域がある必要があります。たとえば、7 GB のイメージをキャプチャするには、50 ～ 60 GB の空きディスク領域が必要です。

a ファイル システムから、必須ではないファイルとディレクトリを削除します。

b システムの復元を無効にします。

11 Windows 7 および Windows Server 2008 R2 x64 のキャプチャ プロセスの一部として、システムがローカル ディスクから再起動する場合、キャプチャ モードで起動するようにシステムが設定されます。CD またはネットワークに Image Capture メディアを保持する必要はありません。

Windows Vista または Windows Server 2008

1 オリジナル製品メディアから、オペレーティング システムをインストールします。参照マシンは、インストールするオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが DHCP を使用していることを確認します。

OS は C: ドライブに格納してください。C: ドライブ以外はキャプチャされません。

必要に応じて OS をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。OS とアプリケーションの最新サービス パック、およびイメージの配布先となるデバイスに必要なドライバが含まれていることを確認してください。

参照マシンへの HPCA Agent のインストールは推奨されません。HPCA Agent は、OS が配布されるときにインストール (インストール済みである場合はアップグレード) されます。

2 HPCA Server へのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、デバイスの電源が切れないように、BIOS の電源管理を設定してください。

3 User Access Control を無効にします。

4 .WIM ファイルのサイズを抑えるために、ファイル システムのサイズをできるだけ小さくします。

Windows セットアップ配布メソッドを使用してイメージを正常にキャプチャするには、参照マシンの OS パーティションに十分な空きディスク領域がある必要があります。たとえば、7 ギガバイトのイメージをキャプチャするには、50 ～ 60 ギガバイトの空きディスク領域が必要です。

Windows 7 より前の Windows オペレーティング システムの場合、プライマリ ブート ドライブのプライマリ ブート パーティションへのイメージの配布がサポートされます。

a ファイル システムから、必須ではないファイルとディレクトリを削除します。

b システムの復元を無効にします。

5 Vista および Windows Server 2008 のキャプチャ プロセスの一部として、システムがローカル ディスクから再起動する場合、キャプチャ モードで起動するようにシステムが設定されます。CD/DVD またはネットワーク上に ImageCapture メディアを保持する必要はありません。

OS イメージのキャプチャ

OS Image Capture ツールで参照マシンのイメージをキャプチャし、HPCA Server にイメージをアップロードできます。その後、そのイメージをパブリッシュして、使用環境の管理対象デバイスに配布できます。

Image Capture ツールは、次のオペレーティング システムで使用できます。

- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2 (64 ビット)

OS Image Capture ツールでは、Windows Preinstallation Environment (Windows PE) ベースのキャプチャのみをサポートしています。シン クライアント キャプチャを実行するには、332 ページの「シン クライアント OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。古い OS イメージをキャプチャするには、469 ページの「Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ」を参照してください。

OS Image Capture ツールにアクセスするには

1 管理者権限のあるアカウントを使用して参照マシンにログオンします。

2 ImageCapture メディアの CD を参照マシンに挿入します。

このメディアの入手方法の詳細については、『HP Client Automation OS 管理リファレンス ガイド』の「製品メディア」を参照してください。

3 ImageCapture CD で、次のフォルダを参照します。

`image_preparation_wizard¥win32`

4 `oscapture.exe` を実行します。

OS Image Capture ツールが開きます。[ようこそ] ページに参照マシンのハードウェアおよびオペレーティング システムについての情報が表示されます。

参照マシンのオペレーティング システムが前述のオペレーティング システムより古い場合は、代わりに、HPCA Image Preparation Wizard が開きます。詳細については、469 ページの「Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ」を参照してください。

5 **[次へ]** をクリックして続行します。[イメージ オプション] ページが開きます。

イメージ オプション

[イメージ オプション] ページでは、次の情報を指定します。

- **[イメージ メソッド]** – ImageX または Windows セットアップを選択します。
  - ImageX では Windows PE や ImageX ユーティリティで配布される `.WIM` フォーマットでイメージをキャプチャします。
  - Windows セットアップでは、Windows PE や Windows セットアップで配布される `.WIM` 形式でイメージがキャプチャされます。

  Windows セットアップでは、インストールをより適切に制御できます。ImageX では、単純なファイル抽出と同様の操作で実行できます。いずれかの方法でキャプチャしたイメージを使用して、無人インストールまたはアップグレードを実行できます。

  ImageX および Windows セットアップについての詳細は、**http://technet.microsoft.com** で入手できる Windows ドキュメントを参照してください。

- **[イメージ名]** – このイメージ用に選択する名前。HPCA Server にアップロードされ、このイメージの配布に使用するファイルがこの名前を使用します。

  イメージ名に入力できる文字数は、半角で 8 文字までです。大文字と小文字は区別されません。

- **[イメージの説明]** – ユーザーが提供する説明情報。イメージをパブリッシュするときに、HPCA Server で使用可能なオペレーティング システム イメージの一覧にこの情報が表示されます。

  イメージの説明に入力できる文字数は、半角で 80 文字までです。

- **[移行先サーバー]** – キャプチャ後のこのイメージのアップロード先の HPCA Server のホスト名または IP アドレス。

  Image Capture ツールでは、キャプチャ後イメージをアップロードできるようにするために、HPCA Server への接続を試行します。接続できない場合は、エラー メッセージが表示されます。参照マシンのシステム プロキシ設定およびファイアウォール設定でサーバーと通信できることを確認します。

- **[ポート]** – 前述の項目で指定した HPCA Server がリスンするポート番号。デフォルト ポートは 3466 です。

[次へ] をクリックして、[要約] ページに進みます。

要約

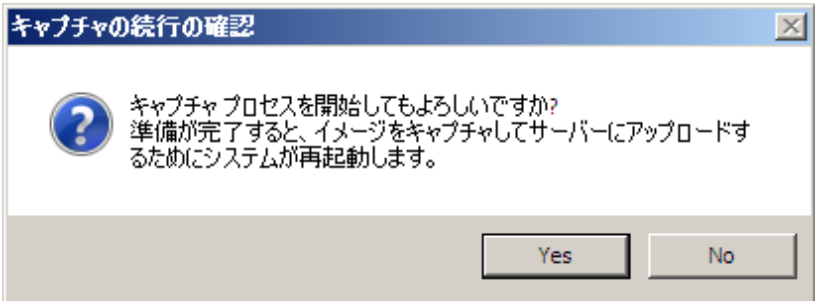
[要約] ページには、指定した名前、イメージの推定サイズなどキャプチャ対象のイメージに関する情報が表示されます。

このキャプチャで指定したパラメータのいずれかを変更するには、**[戻る]** ボタンをクリックして、[イメージ オプション] ページに戻ります。

イメージをキャプチャして指定の HPCA Server にアップロードするには、**[キャプチャ]** をクリックします。

次の処理が実行されます。

1 次のダイアログ ボックスが表示されます。



2 マシンの準備や再起動をしたり、イメージをキャプチャしたりするには、**[はい]** をクリックします。

このキャプチャには 15 ～ 20 分かかります。処理時間はイメージのサイズによって異なります。キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、343 ページの「Windows PE Service OS 画面について」を参照してください。

3 イメージのキャプチャ後、OS Image Capture ツールがネットワークに接続されて HPCA Server の次のディレクトリにそのイメージが格納されます。

`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

4 アップロード プロセスが完了すると、マシンを再起動またはシャットダウンするかどうかを確認されます。

次に、イメージを HPCA データベースにパブリッシュします。HPCA Console のオンライン ヘルプの「パブリッシュ」を参照してください。

HPCA での OS 管理の詳細については、331 ページの「その他の参照情報」を参照してください。

その他の参照情報

HPCA での OS 管理の詳細については、次を参照してください。

- HPCA Console オンライン ヘルプのトピック
  - OS イメージの準備とキャプチャ
  - OS 管理

- *HP Client Automation OS 管理リファレンス ガイド*

シン クライアント OS イメージの準備とキャプチャ

次の各セクションでは、サポートされているシン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備しキャプチャする方法を説明します。

- 332 ページの「Windows XPe イメージおよび WES OS イメージ」
- 336 ページの「Windows CE OS イメージ」
- 339 ページの「ThinPro OS イメージ」

出荷時の OS イメージは Thin Client デバイスにパブリッシュしないでください。すべてのシン クライアント イメージは、ターゲット デバイスに配布する前にキャプチャする必要があります。

OSM のキャプチャ プロセス中には OS に関する追加情報が取得され、後でイメージを配布する際に使用されます。これにより、管理者が出荷時のイメージを直接パブリッシュしようとしても、必要な情報が利用できず、配布は成功しません。

Windows XPe イメージおよび WES OS イメージ

次のセクションでは、Windows XPe または Windows Embedded Standard (WES) シン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備してキャプチャする方法を説明します。

- 332 ページの「Windows XPe または WES 参照マシンの準備」
- 333 ページの「Image Preparation Wizard の実行」

XPe または WES Thin Client デバイスのイメージをキャプチャし、その後、キャプチャしたイメージを容量の大きなフラッシュ ドライブを持つ XPe または WES Thin Client デバイスに配布できます。これは、リリース ノートのドキュメントに記述されているような一定の制限に従う必要があります。

タスク 1: Windows XPe または WES 参照マシンの準備

イメージのキャプチャのため Windows XPe または WES シン クライアントを準備するには、次のものが必要です。

- HPCA メディア

- イメージ準備 CD-ROM

Windows XPe または WES イメージをキャプチャする前に、次の操作を行う必要があります。

1 Administrator として Windows XPe デバイスまたは WES デバイスにログオンします。

2 HPCA Agent を Windows XPe デバイスまたは WES デバイスにインストールします。

詳細については、107 ページの「HP シン クライアントでの HPCA Agent のインストール」を参照してください。

タスク 2: Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA Agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。

2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。

3 参照マシンを、作成した Image Preparation CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。

4 次のファイルを作成し、HPCA Server のこのディレクトリにコピーします。
`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

— `ImageName.IBR`
このファイルにイメージが含まれます。シン クライアント イメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Windows XPe または WES のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュ ドライブを備えたコピー先マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

— `ImageName.EDM`
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

これらのファイルが転送される間は、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (`machineID.log`) は `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (Thin Client デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCA メディアの `Media¥iso¥roms` ディレクトリにある `ImageCapture.iso` を使用して作成されます。

2 自動実行が有効な場合、HPCA OS の準備とキャプチャ CD のウィンドウが開きます。

3 `¥image_preparation_wizard¥win32` ディレクトリを参照します。

4 **prepwiz.exe** をダブルクリックします。[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

5 **[次へ]** をクリックします。

   [エンド ユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

6 **[同意する]** をクリックします。

7 HPCA Server [HPCA Server] の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

   `xxx.xxx.xxx.xxx:port`

   HPCA Core および Satellite インストールで OS イメージングと配布用に使用される HPCA Server [HPCA Server] ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。

   Image Preparation Wizard が HPCA Server [HPCA Server] サーバーに接続できない場合は、メッセージが表示され、次の手順を実行する必要が生じます。

   — **[はい]** をクリックして続行します。

   — **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。

   — **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

8 **[次へ]** をクリックします。

   [イメージ名] ウィンドウが開きます。

9 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、HPCA Server [HPCA Server] の `¥upload` ディレクトリに格納されるイメージ名です。

10 **[次へ]** をクリックします。

   イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。

11 イメージ ファイルの説明を入力します。

12 **[次へ]** をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。

13 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

OS のインストール後に HPCA Server [HPCA Server] に接続し、OS が正しくインストールされたことを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

14 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

15 **[開始]** をクリックします。

16 **[完了]** をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

17 **[OK]** をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。

デバイスが CD を起動せずに Windows XPe を起動する場合は、332 ページの「Windows XPe または WES 参照マシンの準備」からプロセスをやり直す必要があります。

イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。転送速度は、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。

¥upload ディレクトリに保存されているファイルのコピーを作成して、必要に応じて取得できるようにしておくこともできます。

キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、343 ページの「Windows PE Service OS 画面について」を参照してください。

18 OS Image Preparation Wizard がネットワークに接続し、HPCA Server の次のディレクトリにイメージが格納されます。

`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OS Manager Server へ送信されました。

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します。

19 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。

次に、イメージを CSDB にパブリッシュします。347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

Windows CE OS イメージ

次のセクションでは、Windows CE シン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備し、キャプチャする方法を説明します。

- 336 ページの「CE 参照マシンの準備」
- 337 ページの「Image Preparation Wizard の実行」

LSB を介した OS の配布は、Windows CE ベースの HP シン クライアント モデル t5550 以降ではサポートされません。

タスク 1: CE 参照マシンの準備

- 製品メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージをキャプチャする前に、HPCA Agent を Windows CE デバイスにインストールする必要があります。

詳細については、107 ページの「HP シン クライアントでの HPCA Agent のインストール」を参照してください。

Local Service Boot (LSB) を使用して OS を Windows CE デバイスに配布する場合は、LSB サービスをインストールおよび抽出するデバイスに十分なディスク容量が必要です。デバイスを再起動しても Linux Service OS (SOS) を起動できなかった場合は、デバイスに割り当てられている「ストレージ メモリ」の量が十分でない可能性があります。少なくとも 10 MB が必要です。

Windows CE デバイスで次の手順を実行します。

1 **[開始]** をクリックします。

2 **[設定]** > **[コントロール パネル]** を選択します。

3 **[システム]** アイコンをクリックします。

4 **[メモリ]** タブを選択します。

5 左にあるスライダを使用して、**[ストレージ メモリ]** を 10 MB 以上に増やします。

タスク 2: Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

1 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。

2 参照マシンを ImageCapture メディアから起動されたサービス オペレーティング システムで再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。

3 次のファイルを作成し、HPCA Server [HPCA Server] の `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` にコピーします。

`ImageName.IBR`
このファイルにイメージが含まれます。シン クライアント イメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Windows CE のイメージは、同等のサイズのフラッシュ ドライブを備えたコピー先マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

`ImageName.EDM`
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

➤ これらのファイルが転送される間は、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。
イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID*.log) は `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (Thin Client デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCA メディアの `Media¥iso¥roms` ディレクトリにある `ImageCapture.iso` を使用して作成されます。

2 自動実行が有効な場合、HPCA OS の準備とキャプチャ CD のウィンドウが開きます。

3 CD で、`¥image_preparation_wizard¥WinCE` ディレクトリを参照します。

4 **prepwiz.exe** をダブルクリックします。Image Preparation Wizard が開始されます。

5 HPCA Server [HPCA Server] の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

xxx.xxx.xxx.xxx:port

HPCA Core および Satellite インストールで OS イメージングと配布用に使用される HPCA Server [HPCA Server] ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。

Image Preparation Wizard が HPCA Server [HPCA Server] に接続できない場合は、メッセージが表示され、次の手順を実行する必要が生じます。

— **[はい]** をクリックして続行します。

— **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。

— **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

6 **[OK]** をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。

デバイスが CD を起動せずに Windows CE を起動する場合は、336 ページの「CE 参照マシンの準備」からプロセスをやり直す必要があります。

イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。転送速度は、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。

必要に応じて取得できるように、¥upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、343 ページの「Windows PE Service OS 画面について」を参照してください。

7 Image Preparation Wizard がネットワークに接続し、HPCA Server の次のディレクトリにイメージが格納されます。

<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OS Manager Server へ送信されました。

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します。

8 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。

次に、イメージを Configuration Server DB にパブリッシュする場合、347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

ThinPro OS イメージ

次のセクションでは、ThinPro オペレーティング システムのイメージを準備しキャプチャする方法を説明します。

- 339 ページの「ThinPro 参照マシンの準備」
- 340 ページの「Image Preparation Wizard の実行」

タスク 1: ThinPro 参照マシンの準備

イメージ キャプチャ用に ThinPro クライアントを準備するには、以下のものが必要です。

- HPCA メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージをキャプチャする前に、HPCA Agent を ThinPro デバイスにインストールする必要があります。

詳細については、107 ページの「HP シン クライアントでの HPCA Agent のインストール」を参照してください。

HPCA Registration and Loading Facility (RALF) が参照マシンに事前にインストールされていない場合は、HPCA Agent のインストール後にインストールする必要があります。

xterm 用のカスタム接続を作成するには

ThinPro オペレーティング システムを使用している場合は、xterm 接続を作成するために、カスタム接続の作成が必要になることがあります。

1 左下隅の HP メニューで **[シャットダウン]** を選択します。

2 [Thin Client Action] ドロップダウンで **[Switch to admin mode]** を選択し、管理者パスワード (デフォルトのパスワードは root) を指定します。

注意 : Control Center の背景が青から赤に変化します。

3 [Control Center] で **[追加]** ドロップダウン リストをクリックし、**[カスタム]** オプションを選択します。

4 [名前] を **[xterm]** に設定します。

5 [コマンド] に次を入力して実行します。

sudo xterm -e bash &

6 **[完了]** をクリックします。

これで、xterm セッションを開くために使用できる接続ができました。

タスク 2: Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA Agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。

2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。

3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。

4 次のファイルを作成し、HPCA Server [HPCA Server] の `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` にコピーします。

— `ImageName.DD`
このファイルにイメージが含まれます。シン クライアント イメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Linux ベースのイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたコピー先マシンにしか配布できません。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

— `ImageName.EDM`
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

これらのファイルが転送される間は、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID*.log) は *<InstallDir>*¥Data¥OSManagerServer¥upload ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (Thin Client デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、HPCA メディアの Media¥iso¥roms ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。

Linux シン クライアント モデルでは、CD-ROM が実行されないように、マウント時にデフォルトで noexec オプションが設定される場合があります。これにより、Image Preparation Wizard を実行しようとすると、アクセス許可のエラーが起こったり、実行に失敗したりします。この問題を解決するには、noexec オプションを設定せずに CD-ROM を再マウントしてください。

2 Image Preparation CD で、/image_preparation_wizard/linux に移動し、./prepwiz. を実行します。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3 **[次へ]** をクリックします。

[エンド ユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

4 **[同意する]** をクリックします。

5 HPCA Server [HPCA Server] の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

xxx.xxx.xxx.xxx:port

HPCA Core および Satellite インストールで OS イメージングと配布用に使用される HPCA Server [HPCA Server] ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。

Image Preparation Wizard が HPCA Server [HPCA Server] に接続できない場合は、メッセージが表示され、次の手順を実行する必要が生じます。

— **[はい]** をクリックして続行します。

— **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。

— **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

6 **[次へ]** をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。

7 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、HPCA Server [HPCA Server] の ¥upload ディレクトリに格納されるイメージ名です。

8 **[次へ]** をクリックします。

イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。

9 イメージ ファイルの説明を入力します。

10 **[次へ]** をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。

11 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

OS のインストール後に HPCA Server [HPCA Server] に接続し、OS が正しくインストールされたことを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

12 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

13 **[開始]** をクリックします。

14 **[完了]** をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

15 **[OK]** をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。

デバイスが CD を起動せずに Linux を起動する場合は、339 ページの「ThinPro 参照マシンの準備」からプロセスをやり直す必要があります。

- イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。転送速度は、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。
- ¥upload ディレクトリに保存されているファイルのコピーを作成して、必要に応じて取得できるようにしておくこともできます。

16 Image Preparation Wizard がネットワークに接続し、HPCA Server の次のディレクトリにイメージが格納されます。

   `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

   アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

   `OS イメージが正常に OS Manager Server へ送信されました。`

   `**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します。`

17 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティング システムに戻ります。

次に、管理対象デバイスに配布するため、イメージを CSDB にパブリッシュします。347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージをキャプチャしたら、Publisher を使用して HPCA データベースにそのイメージをパブリッシュします。手順については、347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

HPCA に OS イメージをパブリッシュしたら、[操作] タブの [OS ライブラリ] ページを更新して、新しいイメージを表示します。HPCA Console ツール バーを使用して、選択したデバイスにイメージを配布します。

Windows PE Service OS 画面について

Service OS は Linux や Windows PE のような軽量のオペレーティング システムに基づくインストール前環境です。Service OS が次のことを行います。

1 ターゲット ハードウェアの起動

2 ハードウェアを正しく機能させるために、必要なすべてのドライバを読み込みます。

3 HPCA プログラムをダウンロードして実行します。つまり、OS イメージをダウンロードしてインストールします。

Service OS を使用して次のタイプの操作を実行します。

- ターゲット デバイスのハードウェアに対する操作 (BIOS の更新またはハードウェアの設定など)
- ターゲット デバイスのプロビジョニング (OS の配布など)
- OS イメージのキャプチャ

Service OS を起動するたびに、関連デバイスで [Service OS] 画面が表示されます。OS イメージのキャプチャ中は、参照マシンで [Service OS] 画面が表示されます。OS の配布中は、ターゲット デバイスで [Service OS] 画面が表示されます。

Windows PE の [Service OS] 画面では操作の状況を示します。Windows PE の [Service OS] 画面の右側には、実行手順のログがスクロール表示されます。

- 緑のチェックマーク アイコンは、特定の手順が進行中であるか、正常に完了したことを示します。
- 黄色の三角のアイコンは、問題が発生している可能性があることを示す警告です。
- 赤い X アイコンは、キャプチャまたは配布のこの手順が失敗したことを示します。
- 青の疑問符 (?) アイコンは、入力が必要であることを示します。

現在の手順に関する情報は、常にメッセージ一覧の下部に表示されます。メッセージをすべて表示する十分な領域がない場合は、右端にスクロール バーが表示されます。

操作が完了すると、詳細な手順がある場合は、[Service OS] 画面の左側に緑のチェック マークが表示されます。

この時点で、次の 2 つの操作のうちいずれかを実行できます。

- **[再起動]** をクリックして、インストール済みのオペレーティング システムでデバイスを再起動します。
- **[シャットダウン]** をクリックして、デバイスをシャットダウンします。

上のいずれかのボタンをクリックすると、再起動やシャットダウンが実行される前に、画面の右側にある進捗状況バーの下にステータス メッセージが短時間表示されます。

操作が成功しない場合は、Service OS 画面の左側に赤い X と、失敗の原因に関する情報が表示されます。操作が失敗した場合は、画面の右側にあるスクロールバーを使用して、検出されたハードウェアに関する情報を確認し、プロセスのどこでエラーが発生したかを特定できます。この時点で、次の 3 つの操作のうちいずれかを実行できます。

- **[再起動]** をクリックして、インストール済みのオペレーティング システムでデバイスを再起動します。
- **[シャットダウン]** をクリックして、デバイスをシャットダウンします。
- **[Exit to console]** をクリックして Service OS の画面を終了し、コンソールウィンドウを表示します。

上のいずれかのボタンをクリックすると、選択した操作が実行される前に、画面の右側にある進捗状況バーの下にステータス メッセージが短時間表示されます。

13 パブリッシュ

HPCA Publisher を使用して HP Client Automation (HPCA) データベースに次の項目をパブリッシュします。

- ソフトウェア
- BIOS 設定
- HP Softpaq
- OS イメージ

パブリッシュされたソフトウェアは、メイン HPCA Console の [操作] タブにある [ソフトウェア ライブラリ] にあります。パブリッシュされたオペレーティング システムは、[オペレーティング システム] タブの [OS ライブラリ] にあります。

Publisher は HPCA Core のインストール時に自動的にインストールされます。マシンに HPCA Agent がすでにインストールされている場合、Publisher は Agent のフォルダにインストールされます。別の場所にインストールする場合は、製品メディアの HP Client Automation Administrator インストール ファイルを使用するか、ソフトウェア ライブラリの HPCA Administrator Publisher サービスを使用できます。詳細については、『HP Client Automation Enterprise Edition 入門およびコンセプト ガイド』のを参照してください。

パブリッシュは管理者権限が必要なタスクであるため、非プロダクション環境で実行してください。

上にリストした項目のいずれかをパブリッシュした後は、それらに資格を付与し、使用環境の管理対象デバイスに配布できます。

Publisher を起動するには

1. **[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Administrator] > [HP Client Automation Administrator Publisher]** に移動します。
2. Publisher にログインするには、HPCA Administrator のユーザー名とパスワードを使用します。デフォルトでは、ユーザー名は `admin`、パスワードは `secret` です。

パブリッシュ オプションは、ターゲット デバイスおよびインストールしている HPCA ライセンスによって異なります。

348 ページの表 35 に、3 種類のライセンス レベルごとに選択可能なパブリッシュ オプションを示します。

表 35 各 HPCA ライセンスで選択可能なパブリッシュ オプション

パブリッシュ オプション	Starter	Standard	Enterprise
コンポーネントの選択	いいえ	はい	はい
ハードウェア設定	いいえ	いいえ	はい
HP BIOS 設定	はい	はい	いいえ
HP Softpaq	はい	はい	いいえ
OS ADDON/ 追加 POS ドライバ	いいえ	はい	はい
OS イメージ	いいえ	はい	はい
Windows インストーラ	いいえ	はい	はい
Thin Client のコンポーネントの選択	はい	はい	はい
Thin Client の OS イメージ	はい	はい	はい

次の各セクションでは、ライセンスに応じたパブリッシュ　オプションで Publisher を使用する方法を説明します。シン クライアント パブリッシュ オプションを選択する場合は、次の該当するセクションの手順に従ってください。

- 349 ページの「ソフトウェアのパブリッシュ」
- 352 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」
- 360 ページの「OS のアドオンおよび追加の Production OS (POS) ドライバのパブリッシュ」
- 361 ページの「HP Softpaq のパブリッシュ」
- 363 ページの「BIOS 設定のパブリッシュ」

ソフトウェアのパブリッシュ

パブリッシュするソフトウェアのタイプにより、2 つのパブリッシュ オプションの 1 つを使用します。ログイン画面で、[Windows インストーラ] を使用して Windows インストーラ ファイル (`.msi`) をパブリッシュするのか、[コンポーネントの選択] を使用して Windows 以外のインストーラ ファイルをパブリッシュするのかを選択します。次のセクションでは、各ファイル タイプをパブリッシュする手順を説明します。

- 349 ページの「Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ」
- 351 ページの「[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ」

Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ

Windows インストーラは、MSI ファイルを使用して、オペレーティング システムにソフトウェア サービスを配布します。Publisher では、このファイルによりサービスが作成され、そのサービスが HPCA にパブリッシュされます。ソフトウェア サービスが HPCA に格納されると、お使いの環境の管理対象デバイスに配布する準備が整います。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

1. Publisher を起動します (347 ページの「Publisher を起動するには」を参照)。
2. ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

   ➤ HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **`admin`**、パスワードは **`secret`** です。

3. [パブリッシュ オプション] 領域で、**[Windows インストーラ]** を選択して、**[OK]** をクリックします。
4. 左ペインの Windows インストーラ ファイルへ移動します。右ペインには、選択した MSI ファイルで利用可能な情報が表示されます。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. 使用できるパブリッシュ オプションを確認します。

   — **管理オプション**
   管理インストール ポイント (AIP) を作成するには、**[setup を使用]** または **[msiexec を使用]** を選択します。

   ➤ AIP のパスは、一時的な場所であり、パブリッシュ セッションが完了したら、削除されます。

— 変換
Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルのアプリケーションを選択し、順序を変更します。

— 追加のファイル
AIP の一部として追加のファイルを含めます。

  – リストに表示された利用可能なファイルをすべて選択するには、**[すべて選択]** をクリックします。

  – すべてのファイルの選択を解除するには、**[選択なし]** をクリックします。

— プロパティ
msi ファイルのプロパティを表示して変更します。Windows インストーラ ファイルには、正しく配布するために追加のコマンド ライン パラメータが必要な場合があります。たとえば、アプリケーションはインストール中にシリアル番号を渡すカスタム プロパティを必要とすることがあります。[プロパティ] ダイアログを使用して、パラメータを追加します。

  – 新しいプロパティを追加するには **[追加]** をクリックします。

  – 既存のプロパティを削除するには **[削除]** をクリックします。

  – プロパティの **[名前]** または **[値]** を変更するには、変更するアイテムをクリックして新しい値を入力します。

パブリッシュ オプションの編集が終わったら、**[次へ]** をクリックします。

7 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。

8 **[パッケージを適用する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。

9 **[次へ]** をクリックします。

10 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。情報を確認したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。

11 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして Publisher を終了します。

これで、Windows インストーラ サービスを企業へ配布する準備が整いました。

変換ファイルを使用してその他のパラメータを適用するには

1 Orca や他の MSI エディタを使用して変換を作成します。変換は、必ず Windows インストーラ ファイルがパブリッシュされるディレクトリと同じディレクトリに保存します。

2 Windows インストーラのパブリッシュ セッションを開始します。詳細は、上記の指示に従います。

3 編集手順で **[変換]** をクリックします。

4 利用可能な変換ファイルを選択して、パブリッシュ セッションを続けます。

ソフトウェア サービスが配布されると、変換ファイルが適用され、追加のコマンド ライン パラメータが指定されます。

[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ

Windows インストーラ ファイル以外のソフトウェアをパブリッシュするには、[コンポーネントの選択] オプションを使用して、パブリッシュするソフトウェアを選択します。

[コンポーネントの選択] を使用してパブリッシュするには

1 Publisher を起動します (347 ページの「Publisher を起動するには」を参照)。

2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

➤ HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は `admin`、パスワードは `secret` です。

3 [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。

— シン クライアントへパブリッシュしている場合は、**[Thin Client のパブリッシュ]** を選択します。

— ドロップダウン リストから **[コンポーネントの選択]** を選択します。

4 **[OK]** をクリックします。[パブリッシュするファイルを選択] ウィンドウが開きます。

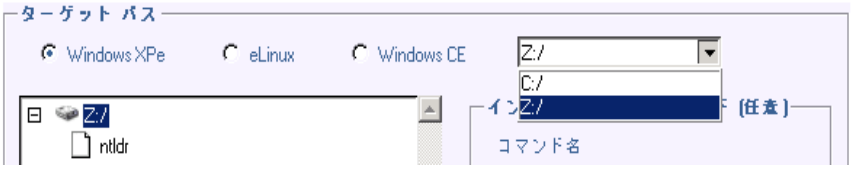
5 パブリッシュするファイルを選択して、**[次へ]** をクリックします。

➤ ソフトウェアがある (パブリッシュ元の) ディレクトリ パスは、ソフトウェアが配布されるターゲット デバイスのディレクトリ パスになります。

➤ ネットワーク共有が表示されますが、配布中に利用できなくなる場合があるためソフトウェアのパブリッシュには使用しません。

[ターゲット パス] ウィンドウが開きます。

6 シン クライアントへパブリッシュしている場合、インストール ポイントを選択します。次の図を参照してください。



7 コマンドを入力して、アプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行します。たとえば、インストールを実行するコマンドは次のようになります。`C:¥temp¥installs¥install.exe /quietmode /automatic c:¥mydestination`

アンインストールを実行するコマンドは次のようになります。
`C:¥temp¥installs¥uninstall.exe /quietmode /automatic`

ファイルを右クリックして、インストールまたはアンインストールコマンドとして設定できます。

8 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

9 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。

10 **[パッケージを適用する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。

11 **[次へ]** をクリックします。

12 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。設定を終了したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。

13 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして Publisher を終了します。

これで、ソフトウェア サービスを企業へ配布する準備が整いました。

オペレーティング システム イメージのパブリッシュ

Image Preparation Wizard を使用して作成されるオペレーティング システム イメージは、HPCA Server の次のディレクトリに格納されます。

`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するオペレーティング システム イメージ ファイルをパブリッシュできます。必要なファイルは、使用する配布方法によって異なります (353 ページの表 36 を参照)。

参照マシンから OS イメージをキャプチャする場合、キャプチャ プロセスで生成されるファイルが必要になります。詳細については、321 ページの「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

出荷時の OS イメージは Thin Client デバイスにパブリッシュしないでください。すべてのシン クライアント イメージは、ターゲット デバイスに配布する前にキャプチャする必要があります。

詳細については、332 ページの「シン クライアント OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

.WIM イメージをパブリッシュする場合は、355 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」を参照してからパブリッシュ プロセスを開始してください。

表 36　OS イメージのパブリッシュに必要なファイル

配布メソッド	必要なファイル	参照先
DVD から直接	DVD WIM ファイル HPCA unattend-dvd.xml	356 ページの「DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件」
Microsoft ImageX	ImageName.WIM ImageName.EDM HPCA unattend-capture.xml	355 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」

表 36　OS イメージのパブリッシュに必要なファイル

配布メソッド	必要なファイル	参照先
Windows セットアップ	ImageName.WIM ImageName.EDM HPCA unattend-capture.xml	355 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」
レガシー	ImageName.IMG ImageName.MBR ImageName.EDM ImageName.PAR WinXPe または Windows CE の場合 ImageName.IBR ImageName.EDM Linux の場合 ImageName.DD ImageName.EDM	358 ページの「OS イメージのパブリッシュ」

表 36 の unattend ファイルの名前は、Image Capture ISO によって提供されるファイルを表しています。このファイル名は適切な名前に変更できます。

unattend ファイルのカスタマイズの詳細については、455 ページの「Windows 応答ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

.WIM イメージのパブリッシュの前提条件

このセクションの情報は、次の Windows オペレーティング システムに関連しています。

- Windows XP SP2/SP3
- Windows 2003 SP1/SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 リリース 2 (R2)

これらのバージョンの Windows の `.WIM` イメージをパブリッシュする場合は、次の条件を満たしている必要があります。

- HPCA メディアの `Media¥client¥default` フォルダにアクセスできること。

  このフォルダは、`.WIM` ファイルを初めてパブリッシュするとき、または更新したエージェント パッケージをパブリッシュする場合にのみ必要になります。HPCA Agent は個別のパッケージとしてパブリッシュされます。これにより、それ以降のすべての `.WIM` ファイルの配布では、必ず使用可能な最新の Agent が自動的に受信されます。

- Windows Vista、Windows Server 2008、または Windows 7 の場合

  Windows セットアップを使用して配布する場合、`.WIM` ファイルの取得または作成に使用した Windows インストール メディアから、イメージのパブリッシュ先のデバイス上の `¥sources` フォルダにアクセスできる必要があります。

  Windows XP または Windows 2003 の `.WIM` ファイルには適用されません。

- Windows Automated Installation Kit (AIK) for Windows 7 は、イメージのパブリッシュ先デバイスにインストールする必要があります。これは、Core インストールの前提条件です。詳細については、「HPCA のインストール」の章にある「HPCA を使用した Windows オペレーティング システムの管理」を参照してください。
- 既存の *filename*`.wim` を使用している場合、イメージのパブリッシュ先のデバイスにそのファイルをコピーします。
- Image Preparation Wizard を使用して `.WIM` ファイルを準備およびキャプチャした場合は、`filename.wim` および `filename.edm` を HPCA Server [HPCA Server] の `¥upload` ディレクトリ (`<`*InstallDir*`>¥Data¥OSManagerServer¥upload`) からイメージのパブリッシュ先デバイスにコピーします。

ファイルがスパンされている場合は、filename.swm、filename2.swm などを ¥upload ディレクトリからコピーします。これらのファイルは、*filename*.wim、*filename*.002、*filename*.003 などのようにパブリッシュされます。

- HPCA には、無人インストールで使用できる Windows セットアップ応答ファイルが用意されています。Publisher を実行するときに、HPCA が提供する応答ファイルを使用する (推奨メソッド) のか、独自のファイルを作成するのかを選択できます。詳細については、357 ページの「Windows セットアップの応答ファイルの指定」を参照してください。

  HPCA が提供する応答ファイルは unattend.xml と呼ばれます。各オペレーティング システムおよびアーキテクチャ (32 ビットまたは 64 ビットなど) には、独自の unattend.xml ファイルがあります。これらのファイルは、次のサブディレクトリにあります。

  <*InstallDir*>¥Data¥OSManagerServer¥capture-conf

  HP が提供する unattend.xml ファイルを使用する場合、使用環境に合わせて変更してから Publisher を実行する必要があります。最低でも、パブリッシュするイメージの ProductKey は指定する必要があります。TimeZone や RegisteredOrganization など、このファイルの他の設定も変更できます。詳細については、455 ページの「Windows 応答ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

このディレクトリ内のファイルやフォルダが読み取り専用に設定されていないことを確認してください。読み取り専用に設定されていると、イメージは配布できません。

DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件

DVD から直接 OS イメージをパブリッシュする方法が、最も簡単な使用方法です。これは、Windows セットアップを使用して配布が行われることを意味します。イメージを直接配布する場合、Image Preparation Wizard を使用して、配布方法として ImageX を選択する必要があります。

DVD から直接 OS イメージをパブリッシュする準備をするには

1. イメージをパブリッシュするデバイスのローカル フォルダに DVD の install.wim ファイルをコピーします。
2. Image Capture ISO をマウントします。

Windows セットアップの応答ファイルの指定

バージョン 7.90 より前の HPCA では、HPCA で使用するファイルとその名前を手動で変更して、特定の OS イメージの無人インストールをサポートする必要がありました。

このバージョンでは、Publisher の実行時にこの情報のソースを指定できます。この新しいメソッドは、手動の場合に比べてはるかに簡単でエラーが発生しにくくなります。これは、この情報を指定する場合に推奨されるメソッドです。

下位互換性のために、このガイドの付録で古いメソッドについて説明します。455 ページの「Windows 応答ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

OS イメージのパブリッシュ

次のセクションでは、Publisher を使用してオペレーティング システム イメージをパブリッシュする方法を説明します。次の 4 つの基本手順があります。

- OS イメージの選択
- 無人インストールで使用する Windows 応答ファイルの選択 (必要な場合)
- パッケージ オプションの指定
- パブリッシュ

次の手順で詳しく説明します。注：手順は、選択するオプションによって変わります。

Publisher を起動する前に .WIM イメージのパブリッシュの前提条件または 356 ページの「DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件」を満たしていることを確認します。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

1. Publisher を起動します。347 ページの「Publisher を起動するには」を参照してください。
2. [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。
   - シン クライアントへパブリッシュしている場合は、**[Thin Client のパブリッシュ]** を選択します。
   - ドロップダウン メニューから、**[OS イメージ]** を選択します。
3. **[OK]** をクリックします。[OS イメージ ファイルの選択] ページが開きます。
4. パブリッシュする OS イメージ ファイルを選択します。

   Image Preparation Wizard を使用して作成されるイメージは、HPCA Server [HPCA Server] の次のフォルダに格納されます。

   `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`
5. 続行する前に、**[説明]** 領域を使用して、正しいファイルを選択していることを確認します。説明に情報を追加することもできます。
6. **[次へ]** をクリックします。
7. 手順 4 で `.WIM` ファイルを選択しなかった場合 (たとえば、シン クライアント イメージをパブリッシュする場合など) は、手順 18 に進みます。

8 このイメージに対して `*.subs` ファイルと `*.xml` ファイルを手動で作成してある場合は、手順 10 に進んでください。この方法は推奨しません。詳細については、455 ページの「Windows 応答ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

9 ディレクトリ ツリーで、無人インストールで使用する Windows 応答ファイル (`unattend.xml`) を選択します。

詳細については、355 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」を参照してください。

10 **[次へ]** をクリックします。

11 次の操作 1 または操作 2 の*いずれか*を実行します。

操作 1 : ImageX を配布するために Image Preparation Wizard メソッドを使用して作成された `.WIM` ファイルを選択した場合

a **[配布方法]** ドロップダウン メニューで、**[Microsoft ImageX]** を選択します。

b **[送信元]** ボックスは無視します。

または

操作 2 : Windows セットアップを配布するために Image Preparation Wizard を使用して作成された `.WIM` ファイルを手順 4 で選択した場合、または `.WIM` ファイルを DVD メディアからパブリッシュする場合

a **[配布方法]** ドロップダウン メニューで、**[Microsoft セットアップ]** を選択します。

b **[ソース ディレクトリ]** ボックスで、**[ブラウズ]** ボタンを使用して、Windows インストール メディア DVD から `¥sources` ディレクトリを選択します。Windows インストール メディア DVD は、Image Preparation Wizard を使用してキャプチャした参照マシンのセットアップ時の DVD と同じである場合があります。

64 ビットのイメージ ファイルをパブリッシュする場合でも、必ず 32 ビットの Windows インストール メディア DVD の `¥sources` ディレクトリを使用してください。

12 表示されているフィールドに適切なアプリケーション情報を入力します。

13 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。

14 **[要約]** 情報を確認して、前の手順で指定したパッケージおよびサービスの情報を検証します。情報を確認したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。

15 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして Publisher を終了します。

これで、企業内の管理対象デバイスへサービスを配布する準備が整いました。

パブリッシュされたオペレーティング システム イメージ サービスは、[オペレーション] タブの [OS ライブラリ] で確認できます。

OS のアドオンおよび追加の Production OS (POS) ドライバのパブリッシュ

このプロセスの詳細については、『HP Client Automation OS 管理リファレンス ガイド』の「終了ポイントとアドオンを使用した OS 配布のカスタマイズ」を参照してください。

イメージが新しいローカル パーティションにインストールされた後に配布される**デルタ パッケージ**を作成することにより、以前に準備したイメージにドライバを追加できます。この操作は、Microsoft Windows セットアップおよび ImageX の配布方法に限定されます。

前提条件

- OS サービスをパブリッシュします。Publisher により、このサービスの下に OS.ADDON.ServiceName_* という接続が自動的に作成されます。
- OS ドライバをパブリッシュする場合
  - 次のディレクトリを作成します。

    `C:¥MyDrivers¥osmgr.hlp¥drivers`
  - パブリッシュする各ドライバをこのディレクトリに格納します。

デルタ パッケージをパブリッシュするには

1. **[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Administrator] > [HP Client Automation Administrator Publisher]** に移動します。ログオン画面が表示されます。
2. HPCA Administrator のユーザー ID とパスワード (デフォルトでは **admin** と **secret**) を入力します。
3. [パブリッシュ オプション] ウィンドウで、ドロップダウン リストから **[OS アドオン / 追加 POS ドライバ]** を選択します。

4 **[OK]** をクリックします。

5 [ドライバのディレクトリの選択] ウィンドウを使用して、次の各項目を指定します。

   a ディレクトリ ツリーで、`C:¥MyDrivers` ディレクトリを選択します。

     ディレクトリ以下のすべてが再帰的にスキャン、組み込み、パブリッシュされます。

   b **[ADDON タイプ]** ドロップダウン リストから、**OS ドライバ** ファイルを選択します。

   c **[ターゲット サービスの選択]** ドロップダウン リストから、これらのドライバまたは ADDON に追加する OS サービスを選択します。

   d 任意指定の **[サフィックス]** テキスト ボックスには、パッケージの追跡に使用可能な番号を入力できます。たとえば、VISTA_PDD というインスタンスの場合にこのテキスト ボックスに「0」と入力すると、新しい ADDON インスタンス名は VISTA_PDD_0 となります。

     [ADDON インスタンス名] テキスト ボックスには、選択した OS サービス名に基づいて、インスタンス名があらかじめ設定されます。この名前はそのままにすることをお勧めします。

     この名前はそのままにすることをお勧めします。この名前を修正すると、自分で接続を作成しない限り、OS サービスと ADDON インスタンスの間の接続がなくなります。

6 **[次へ]** をクリックします。

7 要約画面の内容を確認し、**[パブリッシュ]** をクリックします。

HP Softpaq のパブリッシュ

HP Softpaq は、サポート ソフトウェアの集合です。これには、デバイス ドライバ、設定プログラム、フラッシュ可能な ROM イメージなど、デバイスを最新の状態に保ち、最善のパフォーマンスを発揮させるのに利用可能なユーティリティが含まれます。

SoftPaq は、実行可能 (`.EXE`) ファイルとして使用できます。

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するため HP SoftPaq を HPCA へパブリッシュします。

Publisher では、HP Softpaq をアンインストールする手段は生成されません。したがって、HP Softpaqs は、一度配布されるとアンインストールできません。

Softpaq をパブリッシュするには

1 Publisher を起動します (347 ページの「Publisher を起動するには」を参照)。

2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

> HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP SoftPaq]** を選択して、**[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが開きます。

4 パブリッシュする Softpaq ファイルを選択します。

— [要約] セクションには、Softpaq が SSM 準拠であるかないかなど、選択した Softpaq の情報が表示されます。選択した Softpaq が SSM 準拠でなく、Softpaq の一部としてサイレント インストールが含まれていない場合、Softpaq の内容を展開して、付属のドキュメントを読む必要があります。必要なファイルをパブリッシュして、指示に従ってインストール方法をセットアップします。

— [システム情報] ダイアログ ボックスには、選択した Softpaq がサポートするすべてのハードウェアが表示されます。

5 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

6 Softpaq 情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、Softpaq ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。

7 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。

8 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。

9 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして Publisher を終了します。

SoftPaq が HPCA にパブリッシュされ、管理対象デバイスへの配布に利用できるようになります。パブリッシュされた SoftPaq を、HPCA Console の [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア ライブラリ] で確認します。配布された Softpaq は、管理対象デバイスにある Application Self-Service Manager の HP Softpaq カテゴリ グループ内にあります。

BIOS 設定のパブリッシュ

Publisher を使用して、クライアント デバイスへ配布するために、BIOS 設定ファイルをサービスとしてパブリッシュします。設定ファイルを使用して、BIOS 設定 (起動順序など) の更新や変更、またはクライアント デバイスの BIOS パスワードの変更ができます。

サンプルの 2 つの BIOS 設定ファイル (HP デスクトップ サンプルの BIOS settings.txt および HP ノートブック サンプルの BIOS settings.txt) が Publisher のインストールに組み込まれており、デフォルトでは、`<InstallDir>¥Agent¥BIOS` にあります。どちらかのファイルを使用して BIOS 設定を選択し、配布用にパブリッシュしてください。

BIOS 設定ファイルのサンプルに必要なオプションが含まれていない、または特定のデバイス用の設定ファイルを作成する場合は、364 ページの「BIOS 設定ファイルの作成」を参照してください。

BIOS 設定をパブリッシュするには

1 Publisher を起動します (347 ページの「Publisher を起動するには」を参照)。

2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

➤ HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP BIOS 設定]** を選択して、**[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが開きます。

4 設定のパブリッシュ先から BIOS 設定ファイルを選択します。サンプルの BIOS 設定ファイルは、デフォルトでは `<InstallDir>¥Agent¥BIOS` に配置されています。

5 必要な場合は、**[現在の BIOS 管理パスワード]** 領域に BIOS パスワードを入力して確認します。ターゲット デバイスに BIOS パスワードがある場合、設定を変更するにはこれが必要です。

6 現在の BIOS パスワードを変更する場合、**[BIOS パスワードの変更]** を選択し、新しいパスワードを入力して確認します。これが必要なのは、クライアント デバイスの BIOS パスワードを変更する場合だけです。

7 **[次へ]** をクリックします。[BIOS オプション] ウィンドウが表示されます。

8 パブリッシュする BIOS 設定を選択するには、BIOS 設定名の左にあるチェック ボックスを選択します。

9 BIOS 設定の値を変更する必要がある場合、設定名をクリックして、必要に応じて使用可能なオプションを調整します。

10 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

11 アプリケーション情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、設定ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。

12 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。

13 要約情報を確認します。問題がなければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。

14 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして Publisher を終了します。

BIOS 設定サービスは、HPCA Console のソフトウェア ライブラリで利用できます。

BIOS 設定ファイルの作成

HPCA に付属のファイル以外の BIOS 設定ファイルを使用する場合は、HP System Software Manager(SSM) の BIOS 設定ユーティリティを使用して独自の設定ファイルを生成できます。SSM は、HPCA Agent (`<InstallDir>¥SSM`) と一緒にインストールされます。または、HP のサポート サイトからダウンロードできます。

BIOS 設定ファイルを作成するには

1 コマンド プロンプトを開き、SSM BIOS 設定ユーティリティがあるディレクトリ (デフォルトでは `<InstallDir>¥SSM`) に移動します。

2 次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /
GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.txt" /Format:REPSET
```

このコマンドにより、`MyBIOSconfig.txt` という名前のテキスト ファイルが生成され、`C:¥tmp` に格納されます。

BIOS 設定をパブリッシュする準備ができたら、363 ページの「BIOS 設定をパブリッシュするには」の手順 4 でこのファイルを選択します。

パブリッシュされたサービスの表示

[管理] タブの [ソフトウェア管理] 領域で、パブリッシュされたソフトウェアを確認します。パブリッシュされたオペレーティング システムは、[オペレーティング システム] 領域に保存されます。

HP Client Automation Administrator Agent Explorer

HP Client Automation Administrator の一部として Publisher と一緒にインストールされる Agent Explorer は、トラブルシューティングや問題解決に役立ちますが、HP サポートからの直接の指示がない限り使用しないでください。

14 Application Self-Service Manager の使用

HP Client Automation Application Self-Service Manager (Self-Service Manager) は、クライアントに常駐し、ユーザーが追加で利用できるアプリケーションをインストール、削除、および更新できるようにする製品です。それらのアプリケーションは、HPCA 管理者がユーザーに付与する必要があります。Self-Service Manager では、ユーザーに付与されたアプリケーションのカタログが表示され、ユーザーは、それらのアプリケーションのインストール、削除、および更新を自分で管理できます。Self-Service Manager は、Management Agent がクライアント デバイスに配布されたときにそのデバイスにインストールされます。

次の各セクションで、Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用方法を説明します。

- 368 ページの「Application Self-Service Manager へのアクセス」
- 368 ページの「Application Self-Service Manager の概要」
- 372 ページの「Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用」
- 378 ページの「ユーザー インターフェイスのカスタマイズ」
- 384 ページの「HPCA System Tray アイコン」

Application Self-Service Manager へのアクセス

Self-Service Manager ユーザー インターフェイスには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

- **[スタート] > [プログラム] > [HP Client Automation Agent] > [Client Automation Application Self-Service Manager]** へと移動します。

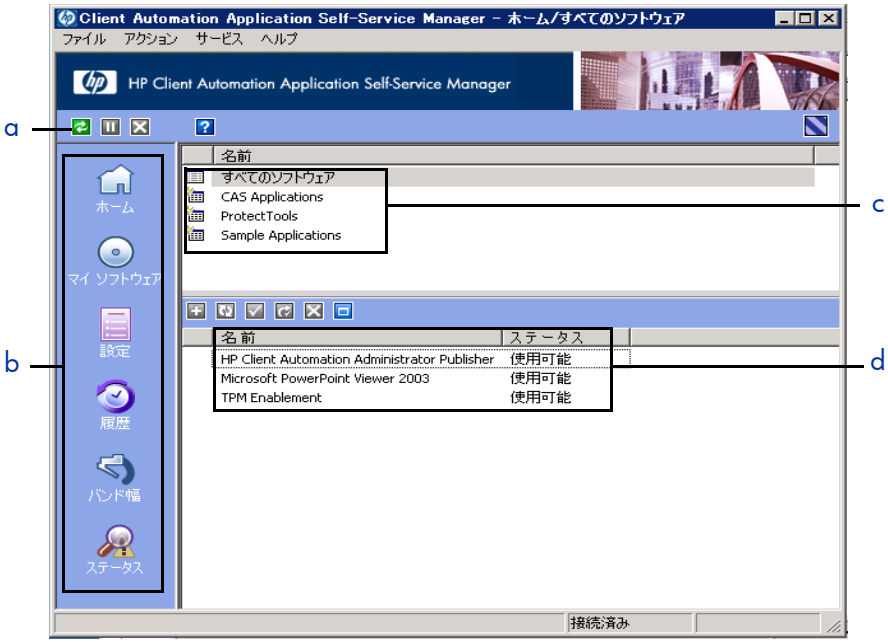
  または

- **[Client Automation Application Self-Service Manager]** デスクトップ ショートカットをダブルクリックします。

Application Self-Service Manager の概要

Self-Service Manager インターフェイス (369 ページの図 18 を参照) には、4 つの主要なセクションがあります。各セクションでは、利用可能なアプリケーションの管理、カタログにあるソフトウェアの情報やステータスの表示、ユーザー インターフェイス表示のカスタマイズができます。

図 18 **Application Self-Service Manager** ユーザー インターフェイス



凡例

a **グローバル ツールバー** — カタログのリフレッシュや、現在のアクションの一時停止または取り消しができます。

b **メニュー バー** — Application Self-Service Manager を使用するときに使用可能なメニューの選択肢が表示されます。

c **カタログ リスト** — 使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧が表示されます。

d **サービス リスト** — 付与されているアプリケーションの一覧が表示されます。

次に示すセクションでは、ユーザー インターフェイスの各セクションを詳細に説明します。

- 370 ページの「グローバル ツールバー」
- 370 ページの「メニュー バー」
- 371 ページの「カタログ リスト」
- 371 ページの「サービス リスト」

グローバル ツールバー

グローバル ツールバーでは、カタログのリフレッシュ、現在のアクションの一時停止、または現在のアクションの取り消しができます。アクションを一時停止すると、**[一時停止]** ボタンを再度クリックしてアクションを再開するか、**[キャンセル]** ボタンをクリックして一時停止したアクションをキャンセルするまで、他のアクションを実行できません。

[グローバル ツールバー] のボタンのうち、現在のアクションで使用できないボタンは、グレー表示になります。

カタログをリフレッシュするには

選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの **[リフレッシュ]** をクリックします。

現在のアクションを一時停止または再開するには

現在のアクションを停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]** をクリックします。

停止したアクションを再開するには、**[再開]** をクリックします。(アクションを一時停止すると、**[一時停止]** ボタンがこのボタンに変わります)。

現在のアクションをキャンセルするには

現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]** をクリックします。

メニュー バー

メニュー バーを使用して、Application Self-Service Manager の設定およびカスタマイズを行います。次のセクションでは、メニュー バーの各アイコンについて説明します。

ホーム : このボタンをクリックすると、ホーム カタログにアクセスできます。

マイ ソフトウェア : このボタンをクリックすると、インストールしたアプリケーションだけが表示されます。

設定 : このボタンをクリックすると、Self-Service Manager のさまざまな表示オプション、アプリケーション リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。

このセクションの右上隅にある **[OK]**、**[適用]**、または **[キャンセル]** をクリックして、いつでも変更内容を保持または無視できます。

カタログ リスト

[カタログ リスト] セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮想カタログの一覧が表示されます。

カタログを選択するには

- [カタログ リスト] で、[サービス リスト] セクションに表示するカタログをクリックします。カタログをリフレッシュするには、カタログの名前を右クリックして、ショートカット メニューから **[リフレッシュ]** を選択します。

仮想カタログ

仮想カタログは、HPCA の [ソフトウェアの詳細] で管理者が定義した、デフォルトのカタログのサブセットです。カタログ グループの値が同じサービスは、1 つの仮想カタログにグループ化されます。次のイメージは、いくつかのサンプルのカタログを表示しています。

サービス リスト

[サービス リスト] セクションには、利用可能なアプリケーションが一覧表示されます。インストール済みのアプリケーションの横には、チェック マークが表示されます。カラムの見出しは、必要に応じて変更できます。詳細については、370 ページの「メニュー バー」の「*設定*」を参照してください。

表 37 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	インストール	選択したサービスをマシンにインストールします。
	検証	選択したサービスのファイルを検証します。

表 37 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	修復	選択したサービスを修復します。
	削除	選択したサービスをマシンから削除します。
	展開 / 折りたたむ	選択したサービスを展開したり、折りたたんだりします。

[サービス リスト] セクションのボタンは、選択したアプリケーションに対して使用できない場合、グレー表示になります。

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用

ユーザー インターフェイスを使用して、ソフトウェアのインストールと削除、利用可能なアプリケーションのカタログのリフレッシュ、およびアプリケーションに関する情報の表示を行います。メニュー バーには、セッション履歴の表示、バンド幅の調整、およびアプリケーションの現在のステータスの表示のためのボタンがあります。詳細については、次の各セクションを参照してください。

- 373 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 373 ページの「カタログのリフレッシュ」
- 374 ページの「情報の表示」
- 375 ページの「ソフトウェアの削除」
- 375 ページの「ソフトウェアの検証」
- 375 ページの「ソフトウェアの修復」
- 376 ページの「履歴の表示」
- 376 ページの「バンド幅の調整」
- 377 ページの「ステータスの表示」

ソフトウェアのインストール

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これらのアプリケーションから 1 つ以上をいつでもインストールできます。

ソフトウェアをインストールするには

1 サービス リストで、インストールするアプリケーション名をクリックします。

2 **[インストール]** ボタン をクリックします。

インストールによっては、一連のダイアログ ボックスが表示される場合があります。その場合、表示される指示に従ってください。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。

インストールするアプリケーションの名前を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[インストール]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

インストールの進行状況が、進行状況バーに表示されます。

— インストールをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]** をクリックします。

— インストールを一時停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]** をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。

カタログのリフレッシュ

カタログは、Self-Service Manager のユーザー インターフェイスにログインするたびにリフレッシュされます。ログインしている間に、使用が認可されているアプリケーションのリストが変わった、またはインストールしたアプリケーションの更新が使用可能になったと考えられる場合は、グローバル ツールバーの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックして、アプリケーションのリストを更新します。

サービス リストの任意のアイテムを右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

情報の表示

サービス リストには基本的な情報が表示されますが、アプリケーションに関する詳細な情報 (ベンダー、バージョン、サイズ、インストール日など) は、次の方法で取得できます。

- これらのカラムをサービス リストに追加する。
- 展開したサービス ボックスで、**[拡張情報を表示]** をクリックする。

メーカーからの詳細情報が必要な場合は、ベンダーのリンクをクリックします。

詳細情報を表示するには

1 サービス リストでアプリケーションを選択し、**[拡張情報を表示]** をクリックします。

アプリケーションを右クリックし、表示されるショートカット メニューの **[プロパティ]** をポイントし、**[情報]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

2 サービス リストに戻るには、対応する **[キャンセル]** ボタンをクリックします。

ソフトウェアの削除

コンピュータからアプリケーションを削除するには、**[削除]** ボタン を使用します。

ソフトウェアを削除するには

1 削除するアプリケーションを選択します。

2 **[削除]** をクリックします。

3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。

削除するアプリケーションの名前を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[削除]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

ソフトウェアの検証

アプリケーションのインストールをチェックするには

1 インストールされている検証対象のサービスをサービス リストで選択します。

2 [**検証**] をクリックします。

ソフトウェア名を右クリックし、表示されるショートカット メニューの [**検証**] をクリックしても同じ操作を実行することができます。

— 検証でアプリケーションに問題がない場合は、アプリケーションの [検証した日付] カラムに検証の日付と時刻が表示されます。

— 検証でアプリケーションに問題がある場合は、[ステータス] カラムに [破損] と表示されます。

3 ソフトウェアを修復するには、[**修復**] をクリックします。

ソフトウェアの修復

アプリケーションに何らかの問題がある場合、それを修復するには、[**修復**] をクリックします。

ソフトウェアを修復するには

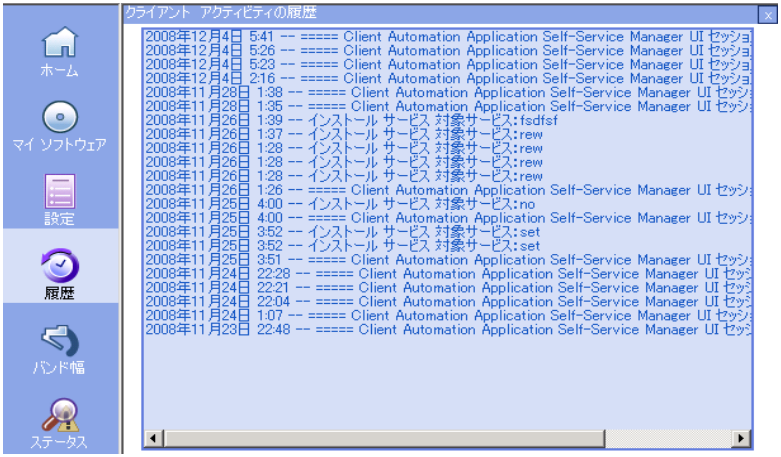
1 修復する必要があるアプリケーションを選択します。該当するアプリケーションには、最初のカラムに X、[ステータス] カラムに [破損] と表示されます。

2 [**修復**] をクリックします。HPCA によってアプリケーションの修復に必要なファイルが取得されます。

履歴の表示

1 メニュー バーの **[履歴]** をクリックして、現在のセッションの履歴を表示します。

図 19 [履歴] ウィンドウ



2 [履歴] ウィンドウを閉じて、サービス リストに戻ります。

バンド幅の調整

メニュー バーの **[バンド幅]** をクリックして、バンド幅のスライダを表示します。この値を変更すると、スロットリングの値が動的に変化します。

バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、[設定] の [接続オプション] セクションでも調整できます。

ステータスの表示

メニュー バーの **[ステータス]** をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 20　選択したアプリケーションのステータス表示

[ステータス] ウィンドウは、Application Self-Service Manager からドッキングしたりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィンドウはドッキングされています。

[ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

1. メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
2. 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
3. ショートカット メニューから **[ドッキング済み]** を選択します。[ステータス] ウィンドウがドッキングされている場合、ショートカット メニューの **[ドッキング済み]** の横にチェック マークが表示されます。

Application Self-Service Manager インターフェイスから [ステータス] ウィンドウが分離され、画面上の任意の場所に移動できるようになります。

[ステータス] ウィンドウをドッキングするには

1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。

2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。

3 ショートカット メニューの **[ドッキング済み]** をクリックします (チェック マークが表示されていない場合のみ)。

[ステータス] ウィンドウが Application Self-Service Manager インターフェイスにドッキングされます。

ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

メニュー バーの **[設定]** ボタンをクリックして、利用可能なカスタマイズ オプションを表示します。次のセクションで各カスタマイズ領域について説明します。

- 378 ページの「全般オプション」
- 380 ページの「サービス リスト オプション」
- 383 ページの「接続オプション」

全般オプション

Application Self-Service Manager インターフェイスの外観を変更するには、[全般オプション] ウィンドウを使用します。

図 21 [全般オプション] ウィンドウ

表示を変更するには

- メニューを表示する場合は、**[メニューを表示]** を選択します。
- カタログ リストを表示する場合は、**[カタログ リストを表示]** を選択します。
- 各セッションの開始時にオフライン モードで Application Self-Service Manager を使用するかどうかを確認するには、**[オフライン モードのプロンプトを表示]** チェック ボックスをオンにします。
- オプション バーを自動的に非表示にするには、**[自動非表示オプションバー]** をオンにします。

色を変更するには

- システムの色を使用する場合は、**[システムの色を使用]** をオンにします。
- カラー スキームをカスタマイズする場合は、**[色のカスタマイズ]** をオンにします。
  - [色のカスタマイズ] をクリックした場合、目的に応じて以下のラベルのボックスをクリックします。

– **[選択色を設定]**。選択した色を変更します。

– **[ボタンの色を設定]**。ボタンの色を変更します。

– **[背景色を設定]**。背景色を変更します。

– **[作業領域の色を設定]**。作業領域を変更します。

サービス リスト オプション

サービス リストの外観を変更するには、**[サービス リスト オプション]** を使用します。

図 22 サービス リスト オプション

サービス リストのカラム名をカスタマイズするには

サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズするには、[カラム] 領域を使用します。右のカラムには、現在サービス リストに表示されているカラムの名前が一覧表示されます。利用可能な各カラム見出しの説明については、381 ページの「表示のカスタマイズ」を参照してください。

サービス リストにカラムを追加するには

[使用可能なカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択し、**[追加]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスの一覧に表示されます。

サービス リストからカラムを削除するには

1 [表示するカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには **Shift** キーを押しながらカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには **Ctrl** キーを押しながらカラム名をクリックします。

2 **[削除]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

表示のカスタマイズ

- サービス リストで現在のサービス アイテムを展開するには、[**アクティブなサービス アイテムを展開**] を選択します。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービス リストを表示するには、**[グリッド線を表示]** を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、**[アクティブなカタログ アイテムを展開]** を選択します。
- **[詳細な操作を表示]** は現時点では利用できません。

表 38 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
適応バンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の適用最小割合。
警告メッセージ	エンド ユーザーに長いアプリケーション説明または指示のメッセージを表示 (警告 / 延期設定の一部として指定できる任意指定のサービス テキスト フィールド)。
作成者	サービスの作成者。
Avis	内部で使用するためだけのサービス ステータス フラグ。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ (バイト単位)。
説明	アプリケーションの簡単な説明。
エラーコード	現在のサービスのステータス。例 : 初期 = 999。メソッドの失敗 = 709。

表 38　サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
インストール日	アプリケーションがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性 (データがローカル コンピュータにキャッシュされているかどうか)。
必須	アプリケーションで定義される必須またはオプションなファイル (内部使用)。
名前	アプリケーションの名前。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	アプリケーションがカタログにパブリッシュされた日付。
再起動	サービスの再起動設定 (内部使用)。
再パブリッシュ日	アプリケーションがカタログに再パブリッシュされた日付。
予約済みのバンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の予約済み最大割合。
スケジュールを許可	エンド ユーザーがローカルにアプリケーションの更新スケジュールを変更できるかどうかを指定。
サイズ	アプリケーションのサイズ (バイト単位)。 注意 ：アプリケーションを正常にインストールするには、このカラムで表示される空き容量がコンピュータに必要です。
ステータス	アプリケーションの現在のステータス • 使用可能 • インストール済み • 更新可能 • 破損
システムのインストール	システム アカウントを使用してアプリケーションがインストールされるかどうかを表示。
スロットリング タイプ	使用するバンド幅スロットリングのタイプ。可能な値は、ADAPTIVE、RESERVED、または NONE。
オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを決定。
アップグレード日	アプリケーションがアップグレードされた日付。

表 38　サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
URL	ソフトウェア ベンダーの Web アドレス。
ベンダー	アプリケーションを提供したソフトウェア ベンダー。
検証日	前回、アプリケーションが検証された日付。
バージョン	アプリケーションのバージョン。

接続オプション

使用するバンド幅スロットリングのタイプの選択や、プロキシ サーバー設定の指定には、**[接続オプション]** (383 ページの図 23 を参照) を使用します。

図 23　接続オプション

- スロットリング
  - スロットリングを行わない場合、**[なし]** を選択します。

— 使用するネットワーク バンド幅の最大の割合をスケールに基づいてスライドするには、**[バンド幅を予約]** を選択します。ユーザーは、ダウンロード時に予約バンド幅をインターフェイスで変更できます。

— 使用するネットワーク バンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定するには、**[トラフィックに適応]** を選択します。適応バンド幅は、データ ダウンロード プロセスの間は変更できません。設定できるのは、ジョブがディスパッチされる前だけです。

- プロキシ

  — Application Self-Service Manager は、インターネット プロキシが使用されると、それを検出できます。検出されたインターネット プロキシのアドレスは、クライアント コンピュータの `IDMLIB` ディレクトリにある `PROXYINF.EDM` に格納されます。IDMLIB のデフォルトの場所は `<InstallDir>¥Agent¥Lib` です。次回、HPCA Agent コンピュータが HPCA Server に接続するときには、指定したインターネット プロキシが使用されます。この機能を使用するには、HPCA Agent でインターネット プロキシを使用および検出できるようにする必要があります。

HPCA System Tray アイコン

HP Client Automation システム トレイ アイコンを使用すると、ユーザーは、ステータスや統計情報を確認したり、一時停止やキャンセルの操作を行ったりすることができます。

図 24 HPCA System Tray アイコン

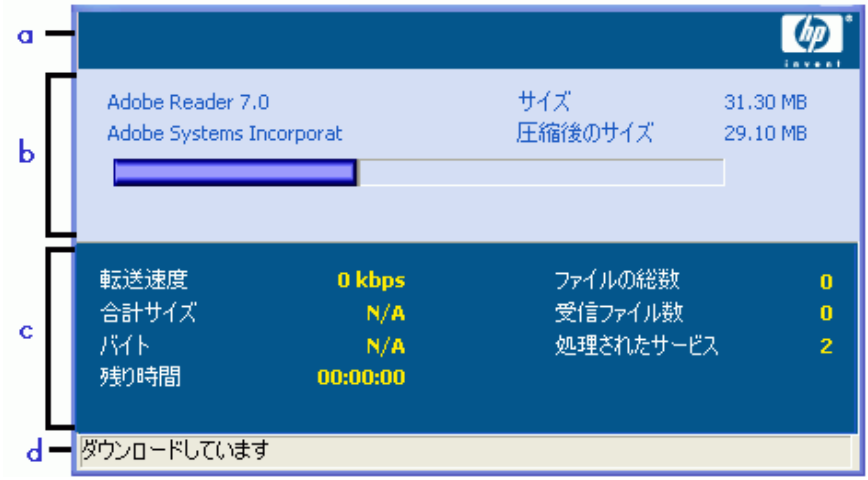
HPCA の状態を表示するには、カーソルをアイコンの上に移動します。

- アイドル : アクションが処理中でなく、ユーザーの介入を必要としないとき、アイコンは静的です。システム トレイ アイコンは、アイドル状態では非表示になる場合があります。
- アクティブ : Application Self-Service Manager が実行中のとき、またはユーザーの介入が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンの上にカーソルを合わせると、活動情報を示すポップアップが表示されます。重要な通知が発生した場合は、ポップアップが自動的に表示されます。

[HPCA ステータス] ウィンドウ

HPCA System Tray アイコンを左クリックして、[ステータス] ウィンドウを表示します。次の図で示すように [ステータス] ウィンドウが開きます。

図 25　HPCA ステータス



凡例

a　ボタン バー

b　情報パネル

c　ステータス領域

d　ステータス メッセージ

[ステータス] ウィンドウには次の領域があります。

- **ボタン バー** : [一時停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、および HPCA Agent が実行中にアニメーション表示になるロゴがあります。
- **情報パネル** : この領域には、アクティブなアプリケーションに関する情報が表示され、完了したタスクの割合を示す進行状況バーも表示されます。
- **ステータス領域** : 転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの数など、アクティブなプロセスに関する統計が表示されます。

- **ステータス メッセージ領域** : この領域には、現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。
  - **バンド幅設定** : HPCA Server のアプリケーションにバンド幅スロットリング を設定している場合、システム トレイ コンソールのバンド幅トグル ボタン をクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。バンド幅スロットリングの値を変更するには、スライダを調整します。

15 ユーザー設定とファイルのバックアップと復元

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションでは、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションとオペレーティング システムのユーザー ファイルや設定をバックアップおよび復元できます。ファイルと設定は HPCA Core Server に格納され、元のデバイスや新しいデバイスへの復元に使用できます。また、管理対象デバイスのファイルおよび設定をローカルにバックアップしたり、復元したりすることもできます。

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは、オペレーティング システムの配布の一部としてファイルと設定を移行する場合にも使用できます。

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは、Microsoft ユーザー状態移行ツール (USMT) に基づいています。このソリューションでは、USMT で作成される移行ストアのリモートおよびローカル両方の管理を提供し USMT を強化します。また、必要な USMT の制御ファイルをダウンロードし、これらのファイルを個別に配布する必要性を解消します。HPCA では USMT バージョン 3.0.1 と 4.0 をサポートしています。

➤ 基づいているバックアップ テクノロジが異なるため、HPCA 7.5 より前のバージョンの HPCA で作成されたバックアップは復元できません。

次のセクションでは、使用環境で HPCA Personality Backup and Restore ソリューションを実装する方法について説明します。

- 387 ページの「要件」
- 389 ページの「USMT について」
- 394 ページの「Personality Backup and Restore の使用」
- 403 ページの「トラブルシューティング」

要件

Personality Backup and Restore ソリューションを実装する前に、お使いの環境が次の要件を満たしていることを確認します。

- 388 ページの「オペレーティング システム」
- 388 ページの「ディスク容量」
- 389 ページの「ソフトウェア」

オペレーティング システム

次のオペレーティング システムを使用する移行元コンピュータから、バックアップを作成できます。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

次のオペレーティング システムを使用する移行先コンピュータに、ファイルおよび設定を復元できます。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

`/hardlink` オプションは、Windows Vista および Windows 7 オペレーティング システムでの復元操作にのみ使用できます。これは、Windows XP SP2 以上のオペレーティング システムでのバックアップに使用できます。

詳細については、399 ページの「コマンド ライン インターフェイスの使用」を参照してください。

ディスク容量

開始する前に、移行元コンピュータ、移行先コンピュータ、および HPCA Core Server にバックアップされるファイルおよび設定を格納できる十分なディスク容量があることを確認する必要があります。バックアップに必要なディスク容量を推定するには、次の URL にある Microsoft TechNet Web サイトの「データの保存場所の決定」を参照してください。

http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722431.aspx。

注 : 格納場所は HPCA によって自動的に設定されます。移行元コンピュータ、移行先コンピュータ、HPCA Core Server にはそれぞれ、移行されるファイルおよび設定用に十分なディスク容量が必要です。

また、移行先コンピュータでは、移行されるファイルおよび設定が使用する 2 倍のディスク容量が必要です。

HPCA Personality Backup and Restore Utility を使用する場合、HPCA Core Server には、バックアップ時に作成された、アーカイブされたユーザー ファイルおよび設定が格納されます。復元時には、アーカイブされたファイルおよび設定が移行先コンピュータの一時的な場所にダウンロードされた後、元の場所に復元されます。復元が正常に行われたら、アーカイブされたファイルおよび設定は、移行先コンピュータから削除されます。

`/localstore` オプションを指定して `pbr.exe` コマンドを使用する場合、バックアップは `C:/OSMGR.PRESERVE/PBR.work` にあるディスクにローカルに格納されます。このバックアップは前述のファイルの唯一のコピーであるため、削除されません。

ソフトウェア

必要なアプリケーションは次のとおりです。

- **Microsoft USMT バージョン 3.0.1 または 4.0**
  このアプリケーションは、移行元および移行先のデバイスでデフォルトの場所にインストールする必要があります。USMT について を参照してください。

  このソリューションでは、Microsoft USMT バージョン 3.0.1 または バージョン 4.0 を使用する必要があります。これ以外のバージョンの USMT はサポートされていません。

- **HP Client Automation Personality Backup and Restore**
  このアプリケーションは、移行元と移行先の両方のデバイスにインストールする必要があります。このアプリケーションは、HPCA Agent が管理対象デバイスにインストールされるときに自動的にインストールされます。

USMT について

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは Microsoft ユーザー状態移行ツール (USMT) に基づいているため、次の URL にある Microsoft Technet Web サイトのドキュメントを参照して、このツールとその機能について理解してください。

http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722032.aspx

このセクションでは、Microsoft USMT について、入手方法、インストール方法、および移行ファイルを使用する方法について説明します。Personality Backup and Restore ソリューションで提供される、バックアップおよび復元時に自動的に USMT を起動する Hewlett-Packard ユーザー インターフェイスの説明については、395 ページの「HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用」を参照してください。

サポートされるファイル、アプリケーション、および設定

USMT では、ユーザー ファイルおよびフォルダ (XP の [マイ ドキュメント] フォルダまたは Vista の [ドキュメント] フォルダなど)、オペレーティング システム設定 (フォルダ オプションや壁紙設定など)、アプリケーション設定 (Microsoft Word の設定など) を含むさまざまなデータが移行されます。総合的な一覧については、次の URL にある Microsoft TechNet Web サイトの「USMT 3.0 によって移行されるもの」を参照してください。

http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc722387(WS.10).aspx

また、次の URL にある「USMT 4.0 の新機能」も参照してください。

http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd560752(WS.10).aspx

- アプリケーションを正常に移行するためには、移行元コンピュータと移行先コンピュータのアプリケーションのバージョンが同一である必要があります。これには例外が 1 つあります。Microsoft Office の設定の場合は、移行元コンピュータの古いバージョンから移行先コンピュータの新しいバージョンに移行できます。
- USMT では、ユーザーがアクセスした、または変更したアプリケーション設定のみが移行されます。移行元コンピュータのユーザーがアクセスしたことがないアプリケーション設定は移行されません。
- フォント、壁紙、スクリーン セーバー設定などの一部のオペレーティング システム設定は、移行先コンピュータを再起動するまで適用されません。

Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 の取得とインストール

USMT をインストールする理由としては、次のいずれかまたは両方が考えられます。

- 管理者として、USMT の機能に慣れ、ソリューションを個人仕様にするために移行規則をカスタマイズする方法を学ぶ。
- エンド ユーザーとして、管理対象デバイスのファイルおよび設定をバックアップしたり復元したりできるようになる。

Personality Backup and Restore を実装する場合は、バックアップする移行元コンピュータと復元する移行先コンピュータに Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 をインストールする必要があります。このセクションでは、このアプリケーションを入手できる場所、およびインストールする方法について説明します。

Microsoft ユーザー状態移行ツール バージョン 3.0.1 または 4.0 を使用する必要があります。これ以外のバージョンの USMT はサポートされていません。

Microsoft USMT 3.0.1 の入手

USMT 3.0.1 は次の URL にある Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx

32 ビットと 64 ビットの 2 つのバージョンがあります。お使いの環境に適したバージョンを選択してください。

Microsoft USMT 4.0 の入手

USMT 4.0 は Windows Automated Installer Kit (AIK) for Windows 7 に含まれており、次の URL にある Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx

32 ビットと 64 ビットの 2 つのバージョンがあります。お使いの環境に適したバージョンを選択してください。

サポートされている各種オペレーティング システムでの `/hardlink` オプションの使い方の詳細については、399 ページの「コマンド ライン インターフェイスの使用」を参照してください。

管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール

管理対象デバイスでは、2 つの方法で USMT をインストールできます。手動でインストールするか、HPCA Administrator Publisher を使用してサービスにパッケージ化してから (347 ページの「パブリッシュ」を参照)、管理対象デバイスに付与または配布します。USMT は移行元および移行先両方のクライアント デバイスで、デフォルトの場所にインストールする必要があります。

表 39 USMT のデフォルトのインストール場所

USMT のバージョン	デフォルトの場所
3.0.1	`C:¥Program Files¥USMT301`
4.0	`C:¥Program Files¥Windows AIK¥Tools¥USMT`

管理対象デバイスのオペレーティング システムに応じて、必ず適切なバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) をインストールしてください。

移行ファイル

Personality Backup and Restore ソリューションでは、次の USMT 移行ファイルを使用して、移行に含めるコンポーネントを指定します。

- `MigSys.xml` – オペレーティング システム設定の移行
- `MigApp.xml` – アプリケーション設定の移行
- `MigUser.xml` – ユーザー フォルダおよびファイルの移行

USMT 4.0 では、`MigSys.xml` の名前は `MigDocs.xml` に変更されます。

お使いの環境でこのソリューションを実装する前に、これらのファイルを入手し、HPCA Core Server に保存する必要があります (393 ページの「Core Server への移行ルールの保存」を参照)。

これらのファイルを入手するには、サポートされているプラットフォームのいずれかに USMT をインストールする必要があります (390 ページの「Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 の取得とインストール」を参照)。インストール時にこれらのファイルは、392 ページの「管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール」に示すディレクトリに配置されます。

配置されたファイルは、編集することも (393 ページの「ルールの編集」を参照)、そのまま使用することもできます。

ルールの編集

場合によっては、デフォルトの移行ルールの編集が必要になることがあります。たとえば、特定のアプリケーションの設定を移行しない場合や、特定のファイルタイプを除外する場合です。デフォルトの移行動作を変更するには、移行 XML ファイルを編集する必要があります。これらのファイルをカスタマイズする方法については、次のドキュメントを参照してください。

http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc766203.aspx

Core Server への移行ルールの保存

移行ファイルの編集が完了したら、または移行ファイルを編集しない場合でも、HPCA Core Server の次のフォルダにファイルを保存します。

DataDir¥PersonalityBackupAndRestore¥conf

この場合の *DataDir* は、HPCA Core のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータ ディレクトリです。

これらの移行ファイルは、同じファイル名であり、Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 インストールから入手した元のファイルと同じファイル名 (MigSys.xml、MigApp.xml、および MigUser.xml) を使用する必要があります。

ScanState コマンド ラインと LoadState コマンド ライン

移行ルールは、Personality Backup and Restore Utility によって Core Server からダウンロードされ、個人データの収集と復元を行う USMT 実行可能ファイル ScanState および LoadState によって使用されます。ScanState.exe は、移行元コンピュータの個人データを収集する実行可能ファイルです。Personality Backup and Restore Utility で使用される ScanState コマンド ラインは、次のとおりです。

```
ScanState.exe /i:MigApp.xml /i:MigUser.xml /i:MigSys.xml /o
/l:ScanState.log /localonly "Agent¥Lib¥PBR¥work¥store"
```

この場合の *Agent* は、Agent のインストール ディレクトリです。

LoadState は、移行先コンピュータに個人データを復元する実行可能ファイルです。Personality Backup and Restore Utility で使用される LoadState コマンド ラインは、次のとおりです。

```
LoadState.exe /i:MigApp.xml /i:MigUser.xml /i:MigSys.xml
/l:LoadState.log /lac:password /lae
"Agent¥Lib¥PBR¥work¥store"
```

この場合の *Agent* は、Agent のインストール ディレクトリです。

これらのコマンド ラインはカスタマイズできませんが、バックアップおよび復元される内容を理解していただくために記載しています。注：これらの ScanState および LoadState コマンド ライン引数によって、ローカル ユーザー アカウントも含め、システムのすべてのユーザー アカウントが移行されます。復元を実行するときに、移行先コンピュータにローカル ユーザー アカウントがない場合は、`password` というパスワードを使用して、LoadState によって作成されます (前述のコマンド ラインを参照)。そのため、復元後には、復元されたローカル ユーザー アカウントのパスワードを変更する必要があります。

Personality Backup and Restore の使用

HPCA Personality Backup and Restore 機能には、次の 3 つの方法でアクセスできます。

- 395 ページの「HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用」
- 401 ページの「Personality Backup and Restore サービスの使用」
- 399 ページの「コマンド ライン インターフェイスの使用」

これらの 3 つの方法すべてで `pbr.exe` という名前の同一の HPCA アプリケーションを起動します。`pbr.exe` は、実行時に毎回、HPCA Core Server から管理対象デバイスに 3 つの移行 XML ファイル (392 ページの「移行ファイル」を参照) をダウンロードして、これらのファイルを使用してバックアップまたは復元を実行します。

デフォルトでは、`pbr.exe` がバックアップ ファイルを HPCA Core Server の次の場所に格納し、また、この場所からバックアップ ファイルを復元します。

DataDir¥PersonalityBackupAndRestore¥backups

この場合の *DataDir* は、HPCA Core のインストール時に指定したデータ ディレクトリです。サブディレクトリは、管理対象デバイスをバックアップするたびに `backups` フォルダに作成されます。このサブディレクトリには復元に必要なすべての情報が格納されています。

HPCA Core Server ではなく管理対象デバイスのローカル ハード ディスクにバックアップ ファイルを格納する場合は、`pbr.exe` コマンドに `/localstore` オプションを指定して使用します。この場合、ファイルは次の場所にあるローカル ディスクに格納されます。

```
C:/OSMGR.PRESERVE/PBR.work
```

復元に必要なすべての情報が、このサブディレクトリに格納されます。

USMT バージョン 4.0 (Windows AIK for Windows 7 に含まれる) を使用している場合は、`/hardlink` オプションを指定して、ファイルを物理的にコピーする代わりに、ハードリンク移行ストアを作成できます。これにより、バックアップと復元の操作を高速化できます。

詳細については、399 ページの「コマンド ライン インターフェイスの使用」を参照してください。

バックアップ ファイルの格納場所が HPCA Core Server であるか、管理対象デバイスのローカル ハード ディスクであるかに関わらず、バックアップ ファイルが自動的に削除されることはありません。特定のデバイスのバックアップ データが不要になった場合は、HPCA 管理者がそのバックアップ データを手動で削除できます。

HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用

HPCA Personality Backup and Restore Utility は、USMT の使用法を簡略化するユーザー インターフェイスです。このユーティリティは、HPCA Agent のインストール時に、管理対象デバイスに配布されます。

開始する前に、HPCA Core Server、移行元および移行先の両方のコンピュータに、十分なディスク容量があることを確認してください (388 ページの「ディスク容量」を参照)。

Personality Backup and Restore Utility を起動するには

管理対象デバイスで、[スタート] メニューから次のように選択します。

[すべてのプログラム] > [HP Client Automation Personality Backup and Restore] > [Client Automation Personality Backup and Restore Utility]

次のセクションでは、このユーティリティの使用方法について説明します。

- 396 ページの「パーソナリティのバックアップ」
- 397 ページの「パーソナリティの復元」

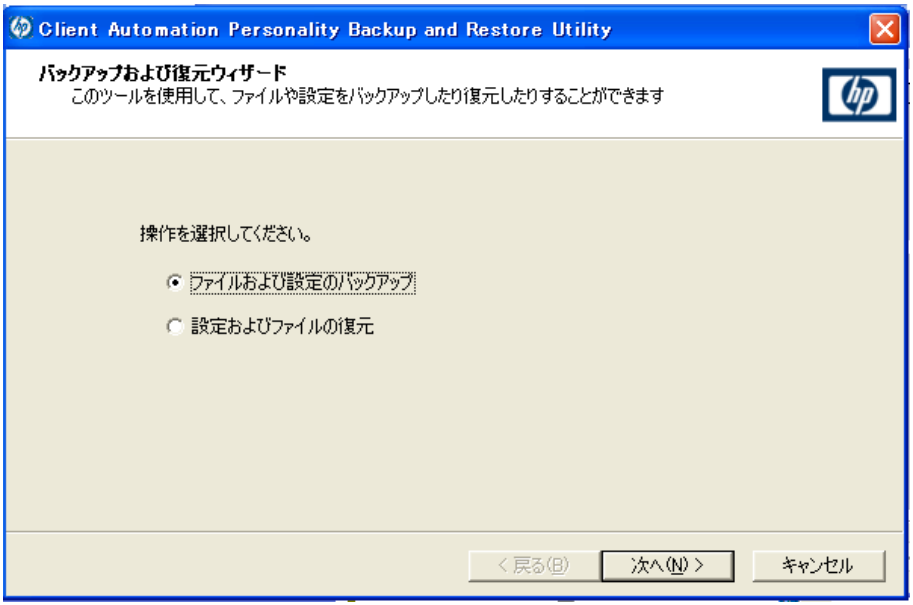
パーソナリティのバックアップ

管理者権限のあるユーザー アカウントから Personality Backup and Restore Utility を実行する必要があります。

バックアップが正常に行われるように、バックアップの実行前に、開いているファイルや実行中のアプリケーションはできる限り終了します。バックアップの実行中には、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりしないでください。バックアップが失敗する可能性があります。

ファイルと設定をバックアップするには :

1 管理対象デバイスで Personality Backup and Restore Utility を起動します (395 ページの「Personality Backup and Restore Utility を起動するには」を参照)。



2 **[ファイルおよび設定のバックアップ]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。[バックアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。

3 バックアップするデバイスのコンピュータ名を入力します。

4 7 ～ 15 文字のパスワードを入力して、**[次へ]** をクリックします。[要約] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 要約情報を確認します。ファイルと設定を復元するときに必要になるため、コンピュータ名と使用したパスワードを記録します。

6 **[完了]** をクリックしてバックアップ プロセスを開始します。バックアップされるデータの量によっては、このプロセスが完了するまでに数分から数時間かかることがあります。Personality Backup and Restore Utility からバックアップの完了が通知されるまで、アプリケーションは終了しないでください。

パーソナリティの復元

管理者権限のあるユーザー アカウントから Personality Backup and Restore Utility を実行する必要があります。

復元が正常に行われるように、復元の実行前に、開いているファイルや実行中のアプリケーションはできる限り終了します。復元の実行中には、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりしないでください。復元が失敗する可能性があります。

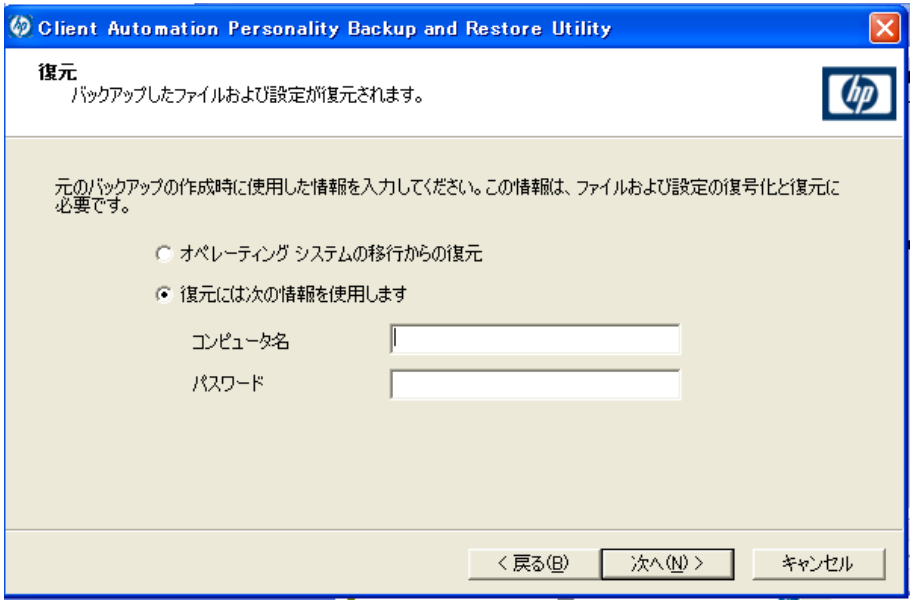
復元手順を開始する前に、設定を移行するすべてのアプリケーションを、移行先コンピュータにインストールする必要があります。注 : (新しいバージョンが使用できる) Microsoft Office 以外のすべてのアプリケーションについては、移行元コンピュータにインストールされているものと同じバージョンのアプリケーションを、移行先コンピュータにインストールする必要があります。

バックアップで使用されたドメインと同じ Windows ドメインにあるコンピュータに復元します。また、バックアップで使用されたロケールと同じロケール (例、米国英語) で復元します。

ファイルと設定を復元するには

1 移行先コンピュータで Personality Backup and Restore Utility を起動します (詳細については、395 ページを参照)。

2 **[設定およびファイルの復元]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。[復元] ダイアログ ボックスが表示されます。



3 次のいずれかの操作を実行します。

— Personality Backup and Restore Utility でバックアップしたファイルおよび設定を復元するには、次の手順を実行します。

a **[復元には次の情報を使用します]** を選択します。

b バックアップ時に使用した **[コンピュータ名]** および **[パスワード]** を入力します。

— 移行を有効にした前回のオペレーティング システムの配布時に格納されたファイルと設定を復元するには、**[オペレーティング システムの移行からの復元]** を選択します。

4 **[次へ]** をクリックします。[要約] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 **[完了]** をクリックして復元プロセスを開始します。復元されるデータの量によっては、このプロセスが完了するまでに数分から数時間かかることがあります。Personality Backup and Restore Utility から復元の完了が通知されるまで、アプリケーションを終了しないでください。

6 フォント、壁紙、スクリーン セーバー設定などの一部のオペレーティング システム設定は、移行先コンピュータを再起動するまで適用されません。これらの設定がすべて正常に適用されるように再起動を実行してください。

コマンド ライン インターフェイスの使用

HPCA Personality Backup and Restore コマンド ライン インターフェイスを使用して、管理対象デバイスのファイルと設定をバックアップしたり、復元したりできます。

構文は次のとおりです。

`<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /B|/R [/localstore] [/hardlink]`

表 40 pbr.exe のコマンド ライン オプション

オプション	説明
/B	バックアップを実行します。
/R	復元を実行します。
/localstore	バックアップ ファイルを、HPCA Core Server ではなく、管理対象デバイスのローカル ハード ドライブに保存 (またはそこから復元) します。
/hardlink	USMT 4.0 (Windows 7 AIK に付属) の場合は、バックアップ ファイルを OSMGR.PRESERVE ディレクトリに物理的にコピーしないでください。代わりに、ファイルへのハード リンクを作成します。これにより、バックアップ ファイルが重複しなくなるため、バックアップ容量を大幅に節約できます。さらに、バックアップ操作と復元操作の高速化にもつながります。 /hardlink が指定されている場合は、/localstore を示しています。 /hardlink オプションが使用されている場合、ターゲット (復元) OS は、Windows Vista または Windows 7 である必要があります。ソース (バックアップ) OS は、Windows XP SP2 以上でもかまいません。 USMT 3.0.1 では、このオプションは無視されます。この場合、/hardlink は /localstore のように扱われます。
/xml	ワイルドカードを使用して HPCA Core Server から xml ファイルを選択します。このオプションは、バックアップを実行するときに使用されます。

表 40　**pbr.exe** のコマンド ライン オプション

オプション	説明
/--	このオプションは、USMT ユーティリティの追加パラメータを渡すために使用します。追加パラメータは、Personality Backup and Restore で設定されたように、コマンド ラインに付加されます。

例 1: HPCA Core Server のファイルおよび設定のバックアップ

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /B
```

例 2: HPCA Core Server からの復元

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /R
```

例 3: ファイルと設定のローカル バックアップ

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /B /localstore
```

例 4: ローカル バックアップ後の復元

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /R /localstore
```

例 5: ハード リンクを使用したローカル バックアップの実行

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /B /hardlink
```

この例は、Windows XP SP2、Windows XP SP3、Windows Vista、および Windows 7 の各オペレーティング システムで有効です。

例 6: ハード リンクを使用したローカル復元の実行

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /R /hardlink
```

この例は、Windows Vista および Windows 7 のオペレーティング システムで有効です。

例 7: ワイルドカードを使用した、HPCA Core Server からの xml ファイルの選択

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /B /xml myconfig*.xml
```

例 8: USMT ユーティリティである ScanState および LoadState 用のログ レベルの設定

```
<InstallDir>¥Agent¥pbr.exe /R /-- /v:4
```

Personality Backup and Restore サービスの使用

HPCA が提供する次の 2 つの組み込みのサービスがあります。このサービスでは、ユーザー ファイルおよび設定のバックアップおよび復元のプロセスを自動化できます。

- HPCA Personality Backup (HPCA_PBR)
- HPCA Personality Restore (HPCA_RESTORE)

どちらのサービスも `pbr.exe` アプリケーションを起動します。これらのサービスは、オペレーティング システムの配布を行う状況で特に役立ちます。HPCA ライセンスのタイプに応じて、プロセスの動作が若干異なります。

HPCA Personality Backup サービス (`pbr.exe /B`) を使用してバックアップを実行した場合は、HPCA Personality Restore サービスを使用してのみユーザー データを復元できます。このユーティリティを使用してバックアップを実行した場合は、復元を実行する場合にもこのユーティリティを使用する必要があります。

HPCA Standard で OS 配布の一部としてユーザー データを移行するには

1. OS 配布ウィザードの [配布動作] ページで、**[ユーザー データと設定の移行]** オプションで **[はい]** を指定します。

   このオプションを選択すると、HPCA は HPCA Personality Backup サービスを使用して、オペレーティング システムを配布する前にグループの各管理対象デバイスのユーザー データおよび設定をバックアップします。デフォルトでは、バックアップ ファイルは HPCA Core Server に格納されます。

2. 管理対象デバイスの指定されたグループに OS を配布します。

3. OS の配布が完了したら、グループの各管理対象デバイスのデフォルトの場所に USMT がインストールされていることを確認します (392 ページの「管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール」を参照)。

4. グループの管理対象デバイスごとに、ソフトウェア ライブラリに HPCA Personality Restore サービス (HPCA_RESTORE) を配布します。

   このサービスは、ユーザー データを復元するデバイスごとに一度実行します。このサービスでは、まず、`C:/OSMGR.PRESERVE` フォルダをチェックし、ローカル バックアップが実行されたかどうかを確認します。ローカルのバックアップ ファイルが見つからなかった場合、このサービスでは HPCA Core Server からユーザー データを復元します。

OS の配布中にデータをキャプチャおよび復元するための代替方法

HP では、OS 配布中にデータのキャプチャと復元に使用できる、ROM Client のメソッド (romclimth.tkd) も提供しています。このメソッドは、*<InstallDir>*¥Agent に格納されており、終了ポイントが 2 つあります。

終了ポイントは、次の 2 つのオプションのスクリプトを呼び出します。

- Novapdc.cmd (データ キャプチャ)
- Novapdr.cmd (データ復元)

これらのスクリプトも *<InstallDir>*¥Agent に格納されています。

これらのスクリプトを使用して、使用する製品用にデータのキャプチャ、回復、および復元をカスタマイズできます。

romclimth.tkd のしくみ

romclimth.tkd を使用したデータのキャプチャ、復元、および移行は、OS Manager User Agent に依存します。データのキャプチャは、オペレーティングシステムが実行しているときにのみ可能だからです。プロセスの仕組みは次のとおりです。

1. *<InstallDir>*¥Agent に格納されている Novapdc.cmd が使用可能な場合、Application Manager は、デバイスの要求ステートの変化を検知し、データのキャプチャを開始します。
2. ターゲット デバイスがリブートし、新しいオペレーティング システムがインストールされます。
3. Novapdr.cmd が使用可能な場合、オペレーティング システムがターゲット デバイスにインストールされた後、ROM クライアント メソッドが復元プロセスを開始します。

HP 終了ポイントのリターン コード

次のリターン コードが HP 終了ポイント Novapdc.cmd および Novapdr.cmd から返されます。これらの終了ポイントで使用しているソフトウェアによって、値は変わる場合があります。メソッドのリターン値が以下に等しくない場合、標準のバッチ エラー レベル条件処理と終了コマンドを使用して、以下と一致させます。

表 41 HP 終了ポイントのリターン コード

コード	説明
0	成功
1	エラーが発生しログに記録されますが、処理は継続します。ログは次の場所にあります。 `<InstallDir>¥Agent¥Logs¥romclimth.log`
2	• `Novapdc.cmd`（キャプチャ）の場合 致命的なエラーが発生し次のログに記録されます。 `<InstallDir>¥Agent¥Log¥romclimth.log` サービスの処理は終了します。 • `Novapdr.cmd`（復元）の場合 エラーが発生し、次のログに記録されます。 `<InstallDir>¥Agent¥Log¥romclimth.log` サービスにはフラグが付きますが、次の HPCA OS 接続で、Application Manager は再度サービスのインストールを試みます。

トラブルシューティング

このセクションでは、バックアップまたは復元が正常に完了しなかった場合に実行できるトラブルシューティング操作について説明します。

バックアップまたは復元が正常に完了しなかった

バックアップまたは復元が正常に完了しなかった場合は、Agent の `Log` ディレクトリにある `pbr.log` で、バックアップまたは復元時に発生したエラーを確認します。デフォルトの `Log` ディレクトリは、次のディレクトリです。

`<InstallDir>¥Agent¥Log`

/localstore オプションを指定して pbr.exe を使用する場合、ログ ファイルは次のディレクトリに保存されます。

C:¥OSMGR.PRESERVE¥PBR.work¥log

また、バックアップと復元時にそれぞれ作成された ScanState.log および LoadState.log ファイルを確認することもできます。これらのファイルは、Agent の Lib ディレクトリの下の PBR¥work¥log ディレクトリにあります。デフォルトの Lib ディレクトリは、次のディレクトリです。

<*InstallDir*>¥Agent¥Lib

ユーザーがパスワードを忘れたためデータを復元できない

Personality Backup and Restore Utility を使用して復元を実行するには、バックアップでユーザーが入力したコンピュータ名とパスワードの両方が必要です。紛失したパスワードを回復する方法はありませんが、管理者はユーザーが復元を実行できるように新しいパスワードを作成できます。このプロセスは次のとおりです。

1. 管理者がユーザー ファイルと設定が格納されている HPCA Core Server のバックアップ ディレクトリを検索します。このディレクトリは、*DataDir*¥PersonalityBackupAndRestore¥backups にあります。この場合の *DataDir* は、HPCA Core のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータ ディレクトリです。サブディレクトリの名前は次のとおりです。

   ComputerName_EncodedComputerNameAndPassword

2. 管理者は Personality Backup and Restore Utility を使用してバックアップを実行します。このバックアップは、ユーザーがパスワードを忘れたコンピュータでは実行*しない*でください。バックアップはそれ以外のマシン、できればバックアップの高速化を図るために、ユーザー データが少ないかまったくないマシンで実行します。

   このバックアップを実行するには、管理者は元のバックアップに使用したものと同じコンピュータ名 (前述のバックアップ フォルダ名の一部) を入力し、復元を実行するエンド ユーザーに支給するパスワードを作成する必要があります。

3. 管理者は、*Data*¥PersonalityBackupAndRestore¥backups の下に作成された新しいディレクトリを見つけて、そのディレクトリの*内容*を削除し、手順 1 で説明した元のバックアップ ディレクトリの内容をコピーします。

4 エンド ユーザーは、Personality Backup and Restore Utility を実行し、元のコンピュータ名と管理者が作成したパスワードを入力して、自分のファイルと設定の復元を行います。

➤ エンド ユーザーが、パスワードを忘れたが過去のバックアップからデータを復元する必要がない場合は、次回バックアップを実行するときに新しいパスワードを入力すれば、そのパスワードを使用して復元を実行できます。

16 HP Client Automation の監視

HP Client Automation (HPCA) は、分散された階層型の環境に展開されます。このインフラストラクチャを監視することで、関連するサービスとコンポーネントの可用性を保つことができます。監視メカニズムの使用は必須ではありませんが、HP では、お使いの環境にこのメカニズムを実装することを推奨しています。HP Client Automation のパフォーマンスと可用性はいくつかの要因に左右されます。次の 3 つの重要な点を監視する必要があります。

- HPCA サーバーの可用性
- HPCA サービスの可用性
- HPCA サービスの応答性

HPCA はソフトウェア配布を監視できますが、監視ツールとしては機能しません。監視ソリューションは、インフラストラクチャがサービス レベルの要件を満たしていることを確認するために必要です。HPCA のログ ファイルとリレーショナル データベース テーブルは、監視ツールがインフラストラクチャの操作の検証に使用できる情報を提供します。お使いの環境で使用する監視ソリューションで、次のタスクを実行できることを確認してください。

- 可用性のステータスと応答時間について HP Client Automation コンポーネントに問い合わせる
- サーバー コンポーネント、主なアプリケーション プロセス、ログ ファイルのステータスを報告し、そのコンポーネントに対して定義されたしきい値に従って、コンポーネントのステータスを表示する
- 設定されたしきい値を満たさない場合に警告を発行する

これらの重要な点が正常に機能するような、積極的で定期的なテストを伴うソリューションを展開する必要があります。

HPCA インフラストラクチャのコンポーネント

監視ツールは基本的に、ディスク スペースの使用量、CPU 使用率、Windows サービスのステータスなど、Windows システムの情報を監視します。これらのツールでは、ログ ファイルの内容を監視および抽出して、ソフトウェアが実行するタスクの成功または失敗を判定することもできます。HPCA インフラストラクチャの監視は、監視ツール特有のこうした機能に依存しています。

HPCA インフラストラクチャの監視ソリューションは、重要な監視情報をサードパーティ製の外部監視ツールで利用できるように設計されています。Core-Satellite モデルでは、各インフラストラクチャ コンポーネントが Core Server と Satellite Server という 2 つの主要なエンティティに統合されます。どちらのサーバーでも、ほとんどのインフラストラクチャ コンポーネントは Windows サービスとして実行されます。DCS 同期やプロキシ サーバーの事前読み込みなどの主な操作プロセスは、対応するログ ファイルの内容を分析することで監視されます。

次の表は、HPCA 環境への監視ソリューションの統合を計画している場合に監視する必要のある HPCA のコンポーネントとパラメータの一覧です。

表 42　監視する必要のある HPCA インフラストラクチャのコンポーネントとパラメータ

HPCA コンポーネント				可用性	
監視の種類	**コンポーネント名**	**重要度**	**監視パラメータ**	**Core**	**Satellite**
サーバーの監視	HPCA Core/ Satellite	最重要	*<IP アドレス / 完全なデバイス名 >* で Core/Satellite サーバーに対して Ping を実行	✓	✓

表 42　監視する必要のある HPCA インフラストラクチャのコンポーネントとパラメータ

HPCA コンポーネント				可用性	
監視の種類	コンポーネント名	重要度	監視パラメータ	Core	Satellite
Windows サービスの監視	HPCA Configuration Server	最重要	サービス名：ZTOPTASK EXE: ZTOPTASK.exe	✓	✓
	HPCA Apache Server	最重要	サービス名：HPCA-Apache EXE: httpd.exe	✓	✓
	HPCA Tomcat Server	重要	EXE: tomcat.exe	✓	✗
	HPCA Boot Server (PXE)	重要	サービス名：HPCA-PXE EXE: cygrunsrv.exe	✓ デフォルトで無効	✓ デフォルトで無効
	HPCA Boot Server (TFTP)	重要	サービス名：HPCA-TFTP EXE: inetd.exe	✓ デフォルトで無効	✓ デフォルトで無効
	HPCA DB Server	重要	サービス名：HPCA-DB EXE: mysqld-nt.exe	✓	✗
	HPCA Directory Server	重要	サービス名：HPCA-DS EXE: slapd.exe	✓	✗
	HPCA Distributed Configuration Server	重要	サービス名：HPCA-DCS EXE: nvdkit-hpca-dcs.exe	✓ デフォルトで無効	✓

表 42　監視する必要のある HPCA インフラストラクチャのコンポーネントとパラメータ

HPCA コンポーネント		重要度	監視パラメータ	可用性	
監視の種類	コンポーネント名			Core	Satellite
Windows サービスの監視	HPCA Knowledge Base Server	重要	サービス名：HPCA-KBM EXE: hpkbmanager.exe	✓ デフォルトで無効	✗
	HPCA Management Portal Server	重要	サービス名：HPCA-RMP EXE: nvdkit-hpca-rmp.exe	✓	✗
	HPCA Messaging Server	重要	サービス名：HPCA-MS EXE: nvdkit-hpca-ms.exe	✓	✓
	HPCA Multicast Server	重要	サービス名：HPCA-MCAST EXE: nvdkit-hpca-mcast.exe	✓ デフォルトで無効	✓ デフォルトで無効
	HPCA OS Manager	重要	サービス名：HPCA-OSM EXE: nvdkit-hpca-osm.exe	✓ デフォルトで無効	✓ デフォルトで無効
	HPCA Patch Acquisition Server	重要	サービス名：HPCA-PATCH EXE: nvdkit-hpca-patch.exe	✓ デフォルトで無効	✓
	HPCA Policy Server	重要	サービス名：HPCA-PM EXE: nvdkit-hpca-pm.exe	✓	✓ デフォルトで無効

表 42　監視する必要のある HPCA インフラストラクチャのコンポーネントとパラメータ

HPCA コンポーネント		重要度	監視パラメータ	可用性	
監視の種類	コンポーネント名			Core	Satellite
サービス応答の監視	HPCA Apache Server Response	重要	URL: **http://<server>:<server_port>/server-status**	✓	✓
	HPCA Apache Tomcat Server Response	重要	URL: **http://<core>:<core port>/console/flex/console.jsp**	✓	×
	HPCA Configuration Server Response	最重要	バッチ スクリプトを実行して `nvdkit.exe` tpping を内部的に実行します。 例：`nvdkit.exe tpping -host`	✓	✓ デフォルトで無効
	HPCA Management Portal Server Response	重要	URL: **http://<core host>:<core port>/proc/Radia/?WebService.Name=AuthenticateUser&Response.Format=Text&getauthds=true**	✓	×
	HPCA Messaging Server Response	重要	URL: **http://<host>:<port>/proc/msg**	✓	✓
	HPCA Policy Server Response	重要	URL: **http://<server host>:<server port>/policy/ldap?dn=ldap%3a%2f%2f%2fcn%3ddevice%2ccn%3dhp%2ccn%3dradia**	✓	✓ デフォルトで無効

17 よく寄せられる質問

この章では、HPCA およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

- 414 ページの「HPCA Console にはどうやってアクセスしますか?」
- 414 ページの「どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?」
- 414 ページの「コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?」
- 415 ページの「自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?」
- 415 ページの「インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?」
- 416 ページの「管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?」
- 416 ページの「パッチ取得はどのようにして自動化できますか?」
- 417 ページの「パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?」
- 417 ページの「管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?」
- 418 ページの「特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか?」
- 418 ページの「ライセンス キーはどのようにして更新しますか?」
- 418 ページの「OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?」
- 419 ページの「ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?」
- 419 ページの「コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、どのようにしますか?」
- 420 ページの「setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか?」
- 420 ページの「全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?」
- 421 ページの「ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか ?」
- 421 ページの「デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか ?」

- 422 ページの「OS イメージをキャプチャするには、どのようにしますか ?」
- 422 ページの「OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか ?」
- 422 ページの「OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか ?」
- 422 ページの「OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか ?」
- 423 ページの「OS イメージを配布するには、どのようにしますか ?」
- 423 ページの「利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか ?」

HPCA Console にはどうやってアクセスしますか ?

HPCA Console にアクセスするには、お使いの環境にある任意のデバイスからブラウザを使用します。

- **http://***HPCAhost***:3466/** に移動します。ここで、`HPCAhost` は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか ?

- HPCA のバージョン情報を表示するには、[操作] 領域にある [インフラストラクチャ管理] の [サポート] ページを使用します。

コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか ?

各コンソール ユーザーには、コンソール ユーザーを作成するときに管理者が指定した独自のパスワードがあります。コンソール ユーザーのログイン パスワードは、217 ページの「アクセス制御」で変更します。

1. コンソール ユーザーのユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
2. **[パスワードの変更]** をクリックします。
3. [パスワードの変更] 領域で、表示されたテキスト ボックスに新しいパスワードを入力し、確認します。
4. **[適用]**、続いて **[保存]** をクリックします。

新しいパスワードが保存されます。

自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか？

デバイスは、Management Agent が配布されると、管理されます。エージェントを配布するには、そのデバイスを HPCA に追加する必要があります。

最初にデバイスをインポートします。

- [デバイス管理] の [一般] タブで **[管理対象デバイスのインポート]** をクリックします。デバイス インポート ウィザードが開始されます。
- 280 ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

デバイスがインポートされたら、Management Agent を配布します。

- [デバイス管理] の [一般] タブで **[Management Agent の配布]** をクリックします。282 ページの「エージェント配布ウィザード」が開始されます。
- 282 ページのウィザードの手順に従って、Management Agent を配布します。

エージェントが配布されると、デバイスが管理できるようになり、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリ管理の準備が完了します。

インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか？

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリは、ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して指定したスケジュールに基づいて収集されます。

- 最初に、インベントリ収集のスケジュール設定を、個々のデバイスについて行うか、グループについて行うかを選択します。[デバイス管理] の [グループ] セクションまたは [グループ管理] の [グループ] で選択します。
- ツールバーで、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ウィザードを起動します。
- 283 ページのウィザードの手順に従って、デバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。

  ➤ ソフトウェア配布ジョブが完了すると、追加されたインベントリ収集が実施されます。

管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか？

[レポート] タブを使用して、管理対象デバイスのインベントリ情報を表示します。

- [レポート] タブのホーム ページから、[インベントリ情報] の下にある **[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- ページの左側のツールを使用するか、各リスト項目の条件をクリックしてリストをさらにフィルタします。
- ある 1 つのデバイスの情報を表示するには、**[詳細を表示]** をクリックします。

パッチ取得はどのようにして自動化できますか？

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得のスケジュールおよび設定を指定します。

1. **[取得] の [スケジュール]** タブで、付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
   - **実行** : 時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを選択します。
   - **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
   - **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探索する日を選択します。
   - **[現在のサーバー時刻]** は、HPCA Server の現在の時刻を表示します。
2. 終了したら、**[保存]** をクリックして、変更を適用します。[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。
3. **[取得]** の **[設定]** タブで、各探索期間で取得するブリティンを入力します。ワイルドカード文字 (「MS05*」など) を使用してブリティンの範囲を指定できます。複数のブリティン検索を同時に行うには、カンマで区切ります (MS05*, MS06* など)。
4. **[設定]** タブの **[インフラストラクチャ管理]** にある **[プロキシ設定]** に移動します。

5 ブリティンの取得元の [Proxy Server のアドレス] と [ポート] を入力します。必要な場合、パッチを取得するためのプロキシ ユーザー ID およびプロキシ パスワードを入力します。

6 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか？

- パッチ適用状況探索のスケジュールを指定するには、[デバイス] タブから管理対象デバイスを選択します (または、[グループ] タブからグループを選択します)。
- **[インベントリの収集]** ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。
- 284 ページのウィザードの手順に従って、デバイスおよびグループのパッチ適用状況探索のスケジュールを指定します。
- [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか？

最初に、管理対象デバイスをすべて含むダイナミック レポート グループを作成します。

- [レポート] タブ の [インベントリ] の下で、**[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。
- 全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- **[新しいダイナミック レポート グループの作成]** をクリックします。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- [管理] タブで **[ソフトウェア管理]** をクリックします。
- **[ソフトウェアの配布]** をクリックします。

- これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。

特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか？

- [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、[パッチ取得設定] の [取得するブリティン] テキスト ボックスに具体的なパッチ ブリティン番号を指定します。

  ➤ 設定を行ってすぐにパッチ取得を起動できます。定期的にパッチを取得するようにパッチ取得スケジュールを設定した場合、取得設定の値をリセットする必要があります。これは、これらから先の取得の間に、パッチ取得が特定のパッチだけを取得するのを防ぐためです。

ライセンス キーはどのようにして更新しますか？

1. テキスト エディタを使用して、新しいライセンス ファイル (`license.nvd` など) を開きます。
2. ファイルの内容を、[設定] タブの [ライセンス] ページにある [ライセンス データ] テキスト ボックスにコピーします。
3. **[保存]** をクリックして、ライセンス情報を更新します。

OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか？

[レポート] タブを使用して、特定のサービス パックを適用していない全デバイスを含むクエリを作成します。この例では、サービス パック 2 をインストールしていない Windows XP デバイスすべてを含むグループが作成されます。

1. [データ フィルタ] 領域で **[インベントリ管理の関連情報]** をクリックします。

2 **[OS 関連情報]** をクリックします。

3 **[オペレーティング システム]** をクリックして、「`*Windows XP*`」と入力します。

4 **[適用]** をクリックします。Windows XP をインストールしてある全デバイスが表示されます。

5 **[OS のレベル]** をクリックして、「`!Service Pack 2`」と入力します。

6 **[適用]** をクリックします。Service Pack 2 をインストールしていない Windows XP デバイスがすべて表示されます。

7 **[新しいダイナミック レポート グループの作成]** をクリックして、グループ作成ウィザードの指示に従い、デバイスのグループを作成します。

ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか？

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布します。

1 [管理] タブで **[ソフトウェア管理]** をクリックします。

2 **[ソフトウェア ライブラリ]** をクリックして、パブリッシュされたソフトウェアをすべて表示します。

3 ある 1 つのデバイスに配布するソフトウェアの説明リンクをクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウが開きます。

4 **[デバイス]** タブをクリックして、そのソフトウェアを配布するデバイスを選択します。

5 **[ソフトウェアの配布]** をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを開始します。

6 ウィザードの手順に従って、そのデバイスにソフトウェアを配布します。

コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、どのようにしますか？

ネットワークに常時接続しているとは限らないデバイスにエージェントをインストールするには、HPCA メディアに収録されている HPCA Agent インストールプログラムを使用します。

1 HPCA インストール メディアの Media¥client¥default¥win32 ディレクトリにある、`standard-setup.cmd` ファイルを使用します。

2 コマンド ラインで、「`standard-setup.cmd` *HPCA_IP_Addr*」と入力します。*HPCA_IP_Addr* はお使いの HPCA Server の IP アドレスです。

3 **Enter** キーを押します。

Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[Windows インストーラ]** を選択します。Publisher の手順に従って、Windows インストーラ ファイルが、管理対象デバイスへの配布に利用できるようにします。

  詳細については、Publisher のオンライン ヘルプ、または 第 13 章「パブリッシュ」を参照してください。

setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか？

- Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[コンポーネントの選択]** を選択します。パブリッシュするファイルを選択して、Publisher の指示に従い、管理対象デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

  詳細については、Publisher のオンライン ヘルプ、または 第 13 章「パブリッシュ」を参照してください。

全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？

1 [管理] 領域で [ソフトウェア管理] をクリックします。

2 [レポート] タブで **[ソフトウェアの要約]** をクリックします。[レポート] 領域に、全デバイス、管理対象デバイス、および失敗したデバイスの要約が表示されます。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブを使用して、デバイス別のソフトウェアのステータスを表示することもできます。

1 ソフトウェアの説明リンクをクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。

2 **[デバイス]** タブをクリックします。

3 [ソフトウェアのステータス] カラムを表示して、どの管理対象デバイスにソフトウェアがインストールされているかを確認します。付与されたデバイスだけが表示されます。

ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？

ソフトウェア資格をデバイスのグループに追加して、Application Self-Service Manager から、ユーザーがそのソフトウェアをインストールできるようにします。

- [管理] タブの [グループ管理] セクションで **[グループ]** タブをクリックします。
- グループの説明リンクをクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。
- **[ソフトウェア]** タブをクリックして、そのグループに付与されている全ソフトウェアを表示します。
- 別のソフトウェアを付与するには、**[ソフトウェア資格の追加]** をクリックします。
- 付与するソフトウェアを選択して、**[資格の追加]** をクリックします。

付与すると、ソフトウェアは、コンソールまたは Application Self-Service Manager から個々のデバイスに配布できるようになります。

デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？

- [レポート] タブを使用して、どのパッチ ブリティンの適用状況を確認するかを指定します。
- [データ フィルタ] で、**[パッチ管理の関連情報]** をクリックします。
- **[パッチ適用状況ステータス]** をクリックします。
- ブリティンの名前または名前の一部を入力して、**[適用]** をクリックします。
- レポート リストの上部にあるツールを使用して、レポートのエクスポートまたは印刷を行います。

OS イメージをキャプチャするには、どのようにしますか？

Image Preparation Wizard を使用して、オペレーティング システム イメージの準備とキャプチャを行います。

1 `ImageCapture.iso` ファイルから Image Preparation CD を作成します。このファイルは、HPCA メディアの `¥Media¥iso¥roms` ディレクトリにあります。

2 詳細な手順については、Image Preparation Wizard のオンライン ヘルプ、または 第 12 章「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？

配布用にオペレーティング システム イメージをキャプチャする前に、予想されるすべてのデバイスのハードウェア設定に対する OEM ドライバがインストールされているか確認することをお勧めします。

- Microsoft サポート情報の記事、「*How to Add OEM Plug and Play Drivers to Windows XP*」には、Windows OS のインストール環境用の OEM ドライバの追加に関する情報が解説されています。

OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプとして **[OS イメージ]** を選択します。パブリッシュするオペレーティング システム イメージを選択して、Publisher の指示に従い、デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

  ➤ Image Preparation Wizard でキャプチャされるイメージは、デフォルトで HPCA Server の `<InstallDir>`¥OSManagerServer¥upload ディレクトリに格納されます。

  詳細については、Publisher のオンライン ヘルプ、または 第 13 章「パブリッシュ」を参照してください。

OS イメージを配布するには、どのようにしますか？

最初に、OS イメージを受信する全デバイスを含むスタティック グループを作成します。

1 [グループ管理] の [一般] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。

2 グループ管理ウィザードが開始されます。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

1 [管理] タブで **[OS 管理]** をクリックします。

2 **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。OS 配布ウィザードが開始されます。

3 ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。OS 管理ジョブが作成されます。

利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか？

利用状況データは、利用状況収集エージェントが、管理対象デバイスでローカルに収集し保存します。利用状況データの収集を開始するには、次を行います。

1 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、収集フィルタを作成して有効にします。詳細については、207 ページの「収集フィルタ」を参照してください。

2 アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、利用状況収集エージェントを配布し、利用状況データの収集を始めます。307 ページのウィザードの手順に従って、グループから利用状況データを収集するスケジュールを指定します。または、個々のデバイスからの 1 回だけの収集を強制します。利用状況データは、12 か月の間、ローカル デバイスで保存されます。

> ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報が必要なアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成することをお勧めします。
>
> 全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは避けてください。

18 トラブルシューティング

次のセクションを使用して、HPCA の使用中に遭遇する一般的な問題のトラブルシューティングを行います。

- 425 ページの「ログ ファイル」
- 427 ページの「エージェント配布の問題」
- 429 ページの「OS 配布の問題」
- 430 ページの「Application Self-Service Manager の問題」
- 430 ページの「電源管理の問題」
- 431 ページの「パッチ管理の問題」
- 431 ページの「HPCA Server のトラブルシューティング」
- 436 ページの「ダッシュボードの問題」
- 438 ページの「その他の問題」

ログ ファイル

HPCA の各種ログ ファイルは、サーバー上の `C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA` 以下の次のディレクトリに格納されています。

- `¥Agent¥Log`
- `¥ApacheServer¥logs`
- `¥ApacheServer¥apps¥cas¥logs`
- `¥ApacheServer¥apps¥console¥logs`
- `¥BootServer¥logs`
- `¥ClientConfigurationManager¥logs`

— ¥ConfigurationServer¥log

— ¥dcs¥log

— ¥DistributedCS¥logs

— ¥Knowledge Base Server¥logs

— ¥ManagementPortal¥logs

— ¥MessagingServer¥logs

— ¥MiniManagementServer¥logs

— ¥MulticastServer¥logs

— ¥OOBM¥logs

— ¥OSManagerServer¥logs

— ¥PatchManager¥logs

— ¥PolicyServer¥logs

— ¥ProxyServer¥logs

— ¥ReportingServer¥log

— ¥tomcat¥logs

— ¥VulnerabilityServer¥logs

ログ ファイルのサイズは、時間が経過するにつれて大きくなります。ログには、HPCA サービスの動作中に使用されるものもあります。これらのアクティブなログ ファイルを削除しないでください。履歴ログ ファイルは必要に応じてアーカイブしたり削除したりできます。

ログファイルは、HPCA Core Console の [サポート] ページの [インフラストラクチャ管理] 領域にある [操作] タブを使用してダウンロードできます。

エージェント配布の問題

次の表は、エージェント配布ジョブの一般的なエラー メッセージおよび問題を解決するための手順を示しています。

表 43 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由 : *device* にユーザー *user* として接続するのに失敗しました。コード : No network provider accepted the given network path	HPCA Server では、エージェント インストール メディアをコピーするため、管理共有が作成されます。Windows ファイアウォールなどの個人用のファイアウォールが、この共有をブロックする場合があります。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。 ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報は、HPCA Console による Management Agent の配布の間に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細な手順については、次の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。 **http://support.microsoft.com/kb/947232/en-us** これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由 : コンピュータ名の重複。	使用環境内に重複したコンピュータ名を持つデバイスがないようにしてください。IP アドレスがすべて一意であっても、コンピュータ名が重複する可能性があります。IP アドレスが一意であれば DNS 名は一意になりますが、コンピュータ名は一意になりません。コンピュータ名が重複していると、Agent 配布は失敗します。
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由 : *device* にユーザー *user* として接続するのに失敗しました。コード : Logon failure: unknown user name or bad password.	エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン認証情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。

表 43 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由 : *device* にユーザー *user* として接続するのに失敗しました。コード : Logon failure: unknown user name or bad password.	エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン認証情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。
Connection timed out	HPCA Server は、エージェントをデバイスに配布した後、3463 番ポートを使用して、そのデバイスへの TCP 接続を確立します。このポートが個人用のファイアウォールでブロックされていると、HPCA はデバイスを管理できません。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。
Timeout waiting for rma to register	エージェントは、デバイスにインストールされた後、3466 番ポートを使用して HPCA Server に登録されます。このポートが HPCA Server でファイアウォールによりブロックされていると、HPCA はデバイスを管理できません。HPCA Server のファイアウォール除外リストに、3466 番ポートが追加されていることを確認します。

OS キャプチャの問題

このセクションでは、オペレーティング システム イメージのキャプチャ中に遭遇する一般的な問題について説明します。

キャプチャ プロセスが失敗すると、次のエラー メッセージが表示されます。

キャプチャに失敗しました

イメージの準備およびキャプチャに失敗しました :

1. %Temp%/setup にある実行ログを確認してください
2. 詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

[OK] をクリックすると、OS キャプチャ ウィザードに戻ります。

%Temp%/setup の setup.log と prepwiz.log に、次のサンプルに似たエラーメッセージが記録されます。

ブート ボリュームには、PREPWIZ がローカル サービス起動ファイルのインジェクションに必要な十分な空き容量がありません。

必要な空き容量： S:MB、利用可能容量： 185MB。

- ブート パーティション サイズを 300 MB 以上、または winpe.wim ファイルの 2 倍の大きさに増やします。推奨されるブート パーティション サイズは 1 GB です。

OS 配布の問題

この章では、オペレーティング システム イメージの配布中に遭遇する一般的な問題について説明します。

TFTP サーバーが起動後にシャットダウンする

- 同じコンピュータで他の TFTP サーバーが動作していないことを確認します。

PXE がサブネットを横断できない

- PXE がサブネットを自由に移動するには、DHCP ヘルパーが有効である必要があります。DHCP ヘルパーは、DHCP ポートでのブロードキャスト トラフィックの横断を許可します。通常、ブロードキャストはルータではオフになっています。

OS のパブリッシュの問題

このセクションでは、オペレーティング システム イメージのパブリッシュ中に遭遇する一般的な問題について説明します。

パブリッシュ プロセスが失敗すると、次のエラー メッセージが表示されます。

指定した pub_file: File path <*InstallDir*>¥Data¥OSManagerServer¥capture-conf¥x86¥substitutes は存在しません。

- エラーは、無効または破損した install.wim ファイルが含まれている OS イメージをパブリッシュすると発生します。破損したファイルが含まれていない OS イメージを使用してください。

Application Self-Service Manager の問題

このセクションでは、HP Client Automation Application Self-Service Manager (ASSM) のよくある問題、および問題を解決する手順を説明します。

アプリケーションのインストールが失敗し、カタログにはインストールされたと表示される

問題

インストール プログラムが失敗時にゼロを返すと、カタログには、アプリケーションがインストールされたと表示される場合があります。

対処法

ASD は、インストールが成功したかどうかを検出するのに、リターン コードを信頼しています。ASM が失敗を検出するには、インストールはゼロ以外のコードを返す必要があります。

このためには、インストールをコマンド ファイルにラッピングし、正しいコードを返すことでプロセスが成功したかどうかを確認するロジックを使用します。

電源管理の問題

このセクションでは、HPCA の電源管理機能に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

デバイスが HPCA Server からの電源コマンドに応答しない

管理対象デバイスが、HPCA Server からの電源オン コマンドに応答しない場合、ルータやスイッチなどのネットワーク デバイスの設定に問題があることがあります。

- Wake on LAN サポートについて、HPCA Server から管理対象デバイスへのネットワーク パスをテストします。ネットワーク デバイスにリモートの電源オン コマンドを送信するためのサード パーティ製ツールが、いくつかあります。インターネットで「Wake on Lan ツール」を検索すると、この機能をテストするための無料のツールが見つかります。

パッチ管理の問題

このセクションでは、パッチ管理に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

パッチ配布時のエラー

ターゲット デバイスへのパッチの配布時にエラーが発生する場合 (`WUA Install Result Code 3 HRESULT $hresult` などのエラー メッセージが表示されます)、パッチの更新を受け取るターゲット デバイスに適切なバージョンの Windows インストーラがインストールされているかを確認します。

サポートされている最低限のバージョンに関する詳細については、140 ページの「パッチ管理」を参照してください。

HPCA Server のトラブルシューティング

次のセクションでは、HPCA Server に関する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- 431 ページの「HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング」

HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング

次のセクションでは、Core Server のコンポーネントに関連する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- 432 ページの「HPCA Core の設定ファイル」
- 434 ページの「HPCA Core のログ ファイル」

HPCA Core の設定ファイル

Core Server のインストールでは、さまざまな Core Server コンポーネントのデフォルト値が設定されます。これらの値は変更する必要がありませんが、一部の値は Core Console で変更できます。次の表では、トラブルシューティングに必要な場合または HP テクニカル サポートからリクエストされた場合に備えて、設定ファイルの場所と名前を一覧表示します。

Core Server の製品設定ファイルへのデフォルトのパスは *<InstallDir>¥xxxxxx* です。Core のインストール中に異なるパスを指定した場合、そのパスに従ってください。*xxxxxx* の値は、次の表の場所カラムの値で置き換えます。

表 44　HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA¥...)
HPCA Console	Apache Server	ApacheServer¥apps¥console¥etc¥service.cfg
	Apache Server	ApacheServer¥apps¥console¥etc¥proxy.cfg
	Sessionmanager	tomcat¥webapps¥sessionmanager¥WEB-INF¥sessionmanager.properties
	Sessionmanager	tomcat¥webapps¥sessionmanager¥WEB-INF¥classes¥log4j.properties
Configuration Server		ConfigurationServer¥bin¥edmprof.dat
Distributed Configuration Server	Integration Server	DistributedCS¥etc¥HPCA-DCS.rc
	product	DistributedCS¥etc¥dcs.cfg
Messaging Server		MessagingServer¥etc¥core.dda.cfg
		MessagingServer¥etc¥patch.dda.cfg
		MessagingServer¥etc¥rms.cfg

表 44　HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA¥...)
		MessagingServer¥etc¥usage.dd.acfg
OS Manager Server		OSManagerServer¥etc¥HPCA-OSM.rc
		OSManagerServer¥etc¥roms.cfg
		OSManagerServer¥etc¥roms_upd.cfg
Patch Manager		PatchManager¥etc¥HPCA-PATCH.rc
		PatchManager¥etc¥patch.cfg
Policy Server		PolicyServer¥etc¥HPCA-PM.rc
		PolicyServer¥etc¥pm.cfg
Portal	Integration Server	ManagementPortal¥etc¥HPCA-RMP.rc
	product	ManagementPortal¥etc¥rmp.cfg
		ManagementPortal¥etc¥romad.cfg
	OpenLDAP	DirectoryService¥openldap
Reporting Server		ReportingServer¥etc¥cba.cfg
		ReportingServer¥etc¥ccm.cfg
		ReportingServer ¥etc¥ed.cfg
		ReportingServer¥etc¥rim.cfg
		ReportingServer¥etc¥rm.cfg
		ReportingServer¥etc¥rpm.cfg
		ReportingServer¥etc¥rrs.cfg

表 44　HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥HPCA¥...)
		ReportingServer¥etc¥rum.cfg
		ReportingServer¥etc¥scm.cfg
		ReportingServer¥etc¥vm.cfg
Thin Client		TC¥etc¥HPCA-TC.rc TC¥etc¥rmms.cfg
Tomcat	HPCA Console	tomcat¥webapps¥em¥WEB-INF¥Console.properties
	HPCA Console	tomcat¥webapps¥em¥WEB-INF¥classes¥log4j.properties
	OPE	tomcat¥webapps¥ope¥WEB-INF¥classes¥log4j.properties（ログ レベル）
	VMS	tomcat¥webapps¥vms¥WEB-INF¥classes¥log4j.properties（ログ レベル）

HPCA Core のログ ファイル

Core Server に問題があり、トラブルシューティングのためにそのログ ファイルにアクセスする必要がある場合、Core Console ではすべてのログ ファイルに即座にアクセスできます。

Core Server のログ ファイルを生成するには

1. Core Console の [操作] タブで、**[サポート]** をクリックします。
2. [トラブルシューティング] 領域で、**[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード]** をクリックします。
3. WinZip ファイルを開くと、ファイルが展開され、保存されます。

ファイルのすべての内容を理解する必要はありませんが、次の場合のためにこれらのファイルのアクセス方法および表示方法は知っておく必要があります。

- HP サポートにログ ファイルを提出する。

- 「**severe**」ラベルが付与されたエントリを確認する。

ブラウザの問題

次のトラブルシューティングのヒントは、ブラウザで発生する問題に関するものです。

- 435 ページの「F5 キーを使用してページをリフレッシュできない」
- 435 ページの「Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない」

F5 キーを使用してページをリフレッシュできない

HPCA Console の使用時に **F5** ファンクション キーを押すと、起動画面が短く表示され、最後に表示されていたダッシュボード ページに戻ります。現在表示されているページをリフレッシュできません。

解決策 :

現在表示されているページをリフレッシュするには、ページ内の (リフレッシュ) ボタンを使用します。

Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない

HTTP 1.1 が有効な場合、SSL が有効である Internet Explorer 6 を使用して HPCA Console を実行できません。これは、Internet Explorer 6 の制限事項です。

解決策 :

Internet Explorer 6 のサポートは終了しました。Internet Explorer 7 以上にアップグレードする必要があります。

リモート制御を使用するとブラウザでエラーが発生する

HPCA Console から VNC またはリモート アシスタンスのリモート制御機能を開始すると、次のメッセージが表示される場合があります。

1 つのプロセスで複数の Java 仮想マシンが実行されることによってエラーが発生しました

この問題は、Java ブラウザ プラグインの既知の欠陥が原因である可能性があります。詳細については、**http://bugs.sun.com/view_bug.do?bug_id=6516270** を参照してください。

解決策 :

このメッセージが表示された場合、ブラウザで使用している Java Runtime Environment (JRE) を、JRE version 6 update 10 (またはそれ以降) にアップグレードします。

ダッシュボードの問題

次のトラブルシューティングのヒントは、HPCA ダッシュボードで発生する問題に関するものです。

- 436 ページの「ダッシュボード レイアウト設定の削除」
- 437 ページの「ダッシュボード ペイン読み込み状態が終了しない」
- 437 ページの「RSS クエリに失敗する」

ダッシュボード レイアウト設定の削除

ダッシュボードのレイアウト セッションは、使用しているコンピュータのローカル共有オブジェクト (ブラウザの cookie など) として格納されます。現在の設定を削除するには、Adobe Website Storage Settings Panel を使用して、Flash アプリケーションのローカル ストレージ設定を管理する必要があります。詳細については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.macromedia.com/support/documentation/en/flashplayer/help/settings_manager07.html

ダッシュボード ペイン読み込み状態が終了しない

次の両方の製品がインストールされているシステムで HPCA Console がホストされている場合、一部のダッシュボード ペインでは、結果が何も返されないまま読み込み状態がずっと続く場合があります。

- Microsoft SQL Server (Service Pack 2 が適用済み)
- Oracle ODBC クライアント ソフトウェア

次のバージョンの Microsoft SQL Server と Oracle クライアントは、同一のシステムにインストールされた場合、レポートと競合することが知られています。

Oracle ODBC Driver Version 10.2.0.1.0

Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 2 (2005.90.3042)

原因がこの問題であることを検証するには

1 [コントロール パネル] の [管理ツール] で [イベント ビューア] を開きます。

2 左ナビゲーション ペインで **[システム]** を選択します。

3 [ソース] カラムが `Application Popup` になっているイベントを探します。

4 イベントに次の説明がある場合、次のエラーが発生していると考えられます。

   アプリケーション ポップアップ : `nvdkit.exe - アプリケーション エラー : ...`

解決策 :

これらの両方のプログラムを、HPCA Console をホストしているシステムにインストールしないでください。

RSS クエリに失敗する

HPCA ダッシュボード ペインが、コンテンツを提供する RSS フィードに接続できない場合、ペインに次のエラー メッセージが表示されます。

`RSS フィード {`*`RSS フィードの URL`*`} への接続に失敗しました。HPCA Enterprise Manager のプロキシ サーバーが正しく設定され、RSS フィードの購読が正しく設定され、RSS フィードにアクセスが可能か確認してください。`

発生した接続の失敗のタイプを判別するには、ダッシュボード ペインの左下隅にある「**RSS クエリに失敗しました**」というメッセージの上にマウスを置きます。ツール チップに次のいずれかのメッセージが表示されます。

表 45　考えられる RSS フィードの失敗のタイプ

障害の原因	表示されるテキスト
プロキシが設定されていない	Error processing refresh: connection timed out: connect
Live Network のパスワードが無効	Error processing refresh: Invalid Response: Login failed
フィードに登録していない	Error processing refresh: Error on line -1: premature end of file

解決策 :

次を確認してください。

1. RSS フィードの URL が正しいことを確認する
2. RSS フィード サイトにアクセスできる。RSS フィード サイトの URL をブラウザに張り付けて確認します。
3. HPCA Console のプロキシ設定が正しく指定されている。
4. 必要に応じて RSS フィードに登録している。フィードに登録するには、エラーメッセージに表示されている URL をクリックします。

その他の問題

次のトラブルシューティングのヒントは、前述の各トピックで解決できない問題に関するものです。

- 439 ページの「SQL Server データベースの設定の問題」
- 439 ページの「英語以外の環境でのレポート チャートの表示の問題」
- 440 ページの「レポートを開けない」

- 441 ページの「追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される」
- 441 ページの「仮想マシンが起動しない」
- 442 ページの「クエリが限界に達しました」

SQL Server データベースの設定の問題

初回セットアップ ウィザードまたは設定 UI から SQL Server データベースを設定すると、設定を正常に完了できないという問題が発生する場合があります。設定には、レポート データベース DSN、ユーザー ID、パスワード、サーバー、およびポートの指定が必要です。この設定を設定できない理由はさまざまです。

考えられる原因を以下にリストします。

- SQL Server のデフォルトのスタティック ポートは 1433 ですが、SQL Server のインストールが別のスタティック ポート、またはダイナミック (特定されない) ポートを使用して設定されている可能性があります。HPCA では、スタティック ポートを使用する必要があります。SQL Server のポート設定を確認し、適切に更新してください。
- [サーバーのホスト] は、データベースが存在するホストの名前です。例 :

  `mydbserver.mycompany.com`

- SQL Server のセットアップでデフォルトのデータベース以外のインスタンスが使用されている場合、インスタンスをサーバー名に追加する必要があります。たとえば、指定されたインスタンスが HPCA である場合、次のように指定します。

  `mydbserver.mycompany.com¥HPCA`

- SQL Server の認証設定を確認します。Windows 認証を使用している場合は、SQL Server の認証を使用してからレポート データベースの設定を適切に更新する必要があります。

英語以外の環境でのレポート チャートの表示の問題

英語以外の環境では、レポート チャートで特定の文字列に疑問符 (??) 文字が表示されます。このように誤って表示されるのは、クライアント デバイスにインストールされている JAVA JRE クライアントに英語以外のフォントのファイルがないことが原因です。

解決策 :

これは、fonts.properties ファイルに関する一般的な Java の問題です。この問題を解決するためには、JDK ホーム ディレクトリの font.properties ファイルを特定の英語以外の環境向けのものに置き換える必要があります。たとえば、日本語環境では、font.properties.ja ファイルを使用して、オリジナルのフォント ファイルに置き換える必要があります。

レポートを開けない

このトピックでは、次の問題に対処します。

1 ダッシュボード ペインの アイコンをクリックして関連レポートを開く。

2 リクエストしたレポートが開かない。

3 代わりに [レポート] ホーム ページが表示される。

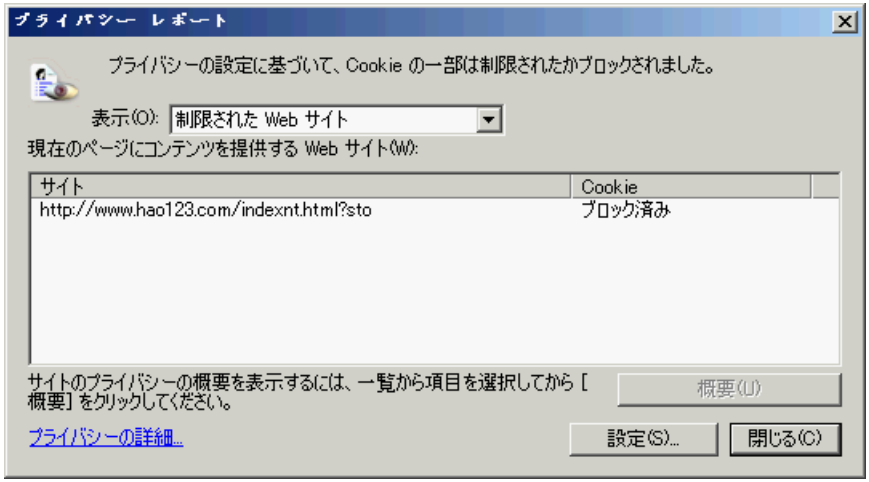
これは、特定の URL がブラウザでブロックされたために発生します。使用しているブラウザのセキュリティ レベルを高く設定している場合、レポートの URL がブロックされることがあります。特定のレポートの URL がブロックされると、レポートのデフォルトの動作としてホーム ページが表示されます。

この動作は、Windows 2003 Server プラットフォーム上の Internet Explorer 7 で最も多く見られます。また、すべてのサポート対象プラットフォームでも発生する可能性があります。

解決策 :

1 ブロックされた URL のリストを開きます。

2 たとえば、Internet Explorer 7 では、ブラウザの下側のバーに表示された赤い丸印が付いた目の形のアイコン をクリックします。プライバシー レポートが表示されます。



3 ブラウザのプライバシー設定を使用して、表示するレポートの URL を、cookie の使用が**許可される**サイトの一覧に追加します。

追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される

HPCA ジョブ作成ウィザードの使用時に「追加のパラメータ」を指定する場合、次の形式に従う必要があります。

```
option=value
```

この形式を使用しない場合は、追加のパラメータは無視されます。確認ページ (ウィザードの最後のページ) で、追加のパラメータがコマンド ラインに含まれていることを必ず確認してください。

仮想マシンが起動しない

ESX バージョン 3.5 Update 2 (ビルド番号 103908) のライセンスの欠陥により、特定の日付以降に仮想マシンが起動できなくなります。

このビルドの ESX を実行している場合に HPCA Console から仮想マシンを起動しようとすると、次のようなエラー メッセージがコンソールに表示されます。

結果 : 「マシン < *マシン名* > の起動に失敗しました」

詳細 : 「タスク `haTask-##-vim.VirtualMachine.powerOn-#####` の実行中にメソッド障害を受け取りました : 一般システム エラーが発生しました : 内部エラー。」

解決策 :

ESX バージョン 3.5 Update 2 build 110268 (またはそれ以降) をインストールしてください。

詳細については、この更新に関する VMware の次の *リリース ノート*を参照してください。

http://www.vmware.com/support/vi3//doc/vi3_esx35u2_vc25u2_rel_notes.html

クエリが限界に達しました

デフォルトでは、Active Directory オブジェクトの最初の 1000 件のメンバーのみが HPCA Console に表示されます。1000 件を超えるメンバーを持つ Active Directory オブジェクトを参照しようとすると、「クエリが限界に達しました」というエラー メッセージが表示されます。

推奨される解決策 :

検索機能を使用して、表示されるメンバーを微調整してください。

代替解決策 :

HPCA 管理者は、HPCA Console の `Console.properties` ファイルで `directory_object_query_limit` を指定できます。このファイルは次のディレクトリに格納されています。

`<tomcatDir>¥webapps¥em¥web-inf¥Console.properties`

`<tomcatDir>` のデフォルト値は次のとおりです。

`<InstallDir>¥tomcat`

`Console.properties` ファイルを変更した後は、必ず HPCA Tomcat サービスを再起動してください。

- `directory_object_query_limit` プロパティを変更すると、HPCA Console のパフォーマンスに悪影響を与える場合があります。

A HPCA Core Server と HPCA Satellite Server での SSL 設定

HPCA Console で設定可能な SSL 設定値の使用方法を十分に理解するには、SSL のさまざまな「構成要素」およびその機能について理解することが重要です。この付録では、HPCA 環境との関連を含めた SSL の概要を示します。詳細は、次のセクションを参照してください。

- 445 ページの「SSL の構成要素」
- 446 ページの「HPCA 環境の SSL」
- 447 ページの「Console の SSL 証明書フィールド」

SSL の構成要素

SSL は次の要素で構成されています。

- 証明書ショウメイショ
- 認証局 (CA)
- 証明書の生成
- プライベート キー ファイル
- パブリック キー ファイル

SSL を有効にするには、次が必要です。

- SSL を有効にする各サーバーのパブリック証明書とプライベート キー
- CA 証明書ファイル (サーバーのパブリック証明書が、提供されている `ca-bundle.crt` ファイルに含まれていない CA によって署名されている場合)

HPCA 環境の SSL

SSL では、ID を確証し、セキュアな通信を実現するための共有**暗号鍵**を確立するために、**デジタル証明書**を使用します。SSL の使用方法は、インフラストラクチャ コンポーネント間の通信方法に応じて異なります。このセクションでは、SSL を有効にすべき 2 つの主な例と、それぞれの例における SSL の役割について説明します。

リモート サービスへの SSL 通信のサポート

Core Server と Satellite Server の間の通信をセキュリティ保護する必要がないと想定される場合、それらのサーバー間の SSL 接続は不要です。ただし、Core Server または Satellite Server が、外部サーバー (ベンダーの Web サイトをホストするサーバーなど)、他の HPCA Server、および Active Directory と通信する場合には、セキュアな通信 (LDAPS) が必要です。

これら他のサーバーが主張するとおりの「サーバー」であることを信頼できるようにするため、Core または Satellite は、各サーバーの**パブリックな証明書**または発行**認証局** (CA) の署名を取得する必要があります。Core または Satellite では、認証局から取得した **CA 証明書ファイル**も必要であり、他のサーバーでそれを入手できるようにして、Core または Satellite からのメッセージを復号化できるようにする必要があります。(Core および Satellite のインストールには、ほとんどの環境に適しているデフォルトの信頼された認証機関 `ca-bundle.crt` のセットが含まれています)。

コンシューマへのセキュアな通信サービスの提供

Core Server と Satellite Server の間の通信をセキュリティ保護する必要がある環境を想定します。この場合、Core はサーバーの役割を持ち、Satellite と共有可能なパブリック証明書が必要になります。Core Server のパブリック証明書には、そのパブリック キー、サーバー名、および (サーバーの ID を証明する) 認証局からの署名が含まれています。

- パブリック証明書 (**サーバー証明書**) は、自分を信頼してもらいたいユーザーすべてに与えることができます。

さらに、各 Satellite Server は「クライアント」の役割を持ち、Satellite と Core の間でメッセージの暗号化と復号化を実行できるように独自の証明書セットが必要になります。証明書は、その Satellite を証明するもので、Core がその Satellite を識別できるようにします。

個々の Core および Satellite は、メッセージを復号化するために独自のプライベート キーも必要になります。

- **プライベート証明書** (**プライベート キー**) は、非公開の状態を維持し、一切共有しないでください。

Console の SSL 証明書フィールド

HPCA Console の [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域には、SSL サーバー および SSL クライアント があります。このセクションでは、2 つの領域の違いとそれぞれの領域の必要性について説明します。HPCA の SSL セットアップを完了するには、この付録の情報を確認してから、225 ページの「インフラストラクチャ管理」を参照してください。

SSL サーバー

パネルのこの領域を使用して、SSL を有効にし、HPCA Server のプライベート キー ファイル (`server.key`) とサーバー証明書ファイル (`server.crt`) をアップロードして保存します。これらのファイルは、(組織内で) 自己生成されたか、認証局から取得されたものです。これらのファイルの入手方法については、システム管理者にお尋ねください。

- プライベート キー ファイルは、対応するパブリック キーによってセキュリティ保護されたメッセージを復号化するために必要です。
- サーバー証明書ファイルは、SSL が有効になっているサーバーがこのホストを識別できるようにするために必要です。

ファイルがアップロードされると (場所を指定して **[保存]** をクリックすると)、これらのファイルは次の場所に保存されます。

`<InstallDir>¥ApacheServer¥conf¥ssl`

デフォルトでは、これらのファイルは上記の名前で保存されますが、ファイル名はカスタマイズできます。

SSL クライアント

パネルのこの領域を使用して、HPCA Server の CA 証明書ファイル (`ca-bundle.crt`) をアップロードして保存します。このファイルには、ほとんどの環境で十分な権限を持つ信頼された認証機関のデフォルトのセットが含まれており、HPCA Server が LDAPS または HTTPS のいずれかを介して別のサーバーと通信する場合にのみ必要になります。

➤ 認証局から組織に取得された既存の CA 証明書ファイルを使用することが可能です。このファイルを入手する必要がある場合は、システム管理者にお尋ねください。

CA 証明書ファイルには、信頼された認証局の署名入り証明書が含まれており、着信クライアントが「信頼できる」ものであることを確認するために必要です。

ファイルがアップロードされると (場所を指定して **[保存]** をクリックすると)、そのファイルは次の場所に保存されます。

`<`*`InstallDir`*`>¥ApacheServer¥conf¥ssl.crt`

デフォルトでは、このファイルは上記の名前で保存されますが、ファイル名はカスタマイズできます。

B　2 バイト文字のサポートについて

このセクションでは、サービス オペレーティング システム (SOS) のロケールを設定する、設定の変更を説明します。詳細は、次のセクションを参照してください。

Image Preparation Wizard を使用してイメージを作成するときには、参照マシンとターゲット マシンの**ロケール**が一致する必要があります。たとえば、簡体中国語の OS イメージを作成する場合は、簡体中国語の参照マシンで Image Preparation Wizard を実行する必要があります。

- 449 ページの「サポートされる言語」
- 450 ページの「ロケールの変更」

2 バイト文字が必要でない場合は、以下の変更を行わないでください。

サポートされる言語

次の表に、サポートされる言語と有効な言語コードの一覧を示します。

表 46　サポートされる言語とコード

言語	言語コード
韓国語	ko_KR
英語	en_US
日本語	ja_JP
中国語 (簡体字)	zh_CN

ロケールの変更

PXE 環境でサポートされている言語にサポートを追加するには

1 テキスト エディタを使用して ¥X86PC¥UNDI¥linux-boot¥linux.cfg ¥default を開きます。ファイルは次のように表示されます。

```
DEFAULT bzImage

APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1
ISVRPORT=3466
```

2 **LANG** パラメータを APPEND 行の最後に追加し、有効な言語コードを指定します (449 ページの表 46 を参照)。

結果として、言語が日本語に設定された、次の例のようなファイルが作成されます。

```
DEFAULT bzImage

APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1
ISVRPORT=3466 LANG=ja_JA
```

3 default ファイルを保存して閉じます。

サービス CD-ROM から復元するときにサポートされている言語にサポートを追加するには

- romsinfo.ini ファイルの ServiceCD セクションにある **LANG=***xx_XX* を指定します。

  サポートされる言語と有効な言語コードの一覧については、449 ページの表 46 を参照してください。

- romsinfo.ini ファイルは、サービス CD iso の一部です。

Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート

Sysprep で 2 バイト文字サポートを使用する場合は、ファイルを UTF-8 でエンコードする必要があります。

C　レポートのパフォーマンスの強化

HPCA (Usage Manager) では、複数のスクリプトとマテリアライズド ビューを用意しています。このスクリプトとビューを Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースに適用すると、レポートのパフォーマンスを強化できます。

これらのスクリプトおよびビューは次の場所にあります。

- Microsoft SQL Server データベースの場合は `Media¥Usage¥Optional Features¥SQL Server`
- Oracle データベースの場合は `Media¥Usage¥Optional Features¥Oracle`

ビューの使用

ビューには、標準マテリアライズド ビューとフィルタ マテリアライズド ビューの 2 種類があります。どちらのビューもレポートのパフォーマンスを強化します。オプションで、いずれかのビューをデータベースに適用できます。各ビューの機能についての詳細は、スクリプトのコメントを参照してください。

➤ スクリプト名では、`StepX_Define Filter Mat Tables` や `Indexes.sql` にあるように「Materialized」(マテリアライズド) を「Mat」と省略している場合があります。

[標準マテリアライズド ビュー (FMV)] - レポートがアクセスするすべてのビューをテーブルに変換します。このビューにはクエリの実行時間を改善するインデックスがあります。すべてのビュー (レポート アクセスの内容) をテーブルに変換する機能とインデックスが追加され、クエリの処理速度が高速化されます。

[フィルタ設定されたマテリアライズド ビュー (FMV)] - レポートがアクセスするすべてのビューをテーブルに変換します。ビューをテーブルに変換する前にフィルタを適用する必要があります。フィルタは個別のテーブルに格納されます。たとえば、`notepad.exe` をフィルタとして選択すると、FMV テーブルにはすべてのデバイスの詳細がメモ帳を使用して入力されます。SMV と似ていますが、ビュー

をテーブルに変換するときにフィルタを適用する必要があるという点が異なります。フィルタは個別のテーブルに格納されます。例として、Notepad.exe のフィルタを選択する場合、FMV テーブルにはすべてのデバイスの詳細がメモ帳を使用して入力されます。

SMV または FMV のスクリプトを適用するには

1 **[HPCA Knowledge Base Server]** のサービスを停止します。このサービスは Windows の [コントロール パネル] の `Administrative Tools¥Services` オプションを使用して停止および開始できます。

2 通常の手順で、所定の順序で次の場所にあるデータベース スクリプトを実行します。

— SQL Server の場合 :

```
¥SQL Server¥Optional Features¥Filter Materialized Views
```

または、

```
¥SQL Server¥Optional Features¥Standard Materialized
Views
```

— Oracle の場合

```
¥Oracle¥Optional Features¥Filtered Materialized Views
```

または、

```
¥Oracle¥Optional Features¥Standard Materialized Views
```

上記の各場所には、データベースからビューを削除するのに使用するスクリプトも含まれています。たとえば、Microsoft SQL Server および Filtered Materialized Views のスクリプト名は次のとおりです。

```
SQLServer - Remove All Filter Mat Tables and Indexes.sql
```

ユーティリティ スクリプト

データベース管理者として、次のスクリプトを使用してレポート ビューのパフォーマンスを強化できます。

- Purge_Computer_Data.sql: コンピュータ名に関連付けられているすべてのデータを削除します。コンピュータ名が、スクリプト内の適切な場所に指定されている必要があります。デフォルト値は MYCOMPUTER です。

- Purge_User_Data.sql: コンピュータ名とユーザー名に関連付けられているすべてのデータを削除します。コンピュータ名およびユーザー名が、スクリプト内の適切な場所に指定されている必要があります。デフォルト値は MYCOMPUTER および BOB です。
- Delete All Windows OS Files from Database.sql: Usage Manager データベースから Windows Operating System (OS) 関連のすべてのファイルを削除します。

Oracle 用のその他のスクリプト

その他のスクリプトは、ユーティリティ スクリプトとともに適用し、レポートビューのパフォーマンスを強化できる追加のスクリプトです。

- Optional_Create_Public_Synonyms.sql: パブリック シノニムを作成します。スクリプトは Usage Manager のユーザー名向けに編集する必要がある場合があります。
- Optional_Drop_Public_Synonyms.sql: Optional_Create_Public_Synonyms スクリプトを使用して作成したパブリック シノニムを削除します。
- Step99a_DropAll.sql: Usage Manager データベースに存在するすべてのテーブルを削除します。

D Windows 応答ファイルのカスタマイズ

この付録は、次のトピックで構成されています。

- 456 ページの「unattend.xml ファイルのカスタマイズ」
- 463 ページの「HPCA での XML ファイルの処理」
- 465 ページの「.subs ファイルおよび .xml ファイルについて」

これらは、無人モード (クライアント デバイスでユーザーの介入が不要) で管理対象デバイスにオペレーティング システムのイメージを配布できるようにするこのイメージのキャプチャおよびパブリッシュのプロセスに関するトピックです。

unattend.xml ファイルのカスタマイズ

HPCA では OS の無人インストールに使用できる応答ファイルを提供します。この応答ファイルは unattend.xml という名前です。

各オペレーティング システムおよびアーキテクチャ (32 ビットまたは 64 ビットなど) には、独自の unattend.xml ファイルがあります。これらのファイルは、次のサブディレクトリにあります。

<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥capture-conf

ファイルの先頭にあるヘッダーは、ファイルの適用先の OS、アーキテクチャ、および配布メソッドを示しています。

HP が提供する unattend.xml ファイルを使用する場合は、OS イメージをパブリッシュする前に環境に合わせてこのファイルを変更する必要があります。次に、カスタマイズの対象となる設定をいくつか挙げます。

- 457 ページの「ProductKey」
- 459 ページの「TimeZone」
- 460 ページの「RegisteredOwner および RegisteredOrganization」
- 460 ページの「JoinDomain」
- 462 ページの「MetaData」

少なくとも、有効な製品キーを指定する必要があります (457 ページの「ProductKey」を参照)。ここで説明するその他の設定の変更はオプションです。

テキスト エディタを使用して、該当する unattend.xml ファイルのコピーを変更します。このコピーのファイル名は任意に指定できますが、.xml ファイル拡張子は維持する必要があります。OS イメージをパブリッシュするときに、カスタマイズした応答ファイルがある場所を指定します。

Windows Automated Installation Kit (AIK) には Unattend.chm という名前のファイルが含まれています。これは、コンパイル済みのオンライン ヘルプのファイルであり、unattend.xml ファイルの内容に関する参照情報が記載されています。ここで説明する設定とカスタマイズできるその他の設定についての詳細は、このヘルプ ファイルを参照してください。Unattend.chm をダブルクリックするだけで、簡単にファイルを開けます。

ProductKey

<ProductKey> 要素は、使用している具体的な OS イメージ、アーキテクチャ、および配布メソッドによって、unattend.xml ファイルの異なる場所に表示されます。<ProductKey> は、次のように文字間が区切られている 29 個の文字で構成されている文字列です。

XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

➤ すべての DVD インストールで、/IMAGE/INDEX が DVD の正しいイメージ (462 ページの「MetaData」を参照) を参照していることを確認してください。

リテール版

Windows のリテール版 (Windows 7 Ultimate など) では、次のように変更します。

- <ProductKey> 要素内の <Key> 要素に有効な製品キーを挿入します。例 :

```
<UserData>
    <AcceptEula>true</AcceptEula>
    <ProductKey>
        <Key>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</Key>
        <WillShowUI>OnError</WillShowUI>
    </ProductKey>
</UserData>
```

  この要素は、パスの「WindowsPE」の「Microsoft-Windows-Setup」コンポーネントにあります。

- 「specialize」パスの「Microsoft-Windows-Shell-Setup」コンポーネントにある <ProductKey> 要素全体を削除します。

```
<ProductKey>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</ProductKey>
```

ビジネス版

Windows のビジネス版 (Business、Enterprise、Professional、Server 版を含む) では、次のように変更します。

- パスの 「WindowsPE」の「Microsoft-Windows-Setup」コンポーネントにある <Key> 要素のすべての文字を削除します (上の例を参照)。

  <Key></Key>

- 「specialize」パスの 「Microsoft-Windows-Shell-Setup」コンポーネントにある <ProductKey> 要素に有効な製品キーを挿入します。

  <ProductKey>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</ProductKey>

  Volume License Multiple Activation Key (MAK) を使用する場合は、<ProductKey> 要素で使用してください。

Windows AIK では、<Key></Key> 要素は空の値をサポートしていますが、<ProductKey> 要素は空の値をサポートしていません。このため、<ProductKey> 要素を使用しない場合、この要素を削除する必要があります (457 ページの「リテール版」を参照)。

64 ビット プラットフォーム

一部の 64 ビット アーキテクチャで Windows セットアップ配布メソッドにより DVD を使用している場合は、次のように変更してください。

- パスの「WindowsPE」の 「Microsoft-Windows-Setup」コンポーネントにある <Key> 要素のすべての文字を削除します (上の例を参照)。

  <Key></Key>

- 「specialize」パスの 「Microsoft-Windows-Shell-Setup」コンポーネントにある <ProductKey> 要素に有効な製品キーを挿入します。

  <ProductKey>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</ProductKey>

- /IMAGE/INDEX がメディアの正しいイメージを参照していることを確認してください (462 ページの「MetaData」を参照)。

- 「WindowsPE」パスの次のコンポーネントの仕様で 「amd64」を 「x86」に変更します。

  ```
  <component name="Microsoft-Windows-International-Core-WinPE"
  processorArchitecture="amd64" ...
  ```

  ```
  <component name="Microsoft-Windows-Setup"
  processorArchitecture="amd64" ...
  ```

- パブリッシュ中、ソース ディレクトリの指定を求められたときは、同じオペレーティング システムの 32 ビット メディアのソース ディレクトリを指定します。

- Windows 2008 R2 x64 の場合、次の専用の手順を実行します。
  - Windows 7 Enterprise Edition 32 ビット インストール メディアを使用します。
  - OS イメージをパブリッシュする前に、次の手順を実行します。
    a. Windows 7 32 ビット インストール メディアから、*mediaDrive*:¥sources フォルダを c:¥temp にコピーします。
    b. Windows 7 メディアを取り出し、Windows 2008 R2 x64 メディアを読み込みます。
    c. Windows 2008 R2 x64 のインストール メディアから、*mediaDrive*:¥sources¥license フォルダを c:¥temp¥sources にコピーします。

    既存のファイルの上書きを確認するメッセージが表示されたら、上書きの実行を確認します。

    この操作により、Windows 2008 Server R2 EULA が Windows 7 インストーラのフォルダから使用できるようになります。

詳細については、Windows AIK に含まれているヘルプ ファイル Unattend.chm の「ProductKey」のトピックを参照してください。

HPCA は 64 ビット プラットフォームで Windows セットアップ配布のイメージ キャプチャを現在サポートしていません。

TimeZone

<TimeZone> 要素は、使用している具体的な OS イメージ、アーキテクチャ、および配布メソッドによって、unattend.xml ファイルの異なる場所に表示されます。

たとえば、キャプチャした Windows 7 (x86) イメージの unattend.xml ファイルでは、<TimeZone> 要素は次の 2 つの場所に表示されます。

- Microsoft-Windows-Shell-Setup コンポーネントでは、次の要素にあります。

  <settings pass="oobeSystem">
- Microsoft-Windows-Shell-Setup コンポーネントでは、次の要素にあります。

  <settings pass="specialize">

OS の配布先であるターゲット デバイスに合わせて <TimeZone> を変更します。例：

```
<TimeZone>Eastern Standard Time</TimeZone>
```

タイム ゾーンのスペルが Windows レジストリで使用しているスペルと厳密に一致していることが重要です。詳細については、Windows AIK に含まれているヘルプ ファイル Unattend.chm の「言語パックのデフォルト値」のトピックを参照してください。

- グリニッジ標準時は、現在、協定世界時として知られています。
- Windows 7 を実行しているコンピュータでは、tzutil コマンドを使用してコンピュータのタイム ゾーンを表示できます。

RegisteredOwner および RegisteredOrganization

これらの要素は、使用している具体的な OS イメージ、アーキテクチャ、および配布メソッドによって、unattend.xml ファイルの異なる場所に表示されます。

たとえば、キャプチャした Windows 7 (x86) イメージの unattend.xml ファイルでは、これら 2 つの要素は次の 2 つの場所にあります。

- Microsoft-Windows-Shell-Setup コンポーネントでは、次の要素にあります。

  ```
  <settings pass="oobeSystem">
  ```

- Microsoft-Windows-Shell-Setup コンポーネントでは、次の要素にあります。

  ```
  <settings pass="specialize">
  ```

これらの要素を会社 (オペレーティング システムを登録したエンティティ) の名前に変更します。例 :

```
<RegisteredOrganization>Hewlett-Packard</RegisteredOrganization>
<RegisteredOwner>Hewlett-Packard</RegisteredOwner>
```

これらの文字列に入力できる文字数は、半角で 256 文字までです。

詳細については、Windows AIK に含まれている Unattend.chm ヘルプ ファイルの「RegisteredOrganization」および「RegisteredOwner」のトピックを参照してください。

JoinDomain

OS のインストール後、ドメインまたはワークグループのいずれかに参加するようにターゲット デバイスに指示できます。デフォルトはワークグループ モードです。ターゲットにドメインに参加するよう指示するには、次の要素を変更します。

```
<component name="Microsoft-Windows-UnattendedJoin" ...>
   <Identification>
      <Credentials>
         <Domain></Domain>
         <Password></Password>
         <Username></Username>
      </Credentials>
      <JoinDomain></JoinDomain>
   </Identification>
</component>
```

例：

```
<component name="Microsoft-Windows-UnattendedJoin" ...>
   <Identification>
      <Credentials>
         <Domain>lan.mycompany.com.de</Domain>
         <Password>T3ch3d08</Password>
         <Username>administrator</Username>
      </Credentials>
      <JoinDomain>lan.mycompany.com.de</JoinDomain>
   </Identification>
</component>
```

- 指定されたユーザーには、ドメインに参加できる十分なアクセス レベルが必要です。
- この情報の一部が見つからないかまたは正しくない場合、デバイスはドメインではなくワークグループに参加します。
- ターゲット デバイスが以前 HPCA で管理されており、このデバイスが以前ドメインのメンバーであった場合、unattend.xml ファイルで <Domain> 要素および <JoinDomain> 要素の内容が格納されているドメイン情報で上書きされます。
- OS 管理スクリプトを使用してドメインを設定するなど、一元的に設定されるすべての情報で unattend.xml の情報が上書きされます。

詳細については、Windows AIK に含まれている Unattend.chm ヘルプ ファイルの「JoinDomain」のトピックを参照してください。

MetaData

オペレーティング システムのイメージを DVD から直接配布する場合、DVD の WIM ファイルでそのイメージの場所を指定する必要があります。WIM ファイルでは、この情報は次のように構成されています。

```
<WIM>
    <IMAGE INDEX="2">
        <NAME>MyWIM</NAME>
        <DESCRIPTION>MyCustomWindowsImage</DESCRIPTION>
    </IMAGE>
</WIM>
```

unattend.xml ファイルでは、イメージの情報は、<settings pass="WindowsPE">の下にある Microsoft-Windows-Setup コンポーネント階層の <MetaData> 要素で指定されています。例：

```
<MetaData>
    <Key>/IMAGE/INDEX</Key>
    <Value>2</Value>
</MetaData>
```

<Key> 要素は WIM ファイルのどのデータ項目に一致するかを指定します。次のいずれかを指定できます。

- IMAGE/INDEX
- IMAGE/NAME
- IMAGE/DESCRIPTION

<Value> 要素はこのデータ項目の推奨値を示します。この例では、配布するイメージの WIM ファイルの IMAGE/INDEX の値は 2 です。

WIM ファイルのイメージのリストを抽出するには、次のコマンドを使用します。

imagex /info *WIMFileName* > c:¥info.txt

この例では、*WIMFileName* が WIM ファイル (install.wim など) の名前です。このコマンドの出力は、結果を簡単に検索できるよう、(この例に示すように) テキスト ファイルに必ずリダイレクトします。

詳細については、Windows AIK に含まれているヘルプ ファイル Unattend.chm の「*MetaData*」のトピックを参照してください。

HPCA での XML ファイルの処理

パブリッシュする unattend.xml ファイルは、発行したイメージに存在するすべての unattend.xml ファイルの上に配置されます。

HPCA がイメージ インストールを開始する前に、パブリッシュした XML を substitutes ファイルと結合し、最終的な unattend.xml を生成します。

このファイルの結合は、HPCA が実際のイメージのインストールが開始する前に、HPCA によって実行されます。これまで前面に露出していた substitutes ファイルは、背後に隠れて使用されるようになります。各オペレーティング システムおよびアーキテクチャ (32 ビットまたは 64 ビットなど) には、独自のファイルがあります。これらのファイルは、次のサブディレクトリにあります。

<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥capture-conf

パブリッシュされるイメージのプロセッサのアーキテクチャに応じて、自動的に正しいファイルが選択されます。

表 47 では、substitutes ファイルをパブリッシュするときに更新される unattend.xml ファイルの設定がリストに表示されます。

青で示されている設定 (CommandLine、Path、および PartitionID の両方のインスタンス) は、HPCA が動作するために必要です。これらを削除することはできません。

表 47 substitutes ファイルに基づいて更新される設定

設定パス	コンポーネント	Path	設定	上書き値
windowsPE	Microsoft-Windows-Setup	DiskConfiguration/Disk/ModifyPartitions/ModifyPartition	PartitionID	HPCA が OS をインストールする先の DISKPART ボリュームの ID
windowsPE	Microsoft-Windows-Setup	ImageInstall/OSImage/InstallTo/	PartitionID	HPCA が OS をインストールする先の DISKPART ボリュームの ID
windowsPE	Microsoft-Windows-Setup	ImageInstall/OSImage/InstallFrom/	Path	インストールに使用する WIM ファイル

表 47 substitutes ファイルに基づいて更新される設定

設定パス	コンポーネント	Path	設定	上書き値
oobeSystem	Microsoft-Windows-Shell-Setup	AutoLogon/	Domain	コンピュータ名 (自動ログオン用)
specialize	Microsoft-Windows-Shell-Setup	AutoLogon/	Domain	ローカル コンピュータ名 (自動ログオン用)
specialize	Microsoft-Windows-UnattendedJoin	Identification/Credentials/	Domain	HPCA Core コンソールの getmachinename.tcl または既存のデバイス エントリを使用してドメインを一元的に設定する
specialize	Microsoft-Windows-UnattendedJoin	Identification/	JoinDomain	HPCA Enterprise コンソールの getmachinename.tcl または既存のデバイス エントリを使用してドメインを一元的に設定する
specialize	Microsoft-Windows-Shell-Setup		Computer Name	コンピュータ名
oobeSystem	Microsoft-Windows-Shell-Setup	FirstLogonCommands/SynchronousCommand	Command Line	Agent のインストール メディア インストーラへのパス

必要に応じて、substitutes ファイルをカスタマイズし、特定のカスタマイズを無効にしたり、新しいカスタマイズを追加したりできます。ただし、PartitionID 設定または CommandLine 設定を削除または変更できません。

.subs ファイルおよび .xml ファイルについて

HPCA では、Publisher の実行時にこの情報のソースを指定できるようになりました。詳細については、352 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

このトピックは Windows XP または Windows 2003 には該当しません。

HPCA Publisher は下位互換性があります。.WIM ファイル、.EDM ファイル、.XML ファイル、および .SUBS ファイルで構成される、保存されている OS イメージのパブリッシュをサポートしています。

*.SUBS ファイルおよび *.XML ファイルを手動で事前に作成する場合は、これらのファイルに *.WIM ファイルと同じプレフィックスを指定する必要があります。例 : vista.WIM、vista.SUBS、および vista.XML と指定します。3 つのファイルすべてを同一のディレクトリに格納する必要があります。

HPCA Publisher を実行するときに、*.WIM ファイルと同じディレクトリに *.SUBS ファイルと *.XML ファイルがある場合、unattend.xml ファイルは要求されません。

HPCA では、次のフォルダのサブディレクトリにある Image Capture メディアにこれらのファイルのサンプルを用意しています。

```
¥samples¥unattend
```

サンプル ファイルを使用する場合は、ファイル名を変更し、必要に応じて修正します (<TimeZone> および <ProductKey> の設定など)。

.XML ファイルは一般情報を格納している応答ファイルであるとともに、.SUBS から取り込まれる情報のプレースホルダでもあります。Microsoft の Windows System Image Manager (SIM) ツールを使用して、*.XML ファイルに情報を追加できます。情報を追加する場合は、まず対応する *.WIM ファイルを開いてから、*.XML を開く必要があります。

*.XML ファイルおよび *.SUBS ファイルを使用する場合は、Windows インストール用の製品キーを *.XML ファイルに指定する必要があります。

このファイルの XML 値は、一切削除しないでください。.XML ファイルを間違って変更すると、インストールが失敗する可能性があります。

SIM ツールの [メッセージ] セクションで「... 値 $$SUBSTR$$ が無効です ...」のようなエラーが表示されても無視して構いません。

このファイルを保存するときに、「応答ファイルには、検証エラーがあります。続行してもよろしいですか ?」などのメッセージが表示される場合があります。[**はい**] をクリックして続行します。

.SUBS ファイルは、.XML で修正される各 XML 項目と推奨値の一覧を示す「置換」ファイルです。*.SUBS ファイルの行は XPATH と呼ばれます。

➤ *.SUBS ファイルに入力されている情報は、*.XML ファイルの情報より優先されます。

置き換えの例

置き換えの仕組みについて理解するには、次の例を参照してください。この例では、JoinDomain 属性を、*filename*.xml ファイルの「anything」から unattend.xml ファイルの 「VistaTeam」に設定する方法を示しています。

➤ < > で囲まれたコードは、*.xml ファイル内ではすべて 1 行で表示される必要があります。

1 オペレーティング システム、ターゲット デバイス アーキテクチャ、配布メソッドのための適切な unattend*.xml ファイルおよび substitutes ファイルを配置します。これらのレポートは、ImageCapture CD の samples¥ にあります。

2 unattend*.xml ファイルのコピーを作成し、*filename*.xml という名前を付けます。*filename* は、.WIM ファイルと同じ名前にします。このコピーを .WIM ファイルと同じディレクトリに格納します。

3 substitutesファイルのコピーを作成し、*filename*.subs という名前を付けます。このコピーを .WIM ファイルと同じディレクトリに格納します。

   これで 1 つのディレクトリに次の 3 つのファイルが格納されます。

   — *filename*.wim

   — *filename*.xml

   — *filename*.subs

4 *filename*.xml ファイルで、JoinDomain の XML 要素を探します。次の例のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">
    <settings pass="specialize">
```

```
<component name="Microsoft-Windows-UnattendedJoin"
processorArchitecture="x86" publicKeyToken="31bf3856ad364e35"
language="neutral" versionScope="nonSxS"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">

            <Identification>

                <JoinDomain>anything</JoinDomain>

            </Identification>

        </component>

    </settings>

    <cpi:offlineImage  cpi:source="wim://hpfcovcm/c$/
vista_inst/vista.wim#Windows Vista ULTIMATE"
xmlns:cpi="urn:schemas-microsoft-com:cpi"/>

</unattend>
```

5 次の *filename*.subs ファイルの XPATH 要素を変更します。注 : この XPATH 要素が、*filename*.subs ファイルでは 1 行で表示されています。

```
//un:settings[@pass='specialize']//
un:component[@name=Microsoft-Windows-UnattendedJoin'][@pr
ocessorArchitecture='x86']/un:Identification/
un:JoinDomain,VistaTeam
```

オペレーティング システムの配布中に *filename*.subs ファイルと *filename*.xml ファイルが結合され、unattend.xml ファイルが作成されます。このファイルは、Windows セットアップのすべてのフェーズで情報を提供するために使用されます。この例では、JoinDomain 属性が **VistaTeam** に設定されます。

E Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ

この付録の情報は、Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャにのみ関連しています。

Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7、およびサポートされているすべてのシン クライアント オペレーティング システムのキャプチャと重要なイメージ キャプチャ プロセスの概要については、321 ページの「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

HPCA は暗号化されていないパーティションのキャプチャのみをサポートしています。

レガシーの OS イメージをキャプチャする手法は、SATA ドライブ コントローラを介して RAID0 のハード ドライブが設定されているデバイスではサポートされていません。代わりに Windows ImageX の手法を使用してください。

この章は、次のトピックで構成されています。

- 469 ページの「HPCA Image Preparation Wizard について」
- 472 ページの「イメージのキャプチャの前提条件」
- 477 ページの「OS イメージのキャプチャ」
- 492 ページの「OS イメージのパブリッシュおよび配布」

HPCA Image Preparation Wizard について

HPCA Image Preparation Wizard では、ImageX、Windows セットアップ、レガシー配布で使用する Windows XP または Windows 2003 Server の OS イメージをキャプチャできます。

Image Preparation Wizard は、次のタスクを実行します。

1 参照マシンに関する情報 (ハードウェア機能と OS 機能についての情報) を収集して格納します。

2 必要に応じて、使用可能な終了ポイントを実行します。Image Preparation Wizard で、イメージを封印する SysPrep が起動される前に PRE.CMD が実行されます。Sysprep によってイメージが封印された後、POST.CMD が実行されます。詳細については、471 ページの「Image Preparation Wizard の終了ポイント」を参照してください。

   ➤ Image Capture の終了ポイントは、ImageX および Windows セットアップのキャプチャ タイプの場合にのみサポートされます。

3 (サポートされているオペレーティング システムで) Microsoft Sysprep を実行します。

4 参照マシンを (適切なメディアから起動された) Service OS で再起動します。実行した Service OS でイメージと関連ファイルが収集されます。

   キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、343 ページの「Windows PE Service OS 画面について」を参照してください。

5 ファイルを作成し、HPCA Server [HPCA Server] の次のディレクトリにコピーします。

   <InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload

   レガシー イメージを作成する場合、次のファイルがアップロードされます。

   — ImageName.IMG
   このファイルには、ゴールド イメージが含まれています。これは、非常に大きなハード ディスク ドライブ システムのブート パーティションをセクタごとにコピーして圧縮したファイルです。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

   — ImageName.MBR
   このファイルには、参照マシンのマスター ブート レコード ファイルが含まれています。

   — ImageName.PAR
   このファイルには、参照マシンのパーティション テーブル ファイルが含まれています。

   — ImageName.EDM
   このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

   ImageX または Windows セットアップを使用してイメージを作成する場合、次のファイルがアップロードされます。

— ImageName.WIM
このファイルには参照マシンの一連のファイルとファイル システム情報が含まれています。

— ImageName.EDM
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

Image Preparation Wizard の終了ポイント

必要に応じて、Image Preparation Wizard の終了ポイントを使用できます。たとえば、キャプチャを実行する前にデバイスをクリーンアップするために使用できます。

Image Capture の終了ポイントは、ImageX および Windows セットアップのキャプチャ タイプの場合にのみサポートされます。

終了ポイントを使用するには

1 PRE.CMD ファイルと POST.CMD ファイルを作成します。

2 これらのファイルおよびサポート ファイルを、OSM¥PREPWIZ¥payload¥default¥pre と OSM¥PREPWIZ¥payload¥default¥post にそれぞれ保存します。

Image Preparation Wizard によって、これらのファイルは参照デバイスの %temp%¥prepwiz¥pre と %temp%¥prepwiz¥post にコピーされ、キャプチャが始まる前に削除されます。Image Preparation Wizard で、イメージを封印する SysPrep が起動される前に PRE.CMD が実行されます。Sysprep によってイメージが封印された後、POST.CMD が実行されます。

PRE.CMD または POST.CMD のいずれかからゼロ以外のリターン値が返されると、Image Preparation Wizard が停止することがあります。対話モードでは、停止するか、エラーを無視して続行するかを選択できます。バッチ モードでは、Image Preparation Wizard は停止します。

イメージのキャプチャの前提条件

ImageX、Windows セットアップ、またはレガシー配布で使用する OS イメージをキャプチャする前に、次の手順を実行しておく必要があります。

- 472 ページの「参照マシンの準備」
- 474 ページの「Windows AIK のインストール」
- 474 ページの「Sysprep のインストールおよび設定」

参照マシンの準備

1 オリジナル製品メディアから、オペレーティング システムをインストールします。参照マシンは、インストールするオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが DHCP を使用していることを確認します。

OS は C: ドライブに格納してください。C: ドライブ以外はキャプチャされません。

2 必要に応じて OS をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。OS とアプリケーションの最新のサービス パック、およびイメージの配布先となるデバイスに必要なドライバが含まれることを確認してください。次の Microsoft サポート技術情報の記事には、Windows OS のインストールに OEM ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

記事 : 314479 - OEM プラグ アンド プレイ ドライバを Windows XP に追加する方法

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;314479

3 Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) がインストールされていることを確認します。.NET Framework は、次の Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx

どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

`%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework`

4 レガシー メソッドを使用してこのイメージを配布する場合は、HPCA Agent を参照マシンにインストールする必要があります。HPCA では Windows セットアップまたは ImageX の OS イメージとともに Agent をパブリッシュする必要があるため、Windows セットアップ配布または ImageX 配布では必要ありません。

レガシー配布の場合のみ、次の操作を実行する必要があります。

要件に応じて、HPCA インストール メディアから Agent をインストールします。少なくとも、Application Manager Agent および OS Manager Agent をインストールする必要があります。これらの操作は、OS イメージを配布するときに、デバイスを HPCA Server に接続できるようにするために必要です。Agent を更新する必要がある場合は、Agent のセルフ メンテナンスを使用する必要があります。

5 HPCA Server へのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、デバイスの電源が切れないように、BIOS の電源管理を設定してください。

6 イメージ ファイルのサイズはできるだけ小さくしておいてください。オペレーティング システムの収納に十分なパーティションの大きさに加えて、HPCA Agent 用の追加領域がある設定が理想的です。

Windows 7 より前の Windows オペレーティング システムの場合、プライマリ ブート ドライブのプライマリ ブート パーティションへのイメージの配布がサポートされます。

Windows セットアップ配布メソッドを使用してイメージを正常にキャプチャするには、参照マシンの OS パーティションに十分な空きディスク領域がある必要があります。たとえば、7 GB のイメージをキャプチャするには、50 ～ 60 GB の空きディスク領域が必要です。

次の手順は `.WIM` イメージ ファイルのサイズを最小に抑えるのに役立ちます。

a 空き領域を作成します。

HP は、最小の空き容量で最小のパーティションを作成した後、`Sysprep.inf` ファイルの `[Unattended]` のセクションに `ExtendOemPartition = 1` を設定することを推奨します。これで、より大きなドライブを持つターゲット デバイスに小さなイメージをインストールできるようになります。

`ExtendOemPartition = 1` の場合、Microsoft ミニセットアップ ウィザードは、OS インストール パーティションをそのディスクと物理的に連続した、パーティションが設定されていない使用可能な任意の空き領域に拡張します。これで、HPCA Agent はボリューム上の空き領域をアプリケーションのインストールに使用できます。

b ラップトップを使用している場合は休止状態を無効にします。

c 必要があれば、復旧パーティションを削除します。

d ページング ファイルを無効にします。配布後、mini-setup が実行されると、ページング ファイルは、自動的に利用可能になります。

e システムの復元を無効にします。

f インデックス作成サービスとディスク圧縮を無効にします。

g On Resume Password Protect を無効にします。

Windows AIK のインストール

ImageX または Windows セットアップを使用して配布を行う場合、Windows Automated Installation Kit (AIK) を HPCA Core (OS イメージを CSDB にパブリッシュする場所) にインストールする必要があります。これは、Core インストールの前提条件です。

詳細については、HPCA のインストールの章にある「HPCA を使用した Windows オペレーティング システムの管理」を参照してください。

Sysprep のインストールおよび設定

Microsoft Sysprep は、クローン作成されたイメージを使用して Microsoft オペレーティング システムを配布できるようにするプログラムです。HPCA OS Image Preparation Wizard によって Microsoft Sysprep が実行されます。これにより、セキュリティ識別子がすべて取り除かれて、イメージがリセットされます。

オペレーティング システム イメージがターゲット デバイスに配布された後でターゲット デバイスが起動されると、Microsoft ミニウィザードが自動的に実行されます。`Sysprep.inf` からの応答を使用した後、Microsoft ミニウィザードは、ターゲット マシンの Sysprep ディレクトリを削除します。

Sysprep をインストールするには

1 クローン作成されたイメージを使用して Microsoft オペレーティング システムを配布するために、Microsoft Sysprep をダウンロードします。

➤ Sysprep の使用方法、`Sysprep.inf` ファイルの作成方法、および使用可能なパラメータの設定方法については、Microsoft のドキュメントを確認してください。

2 Microsoft オペレーティング システムのインストール メディアの SUPPORT¥TOOLS フォルダにある DEPLOY.CAB ファイルを見つけます。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。

3 Deploy.cab ファイルから Microsoft Sysprep ファイルを抽出します。これらのファイルを参照マシンの C:¥SysPrep にコピーして、ディレクトリおよびファイルが読み取り専用に設定されていないことを確認します。

最新バージョンの Sysprep を使用していることを確認してください。古いバージョンを使用すると、エラーが発生する場合があります。

適切なバージョンの Sysprep がない場合は、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

管理者権限を持っている場合でも、Sysprep を実行するための適切なユーザー権限を設定されていることを確認してください。Microsoft Web サイトの記事 #270032「Sysprep.exe プログラムの実行に必要なユーザー権利」を参照してください。適切なユーザー権限がない場合、Sysprep を実行すると、次のエラーが発生します。

「このアプリケーションを実行するには、管理者である必要があります。」

Image Preparation Wizard を終了し、適切なユーザー権限をセットアップしたら、再びウィザードを実行する必要があります。

4 Microsoft Sysprep を使用するために、参照マシンが、ドメインではなく WORKGROUP に所属していることを確認します。

5 Sysprep.inf を作成して、C:¥Sysprep に保存します。

Sysprep.inf を作成するには

Sysprep.inf は手動で作成するか、Microsoft セットアップ マネージャ (Setupmgr.exe) を使用して作成できます。セットアップ マネージャは、Microsoft OS 配布メディアにある SUPPORT¥TOOLS フォルダの Deploy.cab ファイルにあります。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。

Microsoft は、Windows 2000 用 Sysprep ユーティリティによる大容量ストレージ セクションの作成をサポートしていません。Windows 2000 でこのオプションを使用すると、イメージのキャプチャまたは配布中に問題が発生する場合があります。

サンプルの Sysprep.inf ファイルは、Image Capture メディアの ¥samples¥sysprep¥ ディレクトリでは使用可能です。

Sysprep.inf ファイルのサイズは 800 KB 以下にしてください。

Sysprep.inf ファイルを作成する場合、次の操作を行います。

- TimeZone の値を環境に合わせて調整します。
- AdminPassword をセットアップします。
- ユーザーがターゲット デバイスに入力しなくて済むように、製品キーを作成します。
- 無人インストールを行うには、[Unattended] セクションに UnattendMode = FullUnattended を含める必要があります。
- ExtendOemPartition を 1 に設定します。これにより、Microsoft Sysprep は、OS のパーティションをそのディスクと物理的に連続した、パーティションが設定されていない使用可能な任意の空き領域へ拡張します。
- Sysprep.inf に JoinDomain が存在する場合、Sysprep.inf はコンピュータをドメインに接続する権限があるアカウントの管理ユーザー ID とパスワードを持っている必要があります。JoinDomain は大文字と小文字を区別することに注意してください。

Sysprep.inf ファイルの優先度の設定方法

Sysprep.inf ファイルはオペレーティング システム イメージとともに配布されるか、オペレーティング システム イメージに接続されたパッケージ (上書き Sysprep ファイル) として配布されます。Sysprep.inf ファイルが個別にパブリッシュされた場合、イメージの NTFS にある Sysprep.inf ファイルと統合され、1 つの Sysprep.inf になります。

Sysprep.inf ファイルは、次の順で低位から高位へ優先度が付けられます。

1. イメージに埋め込まれた Sysprep (優先度が最も低い)。個別にパブリッシュされる Sysprep.inf (上書き Sysprep) がない場合、イメージ内の Sysprep.inf が使用されます。
2. 上書き Sysprep (ゴールド イメージと別の Sysprep ファイル)。詳細については、『HP Client Automation OS 管理リファレンス ガイド』の「上書き Sysprep ファイルの使用」を参照してください。

   ➤ 上書き Sysprep.inf は 1 つだけ解決されます。

3. ポリシー条件に添付された Sysprep (優先度が最も高い)。

OS イメージのキャプチャ

実行するキャプチャのタイプに対応する次の手順を参照してください。

配布メソッド	手順
ImageX、Windows セットアップ、レガシー	477 ページの「Image Capture Wizard を使用したイメージのキャプチャ」 または 483 ページの「無人モードでの Image Preparation Wizard を使用したイメージのキャプチャ」

Image Capture Wizard を使用したイメージのキャプチャ

ImageX、Windows セットアップ、またはレガシー配布で使用する OS イメージのキャプチャに関する手順を次に示します。

HPCA OS Manager Image Preparation Wizard を使用するには

➤ イメージをローカルでキャプチャする場合、続行する前に、参照マシンを CD-ROM/DVD ドライブから起動するように設定します。ImageCapture メディアが起動可能なため、この作業を実行する必要があります。ImageCapture メディアを実行すると、デバイスを再起動して、イメージをアップロードします。

1. ImageCapture メディアを参照マシンに挿入します。このメディアの入手方法の詳細については、『HP Client Automation OS 管理リファレンス ガイド』の「製品メディア」を参照してください。
2. ImageCapture メディアで、`¥image_preparation_wizard¥win32` に移動し、`oscapture.exe` を実行します。

   ➤ HPCA Agent が参照マシンにインストールされていない場合、次のメッセージが表示されます。

   このコンピュータには `Application Manager` がインストールされていません。`OS Manager` 製品がインストールされているターゲット コンピュータは管理できない可能性があります。

   デバイスを管理対象とするには、Image Preparation Wizard を実行する前に、必ず HPCA Agent をインストールしてください。

➤ oscapture.exe プログラムでは、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) が必要になります。これは、次の Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx

どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework

— 配布するイメージをレガシー メソッドでキャプチャする場合、Image Preparation Wizard では、続行する前に C:¥Sysprep フォルダが存在するか、HPCA Agent がインストールされているかが確認されます。

— ImageX または Windows セットアップで配布するイメージをキャプチャすると、Image Preparation Wizard は Sysprep を C:¥sysprep に置きます。

➤ Publisher を使用する場合は、Agent を取得する場所を選択するオプションが表示されます。これには、Agent を個別にパッケージ化し、新しいバージョンを必要に応じて CSDB にパブリッシュして Agent を更新できるという利点があります。これを実行すると、新たに配布する .WIM はすべて自動的に最新の Agent を使用します。

HPCA Standard ライセンスを使用している場合は、キャプチャしたイメージに Agent が既に含まれている必要があります。ただしその場合でも、Publisher を実行するときにパブリッシュ元の Agent を選択する必要があります。

3 **[次へ]** をクリックします。

[エンド ユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

4 **[同意する]** をクリックします。

配布方法は以下のようになります。

— **レガシー**は、パーティションのディスク イメージをそのままキャプチャします (.IMG 形式)。

— **ImageX** では、Windows PE や ImageX ユーティリティで配布される .WIM 形式でイメージがキャプチャされます。

— **Windows セットアップ**では、Windows PE や Windows セットアップ ユーティリティで配布される .WIM 形式でイメージがキャプチャされます。

OS でサポートされていない配布メソッドは表示されません。

5 使用する配布メソッドを選択し、**[次へ]** をクリックします。

6 HPCA Server [HPCA Server] の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

xxx.xxx.xxx.xxx:port

HPCA Core および Satellite インストールで OS イメージングと配布用に使用される HPCA Server [HPCA Server] ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。

7 **[次へ]** をクリックします。

8 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` ディレクトリに格納されるイメージ名です。

9 **[次へ]** をクリックします。

[ディスク イメージのスパン] ウィンドウが表示されます。

10 各イメージ ファイルに使用するディスク容量 (非圧縮) の合計を MB 単位で入力します。スパンしたイメージを作成しないときは、「0」(ゼロ) と入力します。

スパンしたイメージを使用して、イメージ ファイルを小さいセグメントに分割できます。スパンされたイメージの各セグメントのサイズは 4000 MB に制限されます。イメージを CSDB に格納する場合、イメージ全体が 4000 MB 以下である必要があるという条件を満たすことができるため、有用です。

この値を 0 (ゼロ) に設定した場合、イメージ リソース ファイルのサイズが 4,000 MB を超えると、自動的にイメージがスパンされます。

11 **[次へ]** をクリックします。

該当する場合は、[追加の Sysprep オプション] ウィンドウが表示されます。このテキスト ボックスには、すべての SID をクリアし、キャプチャできるようにマシンを準備するコマンドが予め入力されています。

また、Sysprep に渡す追加オプションを、スペースで区切って入力することもできます。

これは高度なオプションです。追加したオプションや行った変更は検証されないため、イメージのキャプチャまたは配布が失敗する可能性があります。HP Software サポート担当者からこのような指示があった場合は、注意して作業を行ってください。

追加の Sysprep オプションについては、Microsoft のドキュメントを参照してください。

12 **[次へ]** をクリックします。

13 配布メソッドで ImageX を選択すると、デフォルトのオプションが選択された [Image Preparation Wizard のペイロードの選択] ウィンドウが表示されます。

> ペイロードには、ターゲット デバイスに配布されるローカル サービスの起動 (LSB) データが含まれます。

14 イメージ ファイルの説明を入力し、**[次へ]** をクリックします。

[Windows 版の選択] ウィンドウが表示される場合があります。

15 キャプチャする Windows のエディションを選択し、**[次へ]** をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。

> HPCA Agent をインストールしていない場合は、**[OS のインストール後にクライアント接続を実行する]** チェック ボックスは表示されません。レガシー メソッドでイメージをキャプチャする場合にのみ、この Agent をインストールすることが重要になります。

16 適切なオプションを選択します。

> キャプチャするオペレーティング システムによってオプションが表示されます。

— **Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする**
Windows XP 以上の `Sysprep.inf` の `[SysprepMassStorage]` セクションで、大容量ストレージ ドライバのリストをビルドするには、このチェック ボックスをオンにします。

> Microsoft は、Windows 2000 用 Sysprep ユーティリティによる大容量ストレージ セクションの作成をサポートしていません。Windows 2000 でこのオプションを使用すると、イメージのキャプチャまたは配布中に問題が発生する場合があります。

> 大容量ストレージ ドライバのリストは、レジストリにインストールされます。これには約 15 ～ 20 分かかりますが、マシンのモデルおよびメーカーを越えたイメージ配布を成功させるため、基本的な大容量ストレージ デバイスのドライバを提供します。
>
> これらの入力内容にエラーがあると、この後の Sysprep の実行は失敗する場合があります。

— **未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する**
未使用ディスク領域の圧縮を最適化するには、このチェック ボックスをオンにします。これは、システム ドライブ パーティションの最後までゼロを追加します。注 ：ハード ドライブの容量によっては、若干時間がかかる場合があります。

これにより、キャプチャしたイメージの圧縮率が大きくなり、サイズが小さくなります。イメージ ファイルのサイズが小さい方が、保存するディスク領域が少なく、ネットワーク上を転送するバンド幅が小さくて済みます。

— **OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する**
パーティションのサイズをできるだけ小さくするには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、パーティションのサイズが適切であるか確認してください。

— **OS のインストール後にクライアント接続を実行する**
OS をインストールした後に HPCA Server [HPCA Server] に接続するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、HPCA OS 接続は実行されません。

Agent をインストールしない方法を使用する (たとえば、レガシー メソッドを使用していて、HPCA Agent をインストールしなかった、あるいは配布時に Agent がインストールされデフォルトで接続が実行されるために Windows Vista (またはそれ以降) イメージをキャプチャする) 場合は、このオプションは表示されません。

17 **[次へ]** をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

18 **[開始]** をクリックします。

19 **[完了]** をクリックします。

APIC デバイスで作業している場合は、[イメージを APIC 互換にする] ウィンドウが表示されます。Windows Vista (およびそれ以降) オペレーティング システムは APIC 互換デバイスでなければキャプチャ / 配布できないため注意してください。

20 必要であれば、**[イメージを PIC を搭載したマシン互換にする]** チェック ボックスを選択します。

Microsoft はこれを推奨していません。この選択を行う前に、Microsoft の Web サイトで詳細を確認してください。

21 **[次へ]** をクリックします。

上図のチェック ボックスを選択した場合は、[Select Windows CD (Windows CD の選択)] ウィンドウが表示されます。

22 [Windows CD-ROM] へ移動し、[**次へ**] をクリックします。

23 **[完了]** をクリックして、Sysprep を実行します。

Image Preparation Wizard により Sysprep が起動されます。イメージのサイズによって完了時間は異なります (15 ～ 20 分)。

システム予約パーティションに LSB の挿入ファイルを格納できるスペースがない場合、メッセージがポップアップされます。このメッセージを無視するか、Image Preparation Wizard を停止します。メッセージを無視すると、Image Preparation Wizard が続行されます (このパーティションに十分なスペースが作成されている場合)。十分なスペースが作成されていない場合、LSB ファイルが挿入できないことを示すメッセージが表示されて失敗します。

キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、343 ページの「Windows PE Service OS 画面について」を参照してください。

完了後に、Sysprep はデバイスを再起動します。[**OK**] をクリックして、デバイスを再起動します。

監視モード (以前の出荷時モード) を使用している場合、マシンはオペレーティング システムをネットワーク接続が有効な状態で再起動します。カスタマイズが完了したら、Image Capture CD/DVD をマシンに挿入し、コマンド プロンプトから次を実行します。

```
sysprep.exe -reseal -reboot
```

Sysprep が再起動すると、イメージがサーバーにアップロードされます。

— ブート順が最初に CD-ROM からブートする設定になっていて、Image Capture メディアが読み込まれた場合は、デバイスは CD-ROM で起動されます。

デバイスに CD-ROM が搭載されない場合は、PXE 環境が必要で、デバイスはネットワーク優先で起動されるように設定されている必要があります。これで、ネットワーク起動中にキーボードの **F8** を押して、PXE によりイメージをキャプチャできます。メニューが表示された後、ぜひ [Remote Boot (Image Upload) (リモート ブート (イメージ アップロード))] を選択します。

レガシー キャプチャ モードでは、デバイスで CD ではなくオペレーティング システムが起動される場合、準備のプロセスをやり直す必要があります。

これで、デバイスがネットワークに接続され、HPCA Server [HPCA Server] にイメージが格納されます。

- イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化 (特に、空きディスク領域が多くある場合) によるものです。これは、イメージの転送中に行われるため、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は約 300 KB/ 秒 ～ 1 MB/ 秒ですが、プロセッサの速度とネットワーク環境によって異なります。
- 必要に応じて取得できるように、¥upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

Image Preparation Wizard がネットワークに接続し、HPCA Core の次のディレクトリにイメージが格納されます。

`<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload`

アップロード プロセスが完了すると、以下のメッセージが表示されます。

`**** OS イメージは正常に HPCA OS Manager Server に送信されました。`

次に、イメージを CSDB にパブリッシュします。347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

無人モードでの Image Preparation Wizard を使用したイメージのキャプチャ

設定ファイルを使用して、無人モードで Image Preparation Wizard を実行できます。

無人モードで Image Preparation Wizard を使用するには

1. イメージ キャプチャ メディアを参照マシンに挿入します。このメディアの入手方法の詳細については、『HP Client Automation OS 管理リファレンス ガイド』の「製品メディア」を参照してください。
2. ¥samples¥prepwiz_unattend に移動し、OS 固有の設定ファイル (vista.cfg または xp.cfg) をローカル マシンまたはネットワーク上の場所にコピーします。

3　必要な変更を行います。表 48 に、変更が必要な可能性がある値を示します。

表 48　変更する設定ファイル内の変数

変数名	説明	値の例
RISHOSTPORT	HPCA Server の IP アドレス。	*xxx.xxx.x.x:port*
IMAGENAME	アップロードされるファイルを作成するために使用するプレフィックス。これは、アップロードされるイメージの名前を作成するために、`.WIM` に追加されます。	Vista
IMAGEDESC	データベースにパブリッシュされるイメージの説明。	「Windows Vista 無人テスト イメージ」
PREPWIZPAYLOADPREPWIZPAYLOAD (今後のリリース用)	管理者が使用するペイロード。 ペイロードには、ターゲットデバイスに配布されるローカル サービスの起動 (LSB) データが含まれます。	デフォルト値「`/OSM/PREPWIZ/payload/default/`」を使用します。
OSEDITIONOSEDITION (Vista 用)	使用する Vista のエディションを指定します。	“Enterprise”
set ::setup(DEPLOYOS,SELECTED)	イメージのキャプチャ後に OS を再配布するかどうかを示す 1 または 0 の値。	“0”
set ::setup(ClientConnect,SELECTED)	イメージ配布後にターゲットデバイスで OS 接続を実行するかどうかを示す 1 または 0 の値。	“1”

4　参照マシンで、コマンド ウィンドウを開き、ディレクトリを CD/DVD に変更します。`Image_Preparation_Wizard¥win32` に移動します。ここで、次のコマンドを実行します。

`prepwiz -mode silent -cfg <fully qualified path>¥<*config_file*>`

<*config_file*> には、オペレーティング システム固有の設定ファイル (`setup.cfg` *など) を指定します。*

Image Preparation Wizard が Sysprep を起動します。これが完了するのに 15 ～ 20 分かかる場合があります。完了すると Sysprep によりデバイスがリブートされ、ネットワークに接続されて HPCA Server [HPCA Server] の `/upload` ディレクトリにそのイメージが格納されます。

Windows Native Install Packager を使用した配布用のイメージのキャプチャ

この配布モードの Windows XP および Windows 2003 イメージのキャプチャは、HPCA Enterprise Edition でのみサポートされています。

この場合のみ、HPCA Windows Native Install Packager を使用してイメージを準備します。イメージは、参照マシンのハード ドライブ上の、Windows Vista 以前のオペレーティング システムのインストール メディアのイメージです。作成されるイメージは、Windows のインストールのファイル コピー フェーズを完了しており、HPCA Agent が含まれています。イメージは HPCA Server [HPCA Server] の `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` ディレクトリに送信されます。次に、Publisher を使用してイメージを CSDB にパブリッシュします。

イメージがターゲット デバイスに配布されると、ターゲット デバイスはリブートします。Windows Native Install セットアップは引き続きテキスト モード セットアップ フェーズを実行し、その後 GUI フェーズを実行します。2 つのフェーズは `unattend.txt` で制御され、完全自動セットアップが可能です。

- 486 ページの「タスク 1: 参照マシンの準備」
- 488 ページの「タスク 2: unattend.txt の作成」
- 489 ページの「タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール」
- 489 ページの「タスク 4: HPCA Windows Native Install Packager の実行」

タスク 1: 参照マシンの準備

参照マシン上で作成されたオリジナルのインストール メディアのイメージがターゲット デバイスに配布されます。HPCA Windows Native Install Packager を使用してイメージを作成する前に、HPCA メディアを持っていることと、参照マシンが次の条件を満たしていることを確認します。

1. HPCA Server [HPCA Server] に接続できる。
2. 以下の条件を満たすターゲット ドライブ (拡張パーティションにあることを推奨)。
   - ターゲット ドライブは現在フォーマットされており、空である (データがない) かのように扱われる。ターゲット ドライブがフォーマットされていない場合か、あるいはフォーマットされているが、データが含まれている場合に、ユーザーはドライブをフォーマットするよう要求されます。

— ユーザーがドライブにデータが確実に残らないようにドライブをフォーマットする場合は、あらかじめ FAT32 でフォーマットできる。

➤ FAT32 では一度配布すると、拡張できないため、注意してください。NTFS は拡張できるデフォルトのオプションです。

— 1.5 GB 以上。Image Preparation Wizard の [未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する] チェック ボックスがどのように設定されているかによって、ターゲット ドライブが大きくなれば、ドライブのイメージ化の処理時間が長くなる、または、イメージが必要以上に大きくなる場合があります。

⚠ ターゲット ドライブに保存するすべてのデータが失われます。

3 HPCA Windows Native Install Packager ソフトウェアが既にインストールされている、C: ドライブなどの独立したドライブ (高速化のため)。489 ページの「タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール」を参照してください。

4 また、次の項目にアクセスする権限が必要です。HPCA Windows Native Install Packager を使用する場合は、項目の場所を指定します。

— HPCA Agent のセットアップ ファイル。

— オペレーティング システム メディアの i386 ディレクトリ。

必要なサービス パックは、すべてこのディレクトリにスリップストリームできます。これを実行する方法の詳細については、各サービス パックに関連する readme.txt ファイルを参照してください。

➤ Windows セットアップで、古いバージョンの Windows 用のセットアップを実行することはできません。例 :

- デバイスで Windows XP が実行されている場合は、Windows 2000 用の i386 ディレクトリを使用できません。
- デバイスで Windows 2003 Server が実行されている場合は、Windows 2000 用または Windows XP 用の i386 ディレクトリは使用できません。

— unattend.txt

ファイルは手動で作成するか、Windows メディアの Windows セットアップ マネージャを使用して作成できます。使用可能なサンプル ファイルは、Image Capture メディアの ¥samples ディレクトリにあります。

タスク 2: unattend.txt の作成

unattend.txt ファイルでは、ユーザー入力が必要ないように、OS のインストールが自動化されます。unattend.txt ファイルは i386 ディレクトリで指定されている Windows のリリースと一致している必要があります。これらのファイルはインストールされている Windows のバージョンによって、若干異なる場合があります。

Unattend.txt ファイルは、800 KB 以下にしてください。

イメージとともに格納する unattend.txt ファイルを作成するときのヒントを次に示します。

- ファイルの中の設定は、環境にあるどのデバイスでも使用できるように、できるだけ汎用的にする必要があります。
- このファイルの [GuiUnattended] セクションには、ステートメント AutoLogon=YES および AutoLogonCount=1 を含めます。

  HPCA Agent セットアップでは、Agent をターゲット デバイスにインストールするために Windows インストーラが使用されます。また OEM¥cmdlines.txt では Windows インストーラを実行できないため、OEM¥cmdlines.txt の代わりに [GuiUnattended] セクションを使用する必要があります。

  AutoLogon ステートメントと AutoLogonCount ステートメントを使用すると、オペレーティング システムのインストール後に初めてのユーザーがログオンするときに、Agent が確実にインストールされます。
- このファイルの [Unattended] セクションには、ステートメント extendoempartition=1 を含めます。これにより、Windows はファイル システムとパーティションを拡張し、パーティションに続く未使用スペースを取り込むことができます。ターゲット パーティションが小さすぎる場合は、インストールのコピー フェーズを実行することはできます (このフェーズは参照マシンで実行されます)。その後、イメージが配布されると、テキスト モード フェーズは失敗します。あるいは、別のパーティションに OS がインストールされることもあります。

  大きいターゲット パーティションを使用している場合は、ファイルの未使用スペースにゼロを埋めるプロセスに時間がかかります。

- 必要なカスタマイズをするには、別の unattend.txt ファイルを作成することもできます。Publisher を使用してこれらのファイルを HPCA DB の SYSPREP クラスにパブリッシュできます。次に、それらを適切な OS イメージに接続できます。イメージが配布されると、カスタマイズした unattend.txt ファイルはオリジナルのファイルに統合されます。

  ➤ ファイルをパブリッシュする方法の詳細については、347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。unattend.txt ファイルをパブリッシュするときは、Sysprep.inf ファイルをパブリッシュする場合と同じ手順に従います。

タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール

1. Image Capture メディアで、¥windows_native_install に移動して setup.exe をダブルクリックします。
2. **[次へ]** をクリックします。

   [エンド ユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
3. 条件を確認して、**[同意する]** をクリックします。
4. 製品のインストール先のディレクトリを選択して、**[次へ]** をクリックします。

   [要約] ウィンドウが表示されます。
5. **[インストール]** をクリックします。

   インストールが完了したら、**[完了]** をクリックします。

タスク 4: HPCA Windows Native Install Packager の実行

1. デスクトップにある HPCA Windows Native Install Packager アイコンをダブルクリックします。

   [設定オプション] ウィンドウの [Client Automation]、[Windows セットアップ]、[パッケージ] という 3 つの領域で、情報を入力する必要があります。

   a. [Client Automation] 領域には、Client Automation 製品に関連する設定オプションが表示されます。
   b. [Windows セットアップ] 領域では、OS のインストールを実行するのに必要な情報を収集します。

c [パッケージ] 領域では、作成するパッケージに関して HPCA で必要な情報が収集されます。

これらの各ウィンドウで、入力必須フィールドに入力しないまま **[次へ]** をクリックした場合、そのフィールドに入力するように、メッセージが表示されます。

2 [Client Automation Client ソース ディレクトリ] フィールドに、HPCA Agent のパスを入力します。

3 インストールする Client Automation 製品のチェック ボックスをオンにします。

4 OS のインストール後、HPCA OS 接続を実行するには、**[インストール後、最初の接続を実行]** チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスがオンになっていないと、OS のインストール後に、HPCA OS 接続は自動的に実行されません。

5 **[任意指定の Packager コマンド ライン引数]** ボックスに、WNI アプリケーションで使用されるパラメータを入力します。オプションは 1 行ですべてを入力することも、複数行にわたって入力することもできます。オプションは次のような「キーワード値」の形式で指定します。

```
-trace_level 9
```

キーワードの先頭には必ずダッシュ (-) を付けます。

テクニカル サポートの指示では、通常 [任意指定の Packager コマンド ライン引数] テキスト ボックスのみを使用します。

ログを作成するためのパラメータが多数あります。次の例では、`C:¥temp¥nvdwni.log` という名前のファイルを作成する方法を説明します。

```
-trace_level    99
-trace_dir       c:¥temp
```

別の名前でログを作成する場合は、以下を使用します。

```
-trace_file filename.log
```

6 **[次へ]** をクリックします。

7 **[unattend.txt ファイル]** ボックスで、適切な `unattend.txt` ファイルを参照します。

イメージに格納する汎用 unattend.txt ファイルを選択します。このファイルは、イメージが適用するすべてのデバイスに適用可能なオプションを含んでいる必要があります。必要なカスタマイズをするには、イメージに個別の unattend.txt ファイルを添付することができます。

unattend.txt ファイルは i386 ディレクトリで指定されている Windows のリリースと一致している必要があります。これらのファイルはインストールされている Windows のバージョンによって、若干異なる場合があります。

8 **[i386 ディレクトリ]** テキスト ボックスで、Microsoft の配布メディアで提供される Windows 配布元ディレクトリを選択します。Microsoft のスリップストリーム プロセスを使用して、サービス パックおよびその他の修正を統合できます。これを実行する方法の詳細については、各サービス　パックに関連する readme.txt ファイルを参照してください。

必ず Windows CD-ROM から i386 ディレクトリを別の場所にコピーしてください。CD-ROM を使用する場合、Windows セットアップは、CD-ROM がターゲット デバイスに読み込まれたと想定して、必要なファイルをすべてコピーしない恐れがあります。

9 **[ターゲット ドライブ]** ドロップダウン リストで、ネイティブ インストール パッケージを作成するドライブを選択します。拡張パーティション上にあるドライブを選択することを推奨します。

このドライブに既存のすべてのデータが失われます。

10 **[特別なコマンド ライン パラメータ]** テキスト ボックスで、Windows セットアップ プログラムを実行するときに、プログラムに渡すパラメータをすべて入力します。パラメータの詳細については、Microsoft web サイトを参照してください。

11 **[次へ]** をクリックします。

12 **[イメージ名]** テキスト ボックスに、¥upload ディレクトリに格納するパッケージの名前を入力します。この名前に入力する文字は、8 文字以内の英数字である必要があります。

13 **[イメージの説明]** テキスト ボックスにイメージの説明を入力します (半角 255 文字まで)。

14 **[Client Automation OS Manager Server]** テキスト ボックスに、イメージをアップロードする HPCA Server [HPCA Server] の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

15 **[Client Automation OS Manager ポート]** テキスト ボックスに、HPCA Server [HPCA Server] のポートを指定します。

16 **[未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する]** チェック ボックスをオンにし、ターゲット ドライブをイメージ化する前に、未使用ディスク スペースをすべて null にします。この設定によって、イメージのサイズを小さくすることができますが、Image Preparation Wizard の実行時間がより長くなります。

17 **[次へ]** をクリックします。

18 [要約] を確認し、**[作成]** をクリックします。

> Windows 2000 デバイスで **[作成]** をクリックした後、Windows セットアップによってシステムのリブートが要求される場合があります。再起動をしない場合は、**[キャンセル]** をクリックします。再起動は必要ありませんが、再起動が起こっても、障害はありません。

Windows セットアップが実行され、HPCA Windows Native Install Packager に戻ります。

19 HPCA Windows Native Install Packager が完了すると、Linux CD-ROM/DVD でシステムのリブートを求めるメッセージが表示されます。これは、Image Capture メディアを指しています。

> まず CD-ROM/DVD から起動するように起動順を設定する必要があるため、注意してください。

20 イメージ キャプチャ メディアを挿入して、[**OK**] をクリックしてください。

21 **[完了]** をクリックします。

22 デバイスをリブートすると、イメージが `<InstallDir>¥Data¥OSManagerServer¥upload` ディレクトリにアップロードされます。

23 OS イメージが正常に HPCA Server に送信されたことを示すメッセージが表示されたら、ドライブからメディアを取り出し、デバイスを再起動します。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージをキャプチャしたら、Publisher を使用して HPCA データベースにそのイメージをパブリッシュします。手順については、347 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

イメージをパブリッシュしたら、OS ライブラリをリフレッシュして、使用可能な OS イメージのリストを表示します。HPCA Console ツール バーを使用して、選択したデバイスにイメージを配布します。

F カスタム Windows PE Service OS のビルド

この章は、次のトピックで構成されています。

- 494 ページの「カスタム ビルド スクリプトについて」
- 495 ページの「前提条件」
- 499 ページの「Windows PE Service OS へのドライバの追加」
- 499 ページの「カスタム Windows PE Service OS のビルド」
- 506 ページの「カスタマイズした build.config ファイルの使用 (高度なオプション)」

カスタム ビルド スクリプトについて

HP が提供するスクリプトを利用して、次のことができます。

- 中国語および日本語のフォントのサポートを追加する。
- 更新された Windows Automated Installation Kit (AIK) から新しい `winpe.wim` ファイルが使用可能になったときに、Windows Preinstallation Environment (PE) Service OS を更新する。
- 提供された Windows PE Service OS 内にはない、ドライバやパッケージを追加する。
- Microsoft Windows AIK に関する知識とともに、この章の情報を使用して、使用環境に必要なドライバやパッケージを含む Windows PE Service OS を再ビルドする。
- デフォルトの Service OS の変更やブート メニューの設定の変更など、適用する必要がある更新がある場合に新しい `ImageCapture.iso` を作成する。
- デフォルトの Service OS の変更やブート メニューの設定の変更など、適用する必要がある更新がある場合に新しい `ImageDeploy.iso` を作成する。

前提条件

HP が提供するスクリプトを使用してカスタム Windows PE Service OS をビルドするには、いくつかの前提条件を満たしている必要があります。詳細については、次のトピックを参照してください。

- 495 ページの「プロセスの知識」
- 495 ページの「Administrator マシン」
- 496 ページの「メディア」
- 496 ページの「ファイルとディレクトリ」
- 497 ページの「他の言語のサポート」
- 498 ページの「高度なオプション」

互換性のないソフトウェアがインストールされているマシンで、このスクリプトを実行しないでください。Administrator マシンの前提条件を参照してください。

プロセスの知識

Windows PE Service OS にドライバやその他の情報を追加するには、Microsoft のインストール前のカスタマイズ プロセスに関する基本的な理解が必要です。

Administrator マシン

スクリプトを実行するには、Windows Automated Installation Kit (AIK) の 32 ビット バージョンがインストールされている Administrator マシンが必要です。このマシンを使用して、カスタマイズされた Windows PE Service OS をビルドします。

次のソフトウェアがインストールされているマシンは使用しないでください。

- HPCA Boot Server
- HPCA Core Server または HPCA Satellite Server
- Cygwin

HPCA 8.1 では、Windows AIK がバージョン 3.1 に更新されています。これは、Windows AIK 3.0 インストールを補足する更新です。サポートされるオペレーティング システムは次のとおりです。

- Windows 7 Service Pack 1
- Windows Server 2008 R2 SP1
- Windows Server 2003 (Service Pack 2)
- Windows Vista SP1
- Windows Server 2008 ファミリ
- Windows 7 ファミリ
- Windows Server 2008 R2 ファミリ

➤ Windows AIK の 32 ビット バージョンがダウンロードされ、インストールされていることを確認します。

メディア

次のメディア (DVD または CD-ROM) が必要です。

- HPCA 製品メディア
- HPCA Image Capture メディア
- HPCA Image Deploy メディア

ファイルとディレクトリ

- HPCA 製品メディアに収録されているビルド スクリプト バンドル `build_scripts.zip` が必要です。
- 新しい `ImageCapture.iso` または `ImageDeploy.iso` を生成する場合、次の操作を行って必要な更新済みファイルを含めます。
  - a Administrator マシンに、`c:¥build_items` のようなビルド アイテムのディレクトリを作成します。
  - b *オプション*: HP から受け取った更新済みファイルを、ビルド アイテムのディレクトリにコピーします。必要に応じて、Image Capture メディアまたは Image Deploy メディアの構造を基にサブディレクトリを作成します。

    このディレクトリに必要なファイルがすべて揃っていない場合は、ファイルをコピーするために、以前の Image Capture メディアまたは Image Deploy メディアの挿入が要求されます。

c *オプション*：ビルド アイテム ディレクトリに romsinfo.ini または netinfo.ini を含めて、ImageDeploy CD で使用できるようにします。

d *オプション*: ビルド アイテム ディレクトリに rombl_capture.cfg と rombl_deploy.cfg を含め、適切な ISO で使用できるようにします。このファイルには、メニューのタイムアウト設定やデフォルトの Service OS などの情報が含まれます。

これらのファイルを作成するために、必要に応じて以前の ImageCapture.iso または ImageDeploy.iso から rombl.cfg をコピーしてファイルを編集したり、名前を変更したりできます。

これらのファイルがビルド アイテムのディレクトリに含まれていない場合、以前の CD-ROM とそのメディアからのファイルの取得を促すメッセージがスクリプトによって表示されます。CD-ROM を挿入しないことを選択すると、標準の rombl.cfg ファイルが自動的に作成されます。

他の言語のサポート

ISO に変更を加えずに、中国語または日本語のサポートを追加する場合は、次のようにします。

- 既存の winpe.wim ファイルを build_items ディレクトリから削除します。
- 製品 CD-ROM の ¥custom_build¥lang_support ディレクトリから、winpe_cjk.wim を build_items ディレクトリにコピーします。
- 名前を winpe_cjk.wim から winpe.wim に変更します。
- 499 ページの「カスタム Windows PE Service OS のビルド」を参照して、スクリプトを実行します。

  中国語または日本語が有効になった winpe.wim ファイルを、winpe.wim ファイルを再ビルドせずに使用するには、winpe.wim ファイルの再作成を求められたときに「**N**」と入力します。

- ImageDeploy CD を使用して、CD からインストールするかキャッシュからインストールしているときに、メッセージをローカル言語で表示する場合は、製品メディアにある ¥custom_build ¥lang_support ¥i18n ディレクトリをビルド アイテムのディレクトリにコピーします。ローカル言語で必要のない .msg ファイルは削除できます。

高度なオプション

次の情報は、経験を積んだ HPCA 管理者のみを対象としています。HPCA による OS 管理と Microsoft Windows AIK ツールの両方をよく理解している場合を除き、既存の winpe.wim ファイルをカスタマイズしないでください。

既存の winpe.wim ファイルを使用する場合

- 既存の winpe.wim は、ビルド スクリプトを実行しているマシンにインストールされている Windows AIK と同じバージョンの Windows AIK を使ってビルドすることを強く推奨します。
- winpe.wim ファイルには次のパッケージがインストールされている必要があります。
  - Windows AIK バージョン 1.1 の場合
    - WinPE-HTA-Package
    - WinPE-Scripting-Package
    - WinPE-XML-Package
    - WinPE-WMI Package
  - Windows AIK バージョン 2.0 および 3.1 の場合
    - WinPE-hta.cab
    - WinPE-scripting.cab
    - WinPE-wmi.cab
    - WinPE-setup.cab
    - WinPE-legacysetup.cab
    - WinPE-setup-client.cab
    - WinPE-setup-server.cab
- winpe.wim ファイルが peimg /prep コマンドを使用して作成されている場合は、Windows AIK、peimg、ImageX の Microsoft ドキュメントに記載されている制限 (Windows AIK 1.1 にのみ適用) を参照してください。

Windows PE Service OS へのドライバの追加

ビルド スクリプトを実行するときに Windows PE Service OS にドライバを追加できます。たとえば、リブートが必要なドライバがある場合、「オフライン」モードで実行する必要があります。つまり、ビルド スクリプトが一時停止し、そのときに必要な変更を実行できます。詳細については、次の手順で説明します。

➤ また、Windows PE が実行されているときに (「オンライン」モード) ドライバを追加することもできます。すべてのドライバがリブートを必要とせずにすべて含まれていて、デバイスは HPCA Server [HPCA Server] に接続されている必要があります。

Windows PE Service OS の起動中に、`<InstallDir>¥OSManagerServer¥SOS¥WinPE¥drivers` にあるすべてのドライバが、`drvload.exe` を使用して、ダウンロードおよびインストールされます。

カスタム Windows PE Service OS のビルド

次のトピックでは、HPCA によって提供されるスクリプトを取得および使用して、カスタム Windows PE Service OS をビルドする方法について説明します。

- スクリプトを取得して実行の準備をする方法については、499 ページの「スクリプトの取得」を参照してください。
- スクリプトを起動して必要な情報を指定する方法については、500 ページの「スクリプトの実行」を参照してください。
- スクリプトを実行したら、504 ページの「追加情報」を参照してください。

➤ スクリプトを起動する前に、495 ページの「前提条件」の内容を参照してその前提条件を満たしていることを確認してください。

スクリプトの取得

カスタム Windows PE Service OS のビルドに必要なスクリプトは、HPCA インストール メディアにあります。次の手順に従ってスクリプトを取得し、Administrator マシンで実行する準備をします。

スクリプトを取得し、Administrator マシンでスクリプトを使用できるようにするには

1 インストール メディアにある次のファイルを Administrator マシン (Windows AIK がインストールされている場所) にコピーします。

   `<InstallDir>¥media¥ISO¥roms¥build_scripts.zip`

2 このファイルを任意のディレクトリ (`C:¥Build_scripts` など) に展開します。

スクリプトの実行

この手順では、前提条件 (495 ページの「前提条件」を参照) を満たしていることと、スクリプトを取得 (499 ページの「スクリプトの取得」を参照) していることを前提としています。

スクリプトで尋ねられる各質問について、デフォルトの応答が、ウィンドウの一番右に角かっこで囲まれて示されます。例 :

```
Type a number between 1 and 9                                   [1]:
```

この例では、デフォルトの応答は 1 です。デフォルト値を受け入れるには、**Enter** キーを押します。

カスタム Windows PE Service OS をビルドするには

1 Windows のコマンド プロンプトを開き、作成したばかりのディレクトリの *<version>* フォルダに移動します。

   ここで、*<version>* は SOS バージョン番号のことです。例 :

   `C:¥ Build_scripts¥<version>`

2 「**run**」と入力します。

   しばらくすると、HPCA のバージョン一覧が表示されます。

3 使用する HPCA のバージョンに対応する番号を入力します。

4 新しい WIM ファイルを作成するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」と入力します。

   実行中のスクリプトが、OS 管理サービスの OS アップデート (ドライバ パッチ) で提供されたものである場合、WIM ファイルは作成できません。作成できるのは ISO ファイルだけです。

   「**Y**」と入力した場合は、次の手順で WIM ファイルのオプションを指定します。

   a Windows AIK ツール ディレクトリへのパスを入力するように求められます。たとえば、「`C:¥Program Files¥Windows AIK¥Tools`」と入力します。

b Microsoft Windows AIK の winpe.wim ファイルを使用するかどうか尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。

➤ Microsoft Windows AIK の winpe.wim ファイルを使用することを強く推奨します。

「**N**」を入力した場合は、既存の winpe.wim ファイルが仕様通りにビルドされていることを確認するようにリマインダが表示されます。次に、既存の winpe.wim ファイルへのフル パスを指定するように促されます。

c 中国語および日本語のフォント サポートを含めるかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」と入力します。

d ドライバまたはパッケージを追加するために WIM 作成プロセスを一時停止するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。

e WIM 作成プロセス中に追加するドライバのディレクトリのパスを指定するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。

f 「**Y**」と入力した場合は、ドライバを含むディレクトリへのフル パスを入力するように求められます。

5 次の一連の質問によって、Image Capture ISO と Image Deploy ISO のどちらを新規作成するのか、さらに、どの Service OS を含めるのかが決まります。

— 次の条件のいずれかに一致する場合、新しい Image Capture ISO を作成する必要があります (「**Y**」と入力)。

  – HP Software サポートから更新済みファイルを受信している。

  – winpe.wim を再ビルドしており、ISO を使用してキャプチャを実行する。

  – 設定 (rombl.cfg、netinfo.ini、または rominfo.ini) を変更する必要がある。

— 次の条件のいずれかに一致する場合、新しい Image Deploy ISO を作成する必要があります (「**Y**」と入力)。

  – HP Software サポートから更新済みファイルを受信している。

  – winpe.wim を再ビルドしており、配布中に CD からブートする。

  – 設定 (rombl.cfg、netinfo.ini、または rominfo.ini) を変更する必要がある。

ISO オプションを指定するには、次の手順に従います。

a 新しい Image Capture ISO を作成するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」と入力します。

b 新しい Image Deploy ISO を作成するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」と入力します。

c 質問 (a) または (b) に対して「**Y**」と答えた場合、ISO に含める Service OS を尋ねられます。適切な Service OS を選択します。次に、**Enter** キーを押します。

d 新しい `rombl.cfg` を作成するか、既存の `rombl.cfg` ファイルを使用するかを尋ねられたら、次のいずれかの操作を行います。

- 新しい `rombl.cfg` ファイルを作成する場合は、「**1**」と入力し、**Enter** キーを押します。
- 既存の `rombl.cfg` ファイルを使用する場合は、「**2**」と入力し、**Enter** キーを押して手順 (502 ページの「h」) に進みます。

e どの Service OS をデフォルトで起動するかを尋ねられたら、適切な選択肢を入力します。次に、**Enter** キーを押します。

f 作成する各 ISO のブート メニューの処理方法を指定します。次の 3 つの方法があります。

0	ブート メニューはターゲット デバイスのユーザーに表示されません。 手順 (d および e) で指定したデフォルトの Service OS が使用されます。
-1	ブート メニューが表示され、ユーザーからの応答を待機します。 この応答によってデフォルトの Service OS の設定が上書きされます。
1 以上の数値	ブート メニューが表示され、ユーザーからの応答をこの秒数の間待機します。この秒数を過ぎると、手順 (e) で指定したデフォルトの Service OS がブートされます。

g HPCA インフラストラクチャに接続するために使用されるポートを変更するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。デフォルト ポートは 3466 です。

h ISO ブート セクタに含まれる ISO ブート ロード値を指定するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。

デフォルト値を使用していて問題が発生し、HP Software サポートにデフォルト値を変更するように指示された場合にのみこのオプションを使用します。

特定のハードウェア モデルでは、BIOS の問題が原因でブート ロード セグメントを 0x2000 にする必要があります。他のモデルの場合、ブート ロード セグメントが El Torito ISO 形式 (0x0000) のデフォルトのローダー セグメントでないと CD からブートできません。

ブート ロード セグメントの設定を指定するには、「`1`」、「`2`」または「`3`」を入力します。

1 HPCA のデフォルト (0x2000) – 大部分の BIOS で動作します。

2 ISO のデフォルト (0x0000) – 大部分の BIOS で 0x07c0 に変換されます。

3 手動で値を入力します。

次に、**Enter** キーを押します。「`3`」と入力した場合、0x で始まる 16 進数の文字列としてブート ロード セグメントの設定を指定します。

i ビルド アイテムのフル パスの入力を求められたら、ディレクトリ名 (`C:¥build_items` など) を入力し、**Enter** キーを押します。

これで、Image Capture ISO および Image Deploy ISO に関連する質問は完了します。

6 一時作業ディレクトリのフル パスを求められたら、ディレクトリ名 (`C:¥build_work` など) を入力ます。このディレクトリは、以降の手順で *<work-dir>* と呼ばれます。

➤ そのディレクトリが既に存在しており、その中に情報がある場合、その情報を削除するかどうかを尋ねられます。削除しないことを選択すると、もう一度ディレクトリの入力を求められます。終了する場合は、**Ctrl + C** キーを押してプロセスを終了します。削除することを選択すると、情報は上書きされます。

7 出力ディレクトリのフル パスを求められたら、ディレクトリ名 (`C:¥build_output` など) を入力ます。)

➤ CAS 用の ISO を作成するかどうか尋ねられたら、「`N`」と入力します。

画面に表示されるメッセージでわかるように、このビルド プロセスは時間がかかります。完了すると、Service OS 作成プロセスが正常に終了したことを示すメッセージが表示され、コマンド プロンプトに戻ります。

最後の手順

ビルドが完了したら、C:¥WinPE_output など、Windows PE.wim が格納されたディレクトリに移動し、次の操作を実行します。

表 49

ターゲット デバイスのブート メソッド	必要な操作
PXE	出力ディレクトリから winpe.wim を *<InstallDir>*¥BootServer¥X86PC¥UNDI¥boot にコピーします。
LSB	CSDB Editor を使用して LSB パッケージの winpe.wim を置換します。
CD	Windows PE スクリプトを使用して、新しい ISO を作成します。

ImageCapture.iso または ImageDeploy.iso を作成することを選択した場合、同じ出力ディレクトリに格納されます。

追加情報

Windows PE Service OS のカスタム ビルド スクリプトに必要なすべての情報を入力すると、次の処理が実行されます。

1. ISO のビルドに必要なファイルがビルド アイテムのディレクトリにない場合、CD/DVD を挿入し、ファイルをコピーする必要があります。CD/DVD の挿入を選択しない場合、ビルド プロセスは停止します。
2. 入力した情報が保存され、Windows PE ディレクトリの作成が始まります。
3. ドライバまたはパッケージを追加するために WIM 作成プロセスを一時停止することを指示した場合、Windows PE ディレクトリが作成された後にプロセスが一時停止され、winpe.wim の内容が WIM ディレクトリ (C:¥build_work¥WIM など) に抽出されます。これには、次の 2 つの方法があります。

   方法 A: Windows AIK ツールを使用して変更を行います。

   Windows AIK バージョン 1.1 を使用している場合、peimg.exe コマンドを使用します。この実行ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

   C:¥Program Files¥Windows AIK¥Tools¥PETools¥peimg.exe

Windows AIK バージョン 2.0 または 3.1 を使用している場合は、dism.exe コマンドを使用します。この実行ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

C:¥Program Files¥Windows AIK¥Tools¥Servicing¥dism.exe

これらのコマンドの使用方法については、Windows AIK のドキュメントを参照してください (または **/help** コマンド ライン オプションを使用してください)。

方法 B: ドライバをドライバ リストに追加します。

必要な情報がすべて収集されたことを示すメッセージが表示された後、build.config ファイルが C:¥Build_scripts ディレクトリに作成され、winpe.wim と ISO をビルドするために必要な情報が格納されます。テキスト エディタを使用してこのファイルを開き、空の DRIVERS リストの下に適切なドライバを追加できます。

例 :

```
declare DRIVERS = " cdrom.inf ¥
        e:¥¥tmp¥¥work¥¥WIM¥¥windows¥¥inf¥¥adp94xx.inf ¥
        e:¥¥tmp¥¥work¥¥WIM¥¥windows¥¥inf¥¥3com*.inf "
```

バック スラッシュ (¥) は特殊文字であるため、この例のようにバック スラッシュを 2 つ使用して「エスケープ」する必要があります。

最後の行以外のすべての行がバック スラッシュで終わっていることに注意してください。この例では、バック スラッシュは宣言の継続を示しています。

ディレクトリを指定しない場合は、スクリプトが <*work-dir*>¥WIM¥Windows¥inf ディレクトリの中のドライバを検索します。

指定する場合は、c:¥¥anydirectory¥¥mydrivers.inf のように場所とドライバをフル パスで指定できます。

また、c:¥anydirectory にあるすべての md*.inf ファイルをインストールする、c:¥¥anydirectory¥¥md*.inf などのワイルド カードを含むファイル名を持つパスを指定することもできます。

完了後、「**run**」と入力して続行すると、ドライバが winpe.wim に追加されます。

今後再度スクリプトを実行すると、build.config ファイルを保持するか、新しいファイルと交換するか尋ねられます。また、スクリプトは自動的に一時停止されます。追加するパッケージまたはドライバが他にない場合は、「**run**」と入力して続行します。

カスタマイズした build.config ファイルの使用 (高度なオプション)

任意で、既存の build.config ファイルを別の名前で保存できます。多様な設定セットを維持する必要がある場合や、既存の設定を基にテストをしている場合、既存の build.config ファイルの別名保存が必要になる場合があります。ドライバは上で指定したようにファイルに追加できます。

ファイルは、C:¥build_scripts など、build_scripts.zip ファイルを展開したディレクトリに配置します。

スクリプトを実行する場合は、「**run**」と入力する代わりに次のコマンドを使用します。

```
run.cmd -f mybuild.cfg
```

-f パラメータを指定しない場合、デフォルトの build.config ファイルが作成され、使用されます。

索引

A

Agent Explorer, 365

APIC デバイス , 481

Application Self-service Manager
　アクセス , 368
　ユーザー インターフェイス , 367
　　カタログのリフレッシュ , 373
　　カタログ リスト , 371
　　グローバル ツールバー , 370
　　サービス リスト , 371
　　ソフトウェアのインストール , 373
　　ソフトウェアの削除 , 375
　　メニュー バー , 370
　　情報の表示 , 374

Application Self-service Manager 用のユーザー インターフェイス , 367

[Avis] カラム , 381

B

build.config ファイル , 505
　カスタマイズ , 506

build_scripts.zip, 496

C

ca-bundle.crt, 446, 448

CCM_PUBLISHER, 130

CCM_TPM_ENABLEMENT, 130

CMI、設定 , 253

CSV にエクスポート , 93, 116, 137, 144, 150, 162, 187, 195, 203

D

dashboards, 62
　概要 , 62
　設定 , 275
　　HPCA 操作 , 276
　　パッチ , 276
　パッチ管理 , 73

E

Embedded Linux, 153, 339

ExtendOemPartition パラメータ , 476

H

HPCA Agent
　インストール
　　Windows CE, 110
　　Windows XPE, 109
　削除
　　Windows XPE, 110

HPCA Agent ID, 171

HPCA Application Self-Service Manager
　ユーザー インターフェイス
　　ソフトウェアの検証 , 375
　　ソフトウェアの修復 , 375

HPCA Core
Windows サービス , 49
依存サービス , 49
通信
SSL, 31
HPCA Core 用 SQL Server データベース、作成 , 36
HPCA OS Manager Image Preparation Wizard, 324, 329, 470, 477
使用 , 329, 477
HPCA Satellite
Windows サービス , 49
依存サービス , 49
通信
SSL, 31
HPCA Server
インストール , 37
HPCA System Tray アイコン , 384
HPCA コンソールへのアクセス , 414
HPCA ステータス ウィンドウ , 385
HPCA 操作ダッシュボード、設定 , 276
HP Client Automation Administrator Publisher, 130
HP SoftPaq のパブリッシュ , 361
HP SoftPaq、パブリッシュ , 361
HP インスタント サポート , 199
HTTPS, 448

I

IMAGEDESC, 484
IMAGENAME, 484
ImageName.EDM, 333, 337, 341, 470
ImageName.IMG, 470
ImageName.MBR, 470
ImageName.PAR, 470
Image Preparation Wizard, 334, 337, 341
終了ポイント , 324, 470, 471
使用 , 334, 337, 341
無人 , 483

J

Job Status, 162
JoinDomain パラメータ , 476

L

LDAPS, 446, 448

M

Management Agent
グループへの配布 , 118
削除 , 96
デバイスのグループからの削除 , 119
配布 , 54, 91, 95
Management Agent の削除 , 93, 116
Management Agent の配布 , 93, 116
Microsoft 自動更新
重要な情報 , 141
[Microsoft 自動更新を無効化] エージェント オプション , 262
Microsoft パッチ , 418

N

netinfo.ini, 497
Novapdc.cmd, 402
Novapdr.cmd, 402

O

ODBC DSN, 41

OSEDITION, 484
OS 管理 , 268
オペレーティング システム , 150
[OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する] チェック ボックス , 481
[OS のインストール後にクライアント接続を実行する] チェック ボックス , 335, 342, 481
OS のサービス パック , 418
OS の詳細 , 157, 206
グループ , 157
デバイス , 159
プロパティ , 157
レポート , 160
全般 , 157
OS 配布ウィザード , 300
OS 管理 , 149
過去のジョブ , 160
現在のジョブ , 160
全般 , 149

P

peimg コマンド , 504
prepwiz.exe, 329, 334, 337, 477
prepwiz_unattend, 483
PREPWIZPAYLOAD, 484
Publisher
使用 , 347
PXE, 154

R

RDP, 98
RISHOSTPORT, 484
rombl_capture.cfg, 497
rombl_deploy.cfg, 497
romclimth.log, 403
romclimth.tkd, 402
romsinfo.ini, 497
runasuser, 129

S

S.M.A.R.T.
設定 , 256
有効化 , 256
Self-Monitoring、Analysis、および Reporting Technology S.M.A.R.T. を参照
server.crt, 447
server.key, 447
Service OS
デフォルト , 502
setup.cfg, 483
setup.exe, 420
Setupmgr.exe, 475
S.M.A.R.T. 警告
レポート , 171
SQL Server
サポートされるバージョン , 35
SSL
Active Directory, 446
ca-bundle.crt, 446, 448
certificates, 445
HTTPS, 448
LDAPS, 446, 448
server.crt, 447
server.key, 447
サーバー証明書 , 446, 447
証明書の生成 , 445
証明書ファイル , 446

デジタル証明書 , 446
認証局 , 445
パブリック キー ファイル , 445
パブリック証明書 , 446
プライベート キー , 447
プライベート キー ファイル , 445
SSL の設定
Core コンソール , 447
Satellite コンソール , 447
SSM, 362
SSM 準拠 , 362
[Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする] チェック ボックス , 480
Sysprep.inf ファイル
作成 , 476
優先度の設定 , 476
[SysprepMassStorage] セクション , 480

T

TCP ポート , 31
Thin client
イメージの準備とキャプチャ , 332
thin client, 153
出荷時 OS イメージの配布 , 153
TimeZone パラメータ , 476
TPM
設定 , 257
TPM Enablement サービス , 130

U

UDP ポート , 31
[UI オプション] カラム , 382
UnattendMode パラメータ , 476
[URL] カラム , 383

V

version, 414
VMware
HPCAS のインストール , 33
インストール要件 , 33
VNC, 98

W

Windows 2003 Server, 52
Windows Automated Installation Kit (WAIK), 495
Windows CE, 153, 336
Windows XPe, 332
Windows XP Embedded, 153
Windows インストーラ パッケージ , 420
Windows インストーラ ファイル , 349
Windows サービス , 49
HPCA Core, 49
HPCA Satellite, 49
HPCA Core
依存サービス , 49
HPCA Satellite
依存サービス , 49
Windows リモート デスクトップ , 98
winpe.wim
既存ファイルの使用 , 498, 501
WinPE Service OS
更新 , 494
ドライバやパッケージの追加 , 494

X

XPe, 153

あ

アウトバンド , 263

アクティブなカタログ アイテムを展開 , 381

アクティブなサービス アイテムを展開 , 381

新しいサブネットの作成 , 247

新しいロケーションの作成 , 242

[圧縮後のサイズ] カラム , 381

[アップグレード日] カラム , 382

アプリケーション プロファイル配布
　ウィザード , 291

アプリケーション利用状況収集
　ウィザード , 307

アプリケーション利用状況、探索 , 97

い

[色のカスタマイズ] オプション , 379

インスタント サポート , 199

インストール
　HPCA Server[HPCA Server], 39
　HPCA Agent
　　Windows CE, 110
　　Windows XPE, 109
　Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスを使用したソフトウェア , 373

[インストールされたブリティンの管理] エージェント オプション , 263

[インストール日] カラム , 382

インターネット プロキシ検出 , 384

インフラストラクチャ サーバー
　サービス キャッシュ , 237
　サービス キャッシュの同期 , 237

インフラストラクチャ サーバーの同期 , 237

インフラストラクチャ管理 , 228

インベントリ
　探索 , 96
　デバイスのグループに対する探索 , 119

インベントリ管理レポート , 171

インベントリの収集 , 94, 117

インベントリのスケジュール設定 , 415

インベントリの表示 , 416

インポート
　デバイス , 95

う

ウィザード , 279
　OS 配布 , 300
　アプリケーション プロファイル配布 , 291
　アプリケーション利用状況収集 , 307
　エージェント削除 , 283
　エージェント配布 , 282
　グループ作成 , 286
　サービス インポート , 294
　サービス エクスポート , 295
　ソフトウェア資格 , 298
　ソフトウェア同期 , 296
　ソフトウェアの削除 , 298
　ソフトウェアの配布 , 289
　ソフトウェア / ハードウェア インベントリ , 283
　デバイスのインポート , 280
　電源管理 , 285
　パッチの適用状況探索 , 284
　パッチ配布 , 296

え

エージェント削除ウィザード , 283

エージェント配布

ウィザード , 282
サイレント インストール , 282
[エラーコード] カラム , 381
エラーで終了 , 163

お

[オーナー カタログ] カラム , 382
オペレーティング システム イメージ、パブリッシュ , 352

か

[価格] カラム , 382
拡張情報を表示 , 374
過去のジョブ
パッチ管理 , 148
OS 管理 , 160
グループ管理 , 127
ジョブ管理 , 166
ソフトウェア管理 , 135
デバイス管理 , 106
カスタム WinPE Service OS のビルド , 493
仮想カタログ , 371
カタログ
仮想 , 371
選択 , 371
リフレッシュ , 370
カタログのリフレッシュ , 370
カタログ リスト , 371
管理
オペレーティング システム , 149
グループ , 114
ジョブ , 161
ソフトウェア , 128
デバイス , 88
パッチ , 140
[管理オプション] パブリッシュ オプション , 349
管理対象デバイスのインポート , 93

き

休止状態 , 163

く

クイック スタート タスク , 52
グリッド線を表示 , 381
グループ
探索 , 115
削除 , 121
ソフトウェア , 125
ソフトウェア資格 , 124
パッチ資格 , 126
作成 , 118
スタティック , 115
ソフトウェアの配布 , 125
タイプ , 115
追加
ソフトウェア資格 , 124
パッチ資格 , 126
内部 , 115
レポート , 115
グループ管理
過去のジョブ , 127
グループ , 116
現在のジョブ , 127
全般 , 114
グループ作成ウィザード , 286
グループ資格の追加 , 145, 156
グループ タイプ , 121

グループの作成 , 57
グループの詳細 , 121
os, 122
現在のジョブ , 123
全般 , 121
ソフトウェア , 122
デバイス , 122
パッチ , 123
プロパティ , 121
レポート , 123
[グループの詳細] ウィンドウ、タスク , 123
グループ管理 , 114
グローバル ツールバー , 370

け

[警告メッセージ] カラム , 381
現在のジョブ
OS 管理 , 160
グループ管理 , 127
ジョブ管理 , 161
ソフトウェア管理 , 135
デバイス管理 , 106
パッチ管理 , 147
[検証日] カラム , 383

こ

コンソールへのアクセス , 217
ロール , 219
ユーザー , 217
コンソール ユーザー
削除 , 219
作成 , 218
詳細の表示および変更 , 219
[コンポーネントの選択] パブリッシュ , 351

さ

[サーバーの詳細] ウィンドウ , 237
サーバー プール , 239
サービス
インポート , 187, 195, 203
エクスポート , 187, 195, 203
削除 , 187, 203
サービス CD, 155
サービス インポート ウィザード , 294
サービス エクスポート ウィザード , 295
サービス資格ウィザード , 298
サービスのインポート , 188, 195, 203
サービスのエクスポート , 188, 204
サービス リスト , 371
オプション , 380
カラムの削除 , 381
カラムの追加 , 381
サービス リストへのカラムの追加 , 381
[再起動] カラム , 382
[サイズ] カラム , 382
[再パブリッシュ日] カラム , 382
削除
HPCA Agent
Windows XPE, 110
サービス リストのカラム , 381
ソフトウェア , 125, 375
パッチ資格 , 126
作成
グループ , 118
スタティック グループ , 286
ダイナミック ディスカバリ
グループ , 287

ダイナミック レポート
グループ , 179, 288
[作成者] カラム , 381
サブネットの削除 , 247
サポート , 216

し

システム トレイ
アイドル状態 , 384
アクティブ状態 , 384
システム トレイのアイドル状態 , 384
システム トレイのアクティブ状態 , 384
[システムの色を使用] オプション , 379
[システムのインストール] カラム , 382
システム要件 , 29
HPCA Core
ターゲット デバイス , 88
通信ポート , 31
HPCA Satellite
ターゲット デバイス , 88
通信ポート , 31
自動更新 , 141
収集フィルタ
作成 , 208, 308
変更 , 208
有効化 , 208
終了ポイント , 324, 402, 470, 471
Image Preparation Wizard, 324, 470, 471
手動入力 , 281
[使用可能なカラム] リスト ボックス , 381
詳細な操作を表示 , 381
詳細プロパティ , 105
ジョブ コントロール , 162
ジョブの一時停止 , 162
ジョブの開始 , 162
ジョブの再開 , 162
ジョブの削除 , 162
ジョブの詳細 , 165
詳細 , 166
ターゲット , 166
ジョブのスケジュール再設定 , 162
ジョブの停止 , 162
ジョブの詳細
services, 166
ジョブ管理 , 161
過去のジョブ , 166
現在のジョブ , 161
全般 , 161

す

スケジュール、設定 , 55
[スケジュールを許可] カラム , 382
スタティック グループ , 121
作成 , 286
デバイスの追加 , 124
デバイスを削除 , 124
[ステータス] ウィンドウ
情報パネル , 385
ステータス メッセージ領域 , 385
ステータス領域 , 385
ドッキング , 378
ドッキング解除 , 377
バンド幅設定 , 386
ボタン バー , 385
[ステータス] ウィンドウの情報パネル , 385

[ステータス] ウィンドウのステータス メッセージ領域 , 385
[ステータス] ウィンドウのステータス領域 , 385
[ステータス] ウィンドウのドッキング解除 , 377
[ステータス] ウィンドウのバンド幅設定 , 386
[ステータス] ウィンドウのボタン バー , 385
[ステータス] カラム , 382
[ステータス] ボタン , 377
スロットリング , 383
　トラフィックに適応 , 384
　バンド幅 , 384
[スロットリング タイプ] カラム , 382

せ

接続オプション , 383
設定
　CMI, 253
　S.M.A.R.T., 256
　OS 配布モード , 268
　TPM, 257
　スケジュール , 55
　パッチ取得
　　スケジュール , 199
　　設定 , 199
設定ファイル , 432
[設定] ボタン , 370
[説明] カラム , 381
前回の同期 , 237
前回ログオンしたユーザー , 105
全デバイス , 115
　グループ , 153

そ

ソフトウェア
　削除 , 187, 203
　インポート , 187, 195, 203
　エクスポート , 187, 195, 203
　グループ資格の追加 , 130
　検証 , 375
　削除 , 375
　修復 , 375
　配布 , 58
　パブリッシュ , 56, 349
　付与 , 58
ソフトウェア インベントリ、探索 , 96
ソフトウェア管理
　過去のジョブ , 135
　現在のジョブ , 135
　全般 , 128
　ソフトウェア , 129
ソフトウェア削除ウィザード , 298
ソフトウェアのインポート , 187, 195, 203
ソフトウェアのエクスポート , 187, 195, 203
ソフトウェアの検証 , 375
ソフトウェアの削除 , 187, 189, 203, 205
ソフトウェアの修復 , 375
ソフトウェアの詳細 , 131, 189, 197
　グループ , 132
　全般 , 131
　デバイス , 134
　プロパティ , 132, 190
　レポート , 135
ソフトウェアの同期 , 125
ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード , 283
ソフトウェア配布ウィザード , 289

[ソフトウェア配布フォルダの削除] エージェント オプション , 262
ソフトウェア管理 , 128

た

ダイナミック レポート グループ、作成 , 179, 288
大量ストレージ ドライバ , 480
　リスト , 480
ダッシュボード
　ペイン , 62
探索
　デバイス , 95
探索グループ , 118

つ

[追加のファイル] 詳細パブリッシュ モード オプション , 350

て

データのリフレッシュ , 93, 116, 137, 144, 150, 162, 187, 195, 203, 242, 247
[適応バンド幅] カラム , 381
デバイス
　探索 , 95
　インポート , 54, 91, 95
　削除 , 103
デバイス適用状況レポート , 421
デバイスのインポート , 54
デバイスのグループに対する電源管理 , 121
デバイスの詳細
　os, 105
　グループ , 105
　詳細プロパティ , 105
　全般 , 104
　パッチ , 105
　プロパティ , 105
　レポート , 106
デバイスの探索 , 280
デバイスの詳細 , 104
　ソフトウェア , 105
デバイスを削除 , 94, 117
デバイス管理 , 88
　過去のジョブ , 106
　現在のジョブ , 106
　全般 , 91
デフォルトの Service OS
　変更 , 494
電源管理 , 94, 102, 117
電源管理ウィザード , 285

と

ドッキングされた [ステータス] ウィンドウ , 378
ドライバ リスト , 505
トラフィックに適応 , 384

な

[名前] カラム , 382

は

[バージョン] カラム , 383
ハードウェア インベントリ、探索 , 96
ハードウェア管理 , 253
配布
　Management Agent, 54, 91
　PXE を使用する OS イメージ , 154

オペレーティング システム , 151
シナリオ、OS イメージ , 152
ソフトウェア , 58, 125, 129, 137, 417
パッチ , 58, 126, 143, 144
モード , 151, 300

パッチ
グループ資格の追加 , 145, 156
資格の削除 , 126
取得 , 56, 143, 198
配布 , 58, 126, 143, 144
付与 , 58, 126

パッチ管理
configuration, 258

パッチ管理ダッシュボード , 73
設定 , 276

パッチ取得 , 416

パッチ適用状況
探索 , 97

パッチ適用状況探索スケジュール , 417

パッチの削除 , 195, 197

パッチの取得 , 56, 143, 198

パッチの詳細 , 145
グループ , 145
全般 , 145
デバイス , 146
プロパティ , 145
レポート , 147

パッチの適用状況探索ウィザード , 284

パッチ管理 , 140
パッチ , 144
過去のジョブ , 148
現在のジョブ , 147
全般 , 142

パッチ管理レポート , 173

パッチ配布ウィザード , 296

パブリッシュ
コンポーネントの選択 , 351
ソフトウェア , 56, 349
モード
管理オプション , 349
追加のファイル , 350
プロパティ , 350
変換 , 350

パブリッシュされたサービス、表示 , 365

[パブリッシュ日] カラム , 382

バンド幅
スライダ , 376
スロットリング , 376, 383, 386
設定、調整 , 376
予約 , 384

バンド幅を予約 , 384

ひ

[必須] カラム , 382

表示
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスでの情報 , 374
パブリッシュされたサービス , 365
レポート , 59

[表示するカラム] リスト ボックス , 381

ふ

ファイアウォール設定 , 31

ファイル ヘッダー情報 , 209

ブート メニュー
設定変更 , 494

付与
ソフトウェア , 58

パッチ , 58, 126
ブレード サーバー レポート , 171
プロキシ
検出 , 384
[プロパティ] パブリッシュ オプション , 350

へ

ペイン , 62
[変換] パブリッシュ オプション , 350
変換ファイル , 350
[ベンダー] カラム , 383

ほ

[ホーム] ボタン , 370

ま

[マイ ソフトウェア] ボタン , 370

み

[未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する] チェック ボックス , 481

む

無人モード
Image Preparation Wizard, 483

め

メニュー バー , 370

ゆ

[ユーザーの詳細] ウィンドウ , 219

よ

[予約済みのバンド幅] カラム , 382

ら

ライセンス キー
更新 , 418

り

リモート アシスタンス , 98
リモート制御 , 94, 98
利用状況管理レポート , 175
利用状況収集 , 207
利用状況収集エージェント , 209
利用状況収集フィルタ
作成 , 208, 308
変更 , 208
有効化 , 208
利用状況条件、定義 , 209
利用状況データの難読化 , 97, 120, 274, 275
利用状況データ、難読化 , 275
利用状況データ、フィルタ , 210
[利用状況の設定] ページ , 274
[履歴] ボタン , 376

れ

レポート
生成 , 59
表示 , 59
レポートの生成 , 59

ろ

ローカル サービスの起動 , 153

[ローカルの修復] カラム , 382
ログ
romclimth.log, 403
ログ ファイル , 434
ログ ファイル、ダウンロード , 182
ロケーション , 242
ロケーションの削除 , 242